


# 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事

## 図面リスト

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-01	改修特記仕様書1	-	A-21	配膳室2 4階平面詳細図【D棟】(改修前・改修後)	1:50	M-01	機器表	-
A-02	改修特記仕様書2	-	A-22	断面図【B棟】(改修前・改修後)	1:50	M-02	換気設備 1階平面図【B棟】	1:50
A-03	改修特記仕様書3	-	A-23	断面図【A棟】(改修前・改修後)	1:50	M-03	換気設備 1階平面図【A棟】	1:50
A-04	改修特記仕様書4	-	A-24	断面図【D棟】(改修前・改修後)	1:50	M-04	換気設備 2階平面図【A棟】	1:50
A-05	改修特記仕様書5	-	A-25	展開図1(改修前・改修後)	1:100	M-05	換気設備 3階平面図【A棟】	1:50
A-06	案内図・配置図・工事区分	1:600	A-26	展開図2(改修前・改修後)	1:100	M-06	換気設備 4階平面図【A棟】	1:50
A-07	工事概要・仕上表	-	A-27	床伏図(改修前・改修後)	1:100	M-07	換気設備 1階平面図【D棟】	1:50
A-08	1階平面図	1:300	A-28	天井伏図(改修前・改修後)	1:100	M-08	換気設備 2階平面図【D棟】	1:50
A-09	2階平面図	1:300	A-29	建具キープ、建具表(改修前・改修後)	1:100,200	M-09	換気設備 3階平面図【D棟】	1:50
A-10	3階平面図	1:300	A-30	部分詳細図	1:5,10,20,100	M-10	換気設備 4階平面図【D棟】	1:50
A-11	4階平面図	1:300	A-31	昇降路 平面図・断面図・詳細図	1:10,30,50	M-11	衛生設備 1階平面図【B棟】	1:50
A-12	屋階平面図	1:300	A-32	既存建物改修図	1:300,400,1000	M-12	衛生設備 1階平面図【A棟】	1:50
A-13	荷受室 1階平面詳細図【B棟】(改修前・改修後)	1:50	A-33	仮設計画図(参考用)	1:300	M-13	衛生設備 2階平面図【A棟】	1:50
A-14	配膳室1 1階平面詳細図【A棟】(改修前・改修後)	1:50	S-01	構造特記仕様書	-	M-14	衛生設備 3階平面図【A棟】	1:50
A-15	配膳室1 2階平面詳細図【A棟】(改修前・改修後)	1:50	S-02	鉄筋コンクリート標準図	-	M-15	衛生設備 4階平面図【A棟】	1:50
A-16	配膳室1 3階平面詳細図【A棟】(改修前・改修後)	1:50	S-03	鉄骨標準図、無収縮モルタル標準図	-	M-16	衛生設備 1階平面図【D棟】	1:50
A-17	配膳室1 4階平面詳細図【A棟】(改修前・改修後)	1:50	S-04	基礎・2・3・4・R階伏図(A棟)(DW改修用)	1:100	M-17	衛生設備 2階平面図【D棟】	1:50
A-18	配膳室2 1階平面詳細図【D棟】(改修前・改修後)	1:50	S-05	軸組図・床補強詳細図・ピット配筋図(A棟)(DW改修用)	1:100,30,20	M-18	衛生設備 3階平面図【D棟】	1:50
A-19	配膳室2 2階平面詳細図【D棟】(改修前・改修後)	1:50	S-06	基礎・2・3・4・R階伏図(D棟)(DW改修用)	1:100	M-19	衛生設備 4階平面図【D棟】	1:50
A-20	配膳室2 3階平面詳細図【D棟】(改修前・改修後)	1:50	S-07	軸組図・床補強詳細図・ピット配筋図(D棟)(DW改修用)	1:100,30,20	M-20	衛生設備 屋上平面図【D棟】	1:50

公共建築課長	主査等	担当者
		

特記仕様書

1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。

2. 本特記仕様書における採用事項

①. 項目欄は番号等に ○印を付したものを適用する。

②. 項目欄に ○印を付し特記事項欄に○印を付していない場合は標準仕様書による。

③. 特記事項は○印を付したものを適用する。但し○印の付かない場合は※印の付した事項を採用する。  
○印と◎印を付した場合は共に適用する。

3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。

○国土交通省大臣官房官営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版

○国土交通省大臣官房官営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版

・国土交通省大臣官房官営繕部監修 建築物解体工事共通仕様書 平成24年版

○「改正建築基準法に対応した建築物のシカケ対策マニュアル」（編集：国土交通省住宅局建築指導課他）

4. その他事項

・各項目欄の番号（例：1.4 ○○○）は標準仕様書の番号（章番号を除く）に照合する

・各項目欄の番号（例：1.\* ○○○）は標準仕様書の番号（章番号を除く）に該当しない項目とする

・各項目欄の番号（例：●公○章\*\*\*、公\*\*\*、●公\*\*\*）は公共建築工事標準仕様書の各項目に相当する

章	項目	特記事項
1章 一般共通事項	1.4 工事実績情報登録	登録： ・適用 ・不適用 ○現場説明書による
	1.* 建築基準法の風圧・積雪に関する規定	基準風速： ○V <sub>0</sub> = 36 (m/s) 平成12年建告第1454号第2 地表面粗度区分： ・I ・II ・III ・IV 積雪区分： ・区域=(32)/α=0.0009/β=0.00/γ=0.21/R=0 平成12年建告第1445号 別表
	3.3 電気保安技術者	技術者の適用： ・適用 ・不適要
	3.5 施工条件	施工順序等の制約： ・無し ○有り【現場説明書による・図示○施設管理者】 工事車両の駐車場所： ・図示 ○現場説明書による ○敷地内 資材、機材置場： ・図示 ○現場説明書による ○敷地内 発生土仮置場： ・図示 ○現場説明書による ○敷地内 その他の施工条件： ・図示 ○現場説明書による ○施設管理者との協議による
	3.12 発生材の処理等	・発注者への引渡発生材； ・特別管理産業廃棄物； ・リサイクル発生材； ひ素・カドミウム含有せっこうボードの処理： ・製造業者回収委託処理 ・管理型最終処分場埋立処理 標準仕様書1.3.8(b)(5)(i)及び(ii)以外のせっこうボードの処理： ・管理型最終処分場埋立処理 ・再資源化 PCB含有シーリングの調査方法： ・図示 PCB含有シーリングの撤去方法： ・図示
	4. 使用材料	○仮設材以外の全ての建築材料（仕上材、下地材、副資材）のホルムアルデヒド放散量はJIS等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてF☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にF☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。
	5.2 施工数量調査	調査範囲： ・図示 調査方法： ・非破壊検査 ・破壊検査
	5.3 調査のための破壊部分の補修	補修方法： ・破壊検査後の復旧に関しては監督員と協議の上決定する ・図示
	6.5 施工の検査等	見本施工の実施： ・実施しない ・実施する【実施箇所等： ・図示 ・】
	6.9 化学物質の濃度測定	濃度測定： ○未実施 ・実施 ・現場説明書による 化学物質濃度を下記のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。 測定対象物質： ・ホルムアルデヒド ・トルエン ・キシレン ・エチルベンゼン ・スチレン ・図示 測定方法： ・簡易法 ・パッシブ型採取機器 ・測定バッチ；アクティブ法 測定対象室： ・図示 測定箇所数： ・図示 ・箇所 ・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、環境計量証明事業所として登録を行っている者、又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。
	8.1 完成時の提出図書	完成図： ・必要（現場説明書による） ・不要 保全に関する資料： ・必要 ・不要 ○現場説明書による

章	項目	特記事項
1章 一般共通事項	8.1 完成時の提出図書	提出部数： 各2部 ・部 種類： 表1.8.1 ・一般図 ・実施設計図一式 記入内容： ※表1.8.1 ・図示 提出要領： ・A3原稿2つ折り製本 ・A3版原図（CAD作図による） ・CADデータ ・現場説明書による 施工計画書： ○監督員の承諾を受けたもの 施工図： ・A3原稿2つ折り製本 ・A3縮小版第2原図 ・CADデータ ○監督員の承諾を受けたもの ・現場説明書による
	8.2 完成図	8.3 保全に関する資料
2章 仮設工事	2.1 足場その他	内部足場の種別： ○脚立 ○足場板 ・ローリング 外部足場の設置、種別： ・設置しない  保護シートの設置： ○設置する ・設置しない 材料等の運搬方法： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 既存部分養生材料： ○ビニールシート ○その他：施工者にて適材適所を選択する 既存家具養生材料： ・ビニールシート ○その他：施工者にて適材適所を選択する 既存ブラインド、カーテンの養生方法： ・指定場所に保管し再設置 ・指定場所に保管し清掃の上再設置 仮設間仕切り： ・無し ○有り 設置箇所： ○図示 種別： ・A種 ・B種 ・C種 仮設扉： ・不要 ○必要【設置箇所： ・図示 ○任意の場所 ・】 仮設扉の種別： ・鋼製 ・木製 ・図示 ○施工者にて適切な材料を選択
	3.1 既存部分の養生	構内既存の用水施設： ・利用できない ○利用できる（・有償 ○無償） 構内既存の電力施設： ・利用できない ○利用できる（・有償 ・無償） ○動力以外利用できる（・有償 ○無償）
	3.2 仮設間仕切り	1. 一般事項 防水工事の保証書の提出及び保証年限 ・保証年限10年；アクリル防水 ・合成高分子フイック防水 ○保証年限3年；塗膜防水 ○その他：ケイ酸質系塗布防水 <保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各3通提出する。 防水施工者は、防水材料製造所の施工者とし、監督員の承諾を受ける>  公共建築工事標準仕様書 9.6による。 6. ケイ酸質系塗布防水
	4. 工事用水及び電力	表
3章 防水改修工事	1.1 適用範囲	表
	6.3 種別及び工程	表
	7.2 材料	7. シーリング 種類及び施工箇所： ○種類は改修標準仕様書表3.7.11による。 ・サッシ廻り ・ポリアルケン系（仕上有り） 20×10 ・ガラス止め ・シリコン系 5×5 ・内部仕上 ・変成シリコン系 10×10

章	項目	特記事項
4章 外壁改修工事	1.5 外壁改修塗り仕上げの種類	1. 一般事項 ◎塗り仕上げ外壁 新規仕上げの種類： ・薄付け仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・複層仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・マスチック塗材塗り ◎建築用塗膜防水材塗り（JIS A6021）（ローラー さざ波模様 シリコン仕上） 下地調整；C-1
5章 建具改修工事	1.3 改修工法	1. 一般事項 工法： ・かぶせ工法 ○撤去工法 新規建具用開口部の補強方法： ○図示 新規建具用開口部の範囲： ○図示 防火戸の指定： ○図示 ○防火戸等の自動閉鎖装置は、日本建築センター評定品とする。 建具見本の制作： ・必要 ・不要 仮組の実施： ・行う ・行わない 防犯建物部品の適用： ・図示 ・適用 ・適用しない
	1.4 防火戸	2. アルミニウム製建具 表
	1.5 見本の制作等	表
	2.2 性能及び構造	表
	2.3 材料	表
	2.4 形状及び仕上げ	表
	2.5 工法	表
	4.2 性能及び構造	表
	4.3 材料	表
	4.4 形状及び仕上げ	表
	5.2 性能及び構造	表
	5.3 材料	表

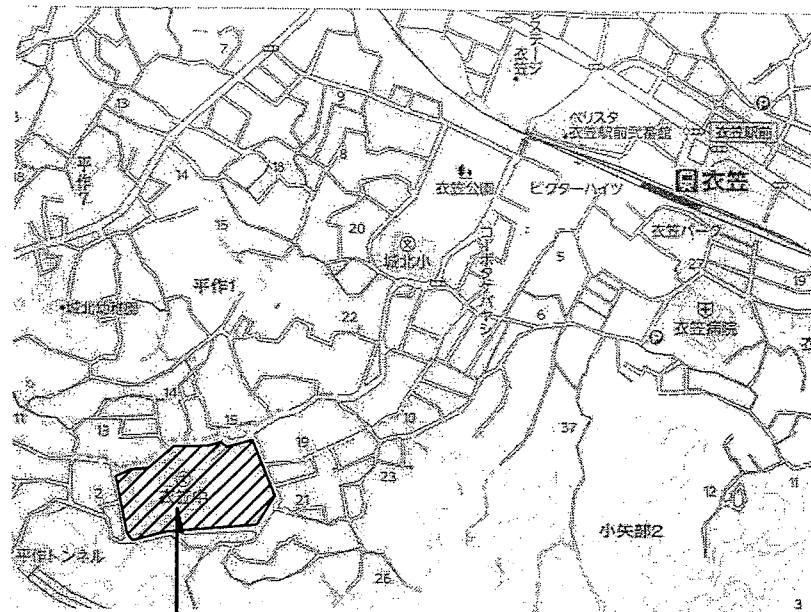
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
5章 建具改修工事	6.3 材料	6. ステンレス製建具 性能及び構造： ※JIS規格による ステンレス鋼板の材質： ※SUS304, 430, J1L, 430 ・ SUS304 ・ SUS430 表面仕上げ： ※HL ・ 鏡面 ・ パフ ( ) 曲げ加工： ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ	6章 内装改修工事	1.3 他部位との 取合い等	1. 一般事項 既存間仕切り壁撤去に伴う天井、壁及び床の改修範囲： ※壁厚程度 ○図示 天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い天井改修範囲： ※両側600mm程度 ・ 図示 天井の撤去に伴う取り合い壁の改修範囲： ※既存のまま ○図示 既存部分の撤去工法： ○適用する【改修標準仕様書6.2 ・ 改修標準仕様書6.3 ・ 改修標準仕様書6.4】 ○図示 新設下地の工法： ○適用する【改修標準仕様書6.5 ・ 改修標準仕様書6.6 ・ 改修標準仕様書6.7】 ○図示 仕上げの工法： ※該当の有無により適用する ・ 図示	◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・		
	6.5 工法	7. 建具用金物 適用範囲： ・ 建具製作所仕様以外の金物 金物の種類、材質： ○改修標準仕様書表5.7.11による 軸吊りヒンジ： ・ 自閉装置付き ・ 自閉装置なし ドアクローザのディレードアクション（遅延閉）機能の適用： ・ 適用 ・ 適用しない 戸当り： ・ あおり止め(フック)付き ・ あおり止め(フック)付きなし 樹脂製建具の丁番： ※標準仕様書表5.7.31による 握玉、レバーハンドル等の取付位置： ・ FL+900 ・ FL+950 ・ FL+1,000 クレセント類の取付位置： ・ FL+900~FL+1,500迄 マスターキー： ・ 製作する ・ 製作しない ○マスターキーの製作については施設管理者及び監督員と協議する。 マスターキーの系統： ・ 系統 指定建物錠の防犯性能の適用： ・ する ○しない 指定建物錠とは、建物の外部出入口用に用いるシリンダー錠・シリンダー/サム錠が該当 耐ピッキング性能 ・ 5分未満 ・ 5分以上 ※10分以上 耐鍵穴壊し性能 ・ 5分未満 ・ 5分以上 ※10分以上 耐サムターン回し性能 ・ なし (5分未満) ※あり (5分以上) 耐カム送り解錠性能 ・ なし (5分未満) ※あり (5分以上) 耐こじ破り性能 ・ なし (5分未満) ※あり (5分以上) 出荷時の子鍵本数： ※3本 ・ 6本 鍵箱の適用： ・ 必要 ○不必要		1.4 工法	2. 既存床の撤去並びに下地補修 合成樹脂塗床材の除去： ・ 機械的除去工法 ・ 目荒工法 改装後の床の清掃範囲： ○影響範囲全て ・ 図示		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
	7.1 適用範囲	7.2 材質、形状及び寸法		7.3 取付け施工	2.2 工法		3. 既存壁の撤去並びに下地補修 コンクリート間仕切り壁等の撤去に伴う構造体の補修： ⊗行う ・ 既存のまま ・ 珪藻土塗り（改修標準仕様書4.4.9による） ○図示	◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・
	7.4 鍵	13.2 材料		13.3 ガラス溝の寸法、形状等	3.2 工法		5. 木下地等 ◎見え掛り面の表面仕上げの適用箇所、種類： ・ 図示 ○下表による 適用箇所 種類 ○開口部縁線 ○建具枠 ・ 笠木 ・ A種 ○B種 ・ C種 ・ プライムボックス ○カーボックス ・ A種 ○B種 ・ C種 ・ 飾り柱 ・ 格子 ・ カウチン板 ・ 衝立 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 棚板 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 梯子 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ◎一般事項 木材の含水率： ⊗A種 ・ B種 ◎製材 ◇JASによる下地用針葉樹製材： ・ 下表による（寸法は図示） ・ 図示	◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・
	13.4 工法	ガラスの種類： ○建具表による ガラス留め材 建具の種類 種類・材質 ○アルミ製 ○シリンダー材 ※ガラスカット ・ パテ材（1種 ・ 2種） ○鋼製 ※シリンダー材 ・ パテ材（1種 ・ 2種） ・ ステンレス製 ※シリンダー材 ・ パテ材（1種 ・ 2種） ・ 木製 ※シリンダー材 ・ パテ材（木製用） 金属性製建具用パテはJISA5752による。		ガラス溝の大きさ： ※改修標準仕様書表5.13.11による 熱線反射ガラスの映像調整： ・ 行う ・ 行わない 表面形状： ・ 図示 ・ プレン ・ 梨地 ・ ガミ 寸法、厚み： ・ 図示 ・ 190x190x95 ・ 145x145x95 壁用金属枠： ・ 図示 ・ アルミ製 ・ スチール製 ・ ステンレス製 補強剤： ・ 図示 化粧目地の色： ・ 白 ・ グレー ・ 黒 シーリング材： ・ ポリウレタン系 ・ ウルタン系 ・ シリコン系 金属製化粧カバー： ・ 図示 風圧力に対応した工法： 目地幅： ※標準仕様書による 伸縮調整目地の位置： ※標準仕様書による 伸縮調整目地の仕上： ※標準仕様書による	5.1 一般事項		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
	13.5 ガラスの取付	ガラス留め材		形状等	5.2 木材		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
					◇JASによる下地用針葉樹製材： 使用部位 樹種 区分等級 含水率 仕上げ 防腐防蟻処理 備考 全般 桧 ※1級 SD15 サグー なし 杉 ※2級 SD20 サグー なし D15 プレーナ なし D20 プレーナ なし		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
					◇JASによる造作用針葉樹製材： 使用部位 樹種 化粧等級 含水率 仕上げ 防腐防蟻処理 備考 窓枠 杉 床仕上げ板 桧 カーボックス スプルース 段板 巾木 スプルース		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
					◇JASによる広葉樹製材： 使用部位 樹種 区分等級 含水率 仕上げ 防腐防蟻処理 備考 全般 柃 特等 D10 サグー なし 柃 ※1等 D13 プレーナ K1 2等 なし		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
					◇JAS以外の製材： 使用部位 樹種 材面の品質 含水率 寸法 防腐防蟻処理 備考 全般 桧 ※A種 15% 図示 杉 B種 18% 図示 松 20%		◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
							◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
							◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	
							◎造作用集成材 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・ JASによる造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・ ・ JAS以外の造作用集成材： 【下表による（寸法は図示） ・ 図示 ・	

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	
6章 内装改修工事	5.5 防蟻・防蟻 ・防虫処理	◎薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理 適用部位 性能区分 備考 加圧注入用木材のインサート： ・適用する ・摘要しない 薬剤の塗布による防蟻・防蟻処理の方法： ※標準仕様書による ボード原料接着剤への薬剤混入による防蟻・防蟻処理の方法： ◎防虫処理 木材の防虫処理： 樹種： ※下表を標準とし変更する場合は、事前に監督員の承諾を得る事。	8.3 工法	・帯電防止床シート張り ・帯電防止床タイル貼り 種類： 性能： ・体積抵抗値(1.0x10 <sup>9</sup> Ω) ・ 厚さ： ・2.0mm ・4.0mm ・4.5mm ・ ・視覚障害者用床タイル張り 種類： ・合成ゴム貼付用 ・合成ゴム埋込用 ・合成ゴム表面CON ・せっ器質タイル ・コンクリート 厚み： ・2mm ・15mm ・20mm ・30mm ・ ◎耐動荷重性床シート張り： 種類（抗菌）厚さ（2mm） ◎ビニル幅木の厚み： ※1.5mm以上 ・ ◎ビニル幅木の高さ： ※60mm ◎100mm ◎300mm 下地の工法： ※モルタル下地 ※木造下地 ◎図示 ・ 熱溶接工法： ◎適用する ・適用しない	15.3 材料 15.6 工法	材種 ・捨張り用合板 ・有孔合板 ・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板	樹種など ・南洋材 ・針葉樹 ・汁 ・1類 ・2類 化粧単板のそば包み ・行う ※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満 表面仕上げの種類 ・ラミン ・ポリエステル	厚さ(mm) ・9 ・12 ・4 ・6 ・4.2 ・4.0 ・3.0	工法 ・A種 ※B種 ・A種 ※B種 ・A種 ※B種 ・A種 ※B種
	5.6~5.9	RC造等の内部間仕切 軸組及び床組 ・窓、出入口、その他 ・床板張り ・壁及び天井下地		間仕切軸組 ※杉 床組 ※杉又は松 吊元棒、水掛かり の下枠及び敷居 ・桧 縁甲板、上がり框 ※桧 ※杉又は松		11.2 材料 11.3~11.5 工法	11. フローリング張り 種類 材種 工法 形式寸法等(mm)LxWxt ・フローリングボード1等 ※杉 ・釘留め工法(根太張) ・500(L)x75(W)x15(t)以上 ・釘留め工法(直張り) ・接着工法 ・フローリングブロック1等 ※杉 ・釘留め工法(根太張) ・303x303(L)x15(t)以上 ・釘留め工法(直張り) ・接着工法 ・モダンカーペット等 ※杉 ・釘留め工法(根太張) 厚さ： ・6 ・7 ・8 ・弾性モダンカーペット ・釘留め工法(直張り) ・接着工法 ・複合フローリング ※杉 ・釘留め工法(根太張) ・A種 ・B種 ※C種 ・杉 ・釘留め工法(直張り) ・A種 ・B種 ※C種 ・協議 ・接着工法 ・A種 ・B種 ※C種	15.3 材料 15.6 工法	材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ 普通合板の防虫処理： ◎行わない ・行う 天然木化粧合板の防虫処理： ※行わない ・行う 特殊加工化粧合板の防虫処理： ※行わない ・行う 接着剤のホルムアルデヒド放散量： ◎F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ せっこうボードの目地処理： ・継目処理工法 ◎目透し工法 ◎突付け工法 遮音シール材： ・アクリル系シール材 ・ジョイントセメント
	5.* 堅木	樹種： ・ナラ ・ケヤキ ・サクラ ・クリ ・シロ		6. 軽量鉄骨天井下地 種類： ◎改修標準仕様書表6.6.1による ・ 屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔： ◎=900mm 屋外の野縁の間隔： ◎改修標準仕様書表6.6.2による あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		11.6 現場塗装仕上げ	7章 塗装改修工事	1.3 材料	1. 一般事項 塗料の防火材料の指定： ・図示 ・無 ・有(
	5.* 銘木	種別： ・真物 ・貼物 樹種： 使用箇所：		6.2 材料 6.3 形式及び寸法		13.2 材料 13.3 工法	2. 2~2.1 下地調整	2. 下地調整 塗装面の種類 種別 木部(新規部) ◎RA種 ・RB種 ・RC種 木部(塗替え部) ・RA種 ◎RB種 ・RC種 鉄鋼面 ・RA種 ◎RB種 ・RC種 亜鉛メッキ鋼面 ・RA種 ◎RB種 ・RC種 モルタル、プaster ・RA種 ◎RB種 ・RC種 コンクリート、ALCパネル ◎RA種 ◎RB種 ・RC種 押出成形セメント板 ・RA種 ・RB種 ・RC種 せっこうその他のボード 継目処理工法の場合： ・RA種 ※RB種 ・RC種 その他の場合： ・RA種 ◎RB種 ・RC種	
	6.2 材料	種類： ◎改修標準仕様書表6.6.1による ・ 屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔： ◎=900mm 屋外の野縁の間隔： ◎改修標準仕様書表6.6.2による あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		13.2 材料 13.3 工法		13. せっこうボードその他ボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・木毛セメント板 ・HW ・NW ・25・50 ・木片セメント板 ・HF ・NF せっこうボード製品 ◎せっこうボード GB-R ◎9.5・12.5 ・シーリングせっこうボード GB-S ・9.5・12.5 ◎強化せっこうボード GB-F ◎12.5・21.0 ・せっこうラスボード GB-L ※9.5・7 ・化粧せっこうボード(トラバチ) GB-D ・9.5・12.5 ◎化粧せっこうボード ◎9.5・12.5 繊維強化セメント板 ◎ケイ酸カルシウム板(タイプ2) ◎0.8FK ◎6・8・10 ◎化粧ケイ酸カルシウム板 ・1.0FK ◎6・8・10 パーティクルボード繊維板 ・RS・VS ・DV・DO・DC 火山性ガラス質複層板(VSFボード) 材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ◎合板 材種 樹種など 厚さ(mm) 工法 ・難燃合板 生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・4・5.5 ・A種 ・ラワン ・6 ・※B種 不透明塗料塗りの場合 ・シタ【1級・2級】 ◎普通合板 ◎ラワン ◎1類 ・4・5.5 ・A種 ・シタ ・2類 ・6 ◎12 ※B種	7章 塗装改修工事	1.3 材料	2. 2~2.1 下地調整
	6.3 形式及び寸法	あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		13.2 材料 13.3 工法		13. せっこうボードその他ボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・木毛セメント板 ・HW ・NW ・25・50 ・木片セメント板 ・HF ・NF せっこうボード製品 ◎せっこうボード GB-R ◎9.5・12.5 ・シーリングせっこうボード GB-S ・9.5・12.5 ◎強化せっこうボード GB-F ◎12.5・21.0 ・せっこうラスボード GB-L ※9.5・7 ・化粧せっこうボード(トラバチ) GB-D ・9.5・12.5 ◎化粧せっこうボード ◎9.5・12.5 繊維強化セメント板 ◎ケイ酸カルシウム板(タイプ2) ◎0.8FK ◎6・8・10 ◎化粧ケイ酸カルシウム板 ・1.0FK ◎6・8・10 パーティクルボード繊維板 ・RS・VS ・DV・DO・DC 火山性ガラス質複層板(VSFボード) 材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ◎合板 材種 樹種など 厚さ(mm) 工法 ・難燃合板 生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・4・5.5 ・A種 ・ラワン ・6 ・※B種 不透明塗料塗りの場合 ・シタ【1級・2級】 ◎普通合板 ◎ラワン ◎1類 ・4・5.5 ・A種 ・シタ ・2類 ・6 ◎12 ※B種	7章 塗装改修工事	1.3 材料	2. 2~2.1 下地調整
	6.4 工法	あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		13.2 材料 13.3 工法		13. せっこうボードその他ボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・木毛セメント板 ・HW ・NW ・25・50 ・木片セメント板 ・HF ・NF せっこうボード製品 ◎せっこうボード GB-R ◎9.5・12.5 ・シーリングせっこうボード GB-S ・9.5・12.5 ◎強化せっこうボード GB-F ◎12.5・21.0 ・せっこうラスボード GB-L ※9.5・7 ・化粧せっこうボード(トラバチ) GB-D ・9.5・12.5 ◎化粧せっこうボード ◎9.5・12.5 繊維強化セメント板 ◎ケイ酸カルシウム板(タイプ2) ◎0.8FK ◎6・8・10 ◎化粧ケイ酸カルシウム板 ・1.0FK ◎6・8・10 パーティクルボード繊維板 ・RS・VS ・DV・DO・DC 火山性ガラス質複層板(VSFボード) 材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ◎合板 材種 樹種など 厚さ(mm) 工法 ・難燃合板 生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・4・5.5 ・A種 ・ラワン ・6 ・※B種 不透明塗料塗りの場合 ・シタ【1級・2級】 ◎普通合板 ◎ラワン ◎1類 ・4・5.5 ・A種 ・シタ ・2類 ・6 ◎12 ※B種	7章 塗装改修工事	1.3 材料	2. 2~2.1 下地調整
	7.3 形式及び寸法	あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		13.2 材料 13.3 工法		13. せっこうボードその他ボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・木毛セメント板 ・HW ・NW ・25・50 ・木片セメント板 ・HF ・NF せっこうボード製品 ◎せっこうボード GB-R ◎9.5・12.5 ・シーリングせっこうボード GB-S ・9.5・12.5 ◎強化せっこうボード GB-F ◎12.5・21.0 ・せっこうラスボード GB-L ※9.5・7 ・化粧せっこうボード(トラバチ) GB-D ・9.5・12.5 ◎化粧せっこうボード ◎9.5・12.5 繊維強化セメント板 ◎ケイ酸カルシウム板(タイプ2) ◎0.8FK ◎6・8・10 ◎化粧ケイ酸カルシウム板 ・1.0FK ◎6・8・10 パーティクルボード繊維板 ・RS・VS ・DV・DO・DC 火山性ガラス質複層板(VSFボード) 材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ◎合板 材種 樹種など 厚さ(mm) 工法 ・難燃合板 生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・4・5.5 ・A種 ・ラワン ・6 ・※B種 不透明塗料塗りの場合 ・シタ【1級・2級】 ◎普通合板 ◎ラワン ◎1類 ・4・5.5 ・A種 ・シタ ・2類 ・6 ◎12 ※B種	7章 塗装改修工事	1.3 材料	2. 2~2.1 下地調整
	8.2 材料	あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		13.2 材料 13.3 工法		13. せっこうボードその他ボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・木毛セメント板 ・HW ・NW ・25・50 ・木片セメント板 ・HF ・NF せっこうボード製品 ◎せっこうボード GB-R ◎9.5・12.5 ・シーリングせっこうボード GB-S ・9.5・12.5 ◎強化せっこうボード GB-F ◎12.5・21.0 ・せっこうラスボード GB-L ※9.5・7 ・化粧せっこうボード(トラバチ) GB-D ・9.5・12.5 ◎化粧せっこうボード ◎9.5・12.5 繊維強化セメント板 ◎ケイ酸カルシウム板(タイプ2) ◎0.8FK ◎6・8・10 ◎化粧ケイ酸カルシウム板 ・1.0FK ◎6・8・10 パーティクルボード繊維板 ・RS・VS ・DV・DO・DC 火山性ガラス質複層板(VSFボード) 材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ◎合板 材種 樹種など 厚さ(mm) 工法 ・難燃合板 生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・4・5.5 ・A種 ・ラワン ・6 ・※B種 不透明塗料塗りの場合 ・シタ【1級・2級】 ◎普通合板 ◎ラワン ◎1類 ・4・5.5 ・A種 ・シタ ・2類 ・6 ◎12 ※B種	7章 塗装改修工事	1.3 材料	2. 2~2.1 下地調整
	8.2 材料	あと施工アンカーの引抜き試験： ・行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(a)(3)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。		13.2 材料 13.3 工法		13. せっこうボードその他ボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm) 木質系セメント板 ・木毛セメント板 ・HW ・NW ・25・50 ・木片セメント板 ・HF ・NF せっこうボード製品 ◎せっこうボード GB-R ◎9.5・12.5 ・シーリングせっこうボード GB-S ・9.5・12.5 ◎強化せっこうボード GB-F ◎12.5・21.0 ・せっこうラスボード GB-L ※9.5・7 ・化粧せっこうボード(トラバチ) GB-D ・9.5・12.5 ◎化粧せっこうボード ◎9.5・12.5 繊維強化セメント板 ◎ケイ酸カルシウム板(タイプ2) ◎0.8FK ◎6・8・10 ◎化粧ケイ酸カルシウム板 ・1.0FK ◎6・8・10 パーティクルボード繊維板 ・RS・VS ・DV・DO・DC 火山性ガラス質複層板(VSFボード) 材料のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ◎合板 材種 樹種など 厚さ(mm) 工法 ・難燃合板 生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・4・5.5 ・A種 ・ラワン ・6 ・※B種 不透明塗料塗りの場合 ・シタ【1級・2級】 ◎普通合板 ◎ラワン ◎1類 ・4・5.5 ・A種 ・シタ ・2類 ・6 ◎12 ※B種	7章 塗装改修工事	1.3 材料	2. 2~2.1 下地調整



章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																																																	
7章 塗装改修工事	9. つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G) ①.2~9.5 ***塗料塗り コンクリート面及びモルタル面の種別: ・A種 ※B種 ・C種 プaster面の種別: ・A種 ※B種 ・C種 せつこうボード、及びその他のボード面の種別: ・A種 ※B種 ・C種 塗替えの場合のしき止め: ○改修標準仕様書7.9.2(b)による ・図示 屋内木部の種別(新規): ※A種 ・B種 ・C種 屋内木部の種別(多孔質広葉樹): ・A種 ・B種 ・C種 屋内木部の種別(塗替え): ・A種 ※B種 ・C種 屋内鉄鋼面の種別: ・A種 ※B種 ・C種 屋内垂鉛めつき鋼面の種別: ・A種 ※B種 ・C種 10. 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) 種別: ・A種 ※B種 ・C種 塗替えの場合のしき止め: ○改修標準仕様書7.9.2(b)による ・図示		2.5 コンクリートの材料 及び調査	◎接着系アンカー 引張耐力: ・図示 せん断耐力: ・図示 アンカーの種類: ・図示 ・ガブ型 アンカー筋の径: ・図示 アンカー筋の埋込深さ: ・図示 アンカー筋の種類: ・図示 ※異形棒鋼 アンカー筋の新設壁内への定着長さ: ・図示 ※標準仕様書8.2.4(c)(6)による あと施工アンカーの性能確認試験: ・行う ○行わない セメントの種類: ※普通ポルトランドセメント ※混合セメントA種 ・高炉セメント ・フライアッシュセメント フェロニッケルスラグ細骨材の使用: ・使用する ・使用しない 骨材のアルカリシリカ反応性による区分: ※A ・B 鋼スラグ細骨材の使用: ・使用する ・使用しない 電気炉酸化スラグ細骨材の使用: ・使用する ・使用しない 混和剤: ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 混和材: ・フライアッシュ ・高炉スラグ微粉末 ・膨張剤 モルタルの圧縮強度: ・図示 ・18N/mm <sup>2</sup> モルタルのフロー値: ・図示 ・180mm未満 ・180mm以上240mm未満 ・240mm以上 型枠の材料等: ○下表による ・図示	3.7 壁の配筋及び補強 壁の配筋: ・図示 開口部の補強筋: ・図示 3.8 ガス圧接 抜取試験の方法: ※超音波探傷試験 ・引張試験 4.2 機械式継手 機械式継手の種類: ・図示 機械式継手の工法及び品質の確認方法等: ・図示 ※標準仕様書8.4.2(c)による 4.3 溶接継手 溶接継手の工法: ・図示 品質の確認方法: ・図示 不良継手部の修正方法: ・図示 ※標準仕様書8.4.3(c)による 7.8 型枠工事 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用: ・適用する ・適用しない 9.1 一般事項 土に接する軽量コンクリートの使用: ・使用する【使用箇所: ・図示 ・ 水に接する軽量コンクリートの使用: ・使用する【使用箇所: ・図示 ・ 軽量コンクリート種類: ・下表による ・図示																																																																				
8章 耐震改修工事(外構・その他工事)	1. 一般事項 ①.1* コンクリート工事 ①.2* 鉄骨工事 ①.3* 鉄筋工事 ①.4* コンクリートの種類 ①.5* コンクリートの品質 ②.1* 鉄骨製作工場 ②.2* 鉄筋 ②.3* 溶接金網 ②.4* あと施工アンカー	1. 一般事項 ・本章の事項は構造特記仕様書による ・本章の事項は構造特記仕様書による ・本章の事項は構造特記仕様書による コンクリートの種別: ※I類 ・II類 ・その他; 使用骨材による種類: ・普通コンクリート(下表による) ○図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>設計基準強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・構造躯体(基礎~階)</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体(階~階)</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体(階~階)</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・捨てコンクリート</td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 使用骨材による種類: ・軽量コンクリート(下表による) ○図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>設計基準強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> スランブ: ※18cm ・図示 コンクリート部材の許容差及び測定方法: ・標準仕様書8.1.4(d)(1)による 打放し仕上げの種類(合板せき板を用いる場合) <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・化粧打放し部</td> <td>A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○打放し補修下部</td> <td>B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○基礎部</td> <td>C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> コンクリートの仕上りの平坦さ: ○改修標準仕様書表8.1.4による 製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする: ・Sグレード ・Hグレード ・Mグレード ○Rグレード ・Jグレード 施工管理技術者: ○適用する ・適用しない 2. 材料 鉄筋の種類: ・SR295 ・SD295A ・SD295B ・SD345 ・SD390 ○図示 溶接金網の寸法、径: ・φ6x150x150 ・φ6x100x100 ・φ4.5x50x50 ○図示 あと施工アンカーの種類: ・金属系アンカー ・接着系アンカー ○図示 ◎金属系アンカー 引張耐力: ・図示 せん断耐力: ・図示 アンカー本体の径: ・図示 アンカー本体の埋込深さ: ・図示 アンカー本体のセット方式: ・図示 ※本体打込み式改良型 接合筋の径及び長さ: ・図示	施工部位	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	備考	・構造躯体(基礎~階)	30		・構造躯体(階~階)	24		・構造躯体(階~階)	21		・捨てコンクリート	・18 ・21		施工部位	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	備考		・18 ・21			・18 ・21			・18 ・21		施工部位	種別	備考	・化粧打放し部	A種		○打放し補修下部	B種		○基礎部	C種		2.6 構造体用モルタルの材料及び調査 2.7 型枠の材料 種類 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種別・厚さ</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎合板</td> <td>※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm</td> <td>※複合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm</td> <td>※南洋材</td> </tr> <tr> <td>・床型枠用鋼製デッキプレート</td> <td></td> <td>・針葉材</td> </tr> </tbody> </table> スリーブ: ○改修標準仕様書8.2.7(i, ii)による ・図示 ・硬質塩化ビニル管 ・溶融亜鉛めつき鋼管・鋼管 ・つば付き鋼管 ・つば付き鋼管 ・紙チューブ 鋼材の材質: ・下表による ・図示 ○構造特記仕様書による <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>材質(種類の記号)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・構造躯体</td> <td>SS400 SSC400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体(階~階)</td> <td>SM490A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体(階~階)</td> <td>STKR400</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>BCR295</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>SN400C SN400A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 鋼材の形状及び寸法: ・図示 種類: ・H型高力ボルト2種(S10T) ・JISの高力ボルト2種(F10T) ・溶融亜鉛めつき高力ボルト1種(F8T相当) 高力ボルトの径: ・図示 溶接材料 溶接棒等(標準仕様書表8.2.7)及びガス以外の溶接材料: ・図示 2.11 柱底均しモルタル及びグラウト材 モルタルの種類: ・図示 ・無収縮モルタル 無収縮モルタルの調査: ※標準仕様書8.2.10(b)(1)~(4)による ・図示 2.12 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等 材料: ・図示 工法: ・図示 引張強度、ヤング係数等: ・図示 2.13 鋼材の材料試験等 引張りを受ける鋼板の試験: ・適用する ・適用しない ・図示 2.14 基礎工事に用いる材料 杭の材料: ・構造特記仕様書による ・図示 杭の継手、工法等: ・構造特記仕様書による ・図示 3. 鉄筋の加工及び組立 3.4 継手及び定着 継手の種類: ・重ね継手 ・ガス圧接継手 ・機械継手 ・図示 継手の位置: ・図示 主筋の重ね継手長さ: ※標準仕様書5.3.4(c)(1)による ・図示 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ: ※標準仕様書5.3.4(c)(1)による ・図示 先組み工法等の継手の位置: ・図示 柱への梁引張り鉄筋の定着長さ: ※標準仕様書5.3.4(d)(1)による ・図示 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ(軽量コンクリートの場合): ・図示 ・40mm ・50mm ・60mm 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ: ・図示 特殊な鉄筋継手のあき寸法: ・図示	種類	種別・厚さ	材質	◎合板	※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm	※複合		・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材	・床型枠用鋼製デッキプレート		・針葉材	施工部位	材質(種類の記号)	備考	・構造躯体	SS400 SSC400		・構造躯体(階~階)	SM490A		・構造躯体(階~階)	STKR400			BCR295			SN400C SN400A		12.2 穿孔 12.5 施工確認試験 13.10 仮組 14.2 摩擦面の性能及び処理 14.7 締付け 15.3 技能資格 15.4 材料準備 15.7 溶接施工 15.11 溶接部の試験 埋込配管等の調査方法: ・図示 施工試験: ※引張試験機による引張試験 ・図示 確認強度: ・図示 13. 鉄骨工作 仮組の実施: ・行わない ・行う 14. 高力ボルト接合 すべり係数試験の実施: ・行わない ・行う 試験の方法、試験片の摩擦面の状態: ・図示 ボルト長さがねじの呼びの5倍をJIS型ボルトのナット回転法の回転量: ・120° 15. 溶接接合 溶接技能者の技量付加試験: ・行わない ・行う 開先の形状: ・図示 エンドタブの切除の有無: ・有り ・無し 【エンドタブの切除の適用箇所: ・図示 ・ スカラップの形状: ・図示 完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験: ・適用する ・適用しない ◎工場溶接の場合 製作工場の社内検査: ・行わない ※行う(全数検査を行い試験結果報告書提出) 第三者機関による検査: ※行う ・行わない AOQL: ・2.5% ※4.0% 検査水準: ・第1水準 ・第2水準 ・第3水準 ・第4水準 ・第5水準 ※第6水準 ◎工事現場溶接の場合 第三者機関による検査: ※行う ・行わない AOQL: ・2.5% ※4.0% 放射線透過試験: ・適用する ・適用しない
施工部位	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	備考																																																																							
・構造躯体(基礎~階)	30																																																																								
・構造躯体(階~階)	24																																																																								
・構造躯体(階~階)	21																																																																								
・捨てコンクリート	・18 ・21																																																																								
施工部位	設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	備考																																																																							
	・18 ・21																																																																								
	・18 ・21																																																																								
	・18 ・21																																																																								
施工部位	種別	備考																																																																							
・化粧打放し部	A種																																																																								
○打放し補修下部	B種																																																																								
○基礎部	C種																																																																								
種類	種別・厚さ	材質																																																																							
◎合板	※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm	※複合																																																																							
	・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材																																																																							
・床型枠用鋼製デッキプレート		・針葉材																																																																							
施工部位	材質(種類の記号)	備考																																																																							
・構造躯体	SS400 SSC400																																																																								
・構造躯体(階~階)	SM490A																																																																								
・構造躯体(階~階)	STKR400																																																																								
	BCR295																																																																								
	SN400C SN400A																																																																								

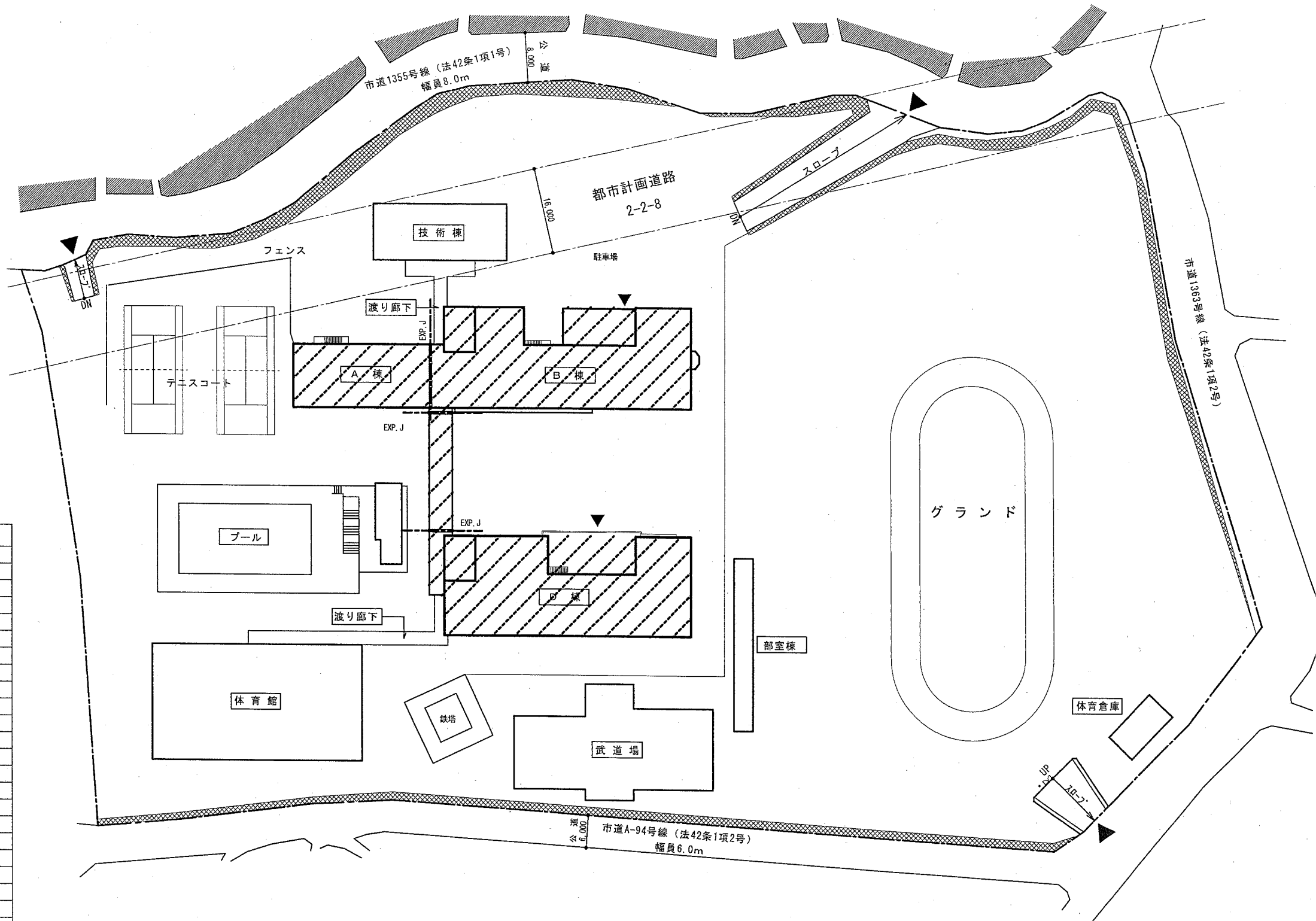
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
8章 耐震改修工事 (外構・その他工事)	17.3 塗料の種類	17. 鉄骨の錆止め塗装 SRC造の鋼製スリーブ(鉄骨に溶接されたもの)の内面: ・図示・標準仕様書 表7.3.1【※A種・B種・C種】 耐火被覆材の接着面: ・図示・標準仕様書 表7.3.1【・A種・B種・C種】	7.3 路床	凍上抑制層の適用: <input type="radio"/> 適用しない・適用する 厚さ: ・車道部 mm・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用: ・適用しない・適用する 厚さ: 車道部【・150mm・mm】歩道部【・50mm・mm】 路床安定処理の適用: ・適用しない・適用する 路床安定処理の方法: ・添加材料による処理・図示・ 処理内容:【厚さ:・300mm・】 【目標CBR:・5以上・】				
	18.2 種別及び性能	18. 耐火被覆 耐火被覆材の種別及び性能: ※図示・		盛土の種別: ・A種・B種・C種・D種 フィルター層の材料: ・砂・図示・ 砂の品質: ・75μmふるい通過量10%以下・ 路床安定処理用添加材料: ・普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種 ・フライッシュセメント・生石灰【・特号・1号】 ・消石灰【・特号・1号】 ジオテキスタイルの適用: ・適用しない・適用する: 路床土のCBR試験: <input type="radio"/> 行わない・行う【・乱した土・乱さない土】 路床締固め度試験: ・行う <input checked="" type="radio"/> 行わない 車道部の路盤の厚さ: ・図示・150mm <input checked="" type="radio"/> 200mm 歩道部の路盤の厚さ: ・図示・100mm 路盤の材料: ※砕石【※クワツラン・粒度調整砕石】 ※再生材【※クワツラン・※クワツラン鉄鋼スラグ・粒度調整砕石】				
22.7 既存との取合い	22.9 仕上げ	22. 鉄骨ブレースの設置工事 割裂補強筋の仕様: ・図示・ ブレース設置後の仕上げ: ・図示・	7.4 路盤	舗装の構成及び仕上げ	舗装の厚さ(mm): 車道部【・50mm・mm】歩道部【・30mm・mm】 舗装の平坦性: ・図示・標準仕様書による・ アスファルトの種類(車道部): ・図示・※ホリマ改質アスファルトI型 ・ホリマ改質アスファルトII型 <input checked="" type="radio"/> 再生密粒 アスファルトの種類(歩道部): ・図示・※ストレートアスファルト アスファルトの抽出試験: ・行う <input checked="" type="radio"/> 行わない			
	28.3 土工事	28. 基礎工事 ◎埋戻し及び盛土 種別: ・A種・B種・C種・D種 ・搬入まさ土(砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする) ◎建設発生土の処理 ◎現場説明書による・構外搬出適切処理 ※ 構内指定場所堆積・構内指定場所敷出し ・他現場に搬入( ) ・指定処分地( ) ◎山留めの撤去 ・撤去・存置・		7.5 舗装の種類及び仕上げ	7.9 試験			
28.4 地業工事	◎試験杭 試験杭の位置、本数、寸法: ・図示・ ◎載荷試験 載荷試験: ・水平試験・鉛直試験・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重: ・図示・ 試験方法: ・図示・ 試験報告書の記載事項等: ・図示・ ◎地盤の載荷試験 載荷試験: ・平板載荷試験・ 試験の位置、載荷荷重: ・図示・ 試験方法: ・図示・ 試験報告書の記載事項等: ・図示・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」4章[地業工事]による。							
9章 環境配慮改修工事	1.1 一般事項	1. アスベスト含有建材の除去工事 封じ込め処理: ・適用しない・適用する【処理方法: ・図示・】 囲い込み処理: ・適用しない・適用する【処理方法: ・図示・】 アスベスト含有建材撤去後の仕上げ: ・図示・ 分析によるアスベスト含有の調査: ・JIS A 1481-2・JIS A 1481-3 アスベスト粉塵濃度測定: ・行わない・行う・図示・現場説明書による						
	1.3 アスベスト含有吹付け材の除去	除去工法: ※標準仕様書9.1.3(b)(1)による・図示・ 除去物の処理: ※密封処理・セメント固化・図示・						
4.2 材料	4. ガラス改修工事 複層ガラスの種類・組合せ・厚さ: <input checked="" type="radio"/> 図示・ 複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性区分: ※U3-1・U3-2							
7.2 既存舗装の撤去及び再利用	7. アスファルト舗装改修工事 既存舗装の撤去: ・撤去しない <input checked="" type="radio"/> 撤去する【範囲等: <input checked="" type="radio"/> 図示・改修部分全面】 既存舗装の再利用: <input checked="" type="radio"/> 再利用しない ・再利用する【範囲等: ・図示・改修部分全面】							



工事場所：市立衣笠中学校  
横須賀市平作2丁目3番1号

案内図

工事区分表					
項目	内容	建築	電気	機械	備考
1	小荷物専用昇降機計画通知申請手続き		○		
2	仮設足場（脚立を除く）	○			
3	発生材運搬・処分	○	○	○	
4	発生土運搬・処分	○	○	○	
5	貫通部穴埋め補修		○	○	
6	点検口（天井・壁）取付及び開口補強	○			
7	天井付各種設備器具穴あけ、取付枠及び開口補強	○			
8	天井付各種設備器具取付		○		
9	ステンレス製（木製）流し（トラップ共）	○			
10	同上 水栓金物及び配管接続			○	
11	衛生器具取付			○	
12	衛生器具類取付用下地	○			
13	排水目皿			○	
14	排水溝・側蓋設置及び配管敷設工事			○	
15	側溝・蓋設置（グレーチング含む）（配管接続は機械設備工事）	○			
16	換気扇取付用アルミパネル	○			
17	同上 穴あけ	○			
18	換気扇スイッチ本体取付、配線		○		
19	給気口及び室内レジスター			○	
20	給気ガラリ	○			
21	空調機各種リモコン			○	
22	空調屋外機・屋内機廻り配線（冷媒管共巻き）			○	
23	空調機器一次側電源供給		○		
24	プロパン庫 撤去（コンクリートブロック製）	○			
25	プロパン庫 新設（基礎共）	○		○	
26	昇降路の築造工事及び仕上げ工事	○			
27	昇降路ピット防水	○			
28	昇降路頂部機器吊り用ビームの設置工事	○			
29	各階出入口三方枠、インジケーター、押釦等の取付用下地及び穴あけ	○			
30	出入口三方枠、敷居、インジケーター等取付後の隙間埋め	○			
31	乗降関係機器取付後の壁、床の仕上げ工事	○			
32	かご前壁と昇降路壁を125mm以下にするフェッシャープレート設置		○		
33	ストープ取外し			○	
34	同上 穴埋め	○		○	



■昇降機設置工事該当校舎

配置図 S=1:600

■各階床面積

PH階床面積	52.08㎡
4階床面積	1,444.97㎡
3階床面積	1,559.50㎡
2階床面積	1,681.97㎡
1階床面積	1,860.07㎡
合計	6,598.59㎡

公共建築課長	主査等	担当者

横須賀市 都市部 公共建築課  
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立衣笠中学校昇降機設置関連工事
図面名称 TYPE OF DRAWING	案内図・配置図・工事区分
縮尺 SCALE	1:600

図面番号 DRAWING NUMBER	A-06
------------------------	------

建築概要

○昇降機設置に伴う建築工事

- A棟: 1階昇降口を配膳室へと改修
  - 2・3階便所を配膳室へと改修
  - 4階生徒会室を配膳室へと改修
- B棟: 1階バンコナーを荷受け室を配膳室へと改修
- D棟: 1階倉庫を配膳室へと改修
  - 2・3・4階女子更衣室を配膳室へと改修
- その他 (既存アルミ建具ガラス交換及び既存石油庫改修、ゴミ置場撤去、既存ブロンズ庫撤去の上新設ブロンズ庫基礎設置、新設ブロンズ庫: 機械設備工事)

○機械設備工事

○電気設備工事 (別途工事)

外部仕上表

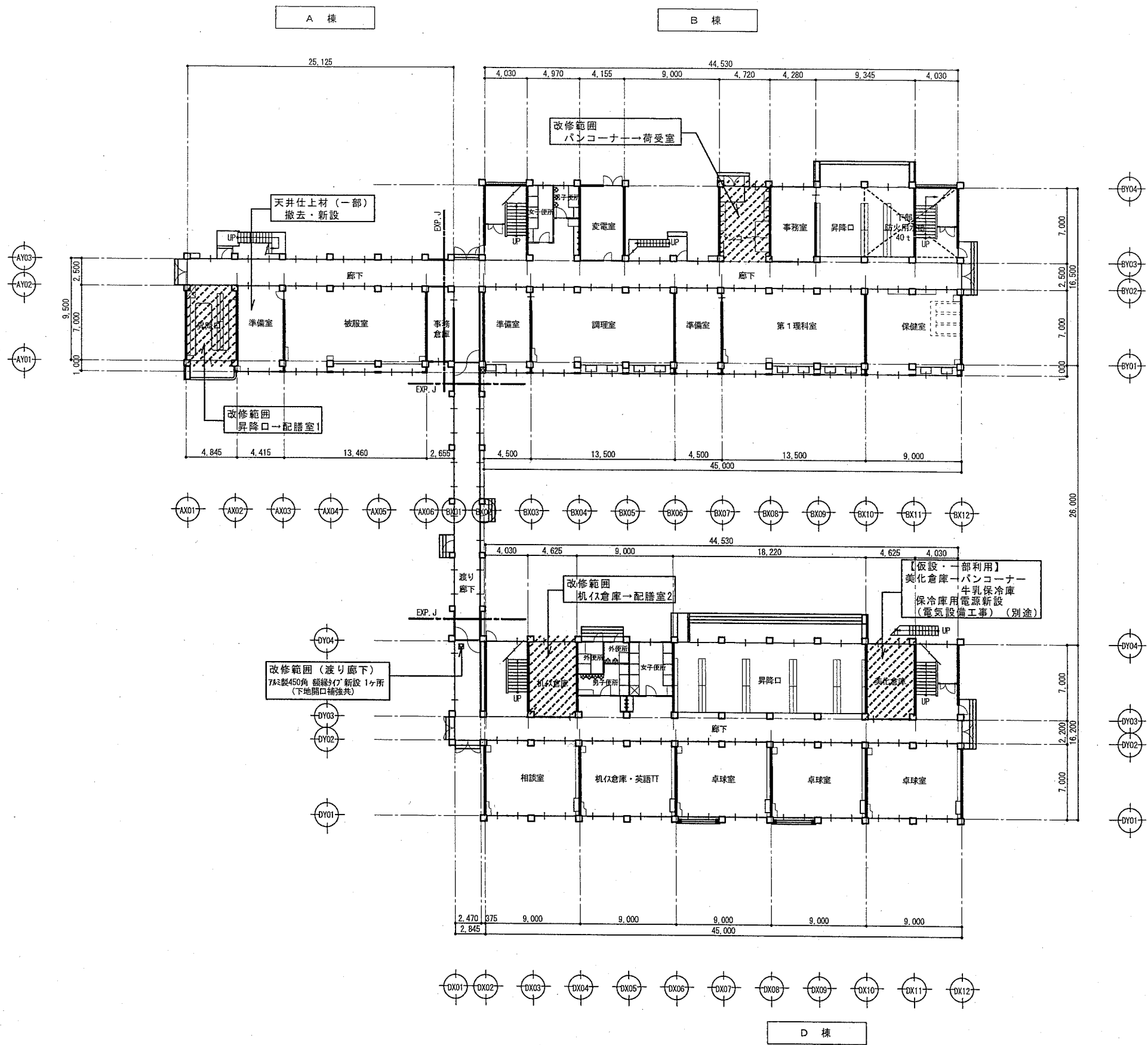
	既存	改修	備考
外壁	コンクリート打ち、複層塗材付	サツ撤去部の一部: ALCT=100 塗膜防水材塗	
A棟1階木子軒裏	LGS下地 ケイ酸カルシウム板t=8 (下地共撤去)	LGS25形@300下地 ケイ酸カルシウム板t=8 目透し張りEP (新設)	
開口部	アルミ製建具 (一部撤去)	一部新設	
外中木	コンクリート打ち	コンクリート打ち、下地調整材C-1	
外構 プラントフォーム	土間コンクリート・階段 (カッター入共) (撤去)	コンクリート金網仕上 (水勾配) 立上: 薄塗モルタル	垂線/100mm×50×50×50mm L2800×0710mm (電手動) SUS製グレートンW100 (ノリツブ) P10-T-2)
外構 側溝	現場打ち側溝W250 (カッター入共) (一部改修)	一部撤去の上グレートン設置	
外構 舗装	アスファルト舗装 (カッター入共) (一部撤去)	アスファルト舗装 (一部新設)	

注記

- 塗膜防水材: 建築用塗膜防水材塗 JIS A 6021 (ロータリー塗布機仕様 300mm)
- 下地調整: C-1 (既存塗膜面・新規モルタル面・既存コンクリート面)
- 下地調整: C-1 (ALC面)、※下地調整及び下地の乾燥に十分に注意すること。
- EP-B: つや有合成樹脂エポキシ樹脂塗料
- 木部・新規: 工程A種 下地調整種 塗替: 工程B種 下地調整R種
- モルタル面・せつこうボード面・鉄鋼面・新規: 工程B種 下地調整R種 (目透し張り) 塗替: 工程B種 下地調整R種
- EP: 合成樹脂エポキシ樹脂塗料
- モルタル面・せつこうボード面・鉄鋼面・新規: 工程B種 下地調整R種 (目透し張り) 塗替: 工程B種 下地調整R種
- DP: 耐水性塗料塗り 工程B種 下地調整R種 上塗り等級: 1級 (7ヶ所指図)
- 荷受室・配膳室: 床シート: 抗菌、耐動荷重性床シート=2.0
- 下地調整: 床シート=1.5
- AD-1: 豊和工業株式会社 HAA-100G II-K 同等品以上 SUS製アスファルト仕様
- 移設家具 (既存定期等) の移動先については施設管理者と協議の上決定する。
- コンクリート: Fc=24N/mm<sup>2</sup>、捨てコンクリート: 呼び強度=18N/mm<sup>2</sup>、軽量コンクリート: 1級、呼び強度=21N/cm<sup>2</sup>
- 塗膜防水材: ケイ酸系塗布防水 (無機質浸透性防水) JASS8 M-301規格適合品
- ALC板: 外壁耐火構造 (平成12年 建設省告示第1399号)

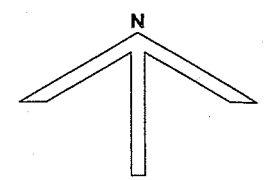
内部仕上表

棟	階	室名	床	巾木	壁	天井	高さ	備考	
A棟	1階	昇降口	モルタルt=28下地 塗膜材 (既存のまま)	モルタル金網 VP H=100 (既存のまま)	腰壁: モルタル金網 VP (既存のまま)	LGS下地 (撤去)	2700	撤去: 7mm製サツ (カッター入共)、塩ビ製縁、PS壁、SD-1壁点検口	
		配膳室1	軽量コンクリート金網 (溶接金網φ6×100×100) 下地 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボードt=9.5 EP (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 7mm製サツ、塩ビ製縁、7mm製サツ、木製縁、木製カテナボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) 壁点検口450角 (7mm製縁付)、SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、天井点検口600角 (7mm製縁付) 新設昇降口付仕上: 塗膜防水、復旧: 土間床スラブ	
	2階	手洗所・便所 (男女)	モルタル下地 半磁器質タイル25角 (一部撤去)		腰壁: 磁器質タイル100角 (撤去)	LGS下地 (撤去)	2400	撤去: CB壁、塩ビ縁、木製建具、木製流し台、ノリツブ 金物、和便器、トイレアス、PS壁、SD-1壁点検口	
		配膳室1	軽量コンクリート金網 (溶接金網φ6×100×100) 下地 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボード (撤去) ワッ合板t=4.0 OP (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 7mm製サツ、7mm製サツ、木製縁、木製カテナボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) 壁点検口450角 (7mm製縁付)、SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、天井点検口600角 (7mm製縁付) 復旧: 床スラブ	
	3階	手洗所・便所 (多目的、女)	モルタル下地 半磁器質タイル25角 (一部撤去) モルタルt=28下地 塩ビシート (仕上撤去)		腰壁: 磁器質タイル100角 (撤去)	LGS下地 (撤去)	2400	撤去: CB壁、塩ビ縁、木製建具、木製流し台、ノリツブ 金物、和便器、トイレアス、PS壁、SD-1壁点検口、軽量鋼製建具、木製棚、塩ビ手摺、鏡、カテナボ、ライニング、縦断板スラブ 一部撤去: 床スラブ (カッター入共)	
		配膳室1	軽量コンクリート金網 (溶接金網φ6×100×100) 下地 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボード (撤去) ワッ合板t=4.0 OP (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 塩ビ製縁、7mm製サツ、木製縁、木製カテナボボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) 壁点検口450角 (7mm製縁付)、SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、天井点検口600角 (7mm製縁付) 復旧: 床スラブ	
4階	生徒会室	モルタルt=15下地 (既存のまま) フローリング ロックt=15 (仕上撤去)	木製巾木t=24 OP H=100 (撤去)	腰壁: モルタル金網 VP (既存のまま)	LGS下地 (撤去)	3000	撤去: 軽量鋼製建具 (カッター入共)、塩ビ縁、カテナボ、PS壁、SD-1壁点検口		
	配膳室1	既存モルタル面下地調整の上 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁Aの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボード (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 7mm製サツ、軽量鋼製建具、木製縁、塩ビ製縁、7mm製サツ、木製カテナボボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) 壁点検口450角 (7mm製縁付)、SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、天井点検口450角 (7mm製縁付) 復旧: 床スラブ		
各階	既存改修	廊下	モルタルt=28下地 (一部カッター入れの上撤去) 塩ビシートt=2.5 (コインタイプ) (一部カッター入れの上撤去)	モルタル金網 VP H=100 (既存のまま)	モルタル金網 VP (一部カッター入れの上撤去) 腰上壁: フラスコ塗 (一部カッター入れの上撤去)	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (一部撤去)	2700	一部撤去: 塩ビ製縁	
		廊下	既存モルタル面下地調整の上 (新設) 塩ビ床シートt=2.5 (コインタイプ) (新設)	一部モルタル補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上、ビニル巾木H=100 (新設)	一部モルタル補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上 EP-G (新設)	LGS19形@300 (イオト共) 下地 (一部新設) 石膏ボードt=9.5 目透し張りEP (一部新設)	2700	新設: 天井点検口450角7mm製縁付 (3か所) 一部新設: 塩ビ製縁	
B棟	1階	バンコナー	モルタルt=28下地 (既存のまま) 塩ビシート (撤去)	モルタル金網 VP H=100 (既存のまま)	腰壁: モルタル金網 VP (既存のまま)	LGS下地 (撤去)	2700	撤去: 7mm製サツ (カッター入共)、塩ビ縁、木製カテナボボックス、カテナボ、木製流し台、PS7mm製サツt=3、ノリツブ 金物	
		荷受室	既存モルタル面下地調整の上 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁Bの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボードt=9.5 EP (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 7mm製サツ、軽量鋼製建具、木製縁、塩ビ製縁、7mm製サツ、木製カテナボボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) 7mm製サツ、SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、PS壁点検口300角 (7mm製縁付) 排水溝ふさぎ: 塩ビ製排水用キャップφ50 復旧: 土間床スラブ	
1階	既存改修	廊下	モルタルt=28下地 (既存のまま) 塩ビシートt=2.5 (コインタイプ) (一部カッター入れの上撤去)	モルタル金網 VP H=100 (既存のまま)	モルタル金網 VP (既存のまま)	LGS下地 (一部撤去)	2700	一部撤去: 塩ビ製縁	
		廊下	既存モルタル面下地調整の上 (新設) 塩ビ床シートt=2.5 (コインタイプ) (新設)	間仕切壁B'の上、ビニル巾木H=100 (新設)	間仕切壁B'の上 EP-G (新設)	LGS19形@300 (イオト共) 下地 (一部新設) 石膏ボードt=9.5 目透し張りEP (一部新設)	2700	一部新設: 塩ビ製縁	
D棟	1階	倉庫	モルタルt=28下地 (一部カッター入れの上撤去) 塩ビシートt=2.5 (コインタイプ) (撤去)	モルタル金網 VP H=100 (一部カッター入れの上撤去)	腰壁: モルタル金網 VP (既存のまま)	LGS下地 (撤去)	2700	撤去: 軽量鋼製建具 (カッター入共)、塩ビ縁、木製カテナボボックス、カテナボ、土間スラブ (一部撤去)、木製流し台、7mm製サツt=3、	
		配膳室2	モルタルt=28下地 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボードt=9.5 EP (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 塩ビ製縁、7mm製サツ、木製カテナボボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、PS壁点検口300・450角 (7mm製縁付)、天井点検口450・600角 (7mm製縁付) 新設昇降口付仕上: 塗膜防水、復旧: 土間床スラブ	
	2・4階	更衣室	モルタルt=28下地 (一部カッター入れの上撤去) 塩ビシートt=2.5 (コインタイプ) (撤去)	モルタル金網 VP H=100 (既存のまま)	腰壁: モルタル金網 VP (既存のまま)	LGS下地 (撤去)	2700	撤去: 軽量鋼製建具 (カッター入共)、塩ビ縁、木製カテナボボックス、カテナボ、木製流し台、7mm製サツt=3、	
		配膳室2	既存モルタル面下地調整の上 (新設) 塩ビ床シートt=2.0 (新設)	ワッ合板t=9 (1類)の上、ビニル巾木H=300 (新設)	LGS50形下地一部がノ工法 (新設) ケイ酸カルシウム板t=8の上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧ケイ酸カルシウム板t=6 (新設)	石膏ボードt=9.5 EP (撤去) LGS19形@225 (イオト共) 下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)	2570	新設: 塩ビ製縁、7mm製サツ、木製カテナボボックス、SUS製ケイ酸カルシウム、ライニング、ライニング 甲板 (片面小口化粧) SUS流し (W900×D750×H800 パツカボード・排水トラップ付)、PS壁点検口300・450角 (7mm製縁付)、天井点検口450・600角 (7mm製縁付) 復旧: 床スラブ	
	各階	既存改修	廊下	モルタルt=28下地 (一部カッター入れの上撤去) 塩ビシートt=2.5 (コインタイプ) (一部カッター入れの上撤去)	モルタル金網 VP H=100 (一部カッター入れの上撤去)	モルタル金網 VP (一部カッター入れの上撤去) 腰上壁: フラスコ塗 (一部カッター入れの上撤去)	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (一部撤去)	2700	一部撤去: 塩ビ製縁
			廊下	既存モルタル面下地調整の上 (新設) 塩ビ床シートt=2.5 (コインタイプ) (新設)	一部モルタル補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上、ビニル巾木H=100 (新設)	一部モルタル補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上 EP-G (新設)	LGS19形@300 (イオト共) 下地 (一部新設) 石膏ボードt=9.5 目透し張りEP (一部新設)	2700	一部新設: 塩ビ製縁 新設: 天井点検口450角 (7mm製縁付)



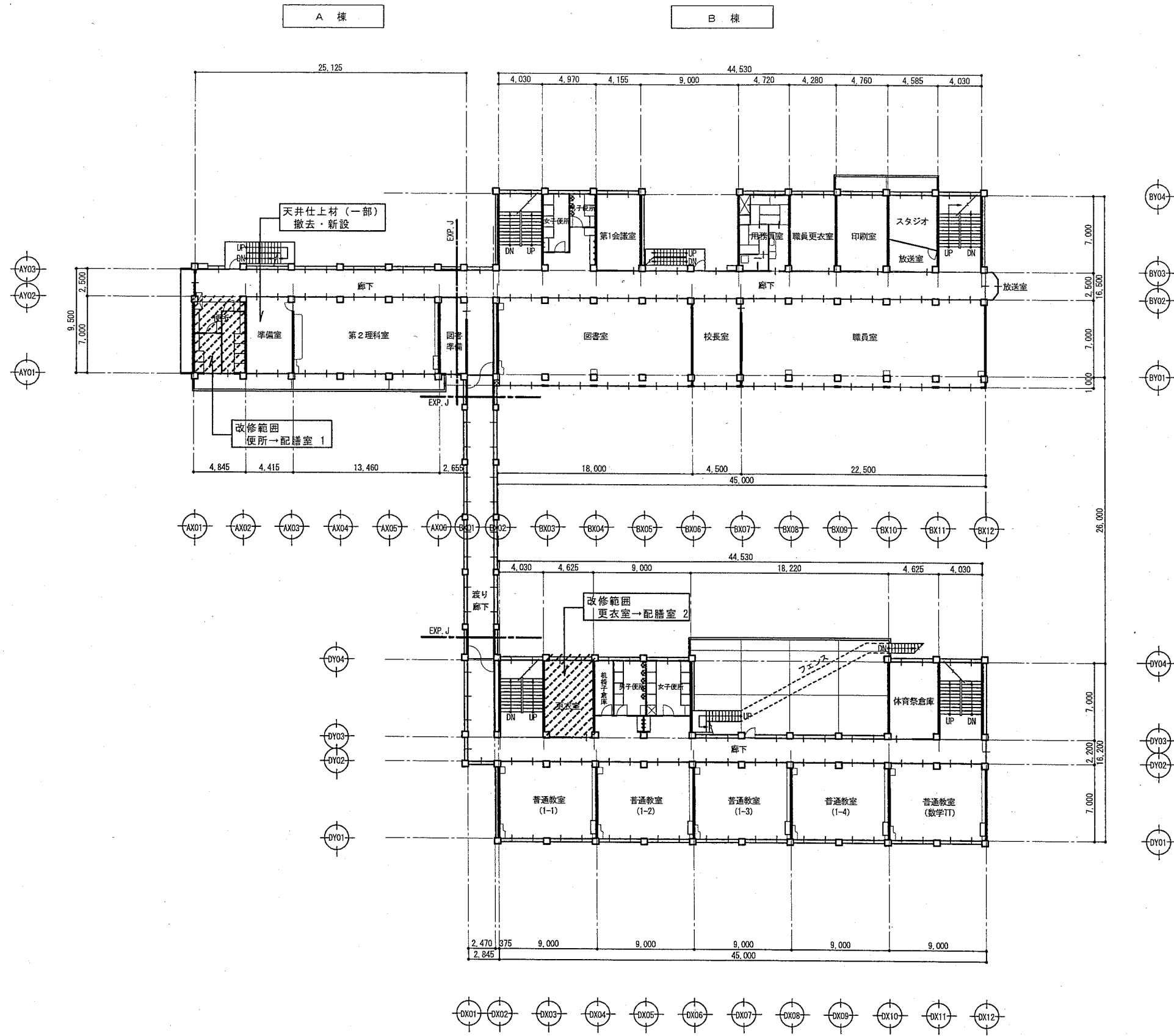
1階床面積：1,860.07㎡

1階平面図



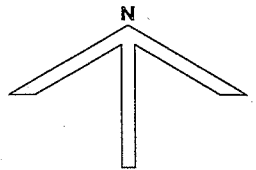
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING	A-08
			設計年月日 平成 31年 2月	市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	1階平面図	
					縮尺 1:300 SCALE	



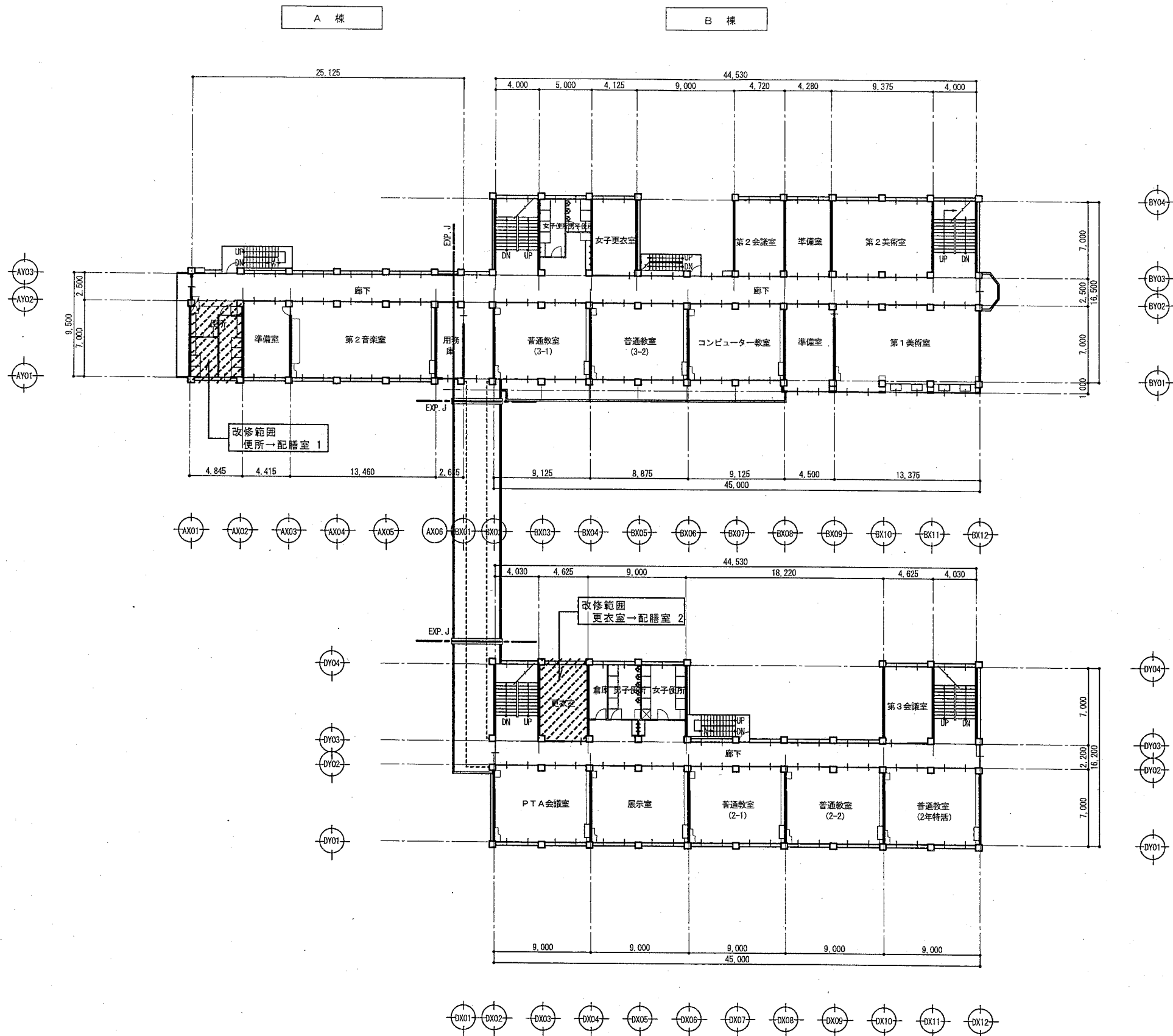


2階床面積 : 1,681.97㎡

2階平面図

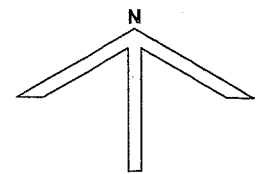


公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 TITLE OF DRAWING	A-09
			設計年月日 平成 31年 2月	市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	2階平面図	
				縮尺 1 : 300	DRAWING NUMBER	NO

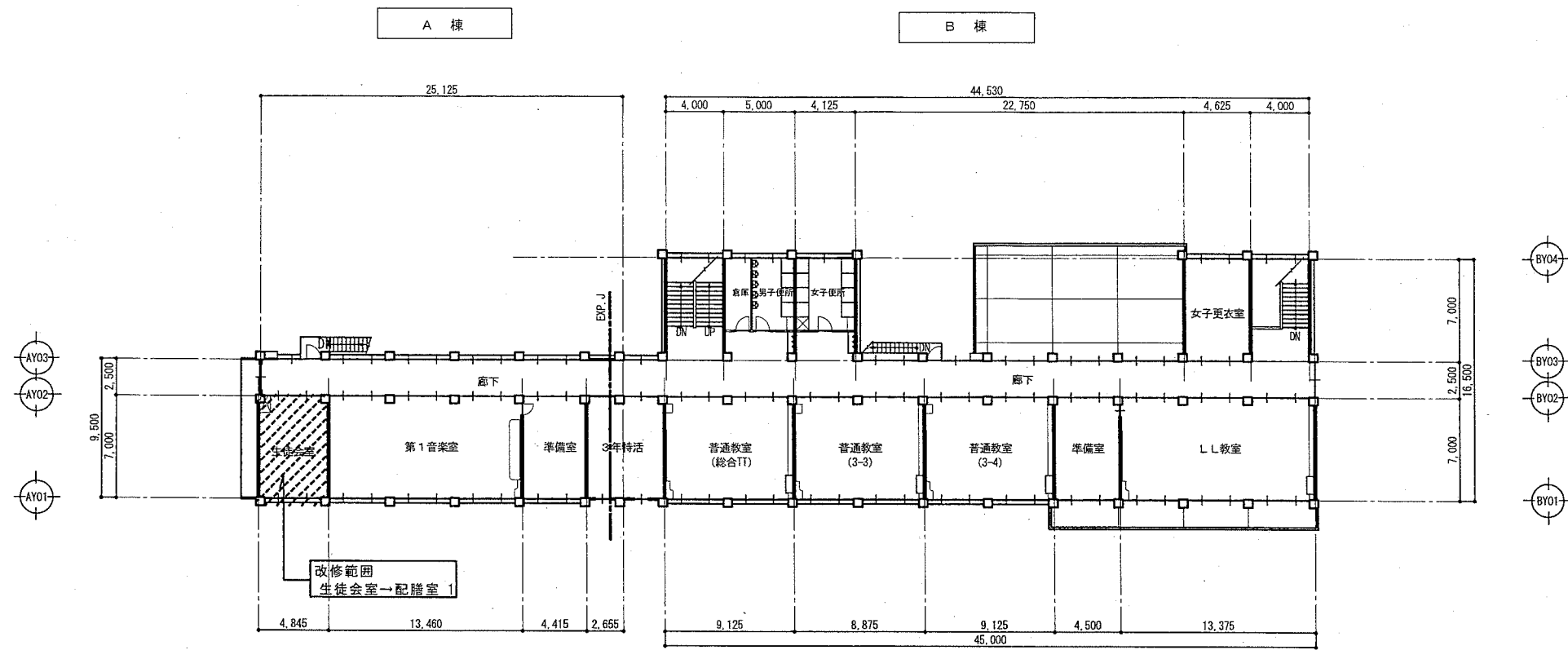


3階床面積 ; 1,559.50㎡

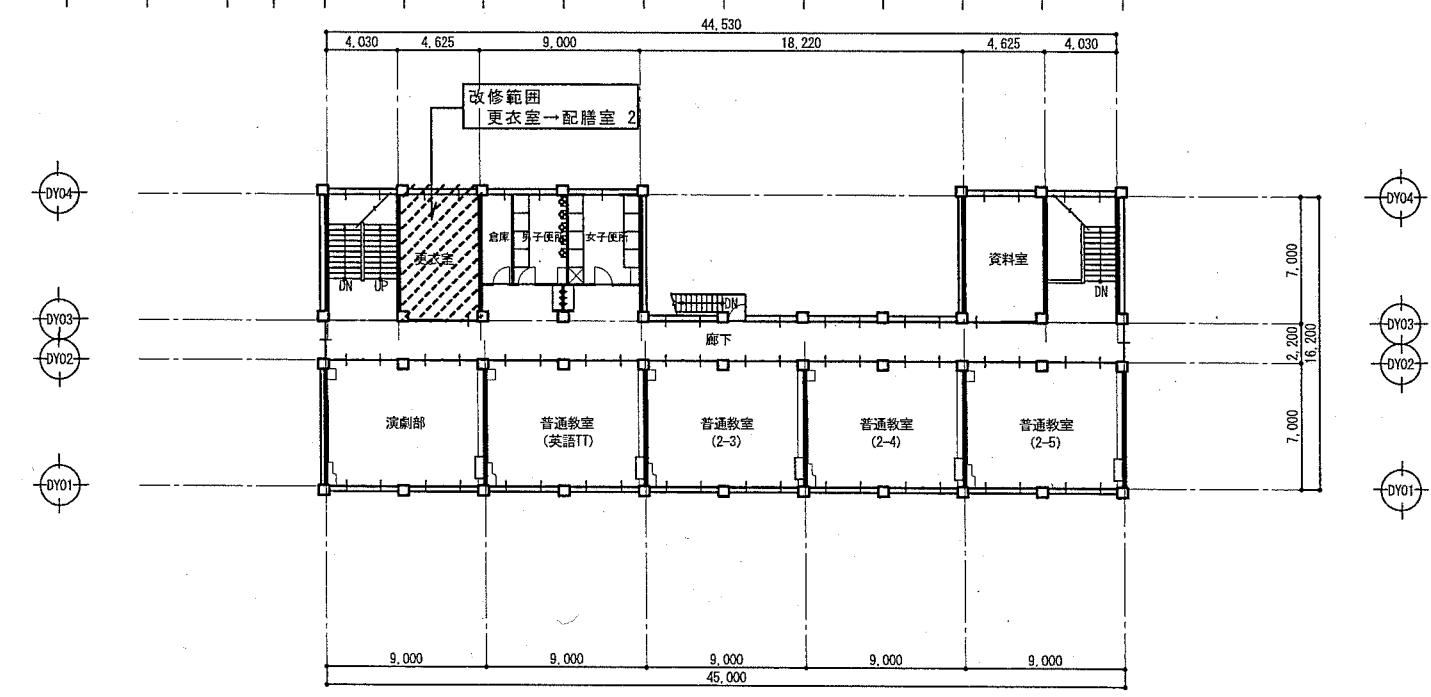
3階平面図



公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計年月日 平成 31年 2月	設計名称 NAME OF PROJECT 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	図面名称 ITEM OF DRAWING 3階平面図	縮尺 1 : 300	A-10
--------	-----	-----	----------------	-----------------	--	----------------------------------	------------	------



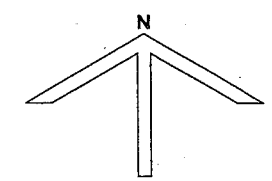
AX01 AX02 AX03 AX04 AX05 AX06 BX01 BX02 BX03 BX04 BX05 BX06 BX07 BX08 BX09 BX10 BX11 BX12



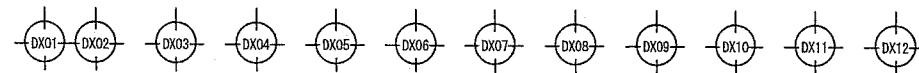
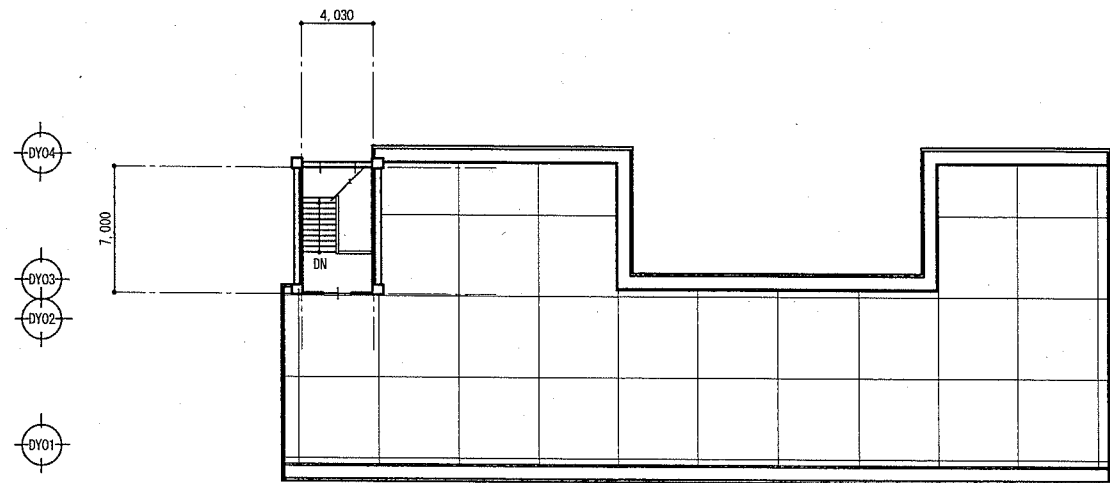
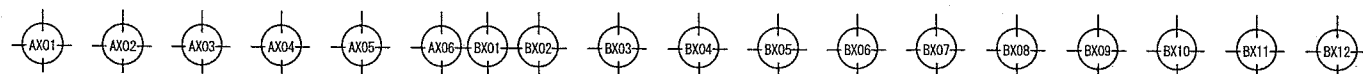
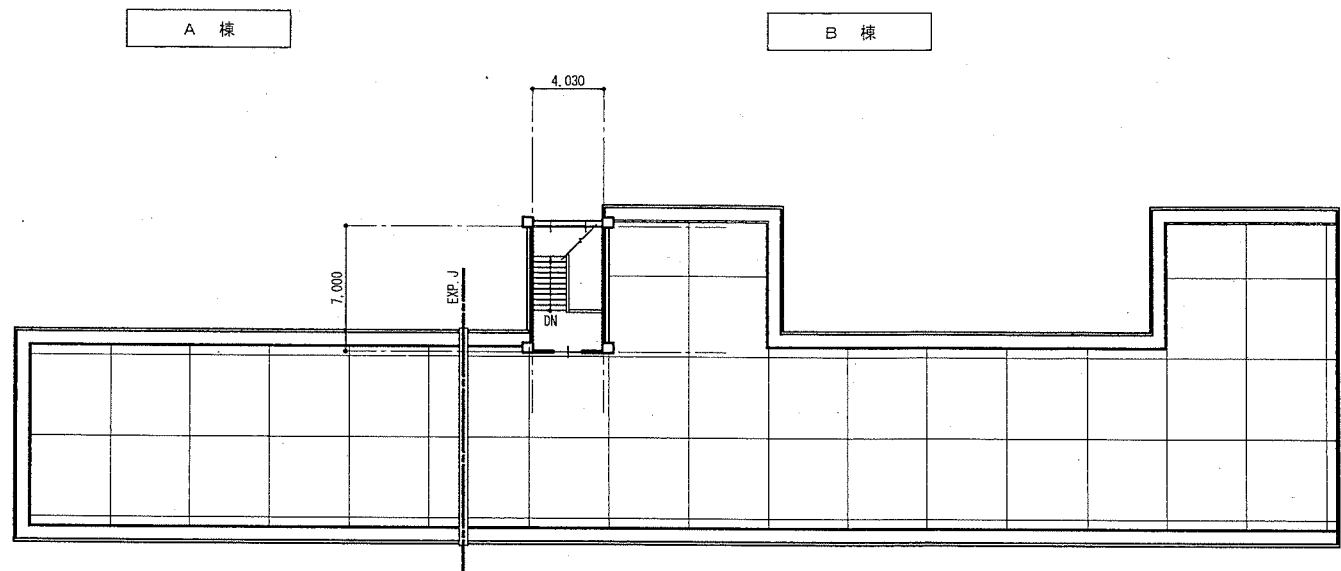
DX01 DX02 DX03 DX04 DX05 DX06 DX07 DX08 DX09 DX10 DX11 DX12

4階床面積 : 1,444.97㎡

4階平面図



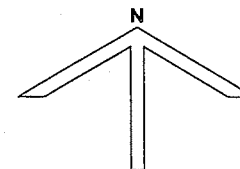
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 市立衣笠中学校昇降機設置工事	図面名称 4階平面図	A-11
			設計年月日 平成 31年 2月	縮尺 1:300		



D 棟

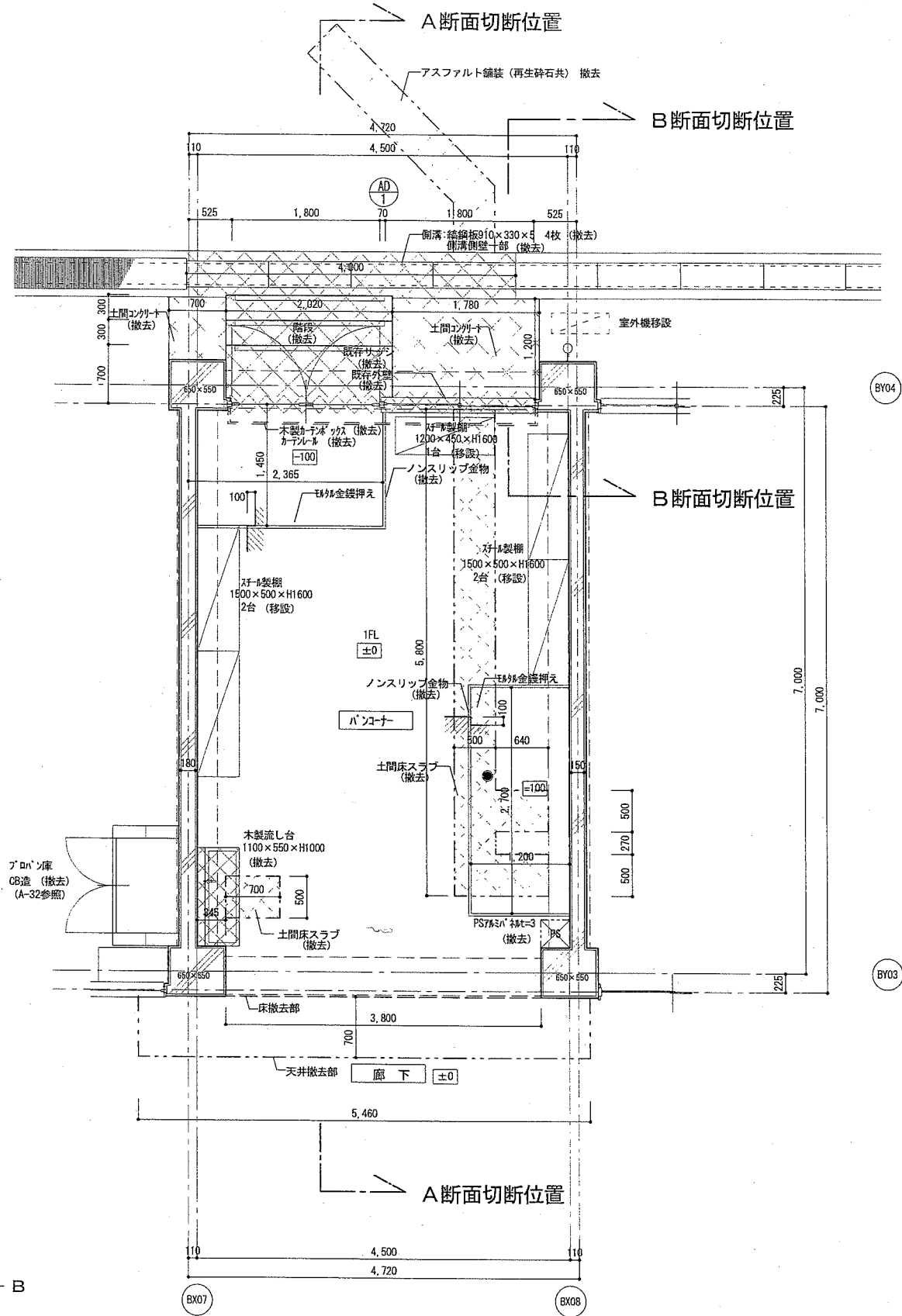
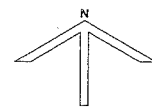
PH階床面積 ; 52.08㎡

屋階平面図



公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING	A-12
			設計年月日 平成 31年 2月	市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	屋階平面図	
				縮尺 1 : 300	NO	

改修前

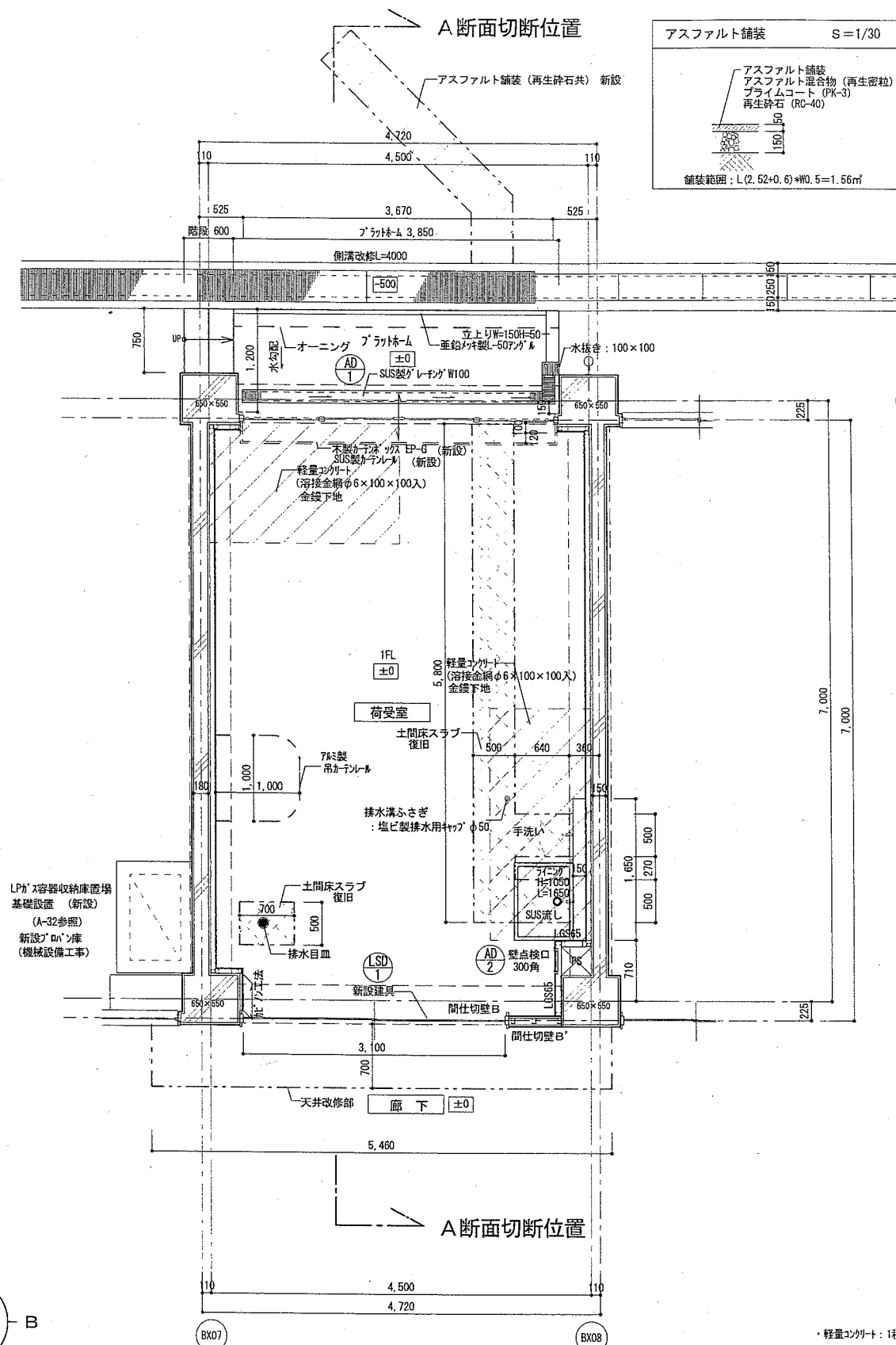
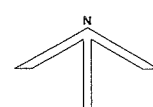


B棟1階平面詳細図(改修前・ハコナー)

既存土間床スラブ:  
土間コンクリートt=100  
鉄筋: D10@300/F30  
砕石t=120

部	廊下	ハコナー
床	既存LGS下地 (既存のまま) 塩ビシート=2.5 (巾タテ) (一部撤去)	既存金網押え (既存のまま) 既存LGS下地 塩ビシート=2.5(巾タテ)仕上撤去
巾木	既存金網 VP H=100 (既存のまま)	既存金網 VP H=100 (既存のまま)
壁	既存LGS下地 (既存のまま) アラスカ塗 (既存のまま)	既存LGS下地 (既存のまま) アラスカ塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (撤去)

改修後



B棟1階平面詳細図(改修後・荷受室)

土間床スラブ 復旧 (構造図参照)  
土間コンクリートt=120 (F=24N/mm<sup>2</sup>)  
(鉄筋D10 シング 8300)  
防湿シート (8'リフレクシートt=0.15)  
RC40 t=120

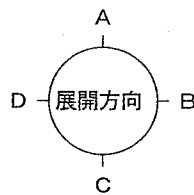
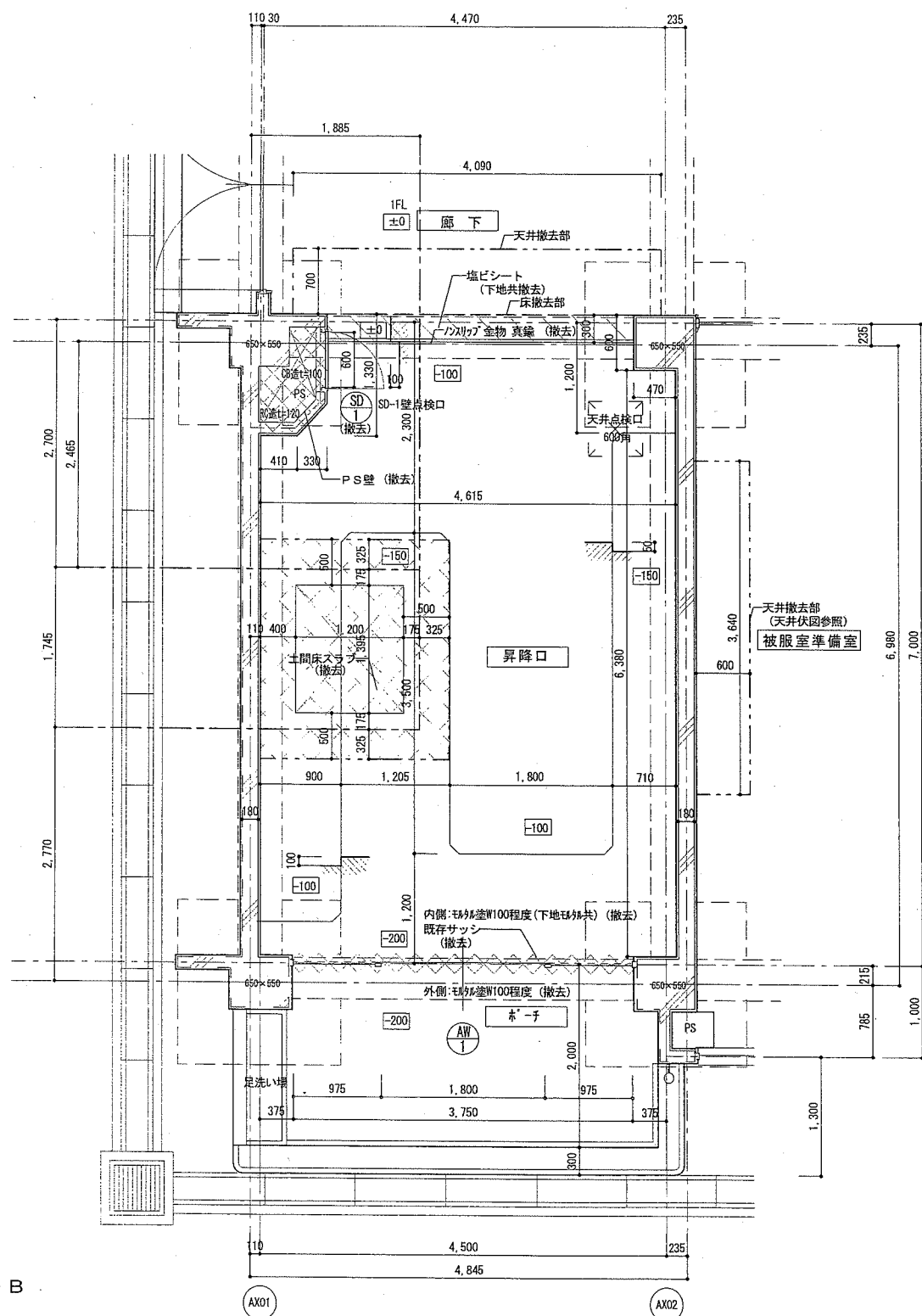
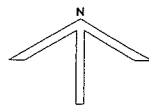
・軽量コンクリート: 1種、呼び強度=21N/mm<sup>2</sup> S=18  
ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

部	廊下	荷受室
床	既存LGS下地調整の上 塩ビシート=2.5 (巾タテ) (新設) ビニル床シートt=2.0 (新設)	軽量コンクリート金網下地 (新設) 既存LGS下地調整の上 (新設) ビニル床シートt=2.0 (新設)
巾木	間仕切壁B' ビニル巾木H=100 (新設)	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	間仕切壁Bの上 EP-G (新設)	LGS50-65影下地一部仕上 (新設) LGS50-65影下地一部仕上 (新設) 間仕切壁Bの上化粧LGS50-65 (新設)
天井	LGS19影300(巾タテ)下地 (一部新設) 石膏ボードt=9.5 目隠し張りEP (一部新設)	LGS19影225(巾タテ)下地(新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)



改修前

断面切断位置



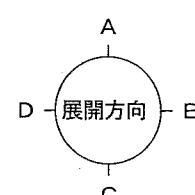
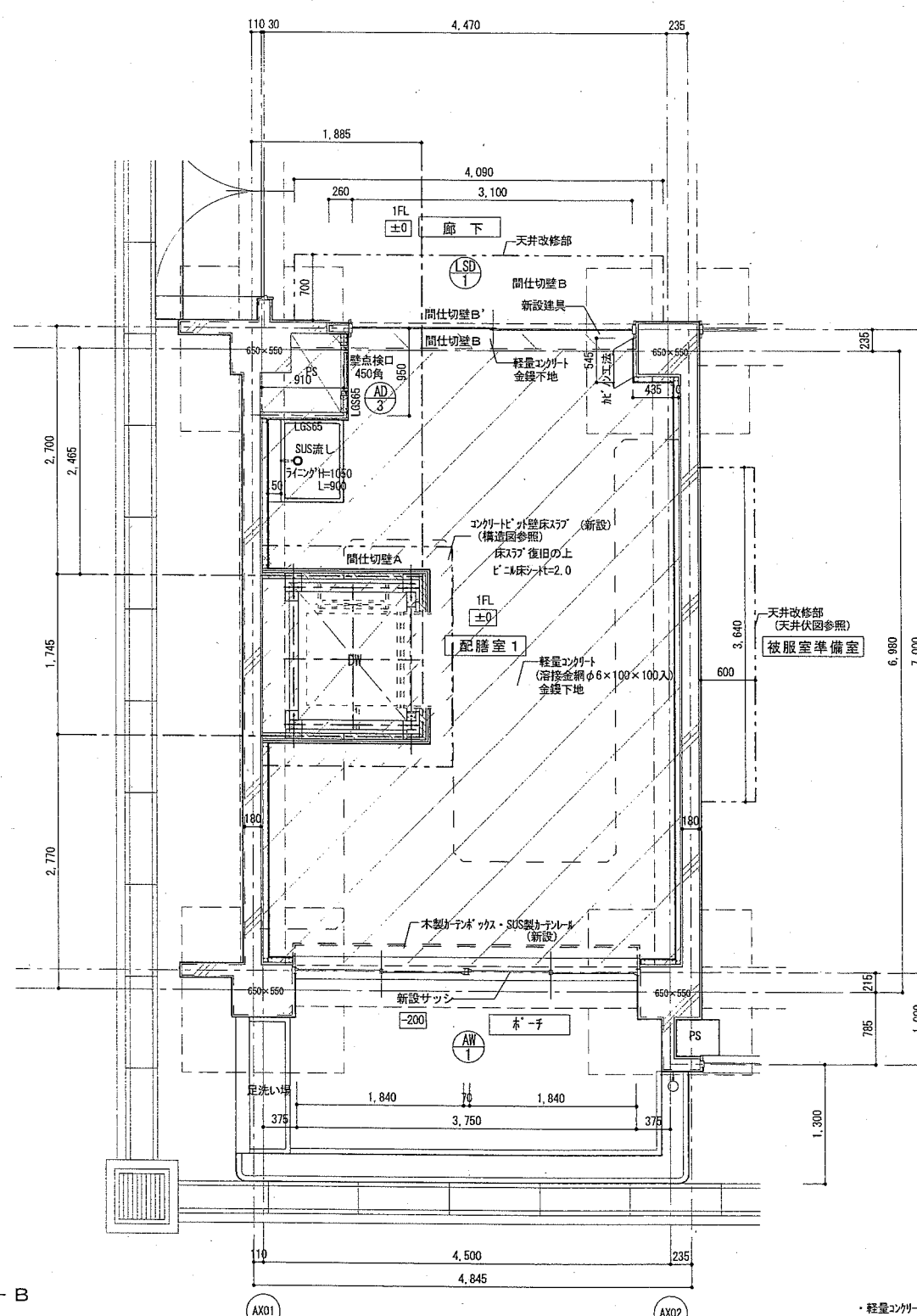
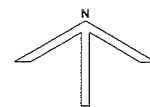
A棟1階平面詳細図(改修前・昇降口)

	ホーチ	廊下	昇降口
床		珪藻土28下地 (一部ホーチ入れの上撤去) 塩ビシート=2.5 (ホーチ付) (同上)	珪藻土金線下地 塗床材 (既存のまま)
巾木		珪藻土金線 VP H=100 (既存のまま)	珪藻土金線 VP H=100 (既存のまま)
壁		珪藻土金線 VP (既存のまま) プラスチック塗 (既存のまま)	珪藻土金線 VP (既存のまま) プラスチック塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (撤去) 石膏ボードt=8 (撤去)	LGS下地 (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (一部撤去)

既存土間床スラブ:  
土間コンクリート=100  
鉄筋: D10@300x700  
砕石t=120

改修後

断面切断位置



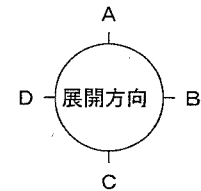
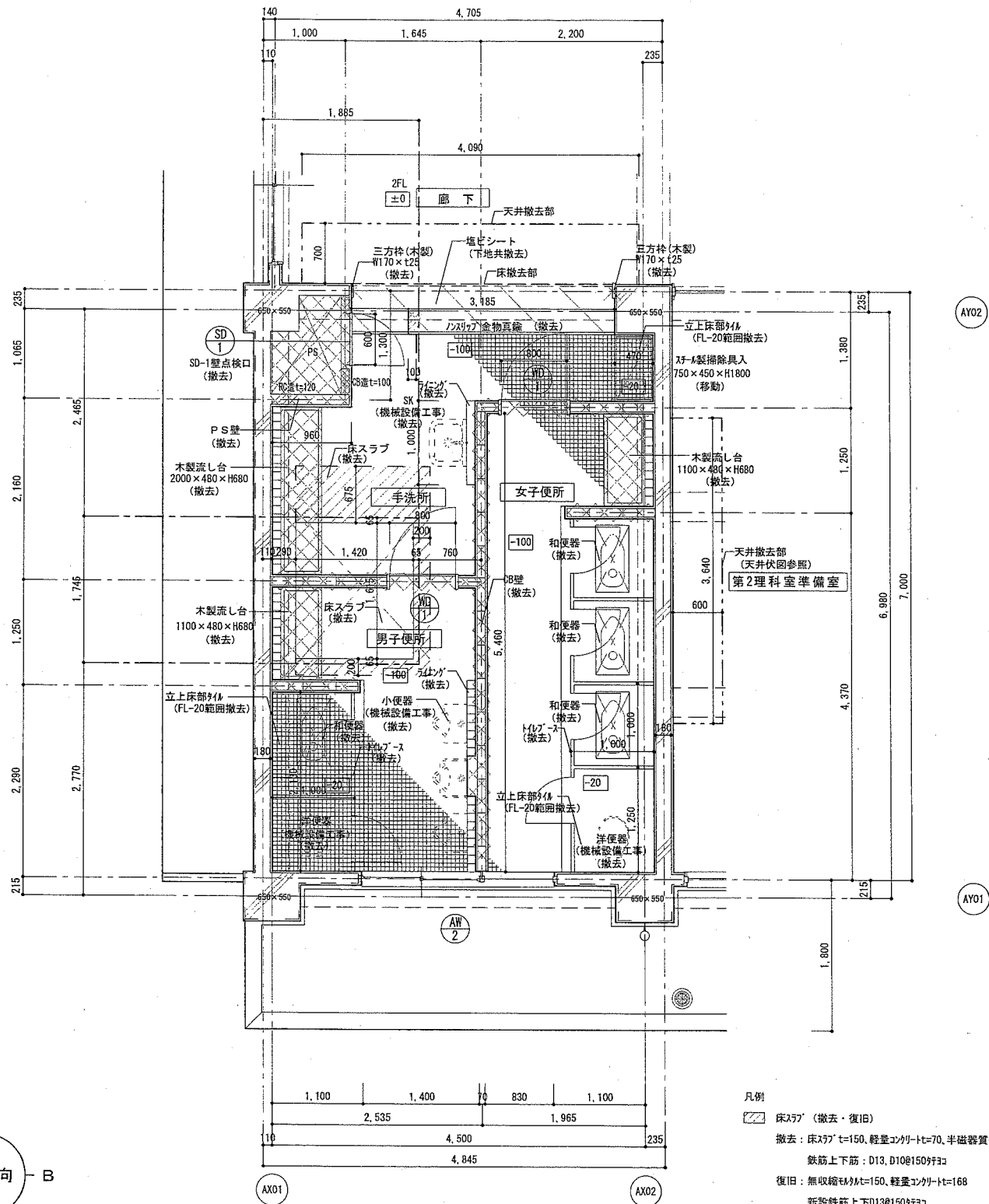
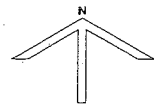
A棟1階平面詳細図(改修後・配膳室1)

	ホーチ	廊下	配膳室1
床		珪藻土28下地 (一部新設)	軽量コンクリート金線下地 (新設) ビニル床シート=2.5 (ホーチ付) (一部新設) ビニル床シート=2.0 (新設)
巾木		間仕切壁B' ビニル床木付=100 (新設)	ビニル巾木=300 (新設)
壁		間仕切壁B'の上 EP-G (新設)	LGS下地一部撤去/工法 珪藻土金線=3の上化粧珪藻土板t=6 (新設) 間仕切壁A-Bの上化粧珪藻土板t=6 (新設)
天井	LGS25形#200 (ホーチ共)下地 (新設) 石膏ボードt=8 目隠し張りEP (新設)	LGS19形#300 (ホーチ共)下地 (一部新設)	LGS19形#225 (ホーチ共)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

・軽量コンクリート: 1種 呼び強度=21N/mm<sup>2</sup> S=18  
ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

改修前

断面切断位置



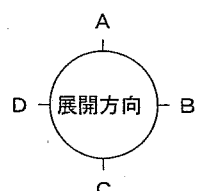
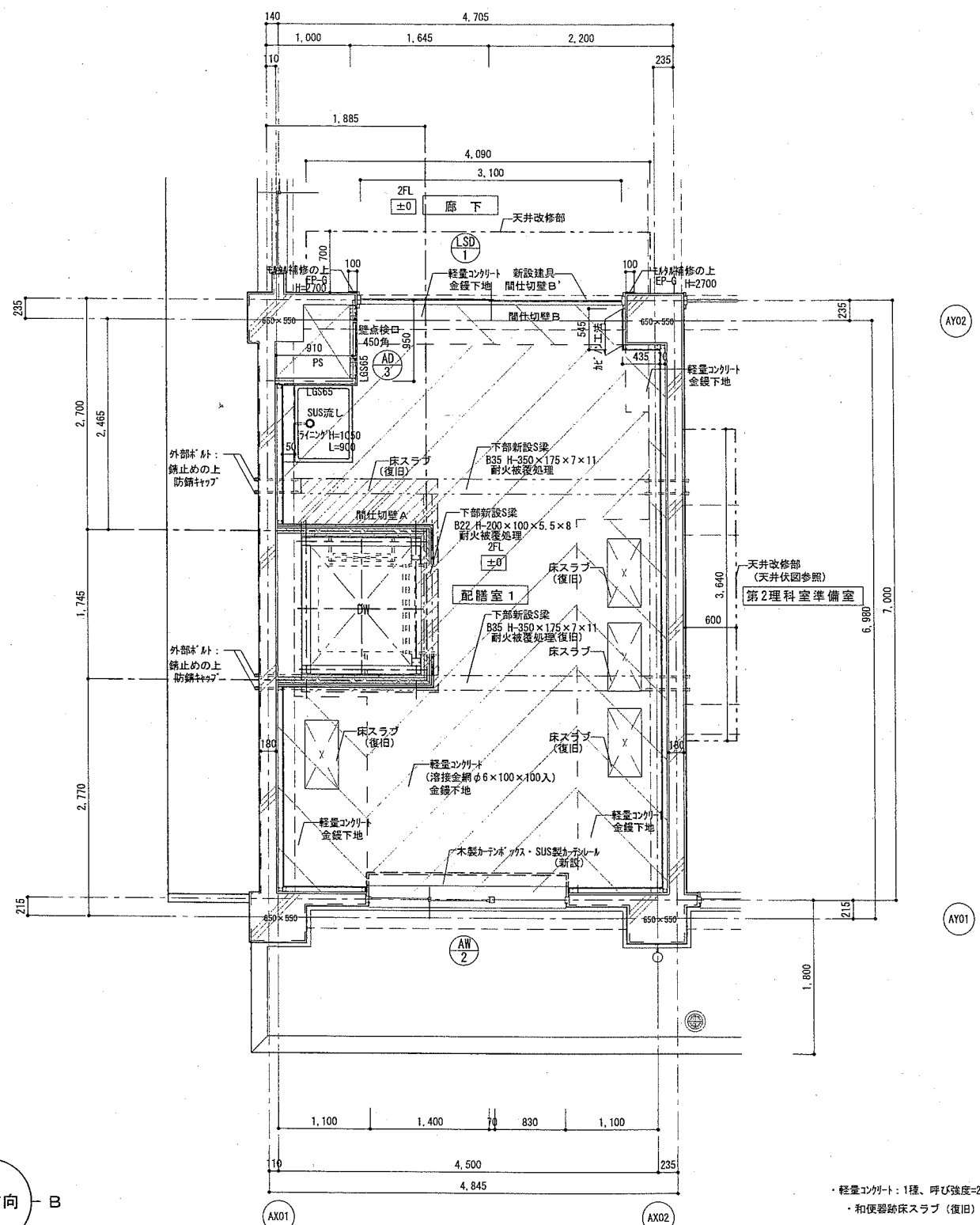
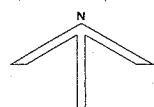
A棟2階平面詳細図(改修前・便所)

- 凡例
- 床スラブ (撤去・復旧)
  - 撤去: 床スラブ t=150, 軽量コンクリート t=70, 半磁器質タイル 25角
  - 鉄筋上下筋: D13, D10@150φ
  - 復旧: 無収縮モルタル t=150, 軽量コンクリート t=168
  - 新設鉄筋上下筋 D13@150φ
  - 和便器 (撤去) は詳細図参照

部	撤去	復旧	新設
廊下	モルタル下地 (一部撤去)	半磁器質タイル 25角 (一部撤去)	
床	モルタル下地 (一部撤去)	モルタル t=2.5 (一部撤去)	
巾木	モルタル金縁 VP H=100 (既存のまま)		
壁	漆喰モルタル金縁 VP (一部撤去)	漆喰: 磁器質タイル 100角 (撤去)	
	フラスコ塗 (一部撤去)	フラスコ塗 (撤去)	
天井	LGS下地 (一部撤去)		
	石膏ボード t=9.5 EP (一部撤去)	石膏ボード t=4 OP (撤去)	

改修後

断面切断位置



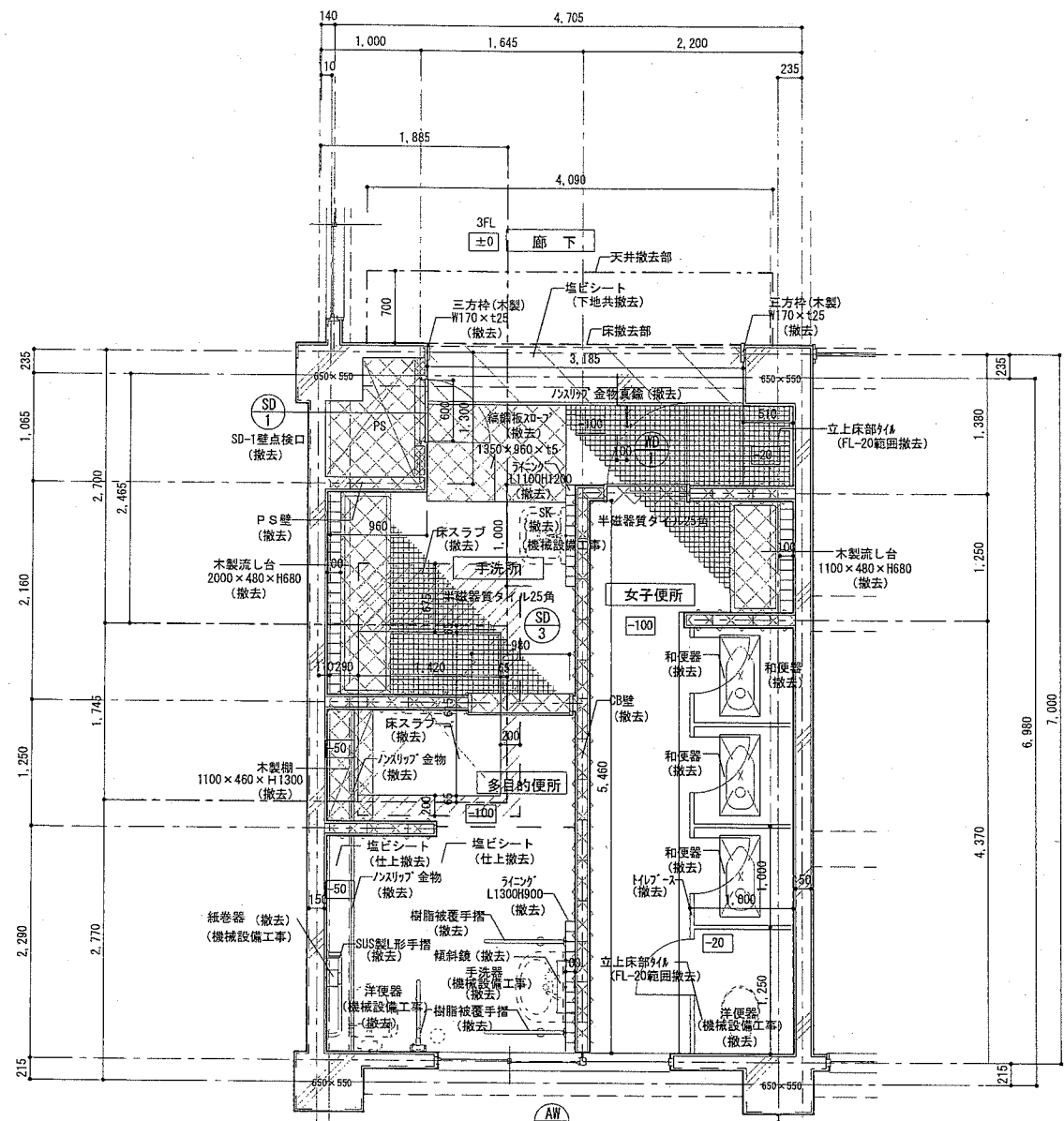
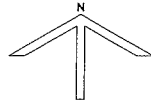
A棟2階平面詳細図(改修後・配膳室1)

・軽量コンクリート: 1種、呼び強度=21N/mm<sup>2</sup> S=18  
 ・和便器跡床スラブ (復旧) は詳細図参照  
 ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

部	撤去	復旧	新設
廊下	モルタル下地 (一部撤去)	モルタル t=2.5 (一部撤去)	
床	モルタル下地 (一部撤去)	モルタル t=2.5 (一部撤去)	
巾木	一部モルタル補修の上 EP-G (一部撤去)	一部モルタル補修の上 EP-G (一部撤去)	
壁	一部モルタル補修の上 EP-G (一部撤去)	間仕切壁B'の上 EP-G (撤去)	
天井	LGS19形#300 (ケラ+共)下地 (一部撤去)	石膏ボード t=9.5 目通し張り EP (一部撤去)	

改修前

断面切断位置

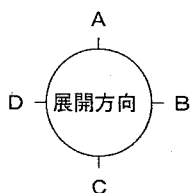
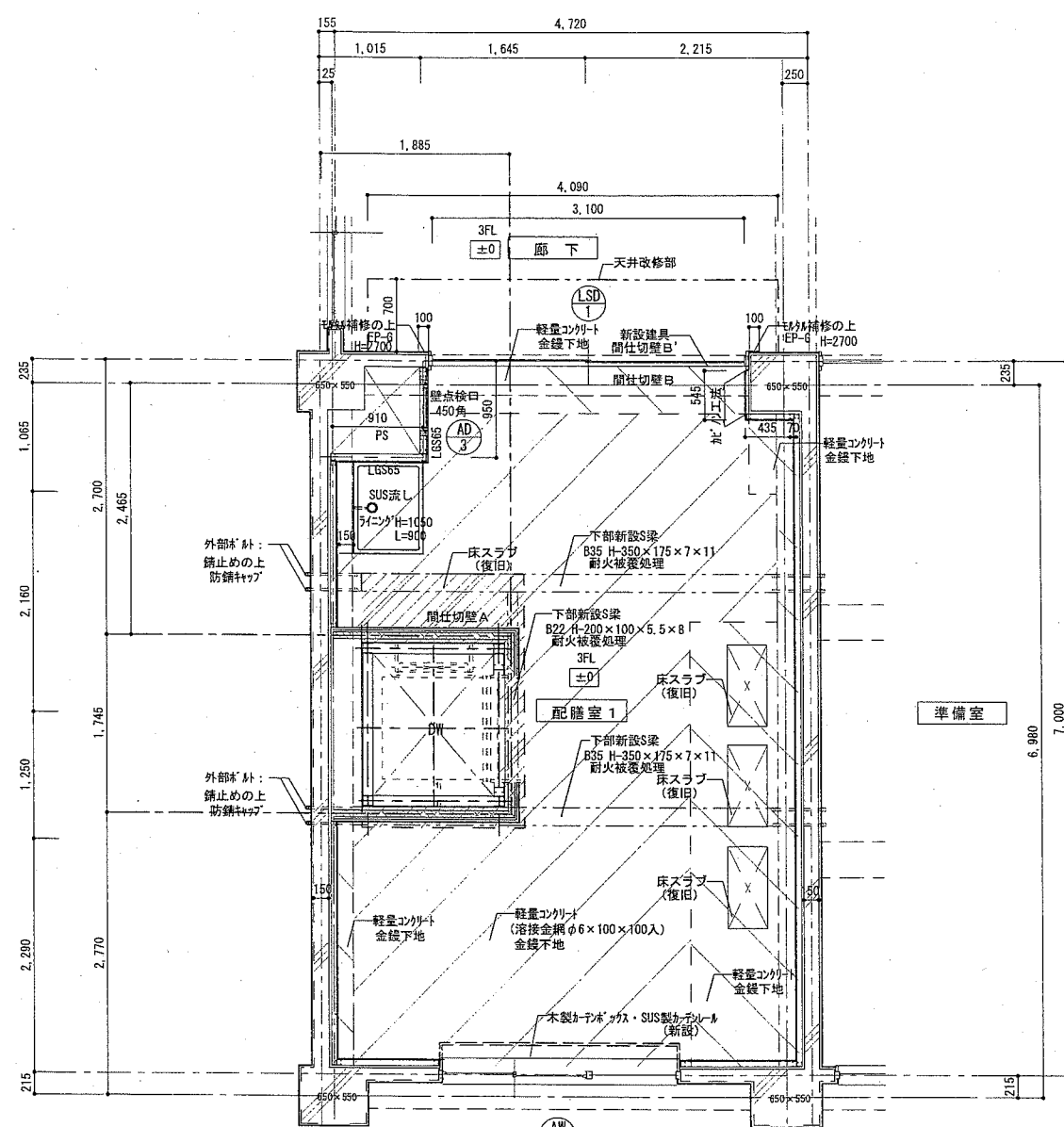
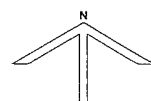


凡例  
 [Hatched] 床スラブ (撤去・復旧)  
 撤去: 床スラブ t=150, 軽量コンクリート t=70, 半磁器質タイル 25角  
 鉄筋上下筋: D13, D10@150等  
 復旧: 無収縮モルタル t=150, 軽量コンクリート t=168  
 新設鉄筋上下筋 D13@150等  
 和便器 (撤去) は詳細図参照

	廊下	手洗所・便所
床	EPF t=28下地 (一部撤去) 塩ビシート t=2.5 (撤去)	半磁器質タイル 25角 (一部撤去) 塩ビ下地塩ビシート (仕上のみ撤去)
巾木	モルタル金縁 VP H=100 (既存のまま)	
壁	腰壁: モルタル金縁 VP (一部撤去) ブラスター塗 (一部撤去)	腰壁: 磁器質タイル 100角 (撤去) ブラスター塗 (撤去)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボード t=4 OP (撤去)

改修後

断面切断位置



A棟3階平面詳細図 (改修後・配膳室1)

・軽量コンクリート: 1種、呼び強度=21N/m<sup>2</sup> S=18  
 ・和便器跡床スラブ (復旧) は詳細図参照  
 ふかし壁: 表記以外LGS0形とする。

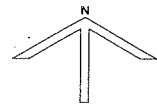
	廊下	配膳室 1
床	EPF t=28下地 (一部新設) 塩ビシート t=2.5 (撤去)	軽量コンクリート金縁下地 (新設) ビニル床シート t=2.0 (新設)
巾木	一部モルタル補修の上 EP-G (新設)	ビニル巾木 H=300 (新設)
壁	一部モルタル補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上 EP-G (一部新設)	LGS0形下地一部仕上工法 (新設) 外壁モルタル t=8の上北壁付(撤去) t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧(撤去) t=6 (新設)
天井	LGS19形EP00 (撤去) 下地 (一部新設) 石膏ボード t=9.5 目透し張りEP (一部新設)	LGS19形EP225 (撤去) 下地 (新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)

A棟3階平面詳細図 (改修前・便所)

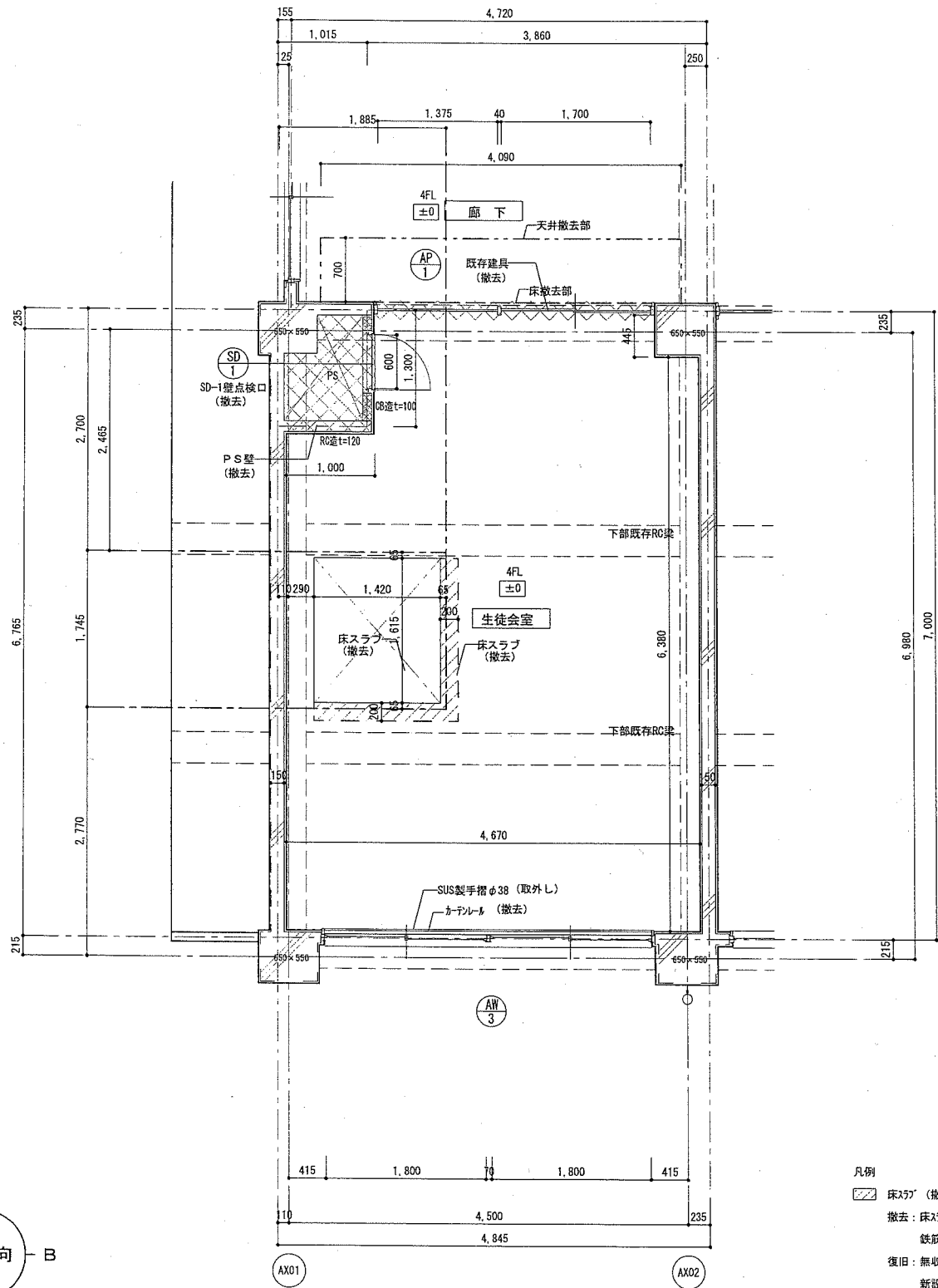
断面切断位置

断面切断位置

改修前



断面切断位置

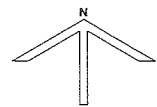


凡例  
 [Hatched Box] 床スラブ (撤去・復旧)  
 撤去: 床スラブ t=120, 鉄筋t=15  
 鉄筋上下筋: D13, D10@200φ  
 復旧: 無収縮t=120, 鉄筋t=28  
 新設鉄筋上下D13@150φ

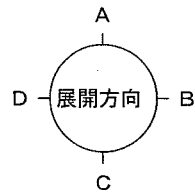
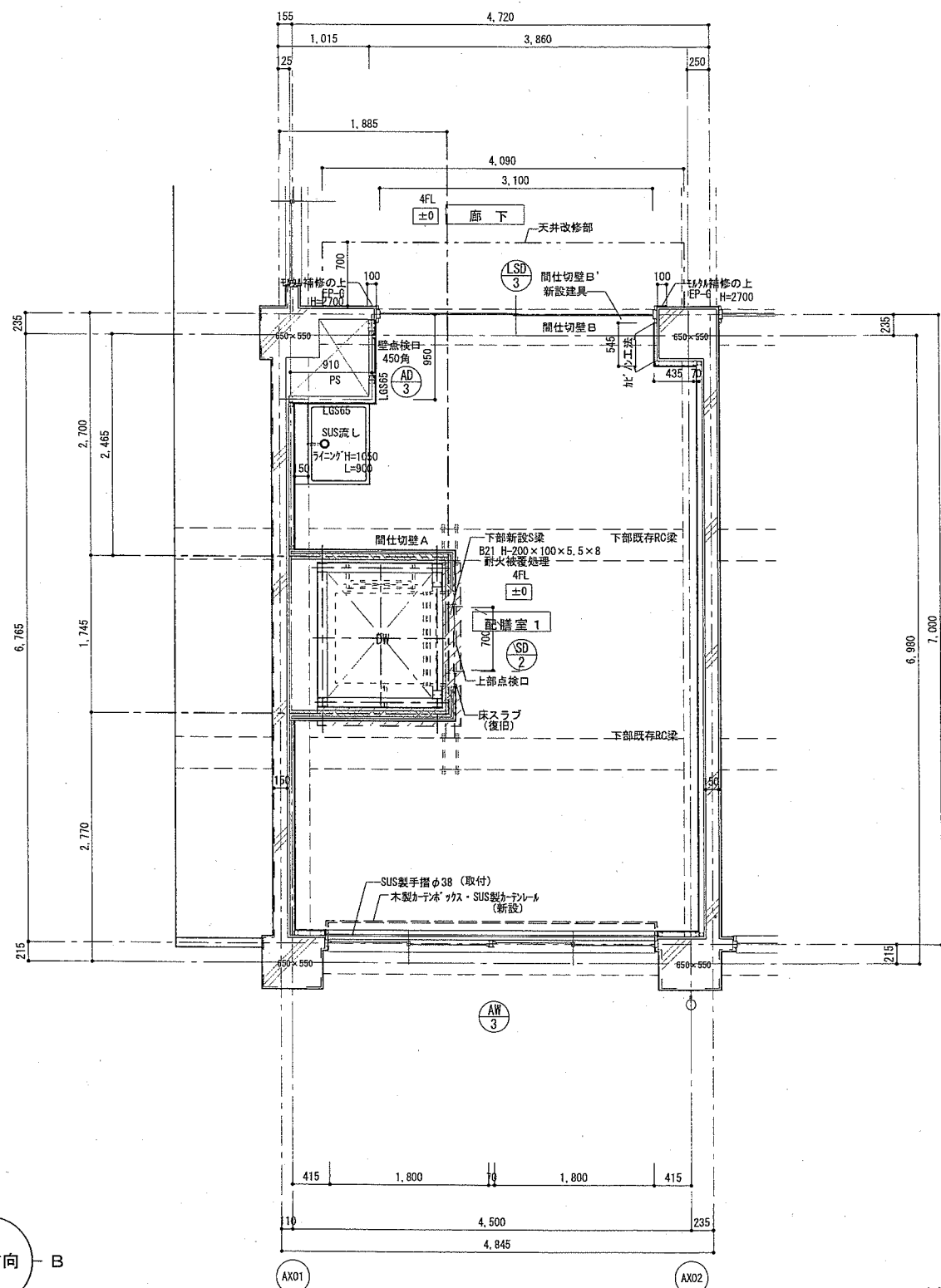
	廊下	生徒会室
床	鉄筋t=28下地 (一部撤去) t=120 (一部撤去) t=15 (一部撤去)	鉄筋t=15下地 (既存のまま) 70-リング プラケット=15 (撤去)
巾木	鉄筋金線 VP H=100 (既存のまま)	鉄筋金線 VP H=100 (既存のまま)
壁	腰壁: 鉄筋金線 VP (一部撤去) プラスチック (一部撤去)	腰壁: 鉄筋金線 VP (既存のまま) プラスチック (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (撤去)

A棟4階平面詳細図 (改修前・生徒会室)

改修後



断面切断位置



A棟4階平面詳細図 (改修後・配膳室1)

ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

	廊下	配膳室1
床	鉄筋t=28下地 (一部新設) t=120 (一部新設) t=15 (一部新設)	既存鉄筋下地調整の上 (新設) ビニル床シート=2.0 (新設)
巾木	一部鉄筋補修の上EP-G (新設)	ビニル巾木=100 (新設)
壁	一部鉄筋補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上 EP-G (一部新設)	LGS50形下地一部t=120 (新設) LGS50形t=120の上化樹脂t=6 (新設) 間仕切壁A-Bの上化樹脂t=6 (新設)
天井	LGS19形t=25 (一部新設) 石膏ボード t=9.5 目隠し張りEP (一部新設)	LGS19形t=25 (一部新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)

断面切断位置

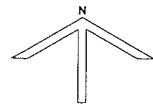
公共建築課長	主査等	担当者

横須賀市 都市部 公共建築課  
 設計年月日 平成 31年 2月

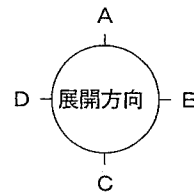
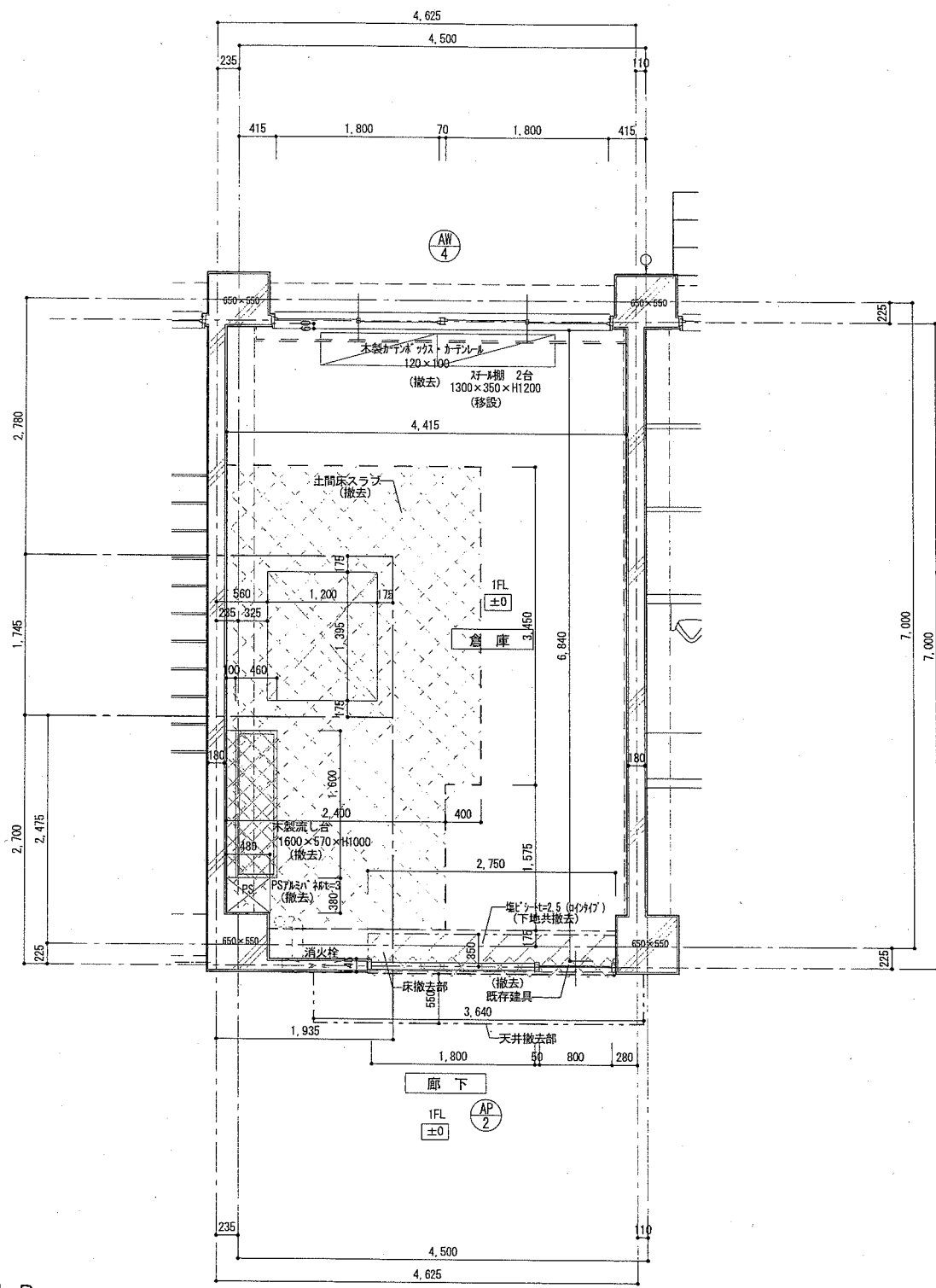
設計名称  
 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事

図面名称  
 配膳室1 4階平面詳細図 (A棟) (改修前・改修後)  
 縮尺 1:50

改修前



断面切断位置



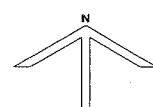
D棟1階平面詳細図(改修前・倉庫)

断面切断位置

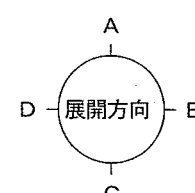
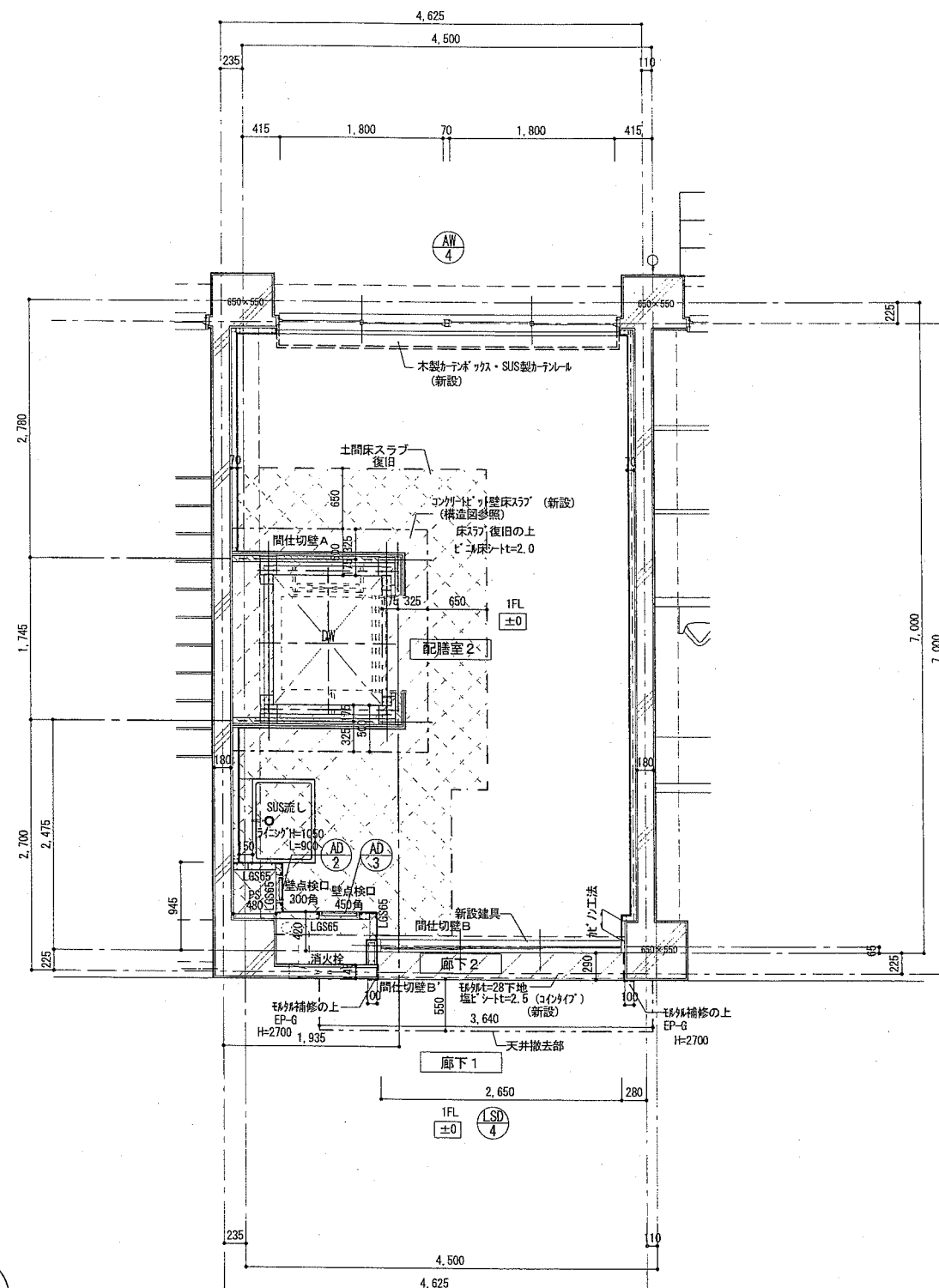
既存土間床スラブ:  
土間コンクリート=100  
鉄筋: D10@300×730  
砕石t=120

	廊下	倉庫
床	移床=28下地 (一部撤去) 壁シート=2.5 (コウガイ) (一部撤去)	移床=28下地 (一部撤去) 壁シート=2.5 (コウガイ) (仕上撤去)
巾木	移床金縁 VP H=100 (一部撤去)	移床金縁 VP H=100 (一部撤去)
壁	腰壁: 移床金縁 VP (一部撤去) ガラス塗 (一部撤去)	腰壁: 移床金縁 VP (既存のまま) ガラス塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボード=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボード=9.5 EP (撤去)

改修後



断面切断位置



D棟1階平面詳細図(改修後・配膳室2)

断面切断位置

土間床スラブ 復旧 (構造図参照)  
土間コンクリート=130 (Fc=24N/mm2)  
(鉄筋D10 シング & #300)  
防湿シート (※) W/Fロンシート=0.15  
RC40 t=120

ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

	廊下1・2	配膳室2
床	移床=28下地 (一部新設) 壁シート=2.5 (コウガイ) (一部新設)	既存移床下地調整 (新設) ビニルシート=2.0 (新設)
巾木	一部移床補修の上EP-G (新設)	ビニル巾木=300 (新設)
壁	一部移床補修の上EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上EP-G (一部新設)	LGS50移下地一部撤去/工法 LGS50移下地=8の上化粧(壁紙)貼付=6 (新設) 間仕切壁A-Bの上化粧(壁紙)貼付=6 (新設)
天井	LGS19形#300 (コウガイ)下地 (一部新設) 石膏ボード=9.5 目透し張りEP (一部新設)	LGS19形#225 (コウガイ)下地 (新設) 化粧石膏ボード=9.5 (新設)

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

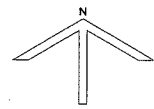
横須賀市 都市部 公共建築課  
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称  
市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事

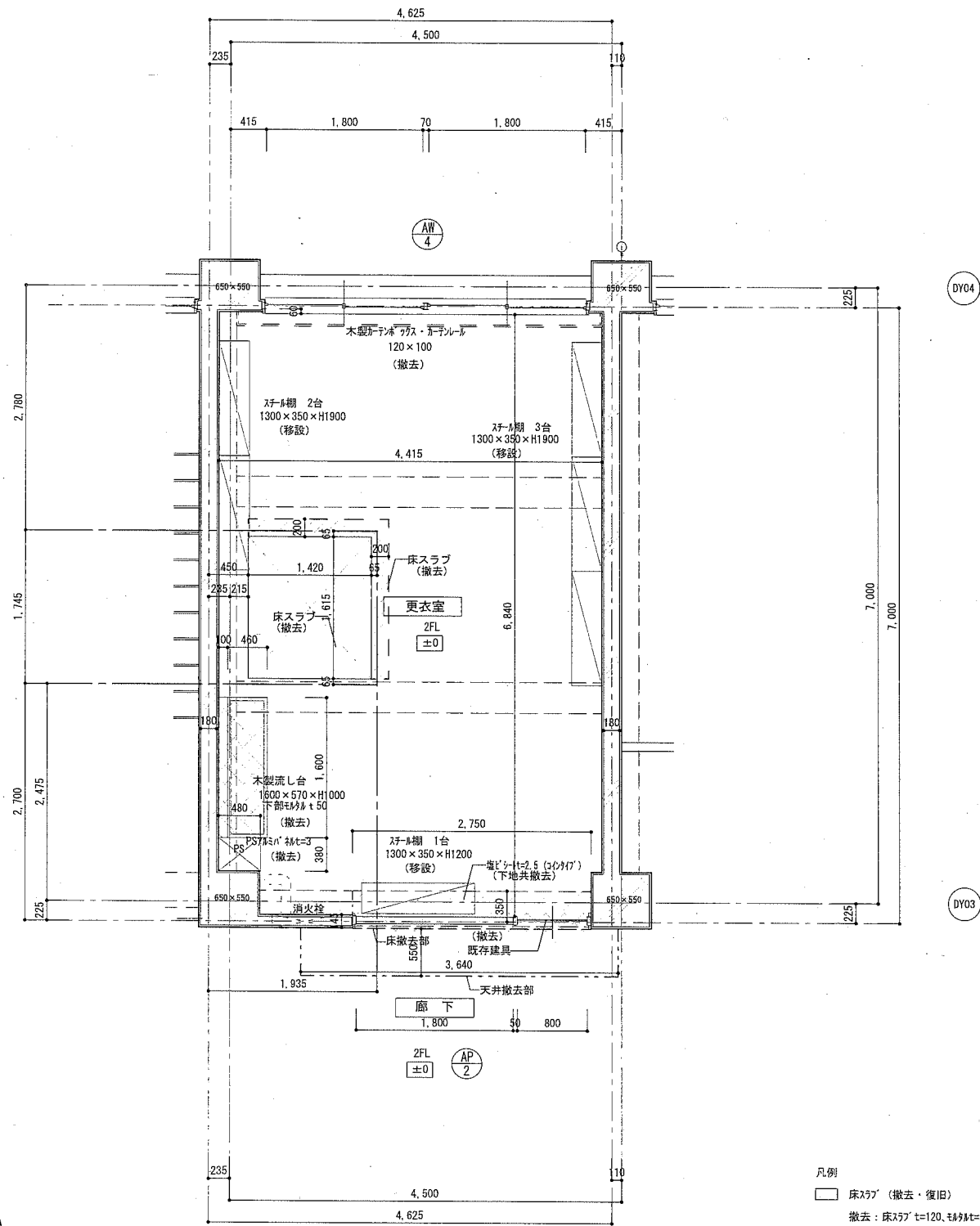
図面名称  
配膳室2階平面詳細図[D棟](改修前・改修後)  
縮尺 1:50



改修前



断面切断位置



断面切断位置

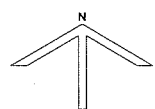
D棟2階平面詳細図(改修前・更衣室)

凡例

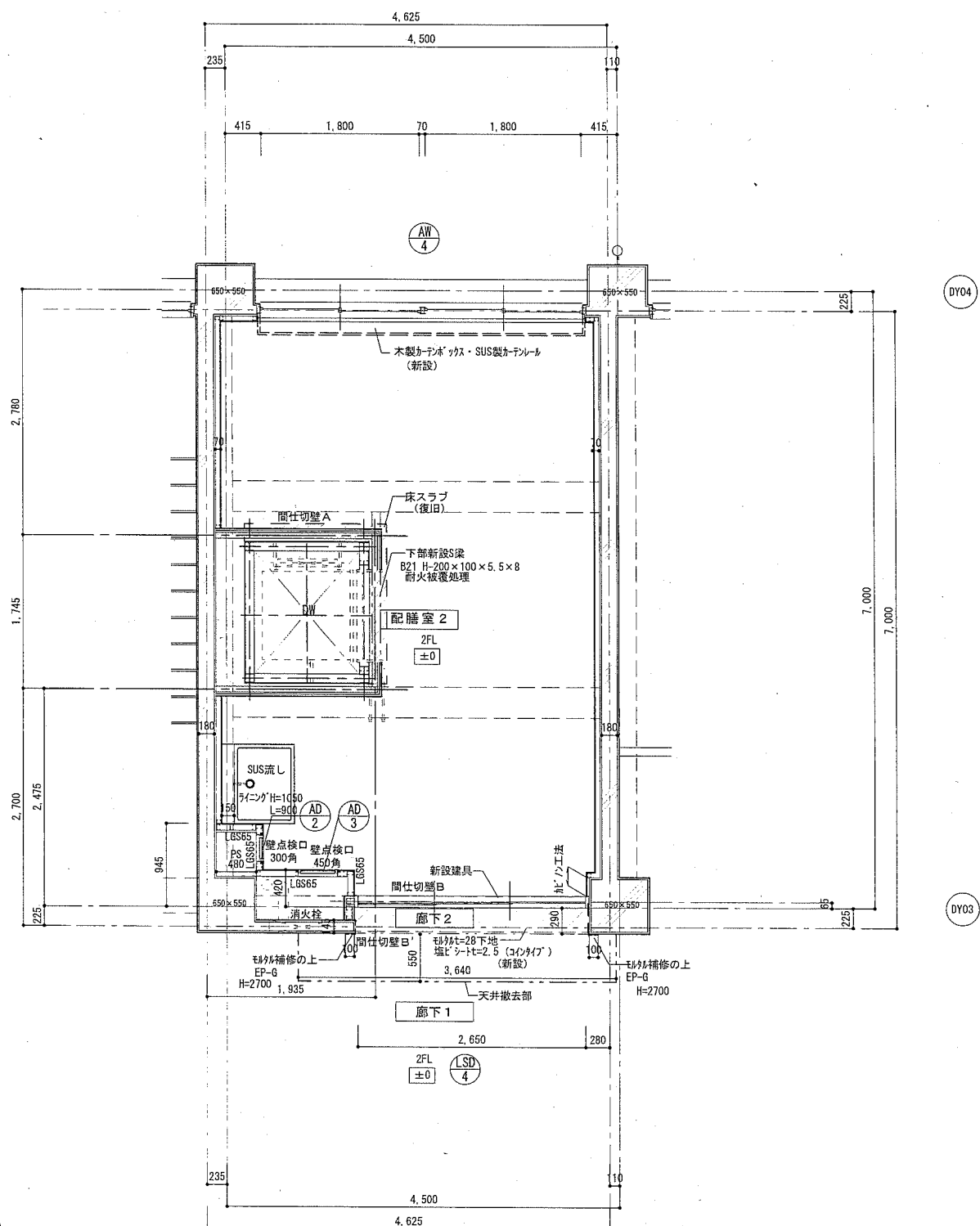
- 床スラブ (撤去・復旧)
- 撤去: 床スラブ t=120, モルタル=28
- 鉄筋上下筋: D13, D108(150)F30
- 復旧: 無収縮モルタル=120, モルタル=28
- 新設鉄筋上下D13

	廊下	更衣室
床	モルタル=28下地 (一部撤去) 塩ビシート=2.5 (30分7) (一部撤去) モルタル=120 (撤去)	モルタル=28下地 (一部撤去) 塩ビシート=2.5 (30分7) (撤去) モルタル=120 (撤去)
巾木	モルタル金縁 VP H=100 (一部撤去)	モルタル金縁 VP H=100 (既存のまま)
壁	腰壁:モルタル金縁 VP (一部撤去) フラスコ塗 (既存のまま)	腰壁:モルタル金縁 VP (既存のまま) フラスコ塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (撤去)

改修後



断面切断位置



断面切断位置

D棟2階平面詳細図(改修後・配膳室2)

ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

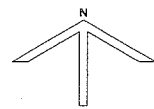
	廊下1・2	配膳室2
床	モルタル=28下地 (一部撤去) 塩ビシート=2.5 (30分7) (一部撤去)	既存モルタル下地調整 (新設) ビニルシート=2.0 (新設)
巾木	一部モルタル補修の上 EP-G (新設)	ビニル巾木=300 (新設)
壁	間仕切壁B' t=100 (新設) 一部モルタル補修の上 EP-G (一部撤去) 間仕切壁Bの上 EP-G (一部撤去)	LGS50下地一部撤去/工法 (新設) モルタル補修の上 EP-G (一部撤去) 間仕切壁A-Bの上化粧板/外装t=6 (新設)
天井	LGS19影線300 (10分1)下地 (一部撤去) 石膏ボード t=9.5 目隠し張りEP (一部撤去)	LGS19影線225 (10分1)下地 (新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)

公共建築課長	主査等	担当者

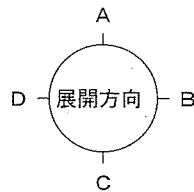
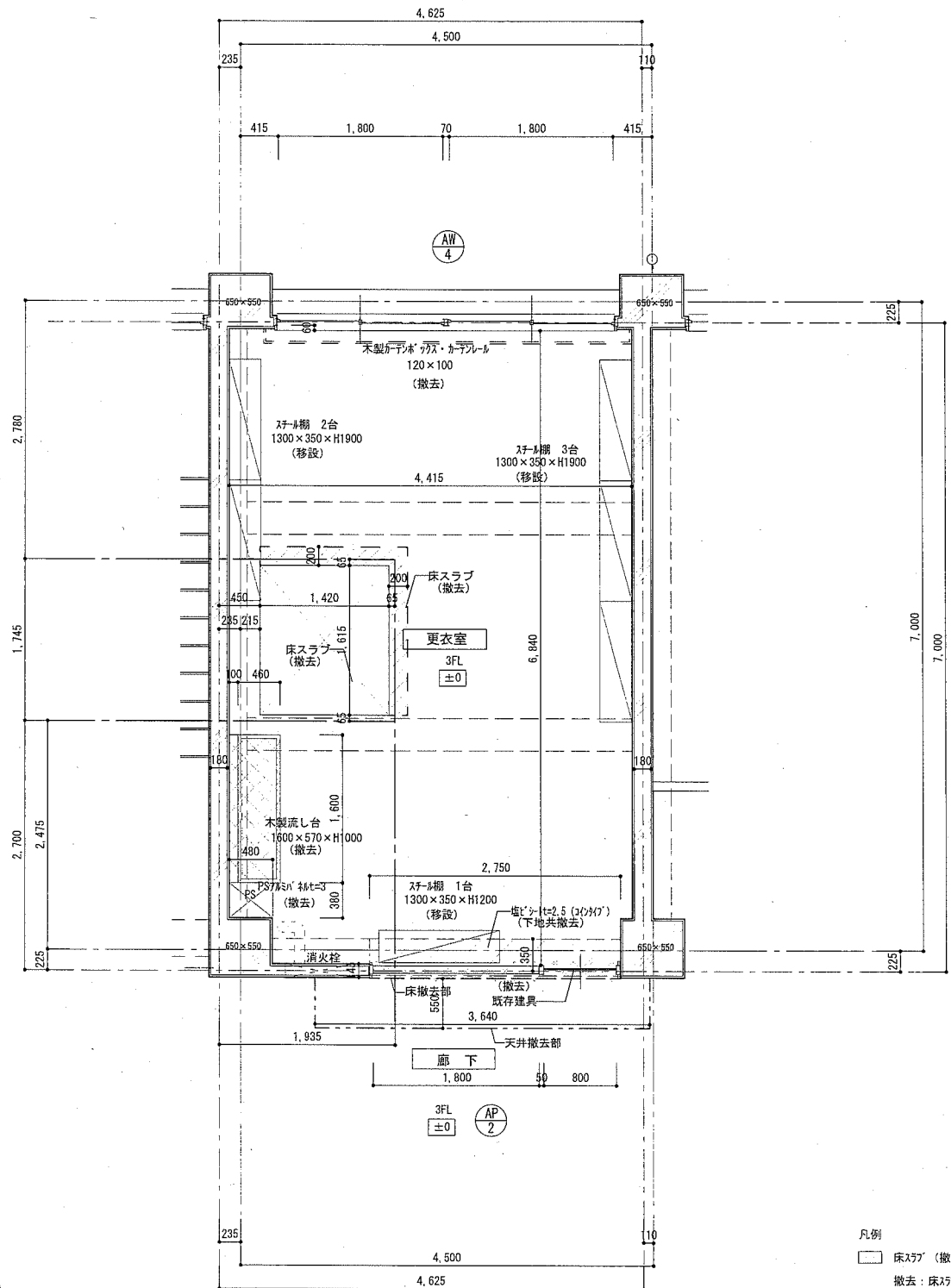
横須賀市 都市部 公共建築課  
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	図面名称 配膳室2階平面詳細図【D棟】(改修前・改修後)
縮尺 1:50	

改修前

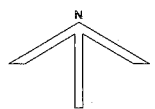


断面切断位置

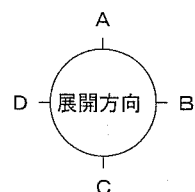
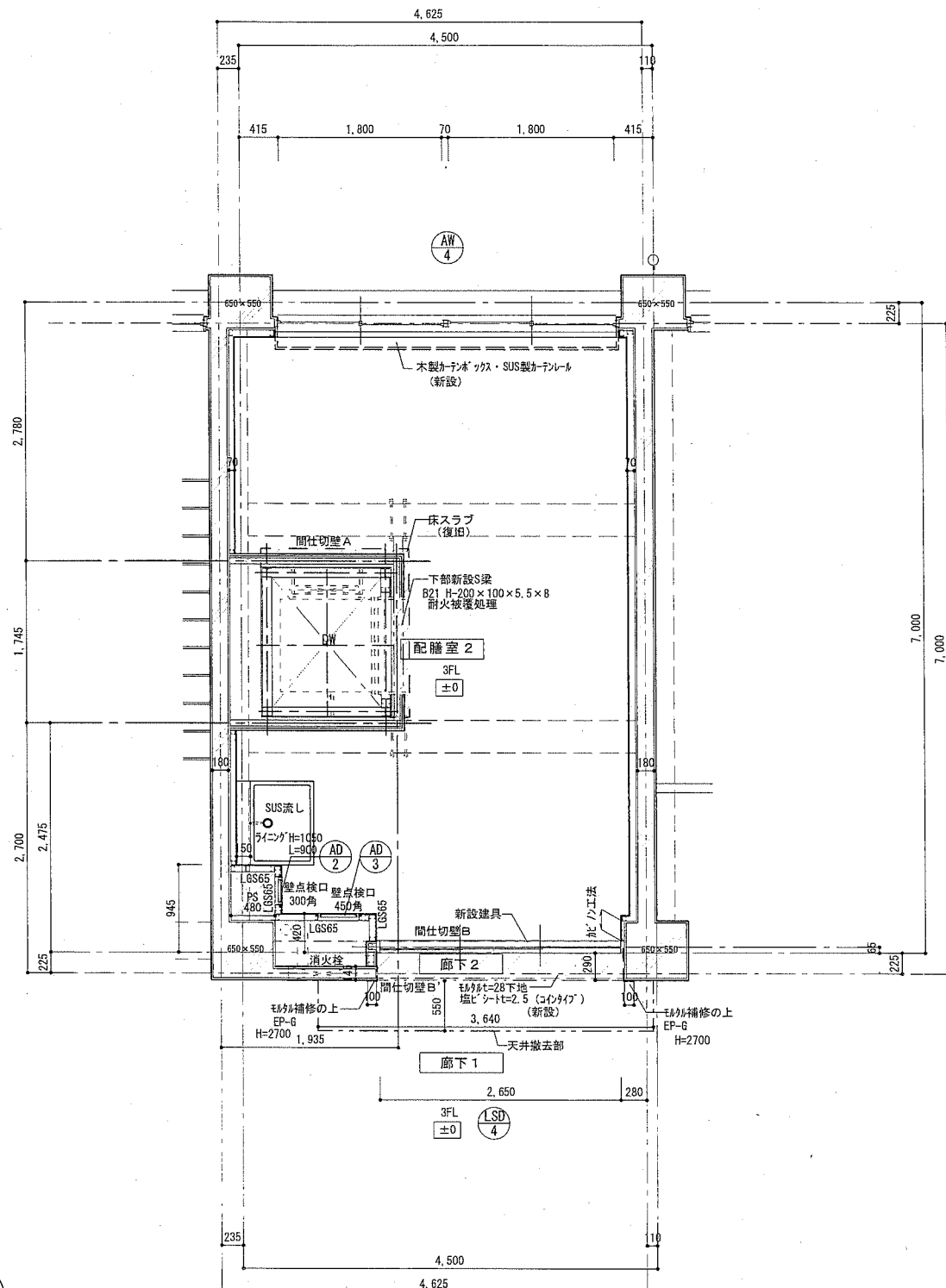


D棟3階平面詳細図(改修前・更衣室)

改修後



断面切断位置



D棟3階平面詳細図(改修後・配膳室2)

凡例

- 床スラブ(撤去・復旧)
- 撤去: 床スラブ t=120, モルタル=28
- 鉄筋上下筋: D13, D10@150等
- 復旧: 無収縮モルタル=120+モルタル=28
- 新設鉄筋上下D13

	廊下	更衣室
床	モルタル=28下地 (一部入れの上部) モルタル=2.5(コウチ) モルタル=2.5(コウチ)	モルタル=28下地 (一部撤去) モルタル=2.5(コウチ) モルタル=2.5(コウチ)
巾木	モルタル金線 VP H=100 (一部撤去)	モルタル金線 VP H=100 (既存のまま)
壁	腰壁:モルタル金線 VP (一部撤去) フラスコ塗 (既存のまま)	腰壁:モルタル金線 VP (既存のまま) フラスコ塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (撤去)

ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

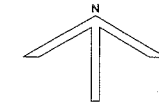
	廊下1・2	配膳室2
床	モルタル=28下地 (一部新設) モルタル=2.5(コウチ) (一部新設)	既存モルタル下地調整 (新設) ビニル床シート=2.0 (新設)
巾木	一部モルタル補修の上EP-G (新設)	ビニル巾木=300 (新設)
壁	間仕切壁B' ビニル補修=100 (新設) 一部モルタル補修の上 EP-G (一部新設) 間仕切壁B'の上 EP-G (一部新設)	LGS50形下地一部施工 分断部/外壁t=8の上化粧(間仕切壁)=8 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧(間仕切壁)=8 (新設)
天井	LGS18形300(コウチ)下地 (一部新設) 石膏ボード t=9.5 目隠し張りEP (一部新設)	LGS18形225(コウチ)下地 (新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)

公共建築課長	主査等	担当者

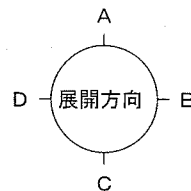
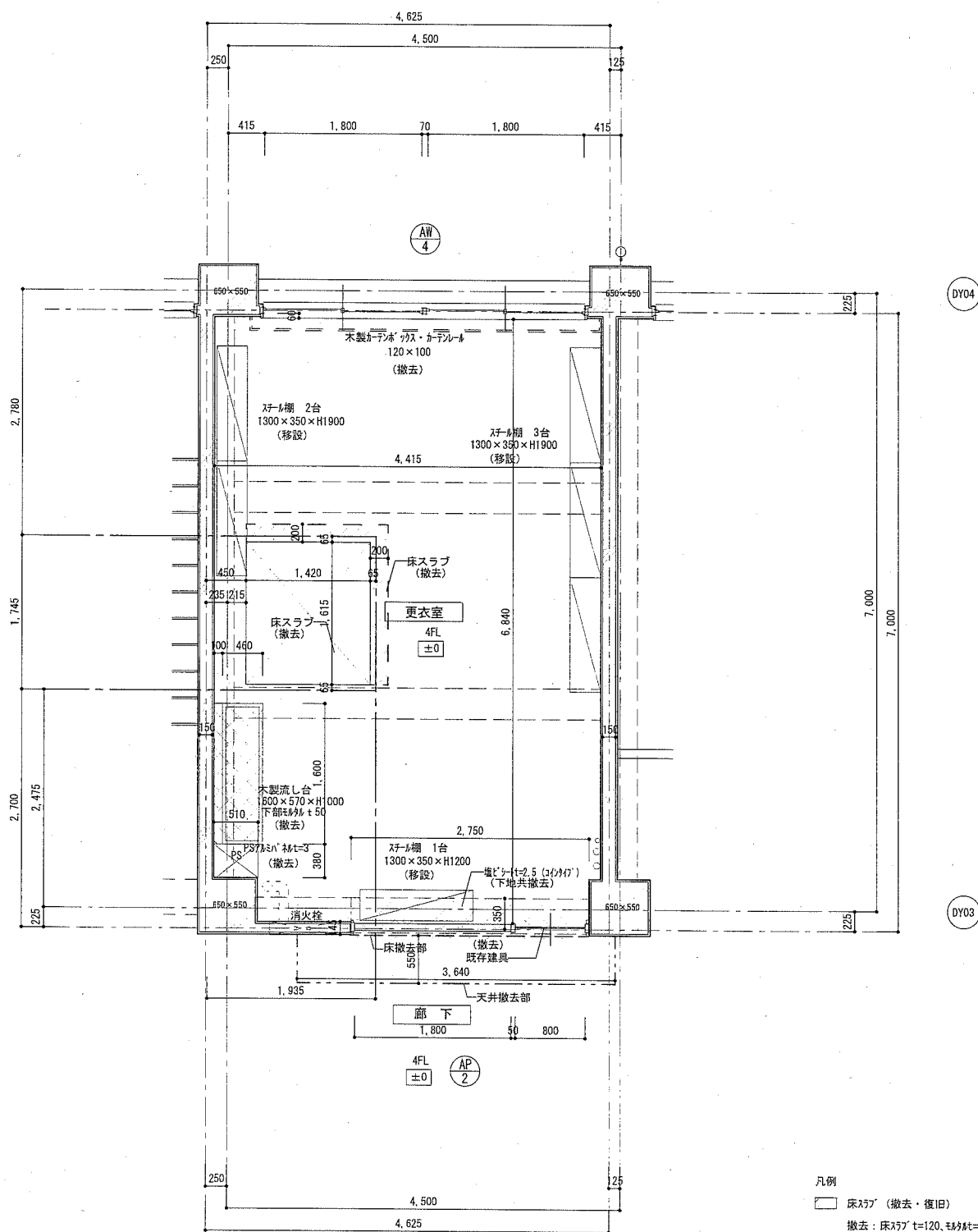
横須賀市 都市部 公共建築課  
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	配膳室2 3階平面詳細図 [D棟] (改修前・改修後)
縮尺 SCALE	1 : 50

改修前



断面切断位置



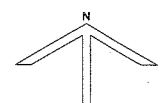
D棟4階平面詳細図(改修前・更衣室)

凡例

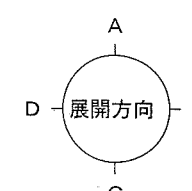
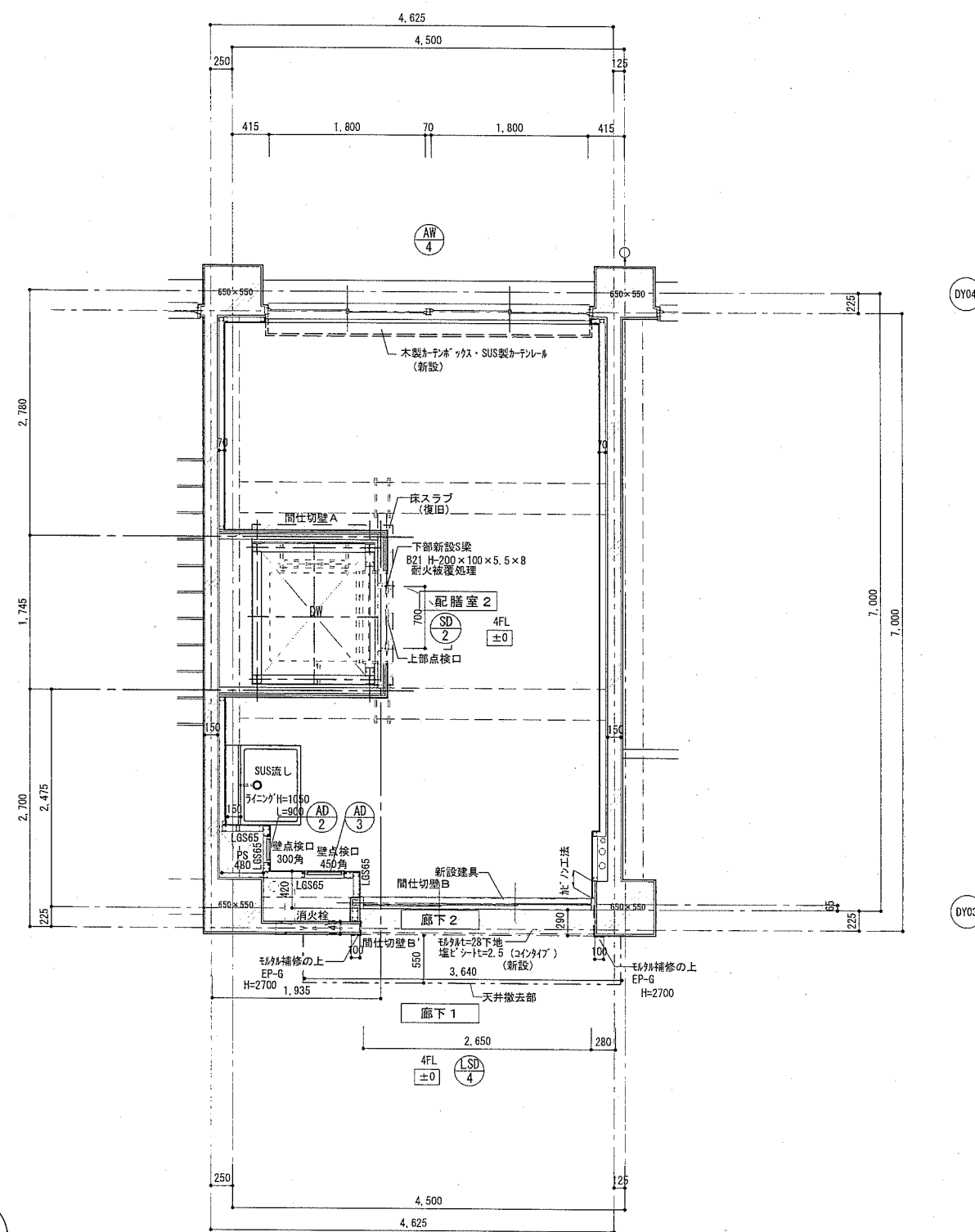
- 床スラブ (撤去・復旧)
- 撤去: 床スラブ t=120, モルタル=28
- 鉄筋上下筋: D13, D10@150等
- 復旧: 無収縮モルタル=120, モルタル=28
- 新設鉄筋上下D13

	廊下	更衣室
床	モルタル=28下地 (一部撤去の上塗り) モルタル=2.5 (撤去) モルタル=2.5 (撤去)	モルタル=28下地 (一部撤去) モルタル=2.5 (撤去) モルタル=2.5 (撤去)
巾木	モルタル金線 VP H=100 (一部撤去)	モルタル金線 VP H=100 (既存のまま)
壁	壁紙:モルタル金線 VP (一部撤去) ブラスパ塗 (既存のまま)	壁紙:モルタル金線 VP (既存のまま) ブラスパ塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (一部撤去)	LGS下地 (撤去) 石膏ボード t=9.5 EP (撤去)

改修後



断面切断位置

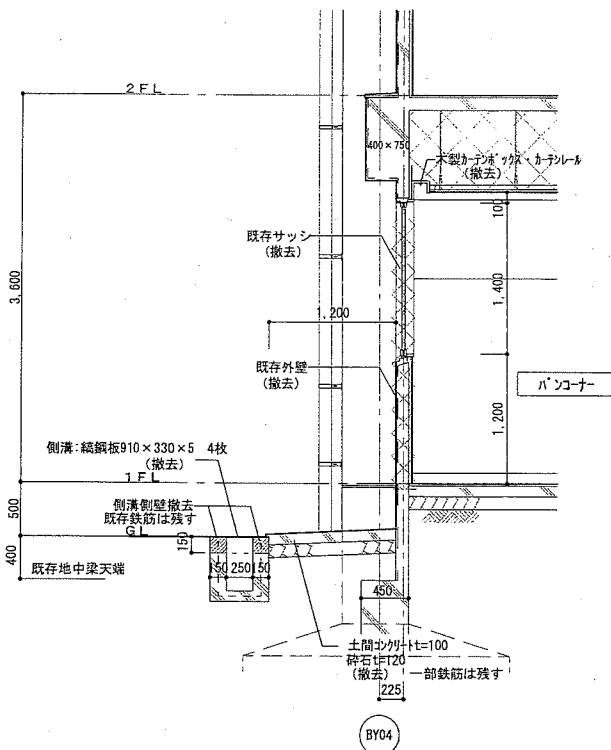


D棟4階平面詳細図(改修後・配膳室2)

ふかし壁: 表記以外LGS50形とする。

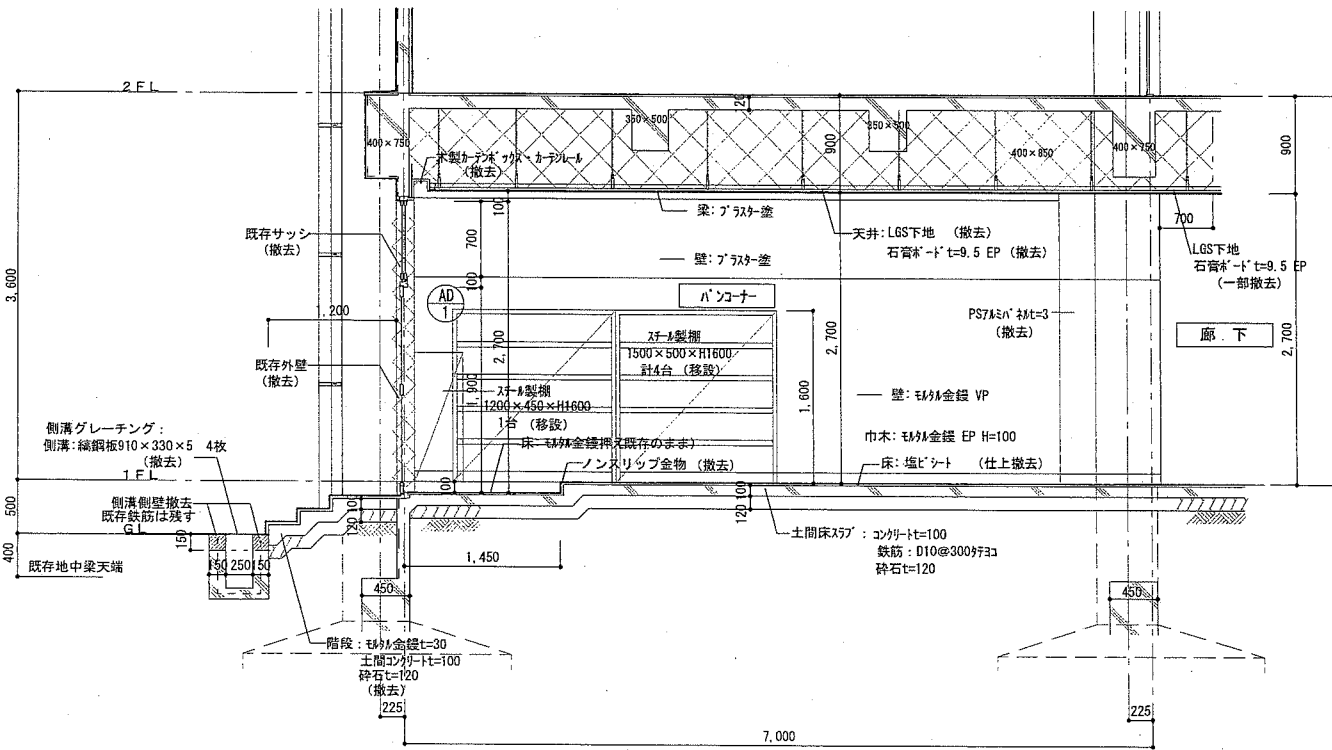
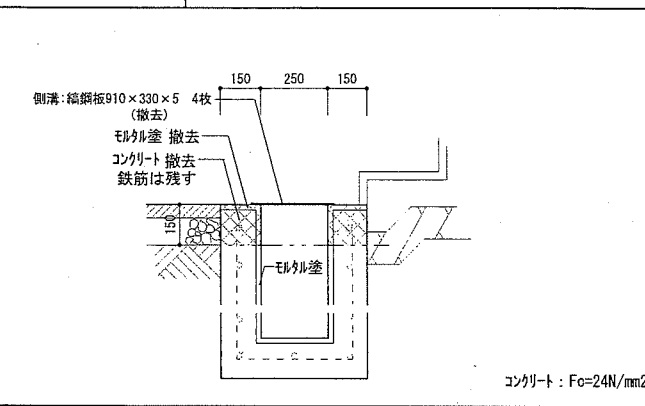
	廊下1・2	配膳室2
床	モルタル=28下地 (一部新設) モルタル=2.5 (撤去) モルタル=2.5 (撤去)	既存モルタル下地調整 (新設) ビニル床シート=2.0 (新設)
巾木	一部モルタル補修の上EP-G (新設)	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	一部モルタル補修の上EP-G (一部新設) 間仕切壁B' ビニル幅木H=100 (新設)	モルタル=28の上塗り(撤去)モルタル=5 (新設) 間仕切壁A-Bの上化粧(撤去)モルタル=6 (新設)
天井	LGS18形300(巾木)下地 (一部新設) 石膏ボード t=9.5 目隠し張りEP (一部新設)	LGS18形225(巾木)下地 (新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)

改修前



B棟B断面図 (改修前)

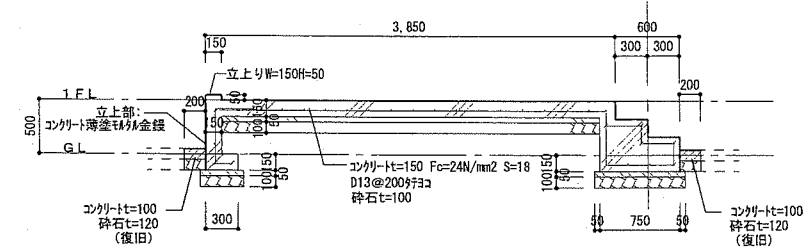
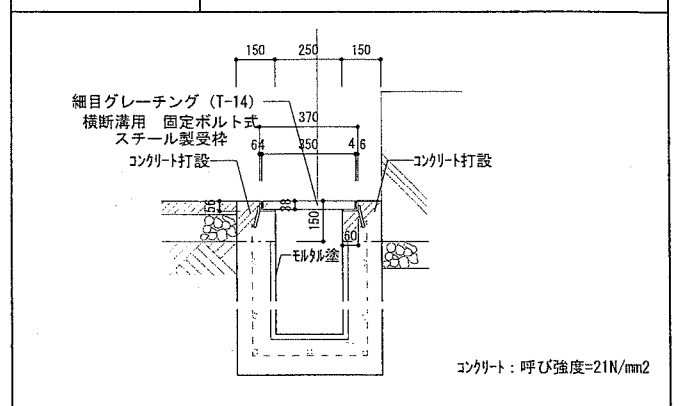
改修前 側溝グレーチング S=1/20



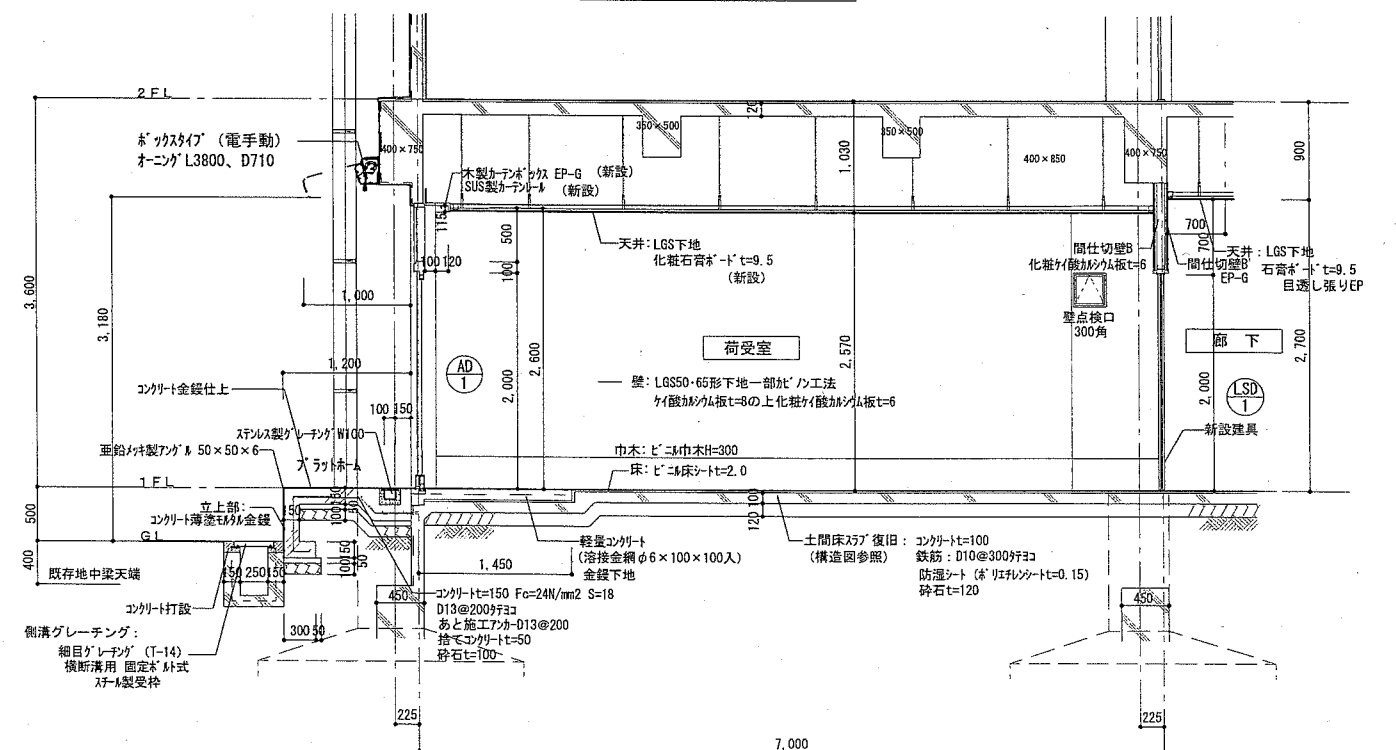
B棟A断面図 (改修前)

改修後

改修後 側溝グレーチング S=1/20

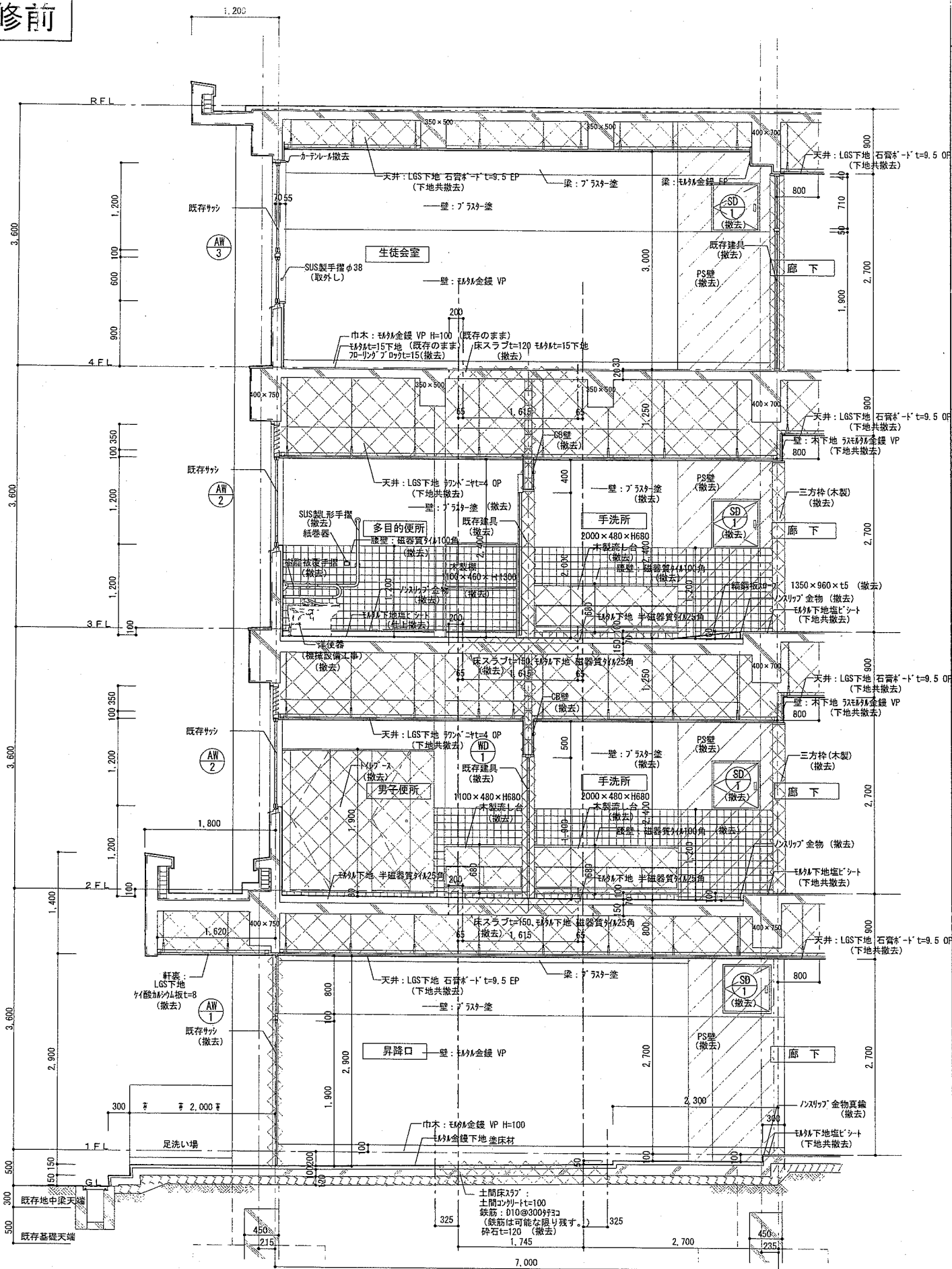


フラットホーム断面図 S=1/50



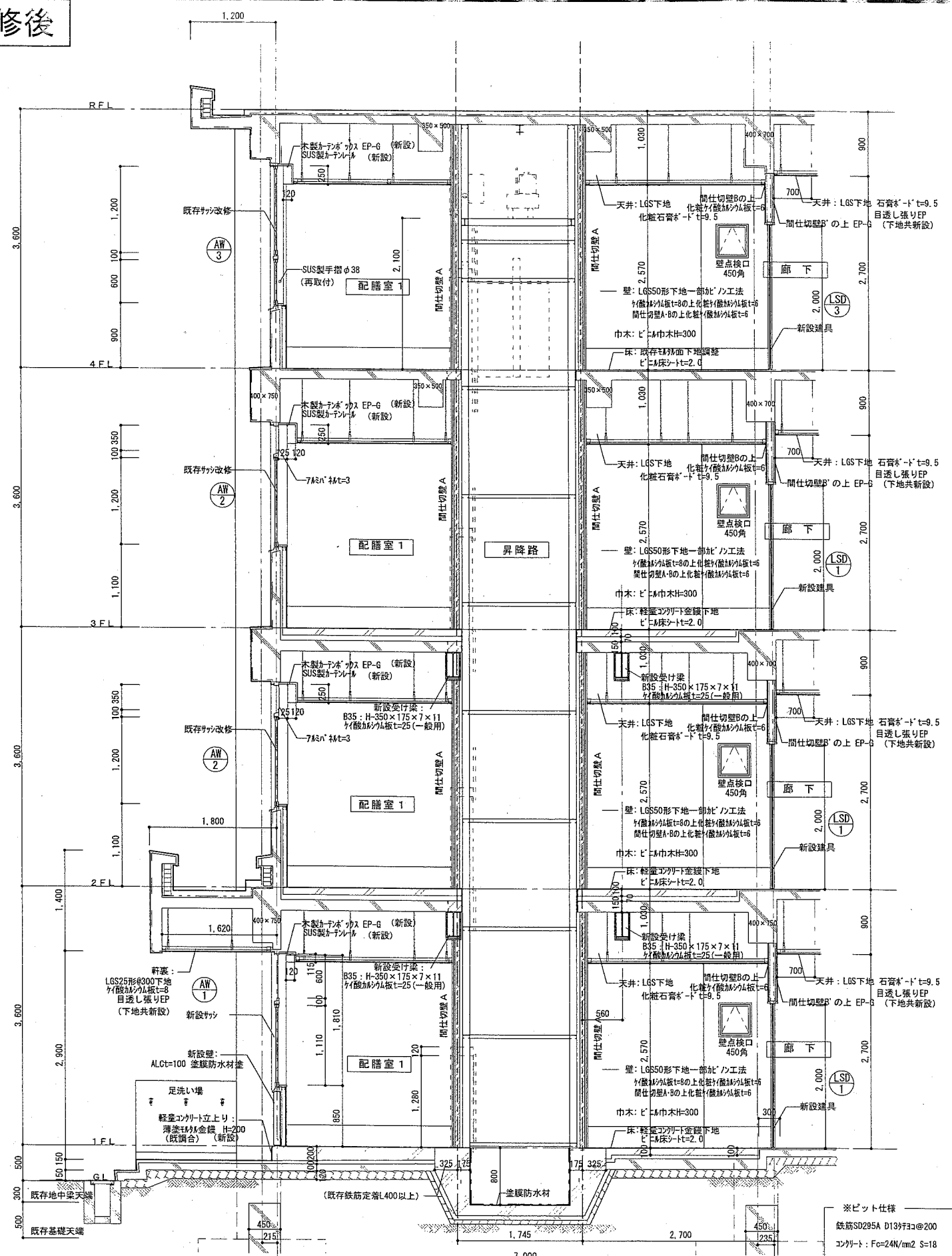
B棟A断面図 (改修後)

改修前



A棟断面図 (改修前)

改修後



A棟断面図 (改修後)

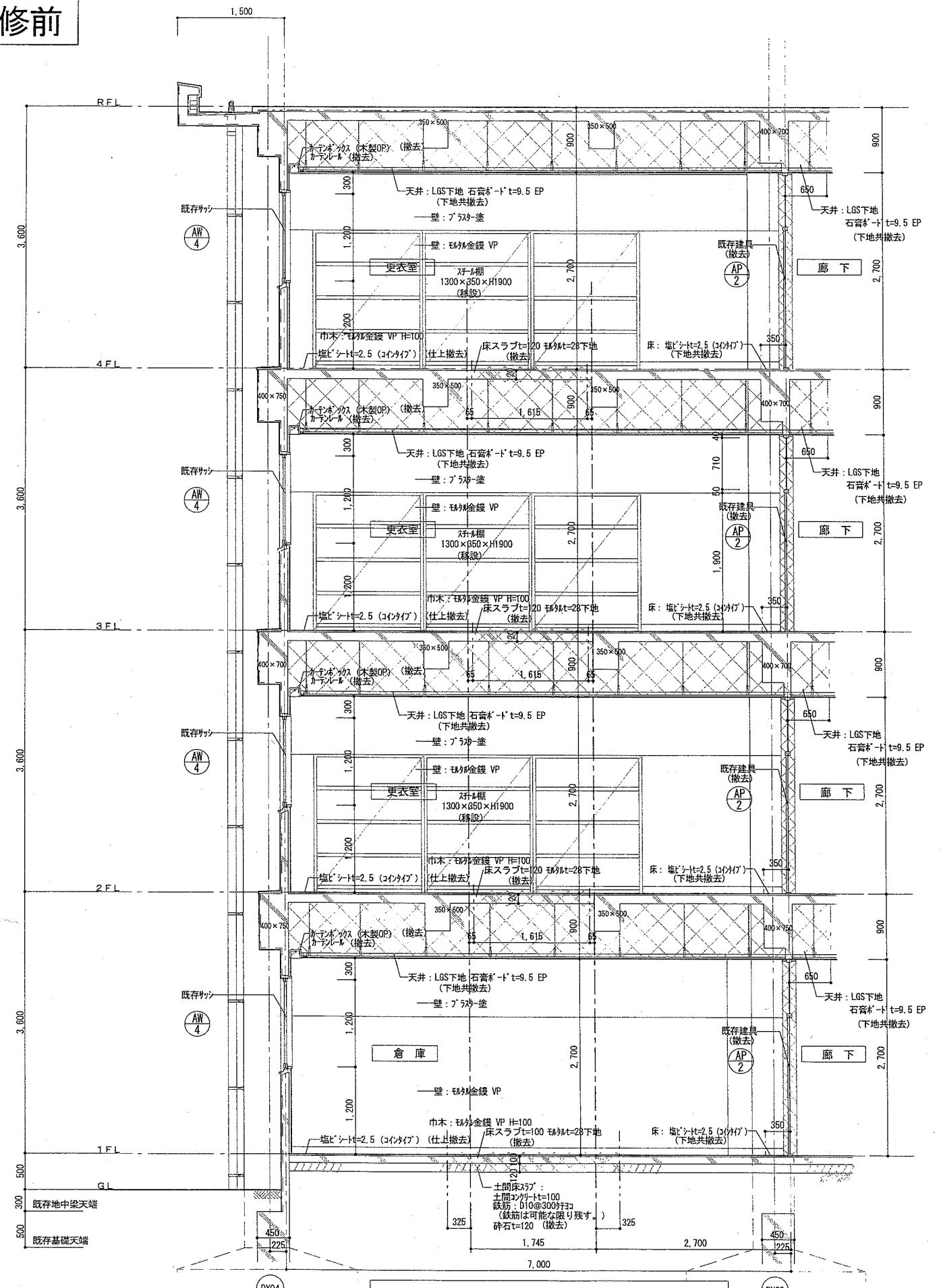
※ピット仕様  
 鉄筋SD295A D13@200  
 コンクリート: F=24N/cm<sup>2</sup> S=18  
 捨てコンクリート: 呼び強度=18N/cm<sup>2</sup> S=18  
 床下防湿層数: ポリスチレン(Mt=0.15  
 砕石: 再生砕石(RC40)

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計年月日 平成 31年 2月	設計名称 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	図面名称 断面図【A棟】(改修前・改修後)	縮尺 1 : 50	A-23
--------	-----	-----	----------------	-----------------	-----------------------------	--------------------------	--------------	------

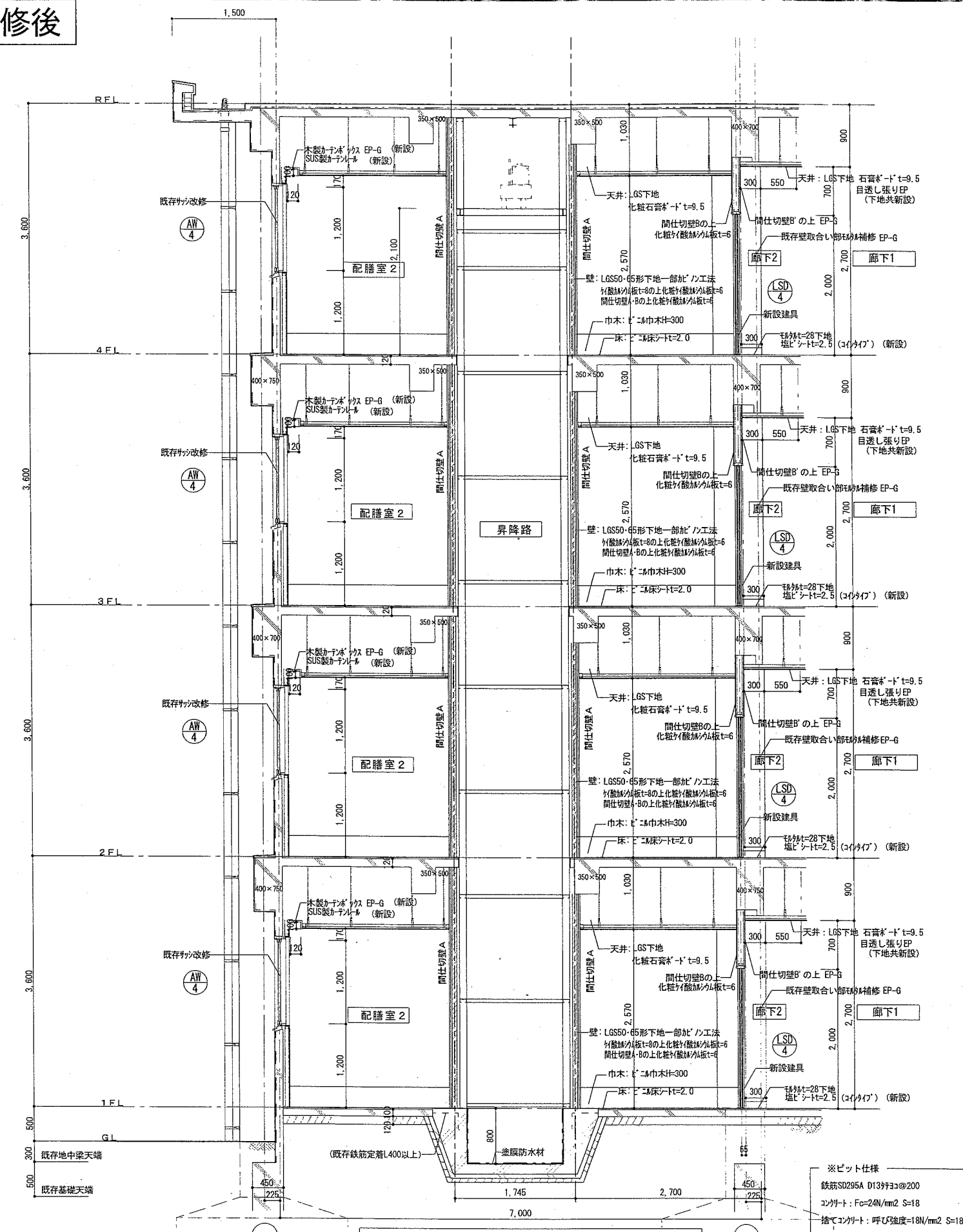


改修前

改修後



D棟断面図 (改修前)

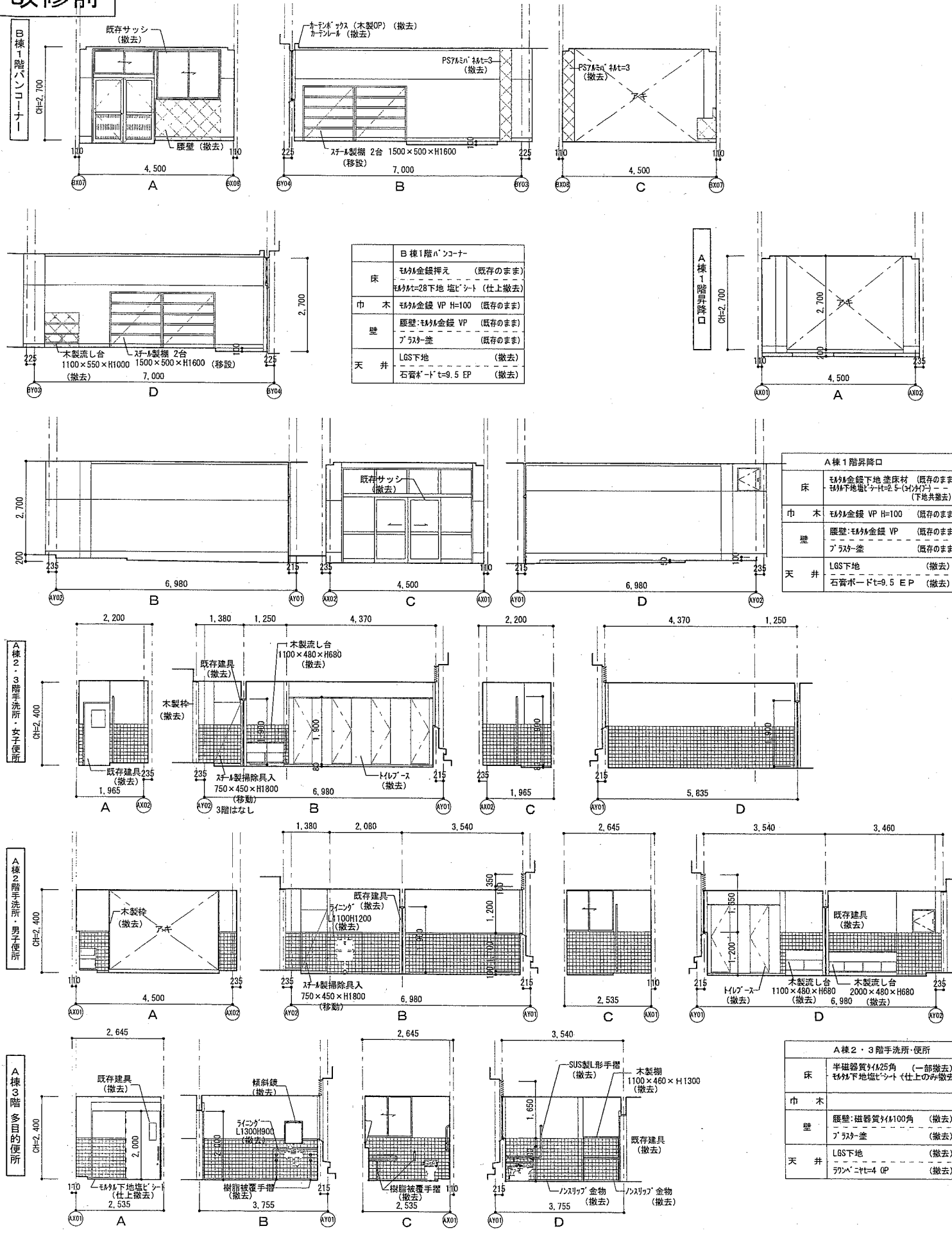


D棟断面図 (改修後)

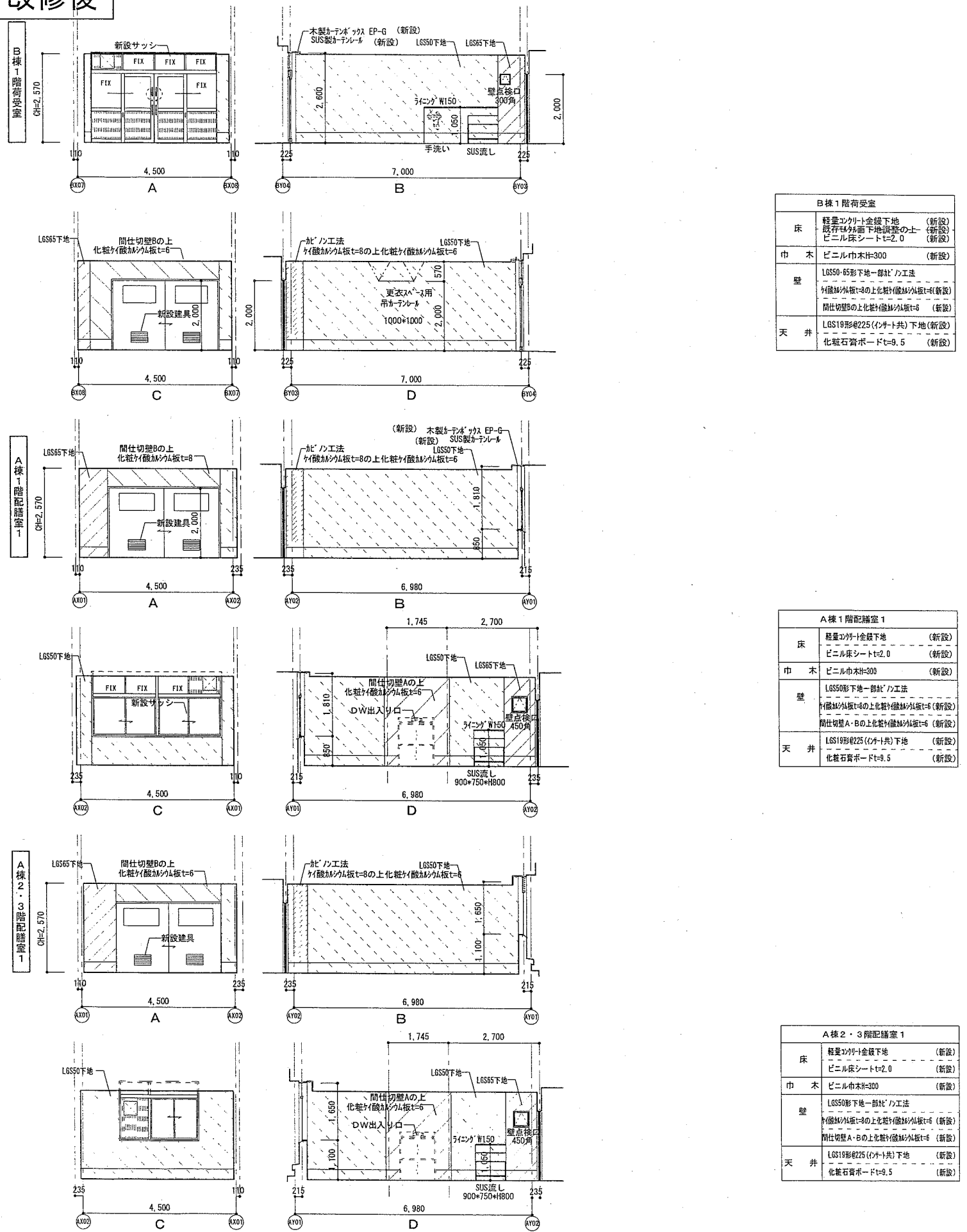
※ビット仕様  
 鉄筋SD295A D13#30@200  
 コナクリト: Fc=24N/mm<sup>2</sup> S=18  
 捨てコンクリト: 呼び強度=18N/mm<sup>2</sup> S=18  
 床下防湿層敷: \* リフレクティバムt=0.15  
 砕石: 再生砕石 (RC40)

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 TITLE OF DRAWING
			設計年月日 平成 31年 2月	市立衣笠中学校昇降施設設置建築その地工事	断面図【D棟】(改修前・改修後)
				縮尺 SCALE	縮尺 1:50

改修前



改修後

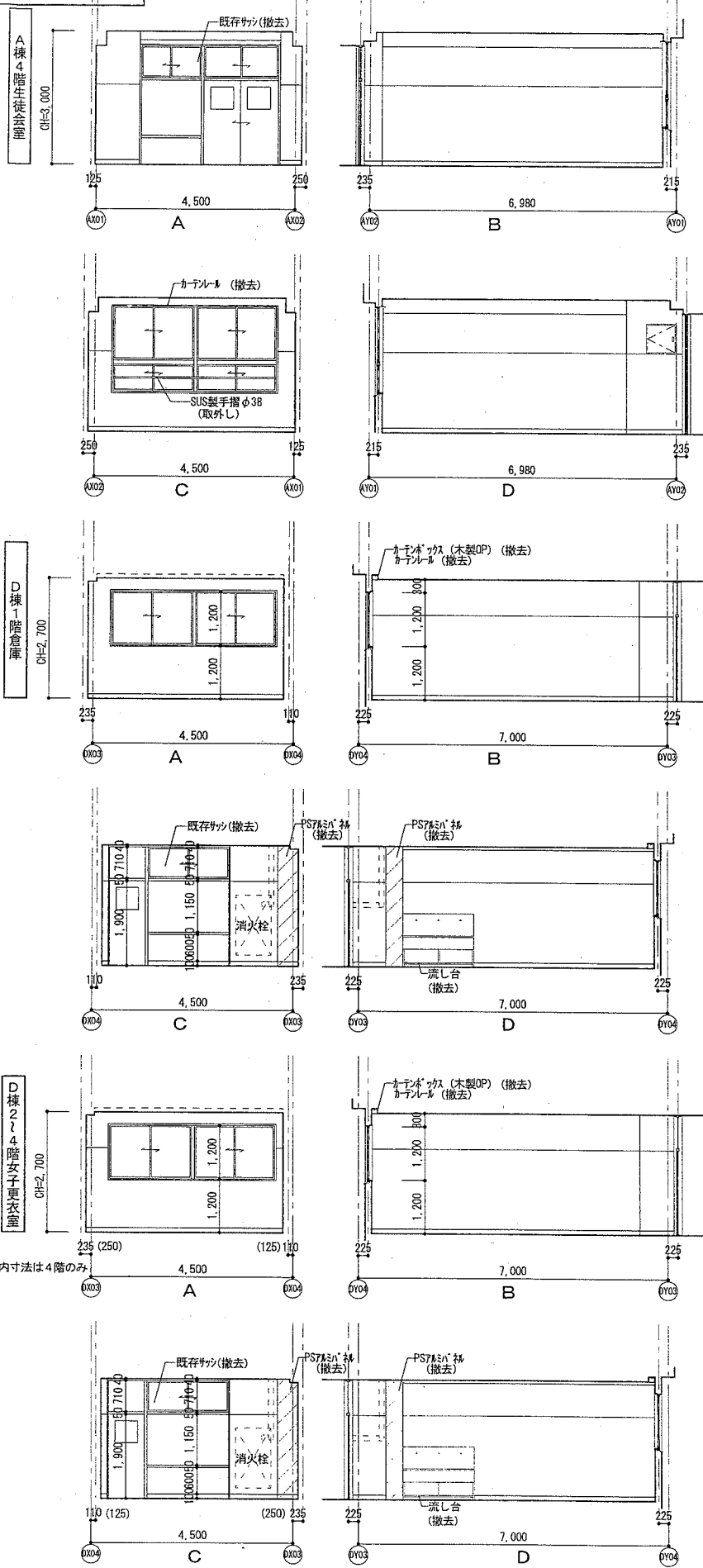


床	軽量コンクリート金網下地 (新設) 既存4階外周下地改修の上 ビニル床シートt=2.0 (新設)
巾木	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	LGS50形下地一部t/ノ工法 化粧MFL板t=8の上化粧MFL板t=6 (新設) 間仕切壁Bの上化粧MFL板t=6 (新設)
天井	LGS19形t225 (ノット共)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

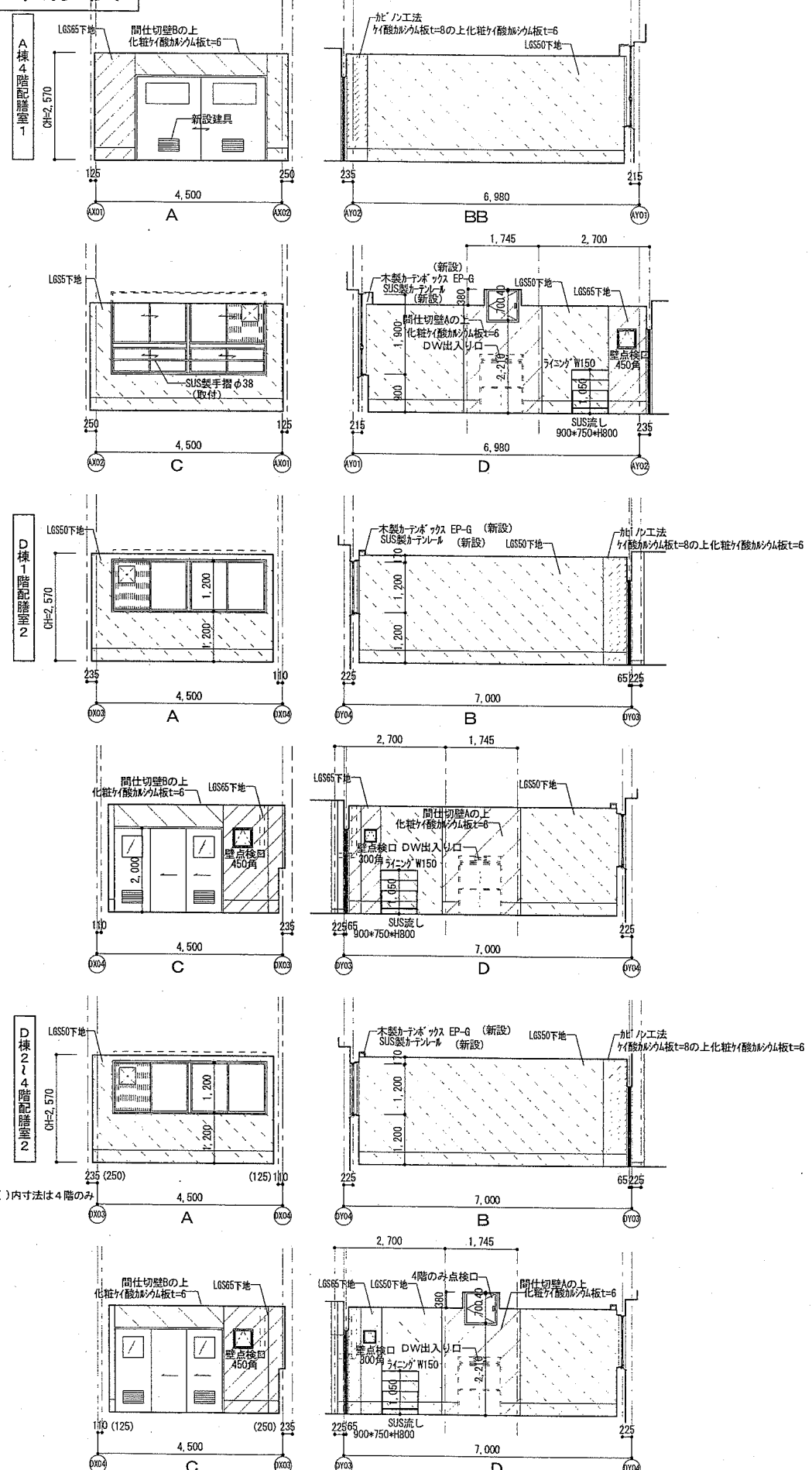
床	軽量コンクリート金網下地 (新設) ビニル床シートt=2.0 (新設)
巾木	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	LGS50形下地一部t/ノ工法 化粧MFL板t=8の上化粧MFL板t=6 (新設) 間仕切壁A-Bの上化粧MFL板t=6 (新設)
天井	LGS19形t225 (ノット共)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

床	軽量コンクリート金網下地 (新設) ビニル床シートt=2.0 (新設)
巾木	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	LGS50形下地一部t/ノ工法 化粧MFL板t=8の上化粧MFL板t=6 (新設) 間仕切壁A-Bの上化粧MFL板t=6 (新設)
天井	LGS19形t225 (ノット共)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

# 改修前



# 改修後



床	杉材t=15下地 (既存のまま) フローリングフロットt=15 (撤去)
巾	杉材金縁 VP H=100 (既存のまま)
壁	腰壁:杉材金縁 VP (既存のまま) ブラク塗装 (既存のまま)
天井	LGS下地 (撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (撤去)

床	杉材t=28下地 (一部撤去) 塩ビシート=2.5 (コウキ) (仕上撤去)
巾	杉材金縁 VP H=100 (一部撤去)
壁	腰壁:杉材金縁 VP (既存のまま) ブラク塗装 (既存のまま)
天井	LGS下地 (撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (撤去)

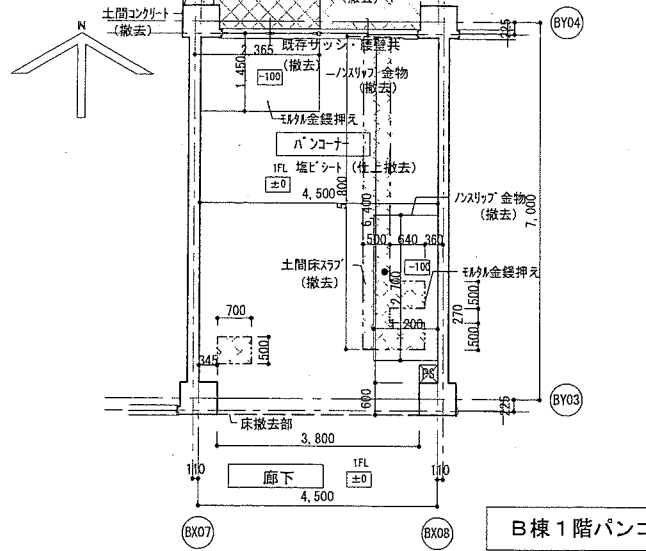
床	杉材t=28下地 (一部撤去) 塩ビシート=2.5 (コウキ) (仕上撤去)
巾	杉材金縁 VP H=100 (既存のまま)
壁	腰壁:杉材金縁 VP (既存のまま) ブラク塗装 (既存のまま)
天井	LGS下地 (撤去) 石膏ボードt=9.5 EP (撤去)

床	土間コンクリート下地調整 (新設) 既存杉材下地調整 (新設) ビニルシートt=2.0 (新設)
巾	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	LGS50-65下地一部t/L工法 化粧杉材t=8の上化粧杉材t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧杉材t=6 (新設)
天井	LGS19形225 (パイオ)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

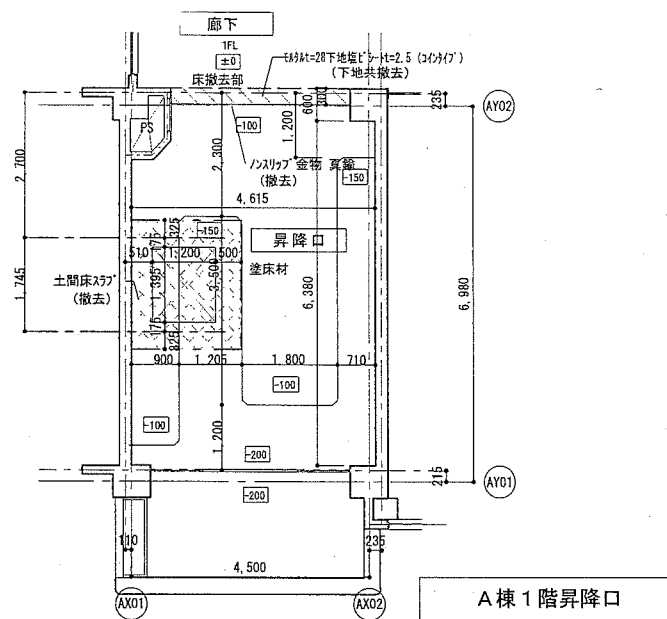
床	既存杉材下地調整 (新設) ビニルシート=2.0 (新設)
巾	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	LGS50-65下地一部t/L工法 化粧杉材t=8の上化粧杉材t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧杉材t=6 (新設)
天井	LGS19形225 (パイオ)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

床	既存杉材下地調整 (新設) ビニルシート=2.0 (新設)
巾	ビニル巾木H=300 (新設)
壁	LGS50-65下地一部t/L工法 化粧杉材t=8の上化粧杉材t=6 (新設) 間仕切壁A・Bの上化粧杉材t=6 (新設)
天井	LGS19形225 (パイオ)下地 (新設) 化粧石膏ボードt=9.5 (新設)

改修前

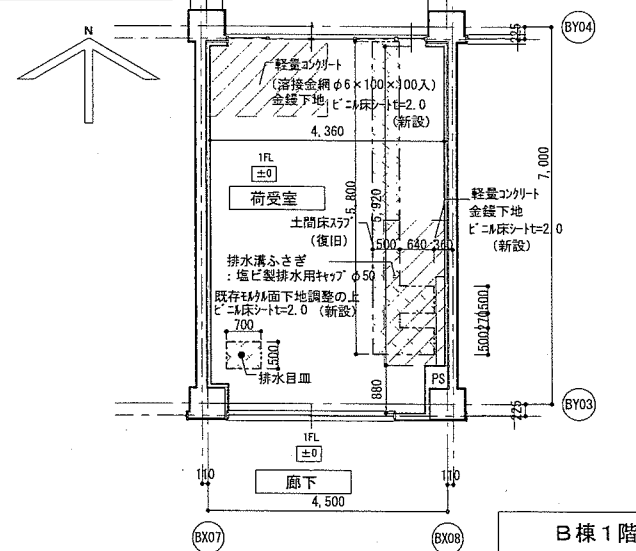


B棟1階パンコーナー

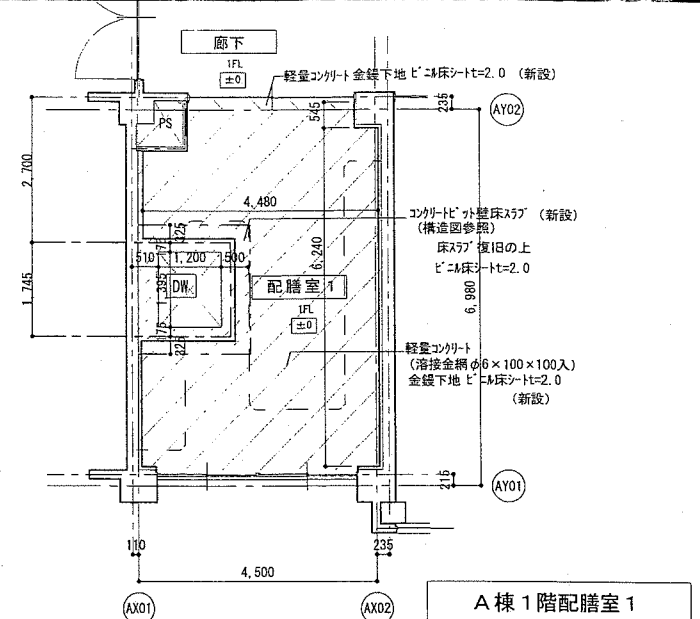


A棟1階昇降口

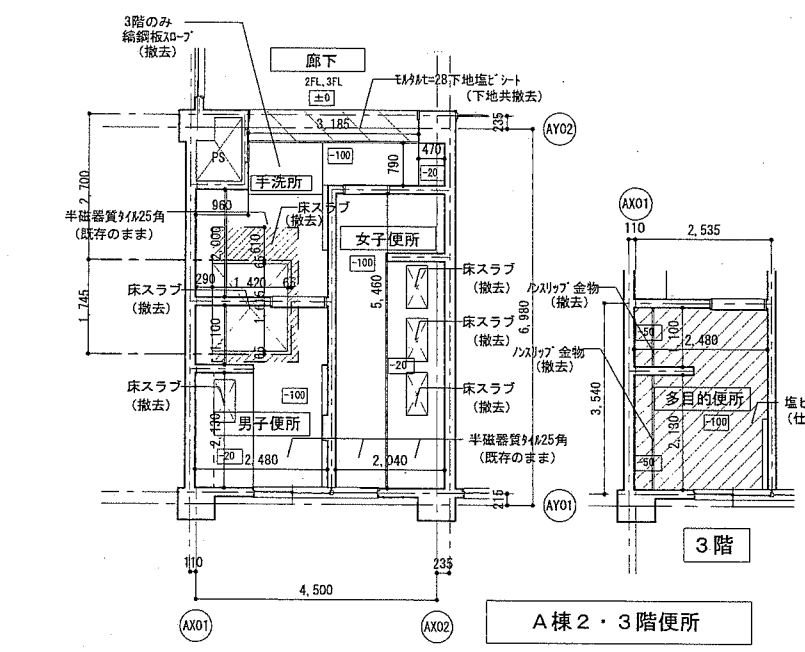
改修後



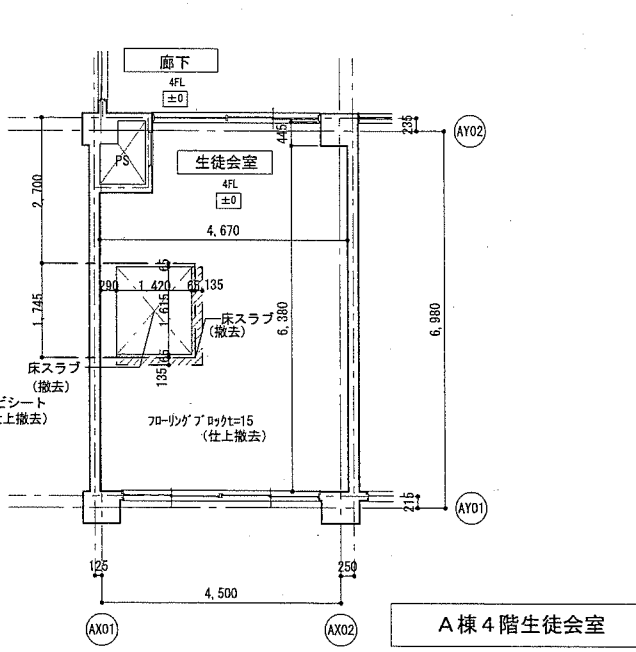
B棟1階荷受室



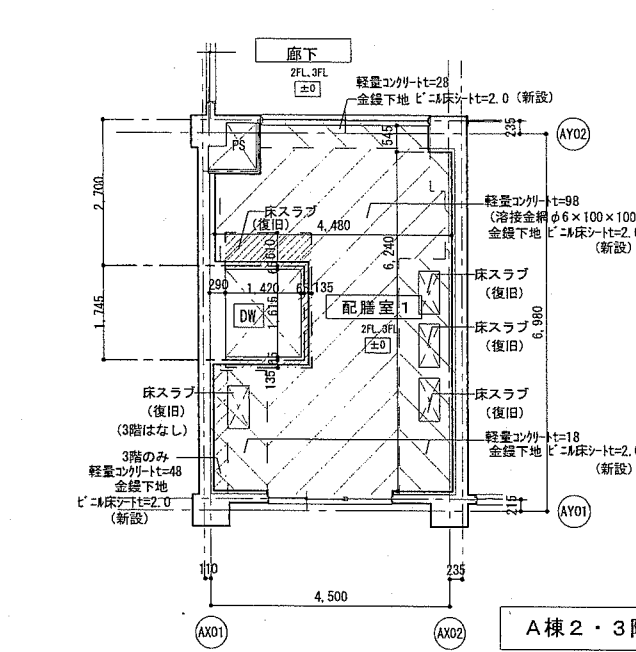
A棟1階配膳室1



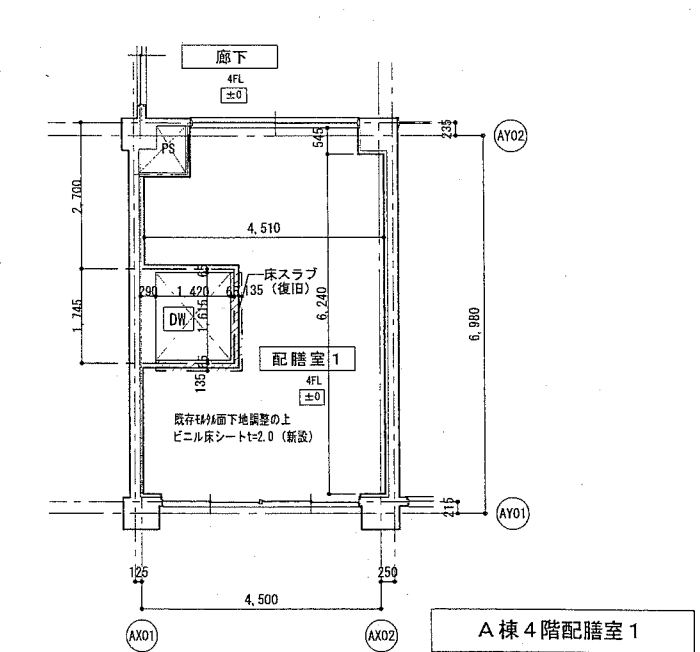
A棟2・3階便所



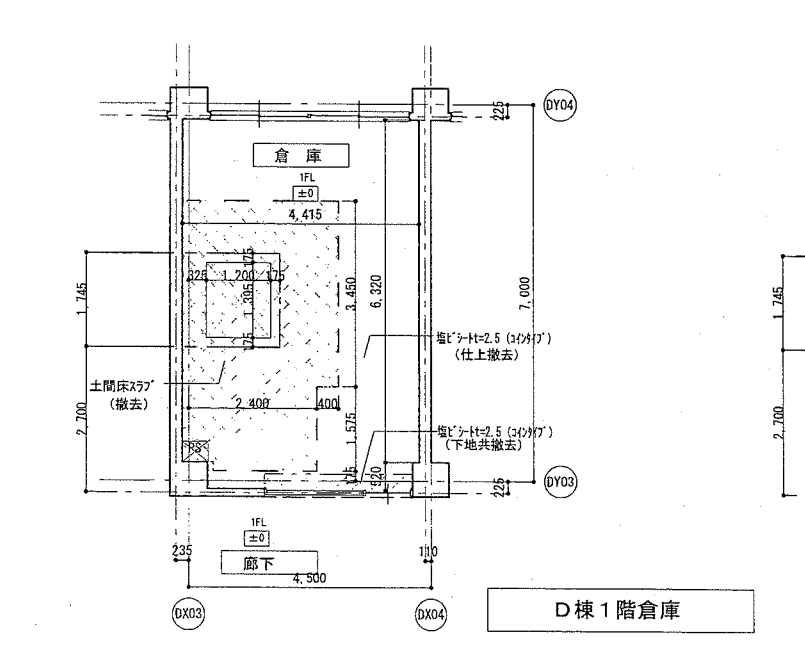
A棟4階生徒会室



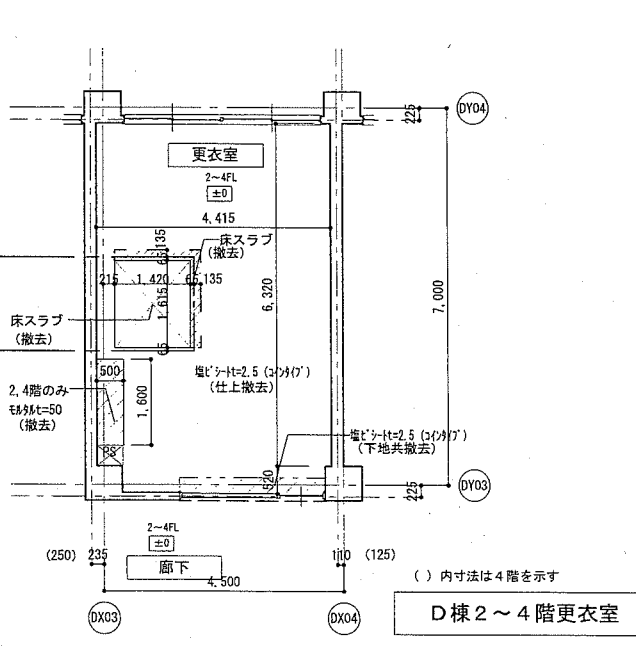
A棟2・3階配膳室1



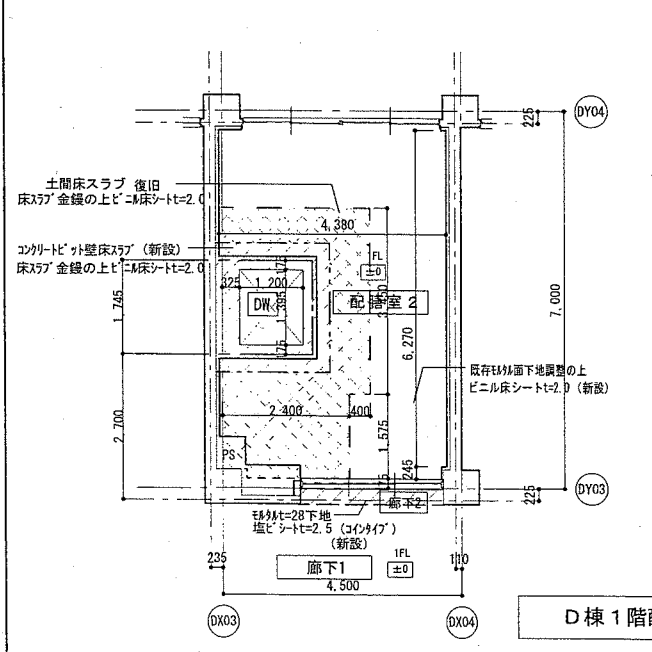
A棟4階配膳室1



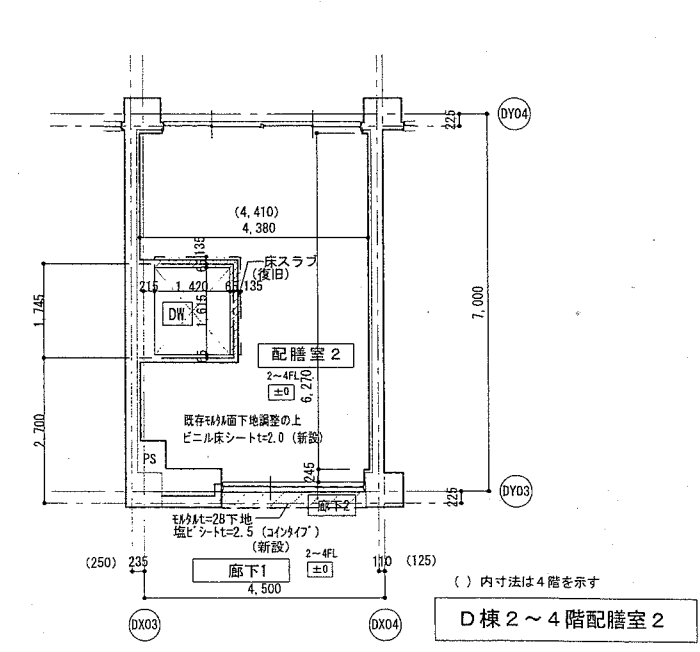
D棟1階倉庫



D棟2~4階更衣室



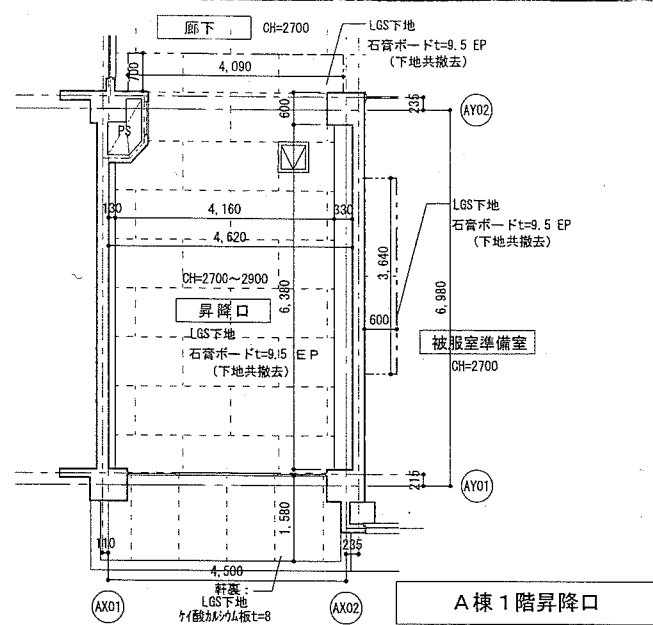
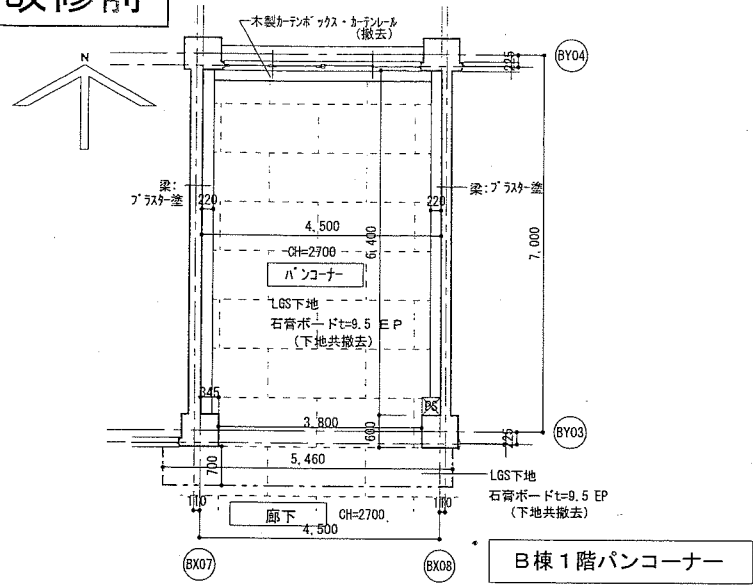
D棟1階配膳室2



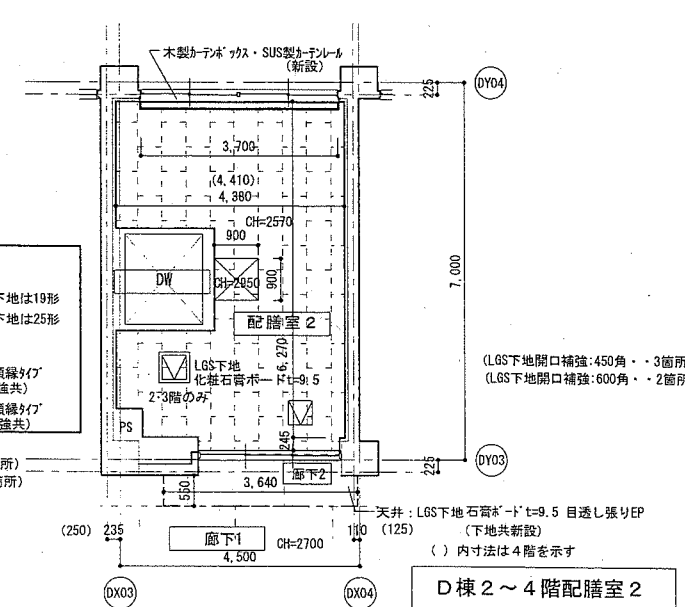
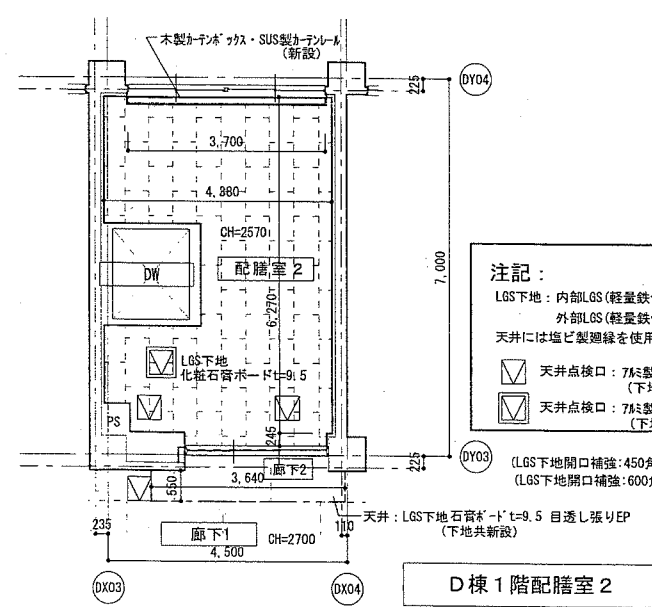
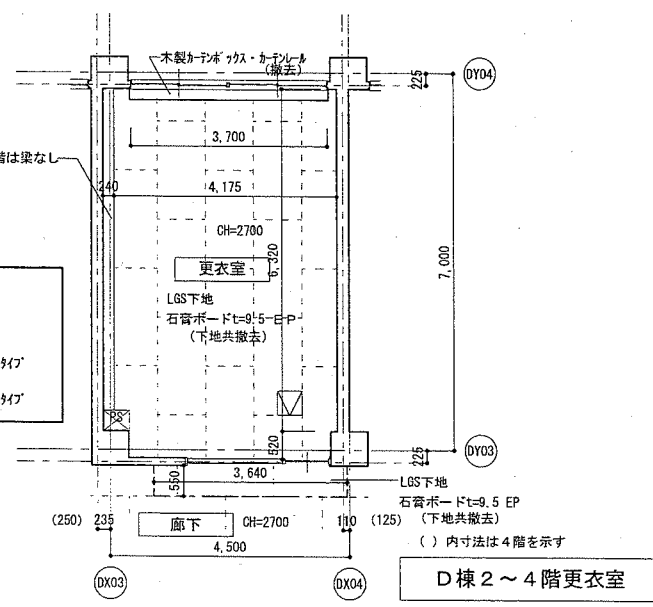
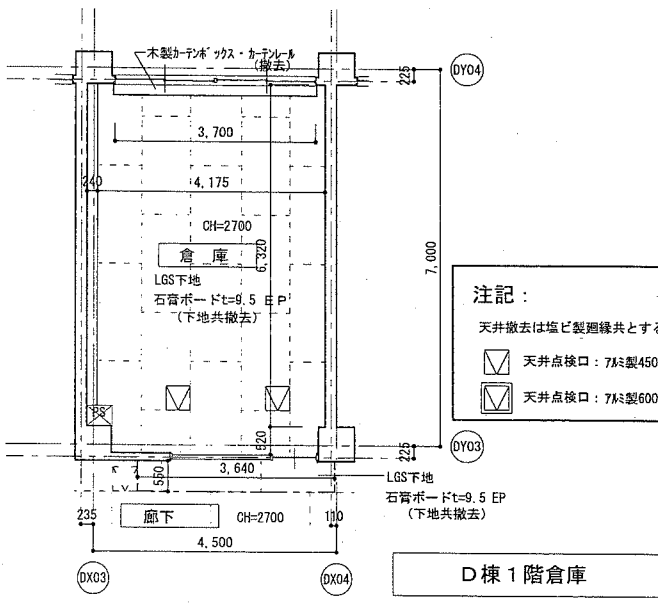
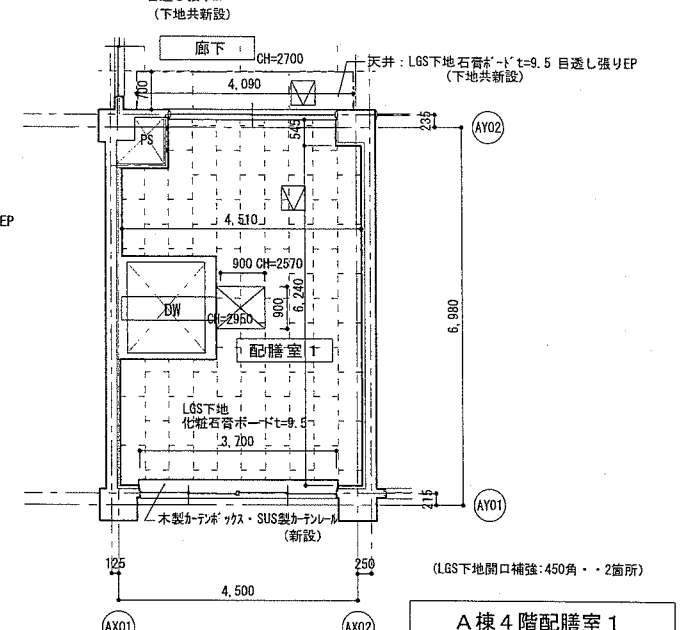
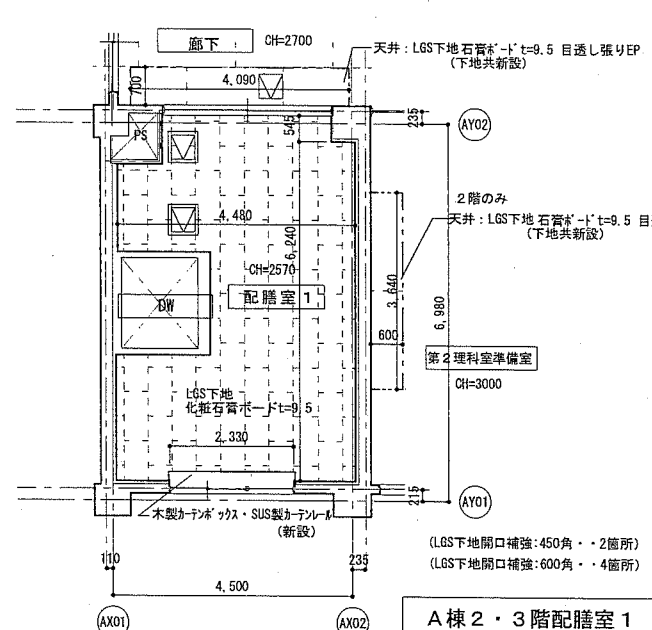
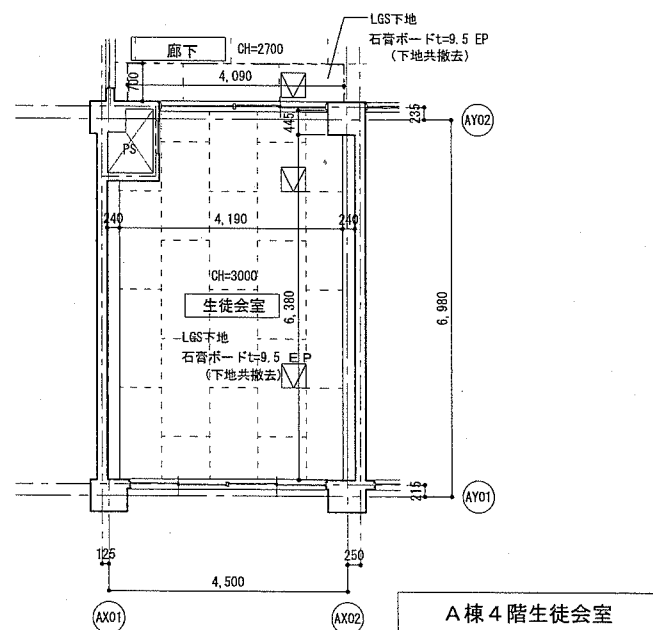
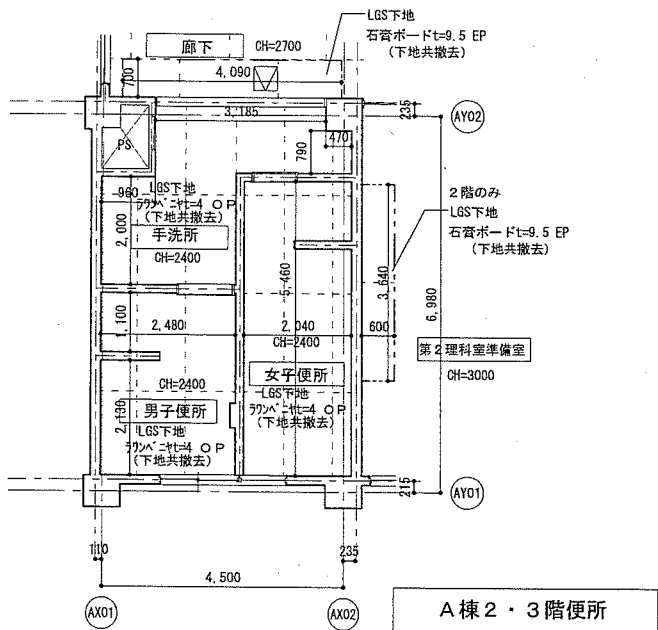
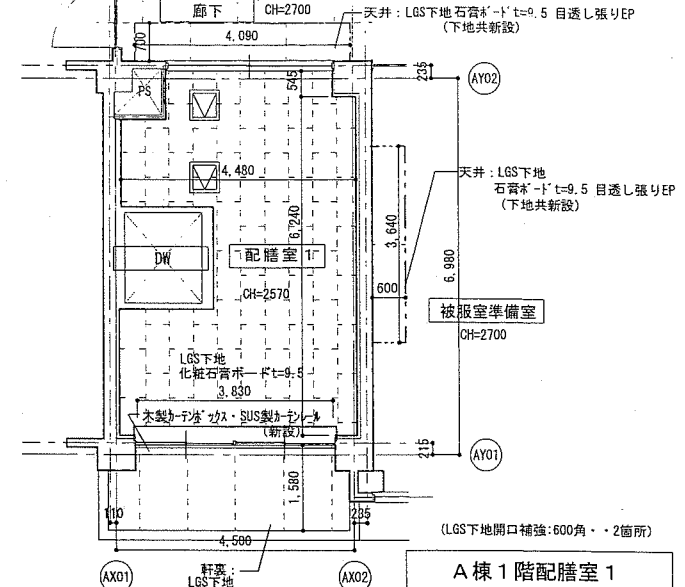
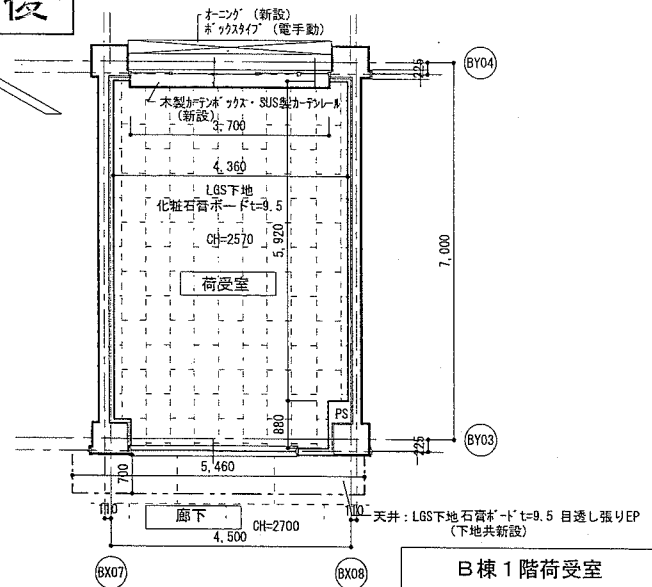
D棟2~4階配膳室2

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 ITEM OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING
			設計年月日 平成 31年 2月	市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	床伏図 (改修前・改修後)
					縮尺 1 : 100

改修前



改修後



注記:

天井撤去は塩ビ製廻縁共とする。

- 天井点検口: 7A型450角 額縁タイプ
- 天井点検口: 7A型600角 額縁タイプ

注記:

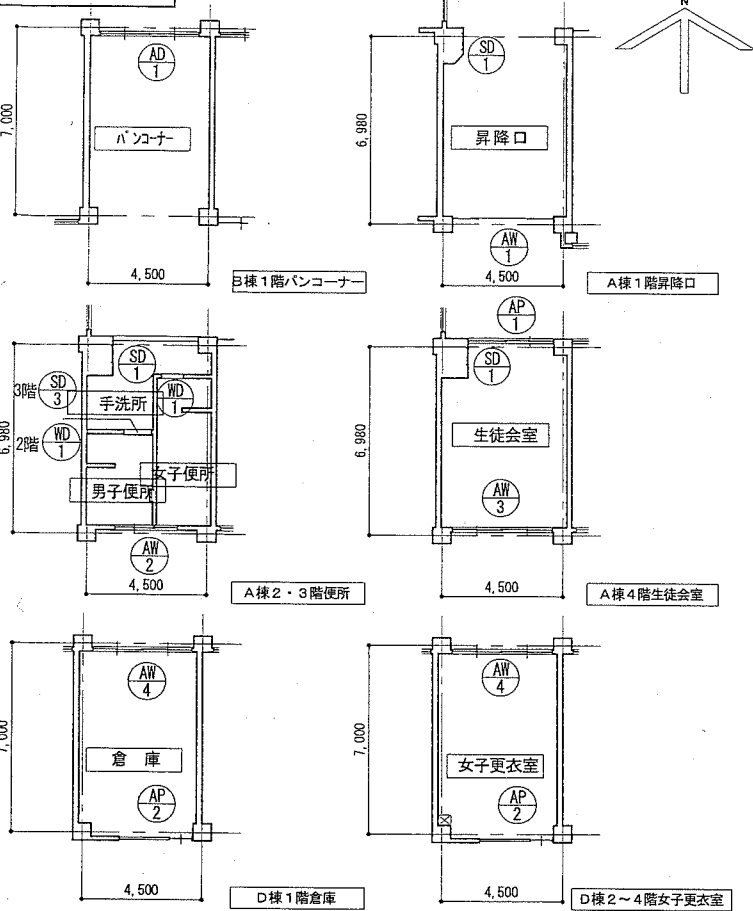
LGS下地: 内部LGS(軽量鉄骨)天井下地は19形  
外部LGS(軽量鉄骨)天井下地は25形  
天井には塩ビ製廻縁を使用する。

- 天井点検口: 7A型450角 額縁タイプ (下地開口補強共)
- 天井点検口: 7A型600角 額縁タイプ (下地開口補強共)

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事	図面名称 ITEM OF DRAWING 天井伏図 (改修前・改修後)
			設計年月日 平成 31年 2月	縮尺 1:100	



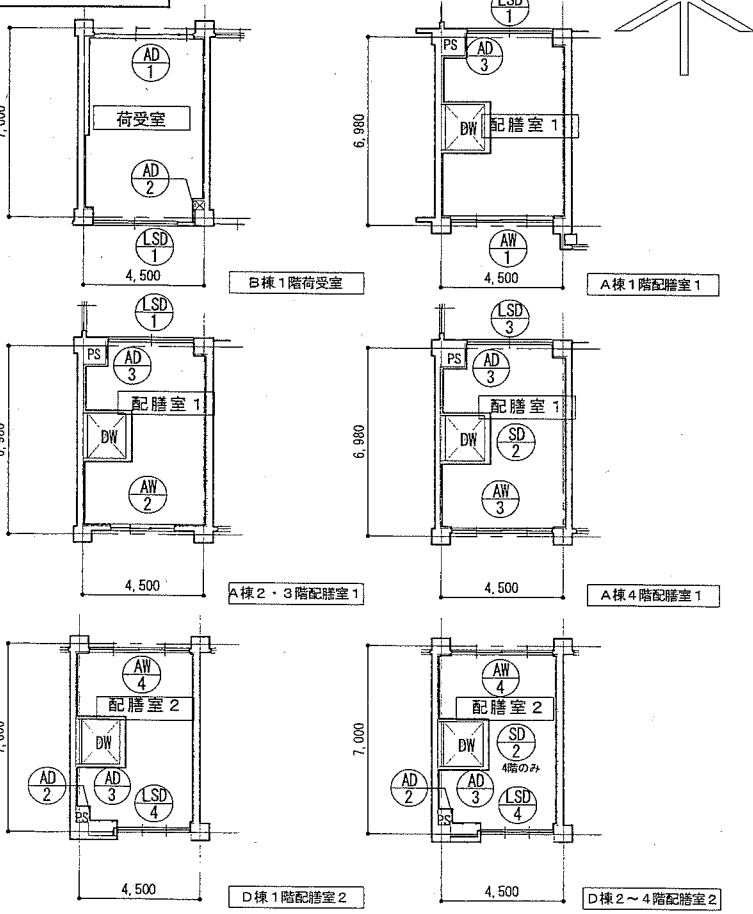
改修前 建具キープン S=1/200



建具表 S=1/200

記号・個数	AD-1	AW-1	AW-2	AW-3	AW-4	
取付場所	B棟1階バンコナー	A棟1階昇降口	A棟2・3階便所	A棟4階生徒会室	D棟1階倉庫	
形状・寸法	既存 3,670 1,800 70 1,800	改修 3,670 860 100 1,750 100 860 耐風圧性:S-5 気密性:A-4 水密性:W-5	既存 3,750 905 70 865 70 865 70 905	改修 3,750 1,840 70 1,840	既存 2,300 830 70 1,400	改修 2,300 830 70 1,400
見込・寸法	70	100	70	70	70	
種別方式	3ツパ付両開きドア、引違い窓	FIX付引分けドア	FIX付引分けドア	引違い窓	3ツパ付引違い窓	
材料仕上	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)	
ガラス厚	透明網入りガラスt6.8、透明ガラスt3+F	透明網入りガラスt3.0+透明ガラスt3.0	透明網入りガラスt6.8、透明ガラスt3.0+F	透明網入りガラスt3.0+透明ガラスt3.0	透明網入りガラスt6.8、透明ガラスt3.0+F	
付属金物	付属金物一式	引戸錠、内外運動引寄せハンドル、引棒、シリンダー錠、SUS製フットレール	付属金物一式	付属金物一式、7&M&N製フットレール	付属金物一式	
備考	既存建具：撤去	内側引寄せ、7&M&N製t=3.5、下部レール；SUS製水接パイ×4ヶ所	既存建具：撤去	建具新設	ガラス撤去	

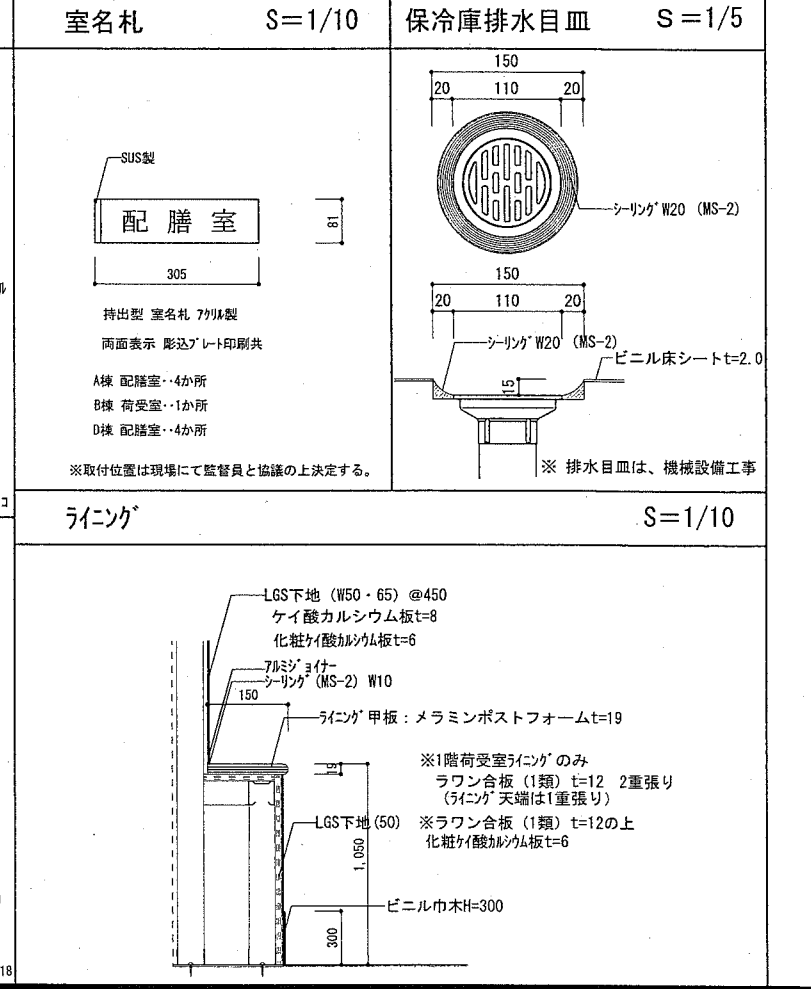
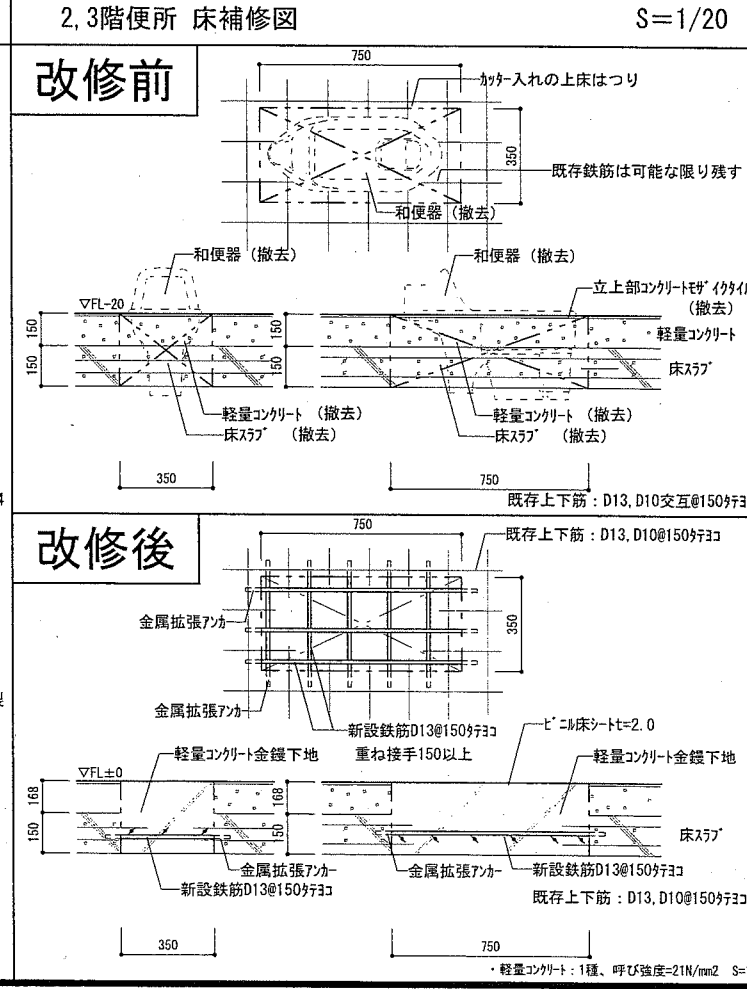
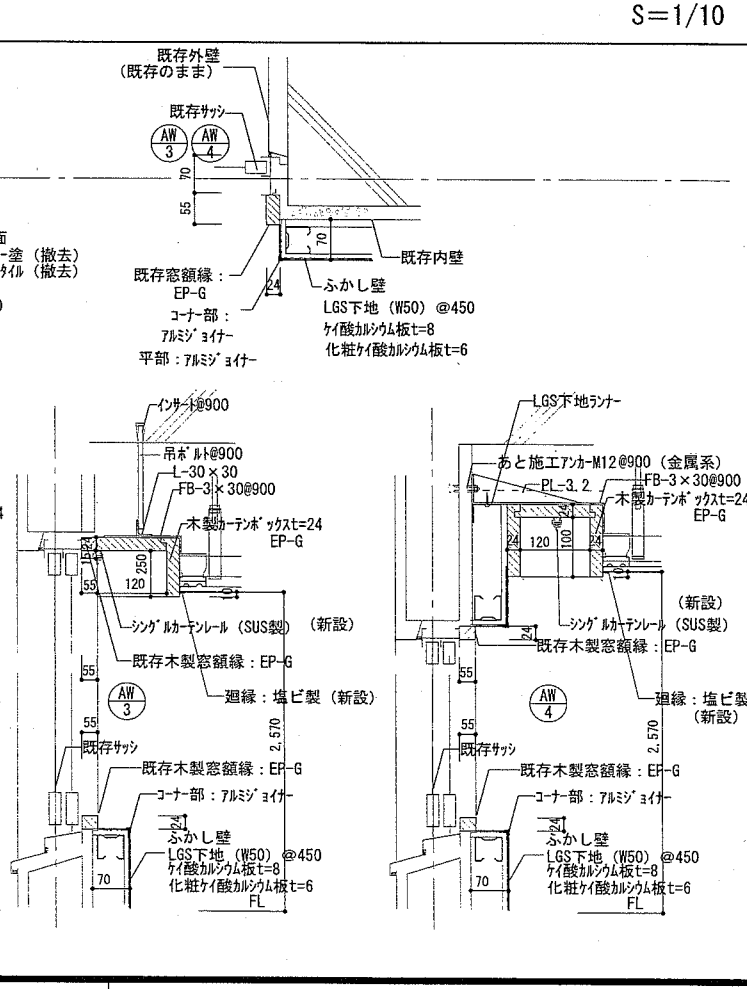
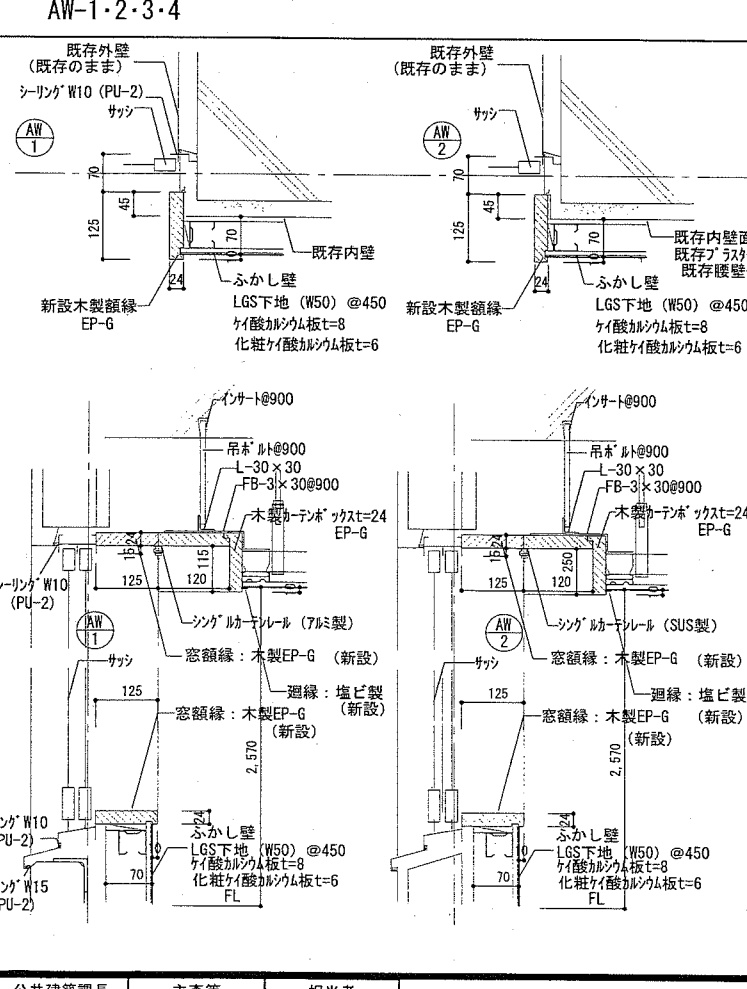
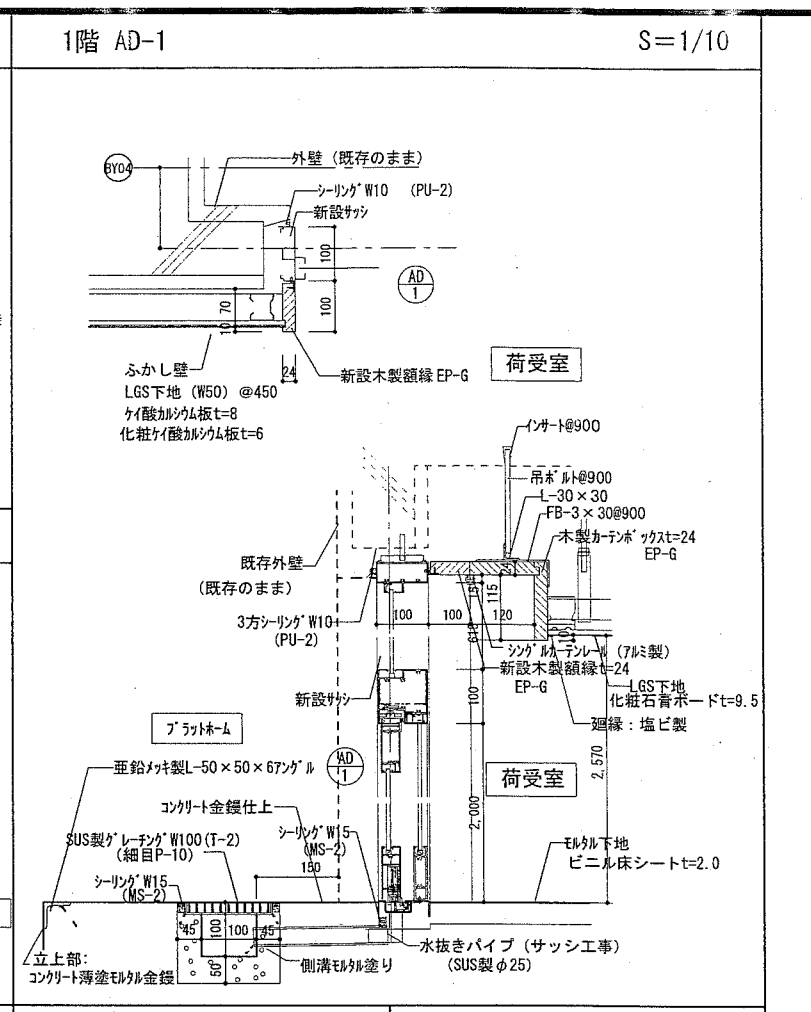
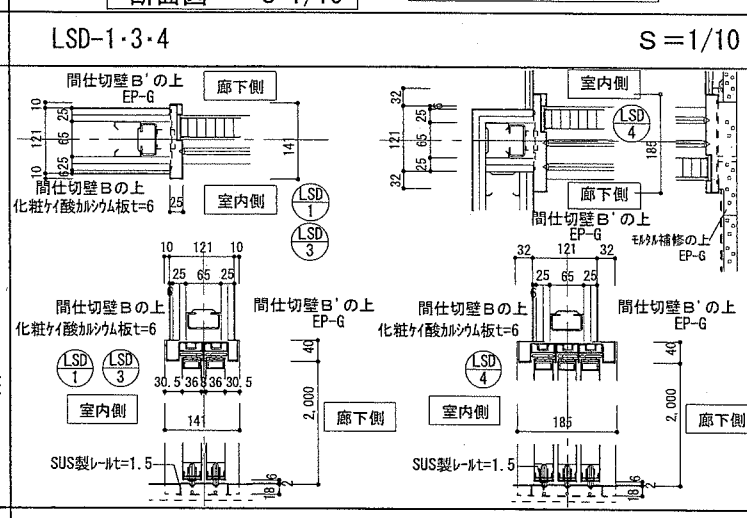
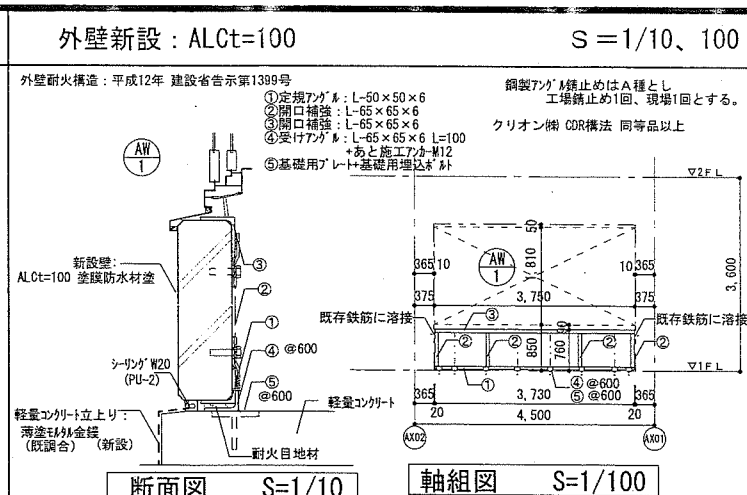
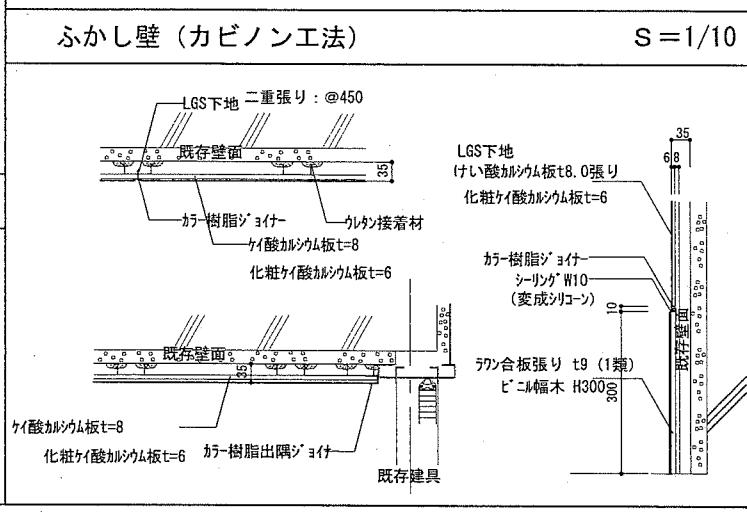
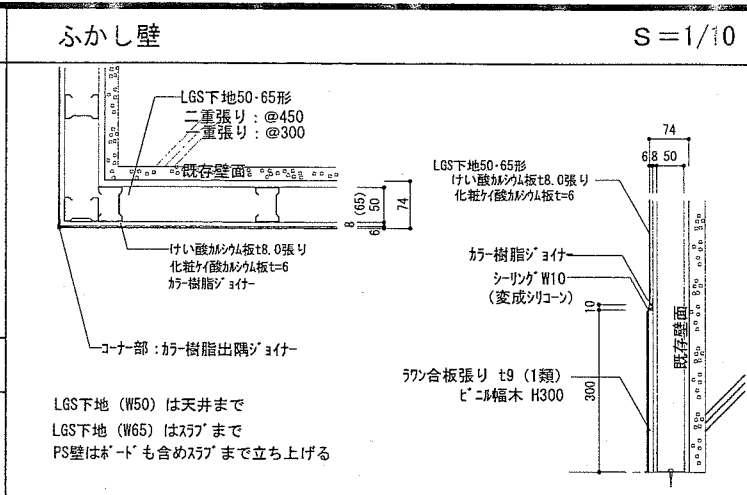
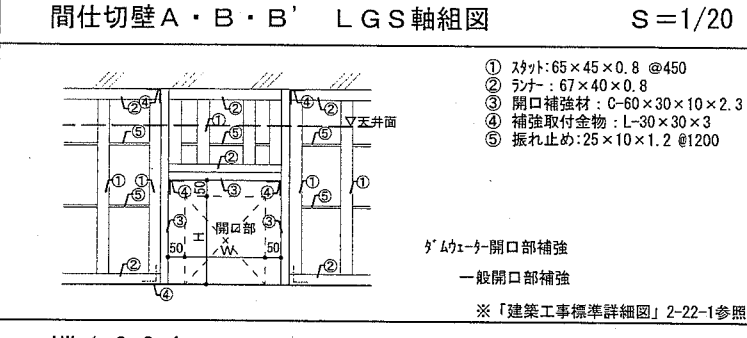
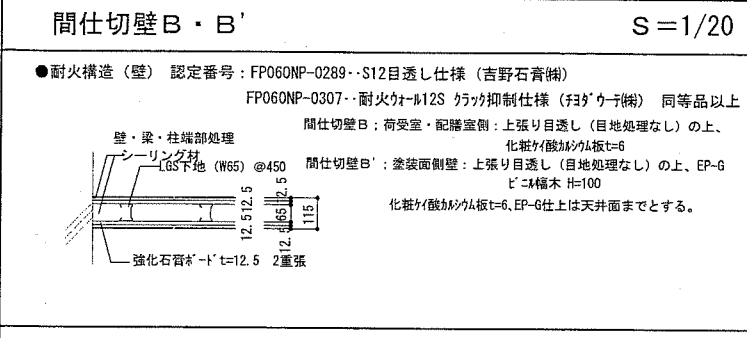
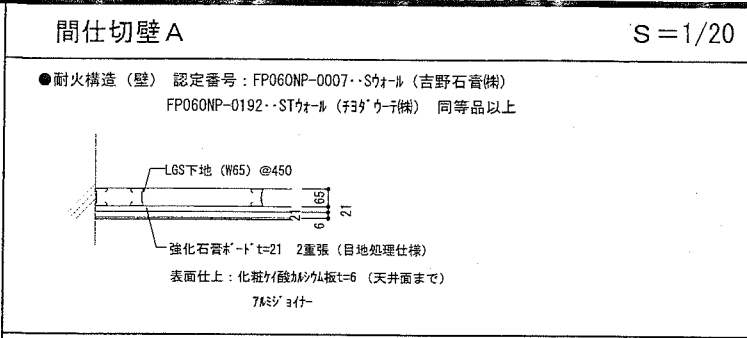
改修後 建具キープン S=1/200

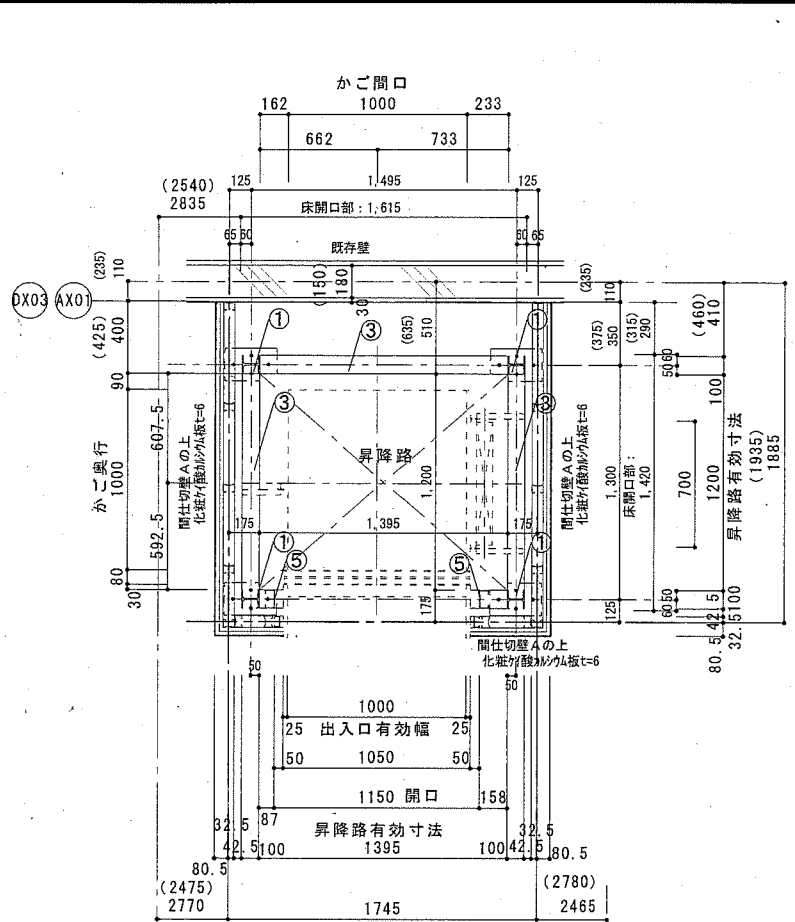


記号・個数	AW-3	AW-4
取付場所	A棟4階生徒会室	D棟1階倉庫2～4階更衣室
形状・寸法	既存 3,670 1,800 70 1,800	改修 3,670 1,800 70 1,800
見込・寸法	70	70
種別方式	引違い窓	引違い窓
材料仕上	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)
ガラス厚	透明網入りガラスt3+F (一部撤去)	透明網入りガラスt3+F (一部撤去)
付属金物	付属金物一式	付属金物一式
備考	ガラス撤去 SUS製手摺φ38(取外し)	ガラス撤去 SUS製手摺φ38(取付) ストッパー止め

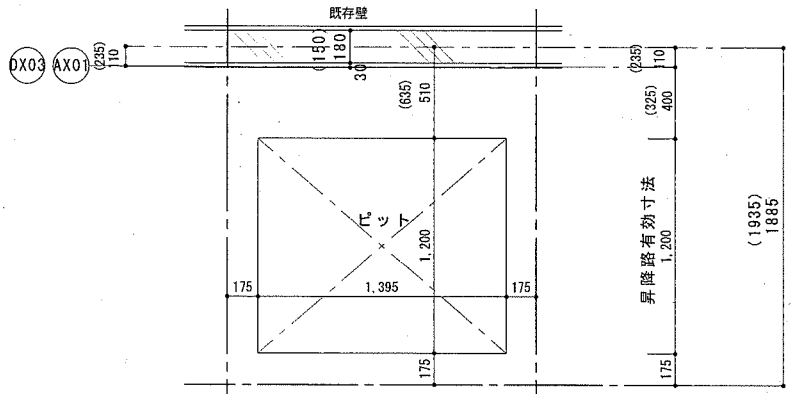
記号・個数	LSD-1	LSD-3	LSD-4	
取付場所	B棟1階荷受室	A棟4階配膳室1	D棟1階倉庫2～4階女子更衣室	
形状・寸法	改修 3,100 950	既存 3,115 1,375 40 1,700 500 500	改修 3,100 950	改修 2,650 800 50 1,800 500
見込・寸法	141	80	141	80
種別方式	引違い戸	7&M&N-タイプ	引違い戸	7&M&N-タイプ
材料仕上	軽量スチール 焼付塗装	7&M&N 焼付塗装	軽量スチール 焼付塗装	7&M&N 焼付塗装
ガラス厚	網入り板ガラスt6.8	透明網入りガラスt6.8、透明網入りガラスt3.0	網入り板ガラスt6.8	透明網入りガラスt6.8、透明網入りガラスt3.0
付属金物	スチール製、スチール三方枠、スチール額縁、戸車、錠、引手	スチール製、戸車、錠、引手、7&M&N製額縁	スチール製、スチール三方枠、スチール額縁、戸車、錠、引手	スチール製、スチール三方枠、スチール額縁、戸車、錠、引手
備考	防虫網：SUS製網目24メッシュ	防虫網：SUS製網目24メッシュ	防虫網：SUS製網目24メッシュ	防虫網：SUS製網目24メッシュ

記号・個数	SD-1	SD-2	SD-3	WD-1	AD-2	AD-3
取付場所	A棟各階点検口	A棟3階多目的便所	A棟2・3階便所	A棟2・3階便所	A棟各階配膳室1.0棟各階配膳室2	A棟各階配膳室1.0棟各階配膳室2
形状・寸法	既存 600	改修 700	既存 1,900 980 200	既存 800	改修 300	改修 450
見込・寸法		80	100	33	30	30
種別方式	片開き点検口	片引き戸	片引き戸	片開き戸、片引き戸	下開き壁点検口	下開き壁点検口
材料仕上	スチール OP	スチール製t=1.6 EP-G	スチール製	合板塗装	7&M&N製額縁	7&M&N製額縁
ガラス厚				透明網入りガラスt6.8		
付属金物		オトビジ丁番		DC、取手、丁番	錠付	錠付
備考	撤去	平面入り錠付	撤去	撤去	網付の壁点検口既設同等品以上	網付の壁点検口既設同等品以上





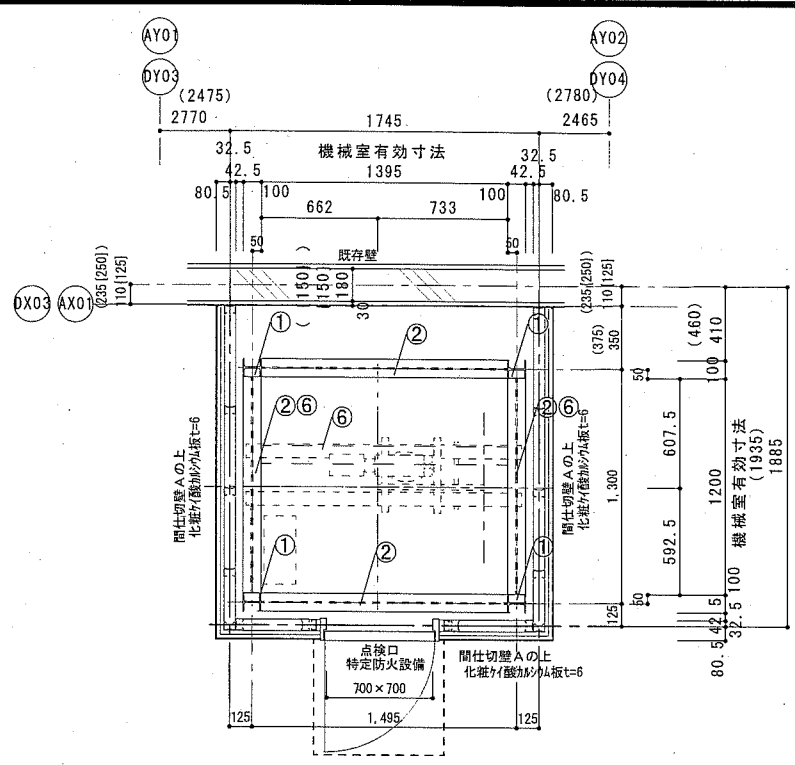
昇降路平面図 S: 1/30  
( ) 内寸法はD棟寸法を示す。



昇降路平面図 S: 1/30  
( ) 内寸法はD棟寸法を示す。

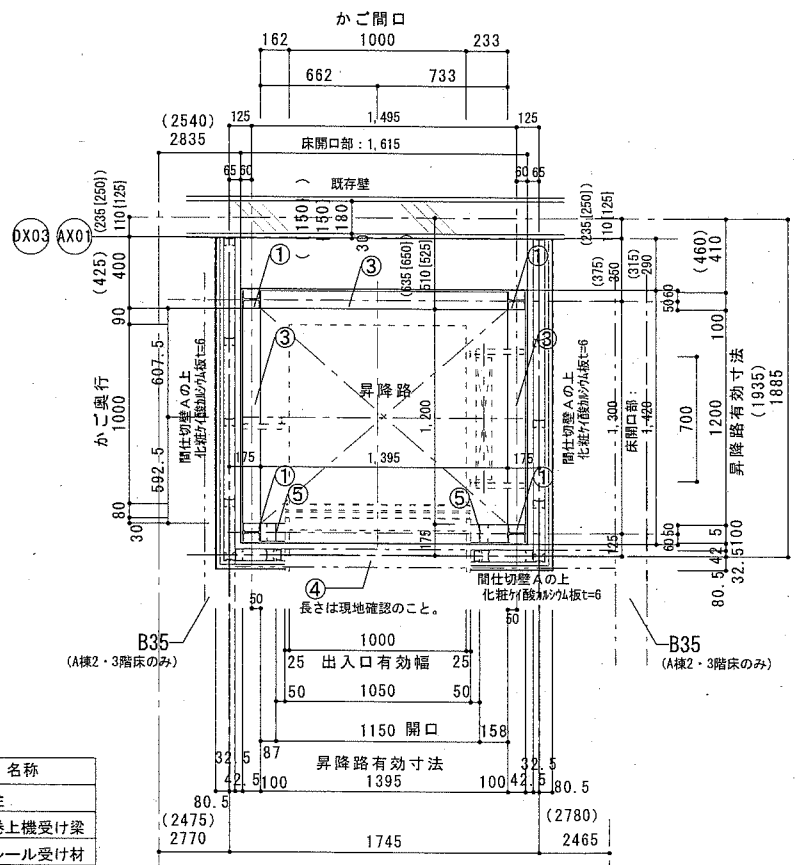
鉄骨リスト

符号	部位	名称
①	H-100×100×6×8	柱
②	H-100×100×6×8	巻上機受け梁
③	C-100×50×20×3.2	レール受け材
④	H-200×100×5.5×8	B21, B22
⑤	C-100×50×20×3.2	棒止め材
⑥	H-100×100×6×8	揚重用梁
B21	H-200×100×5.5×8	受け梁
B22	H-200×100×5.5×8	受け梁
B35	H-350×175×7×11	受け梁



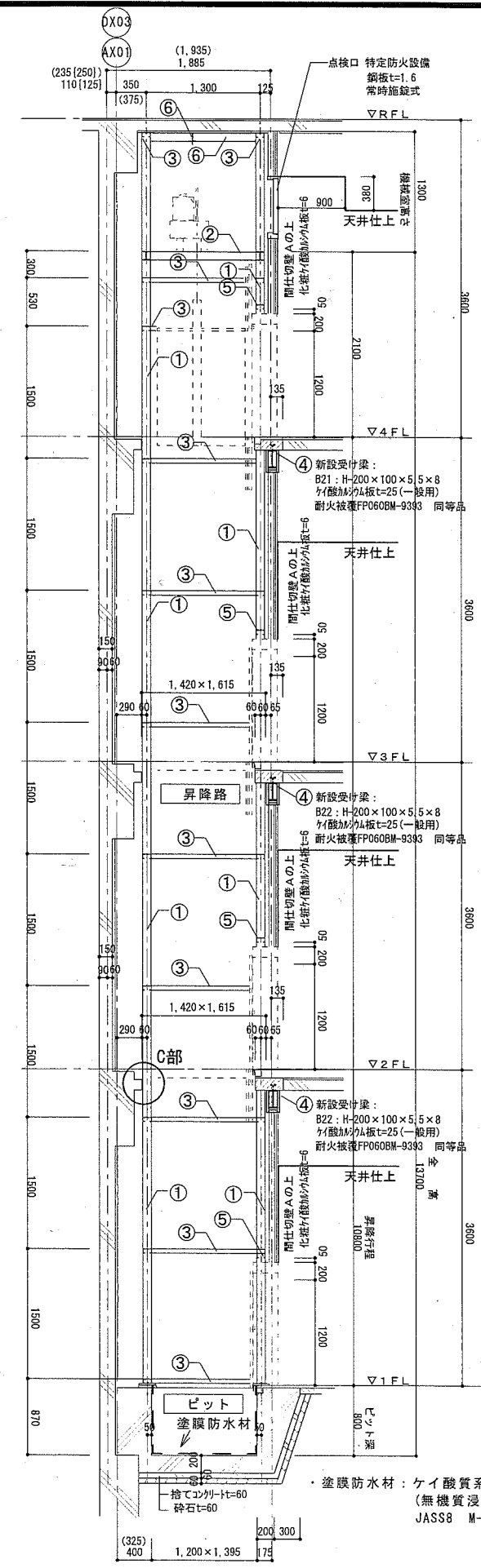
昇降路平面図 S: 1/30

[ ] 内寸法はA棟は3,4階寸法、D棟は4階寸法を示す。  
( ) 内寸法はD棟寸法を示す。

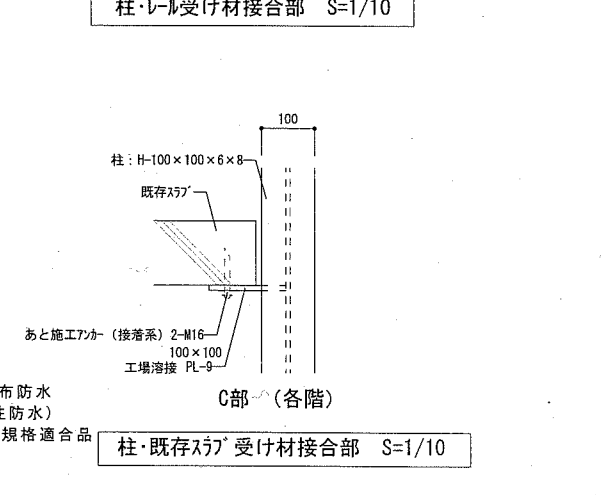
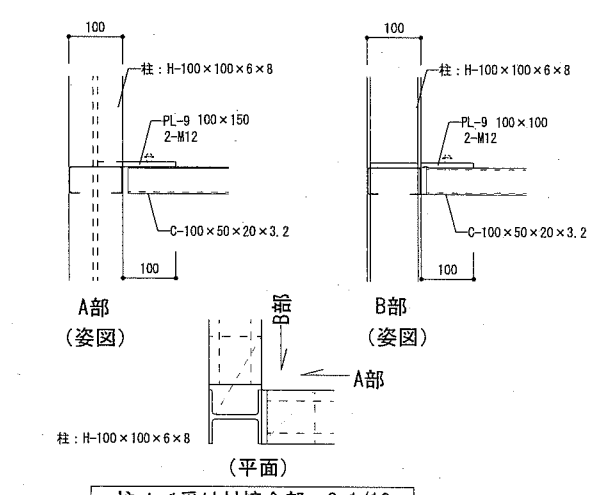
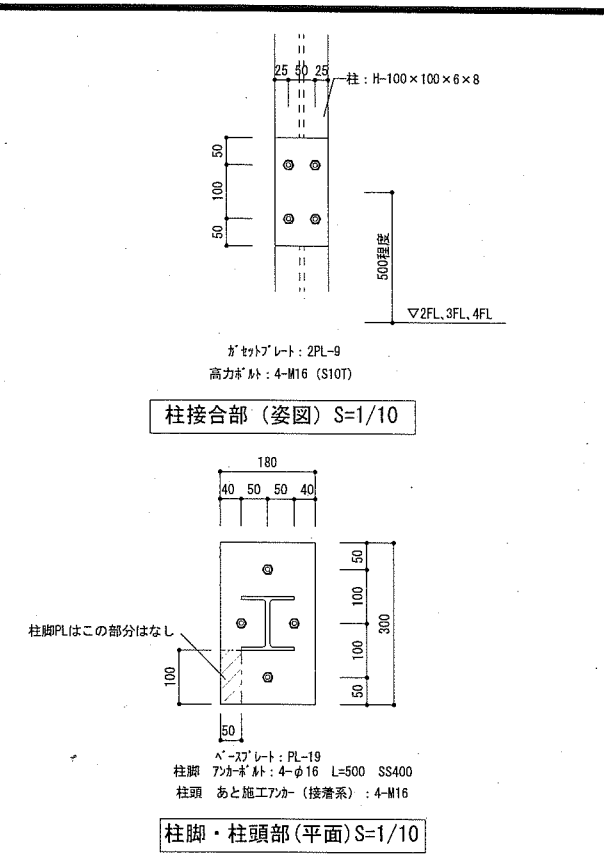


昇降路平面図 S: 1/30

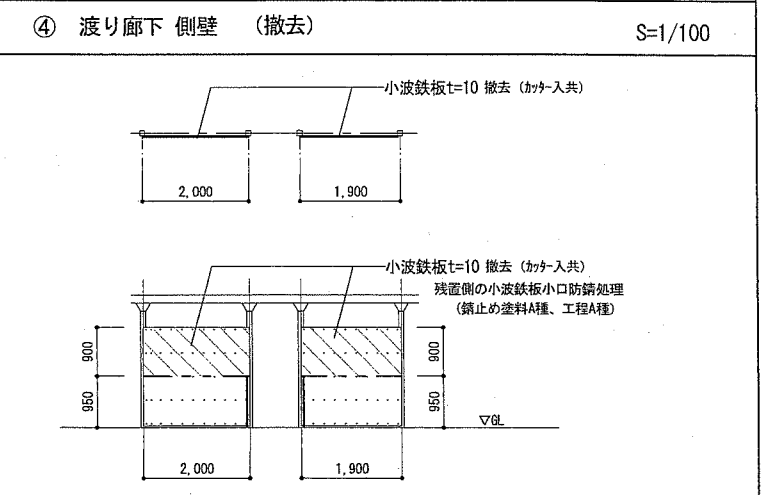
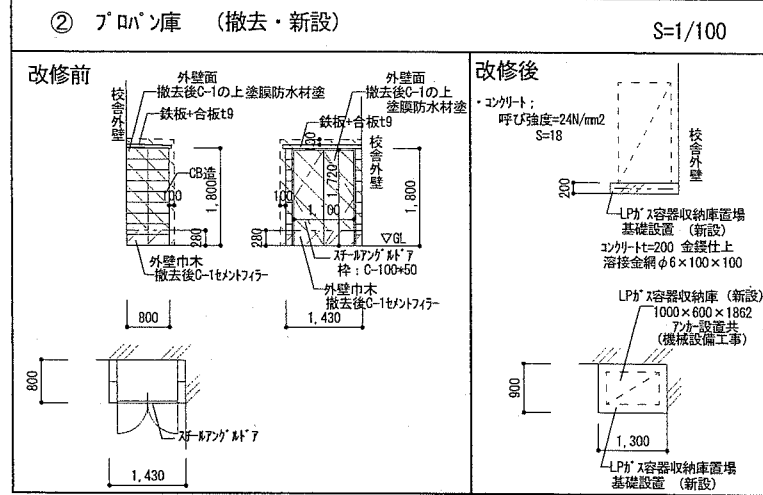
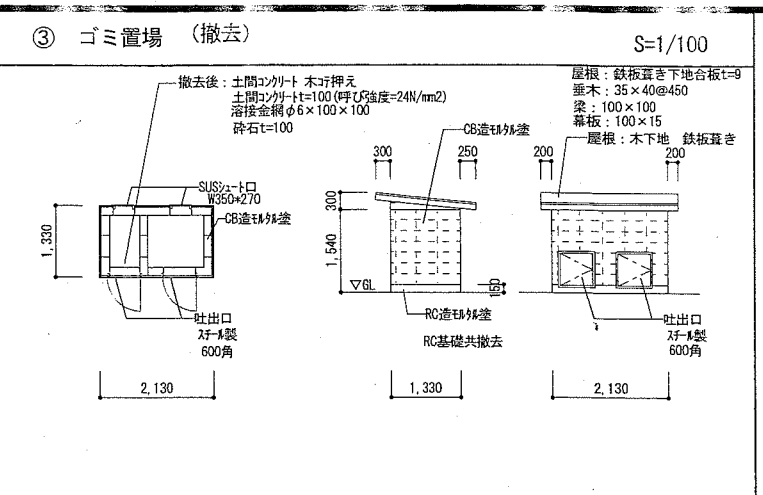
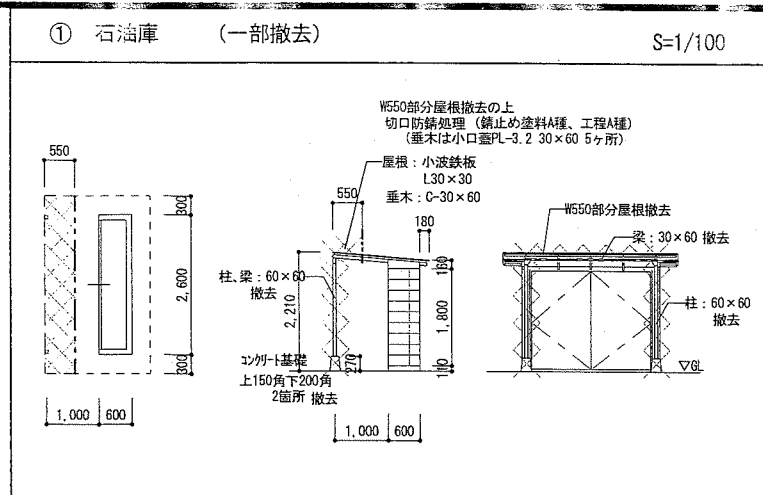
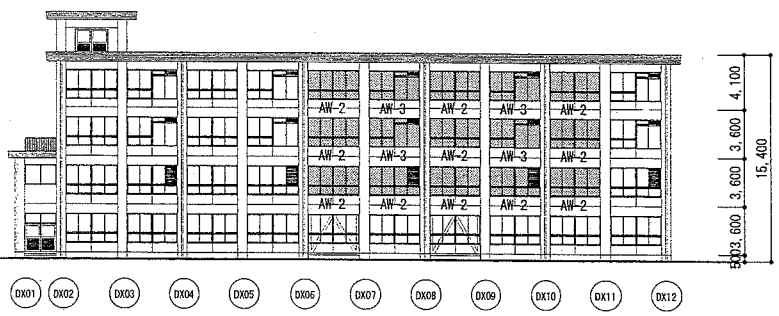
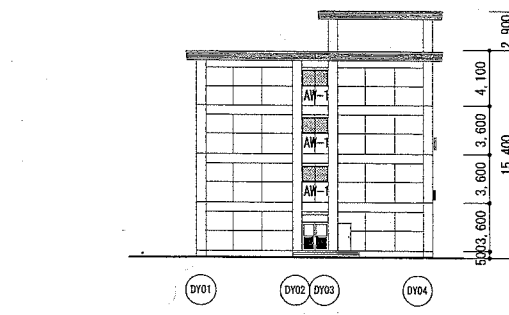
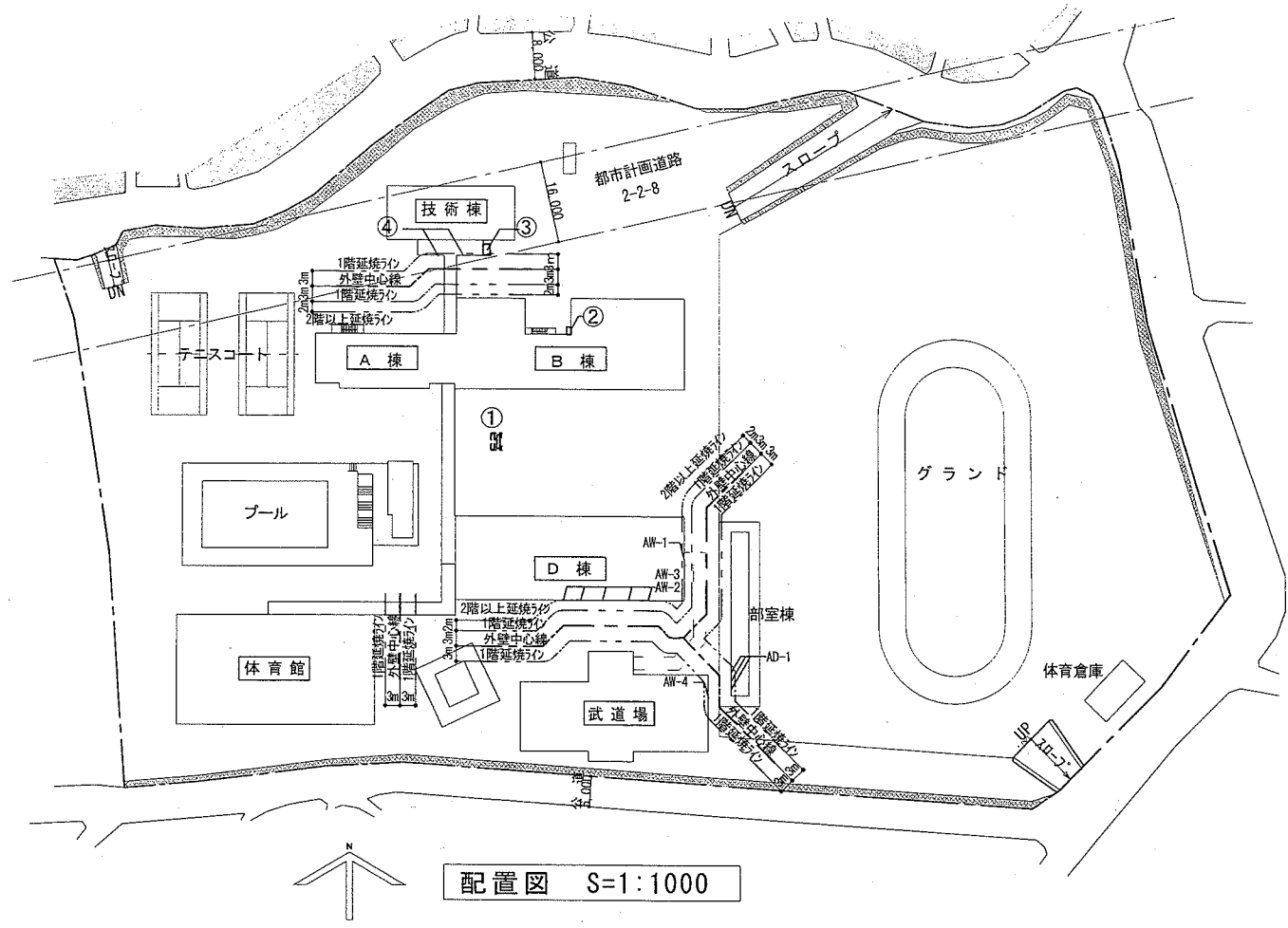
[ ] 内寸法はA棟は3,4階寸法、D棟は4階寸法を示す。  
( ) 内寸法はD棟寸法を示す。



昇降路断面図 S: 1/50

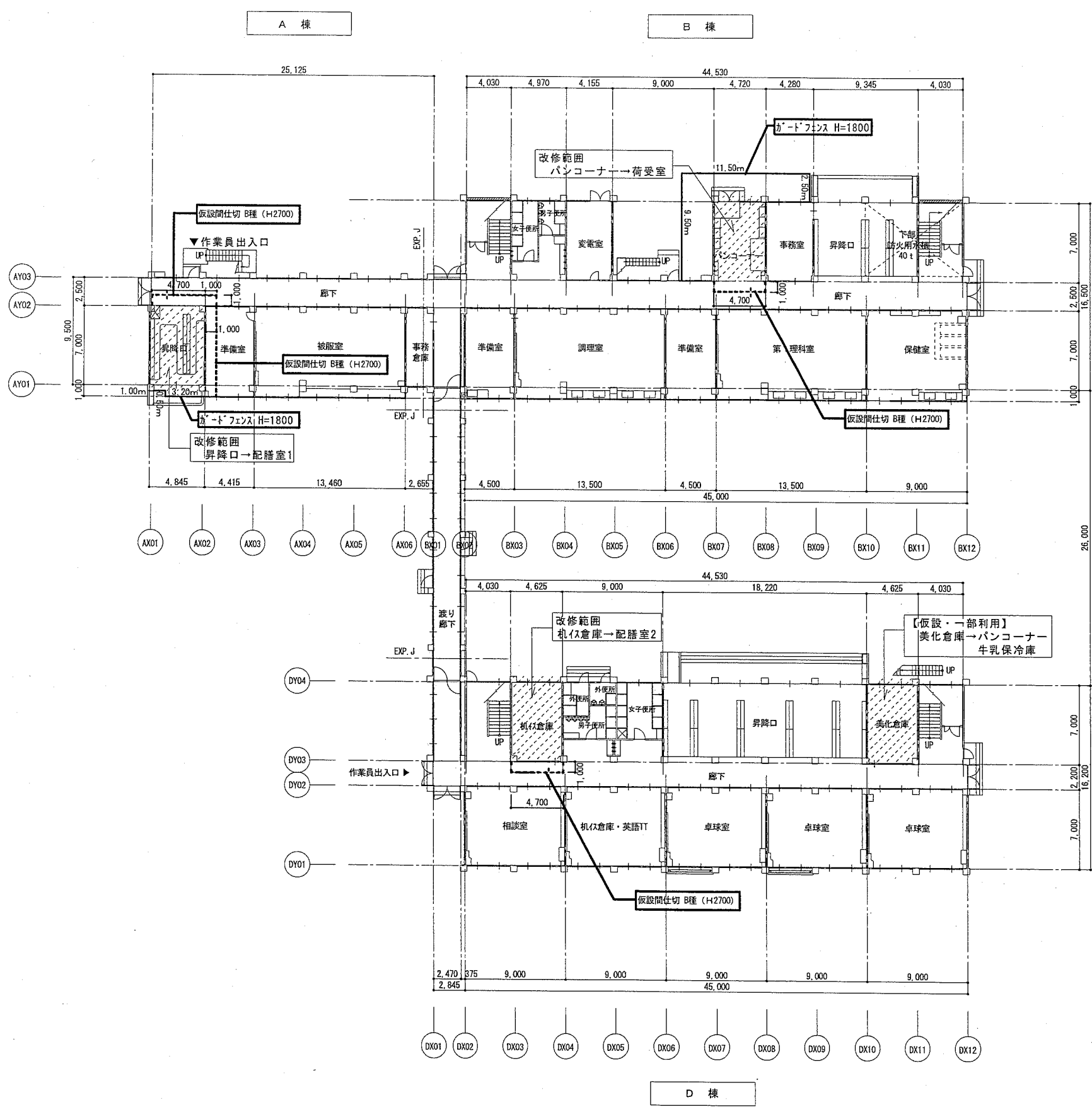




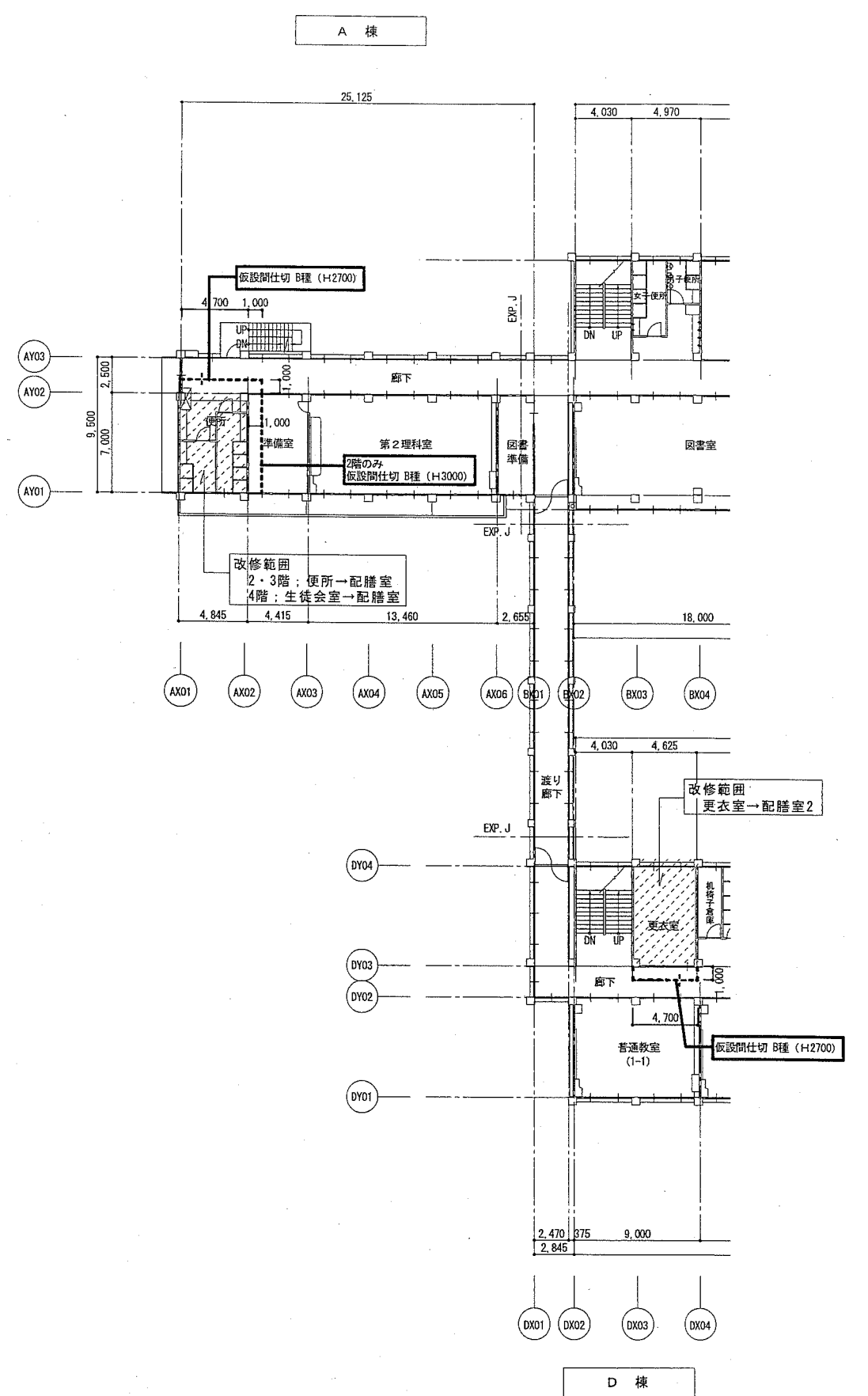


改修建具表 S=1:100

記号・個数	AD-1 3か所	AW-1 3か所	AW-2 11か所	AW-3 4か所	AW-4 1か所
取付場所		D棟2~4階廊下	D棟2~4階普通教室	D棟3~4階普通教室	武道場
形状・寸法	700 580 780 1,850	1,800 1,200	3,670 1,800 70 1,800 2か所は780×780 100 1,200 1,900 100 600 1,900	3,670 1,800 70 1,800 4か所は780×780 100 1,200 1,900 100 600 1,900	4,250 2,090 70 2,090 750 750 2,825
見込・寸法					
種別方式					
材料仕上					
ガラス厚	7mm板撤去の上	フロートガラスt3+f撤去の上	フロートガラスt3+f撤去の上	フロートガラスt3+f撤去の上	フロートガラスt3+f撤去の上
付属金物	型網入りガラスt6.8	透明網入りガラスt6.8	透明網入りガラスt6.8	透明網入りガラスt6.8	透明網入りガラスt6.8
備考	+防火設備用シールド(内外共)	+防火設備用シールド(内外共)	+防火設備用シールド(内外共)	+防火設備用シールド(内外共)	+防火設備用シールド(内外共)



1 階平面図



2 ~ 4 階平面図

構造設計特記仕様書

1. 構造設計概要

- (1) 工事名称: 市立衣笠中学校昇降機設置建築その他工事
(2) 建築場所: 横須賀市平作2丁目31番1号
(3) 構造種別: 鉄筋コンクリート造
(4) 工事種別: 新築
(5) 階数等: 地上 4階、地下 1階、PH 1階
(6) 建物用途: 中学校校舎
(7) 付属物・特殊荷重等
(8) 構造設計一級建築士の関与: 必要

2. 使用材料

(1) コンクリート

レディーミクストコンクリート JIS Q1001, 1011, JIS A5308

Table with columns: 適用箇所, 種類, 設計基準強度 (Fc), 構造体強度補正係数 (S), スラブ厚 (cm). Includes rows for 柱・梁・床, シンダー, and 調整管理強度を確保する材料.

コンクリートの調整管理強度 (普通ポルトランドセメント)
・使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差: σ
・設計基準強度: Fc
・耐久設計基準強度: Fd
・品質基準強度: Fq = max(Fc, Fd)
・コンクリート打ち込みから28日までの期間の予想平均気温: 6℃
・構造体強度補正係数: S = 3 (0 ≤ θ < 8℃), 6 (0 ≤ θ < 8℃)

(2) コンクリートブロック JIS A5406

種類: □A種, □B種, □C種
厚さ: □100, □120, □150, □190
使用箇所:

(3) 鉄筋

Table with columns: 種類, 規格, 径, 使用箇所. Lists reinforcement types like 異形鉄筋 (SD295A, SD295B, SD345, SD390), 高強度せん断補強筋 (UHYP, リバーボン), 丸鋼 (SR235), and 溶接金網 (GS400).

(4) ボルト

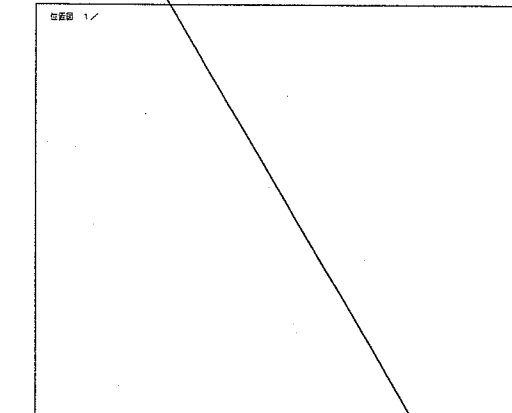
Table with columns: 種類, 使用箇所. Lists high strength bolts (SS400, SN400A, SN490A, STKN400B, BCR295, BCP235, SSC400), medium strength bolts (SS400, M12, M16, M20, M22), and anchor bolts (SS400, SS490, M12, M16, M20, M22, M24, M27, M30).

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
□有 (調査計画: □有, □無)
□無 (調査計画: □有, □無)

Table with columns: 調査項目, 資料有り, 調査計画. Lists items like ボーリング標準貫入試験, 水平地盤反力係数測定 (LLT), 土質試験, 凍状化試験, 平板載荷試験, スクエーデン式サウンディング, PS試験.

(2) ボーリング位置図



(2) ボーリング柱状図、標準貫入試験値

Table for borehole logs and standard penetration test values. Columns include NO, 深度, 土質, N値, and a grid for test results.

4. 地盤工事

- (1) 直接基礎: □バタ基礎, □布基礎, □独立基礎
(2) 地盤改良: □法液混合処理工法, □改良土, □深層混合処理工法, □改良土, □スウェーデン式サウンディング, □PS試験
(3) 杭基礎: □杭基礎, □支持層: 泥岩層
□既成コンクリート杭: CPCR杭, SC杭, Hyper-スプレッド工法
□鋼管杭: 鋼材: STK490, 杭頭接合部: 杭頭巻巻き (1D以上), アンカー鉄筋

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

- (1) コンクリート: 鉄筋コンクリートはJIS A5308 (レディーミクストコンクリート)に適合するJIS認定工場...
(2) 鉄筋: 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を厳密に遵守し、コンクリート同様にJASS5 (2009)による。
(3) 型枠: 材料: 合板厚 12mm以上を標準とする。施工: JASS5 (2009)による。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
(2) 工事監督者の承認を必要とするもの
(3) 工事監督者が行う検査項目
(4) 接合部の溶接は下記によること
(5) 接合部の検査
(6) 防錆塗装
(7) 耐火被覆
(8) その他

<p><b>1. 一般事項</b></p> <p>1-1. 基礎・直接基礎・支持層          設計地耐力          ○鉄基礎 ○支持層 風化岩層          ○鉄柱 ○鋼管柱          ○工法 鋼管圧入工法 (大臣認定工法)</p> <p>1-2. コンクリート ○普通コンクリート (JIS規格)  <math>f_c = 24 \text{ N/mm}^2</math> : 躯体          (標準体コンクリートの強度は、設計基準強度 <math>f_c</math> に割増し <math>3 \text{ N/mm}^2</math> 以上を加えた値以上とする。)  <math>f_{ct} = 1.8 \text{ N/mm}^2</math> : 捨てコンクリート          ○無収縮コンクリート (無収縮コンクリート標準図による)</p> <p>1-3. 鉄筋 ○SD345 : D19, 22, 25 (JIS規格)          ○SD295A : D10, 13, 16 (JIS規格)</p> <p>1-4. その他 ○設計図に記載なき場合は、本標準図に従う。          ○本標準図に記載なき場合は、下記による。          1) 公共建築工事標準仕様書 (最新版) 「公共建築協会、国土交通大臣官庁官庁官庁官庁」          2) 公共建築改修工事標準仕様書 (最新版) 「」          3) 建築工事監理指針 (最新版) 「」          4) 建築改修工事監理指針 (最新版) 「建築安全センター、国土交通大臣官庁官庁官庁官庁」          5) 建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事 (最新版) 「日本建築学会」          6) 鉄筋コンクリート配筋指針案 「日本建築学会」</p>	<p><b>2-1. 2. 共通事項 (鉄筋の表示記号、フック)</b></p> <p>2-1. 鉄筋の表示記号</p> <table border="1"> <tr> <td>異形鉄筋</td> <td>D10</td> <td>D13</td> <td>D16</td> <td>D19</td> <td>D22</td> <td>D25</td> <td>D28</td> <td>D32</td> </tr> <tr> <td>表示記号</td> <td> </td> <td>×</td> <td>●</td> <td>○</td> <td>◇</td> <td>△</td> <td>▽</td> <td>✱</td> </tr> </table> <p>2-1. 鉄筋のフック          下記の1)~6)に示す鉄筋の末端部には、フックをつける。          1) 丸鋼          2) あばら筋及び帯筋 (閉鎖型を除く)          3) 煙突の鉄筋          4) 単独梁の支持端及び片持梁・片持スラブの上端筋の先端          5) 最上層及びこれに準ずる層の柱筋の4隅の鉄筋          6) 柱及び梁 (地中梁を除く) の出隅部分の鉄筋 (下図)</p> <p>上記の印の鉄筋の末端には、フックが必要</p>	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32	表示記号		×	●	○	◇	△	▽	✱	<p><b>2-3. 共通事項 (鉄筋の折り曲げ)</b></p> <p>2-3. 鉄筋の折り曲げ (SD345, SD295) <math>d</math>: 鉄筋の公称直径</p> <table border="1"> <tr> <td>鉄筋の折り曲げ角度</td> <td>鉄筋の折り曲げうちの寸法</td> <td>鉄筋の余長</td> <td>図</td> </tr> <tr> <td>180°</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>135°</td> <td>4d以上</td> <td>6d以上</td> </tr> <tr> <td>90°</td> <td>4d以上</td> <td>8d以上</td> </tr> </table> <p>鉄筋の折り曲げ角度</p> <table border="1"> <tr> <td>鉄筋の折り曲げ角度</td> <td>鉄筋の仕様所による呼称</td> <td>鉄筋径による区分</td> <td>鉄筋の折り曲げうちの寸法</td> <td>図</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">90°以下</td> <td rowspan="2">あばら筋・帯筋 スパイラル筋</td> <td>D16以下</td> <td>4d以上</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>D19~D25</td> <td>6d以上</td> </tr> <tr> <td>スラブ筋 壁筋</td> <td>D16以下</td> <td>5d以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>D19~D25</td> <td>6d以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>上記以外の鉄筋</td> <td>D25以下</td> <td>6d以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>D29~D32</td> <td>8d以上</td> <td></td> </tr> </table>	鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の折り曲げうちの寸法	鉄筋の余長	図	180°	4d以上	4d以上		135°	4d以上	6d以上	90°	4d以上	8d以上	鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の仕様所による呼称	鉄筋径による区分	鉄筋の折り曲げうちの寸法	図	90°以下	あばら筋・帯筋 スパイラル筋	D16以下	4d以上		D19~D25	6d以上	スラブ筋 壁筋	D16以下	5d以上			D19~D25	6d以上			上記以外の鉄筋	D25以下	6d以上				D29~D32	8d以上		<p><b>2-4. 共通事項 (鉄筋の定着及び重ね継手の長さ)</b></p> <p>2-4. 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ (SD345, SD295) <math>d</math>: 鉄筋の公称直径</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">コンクリートの設計基準強度</th> <th colspan="3">定着長さ (L)</th> <th rowspan="2">重ね継手長さ (L)</th> </tr> <tr> <th>一般</th> <th>下層筋</th> <th>スラブ</th> </tr> <tr> <td>21~30</td> <td>35d (フックなし) 25d (フックつき)</td> <td>25d (フックなし) 15d (フックつき)</td> <td>10d かつ 150以上</td> <td>40d (フックなし) 30d (フックつき)</td> </tr> <tr> <td>21未満</td> <td>40d (フックなし) 30d (フックつき)</td> <td>30d (フックなし) 20d (フックつき)</td> <td>10d かつ 150以上</td> <td>45d (フックなし) 35d (フックつき)</td> </tr> </table> <p>注1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さにはふくまない。          注2. 直径の異なる鉄筋の重ね長さは、細い方の鉄筋の公称径とする。          注3. 梁及びスラブ筋の定着のための中間折り曲げにあたっては、表中の定着長さ (L) にかかわらず、柱及び梁の中心をこえてから折り曲げる。          注4. 溶接金網の重ね継手は、1節半以上かつ150mm以上。</p>	コンクリートの設計基準強度	定着長さ (L)			重ね継手長さ (L)	一般	下層筋	スラブ	21~30	35d (フックなし) 25d (フックつき)	25d (フックなし) 15d (フックつき)	10d かつ 150以上	40d (フックなし) 30d (フックつき)	21未満	40d (フックなし) 30d (フックつき)	30d (フックなし) 20d (フックつき)	10d かつ 150以上	45d (フックなし) 35d (フックつき)
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28	D32																																																																											
表示記号		×	●	○	◇	△	▽	✱																																																																											
鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の折り曲げうちの寸法	鉄筋の余長	図																																																																																
180°	4d以上	4d以上																																																																																	
135°	4d以上	6d以上																																																																																	
90°	4d以上	8d以上																																																																																	
鉄筋の折り曲げ角度	鉄筋の仕様所による呼称	鉄筋径による区分	鉄筋の折り曲げうちの寸法	図																																																																															
90°以下	あばら筋・帯筋 スパイラル筋	D16以下	4d以上																																																																																
		D19~D25	6d以上																																																																																
	スラブ筋 壁筋	D16以下	5d以上																																																																																
		D19~D25	6d以上																																																																																
	上記以外の鉄筋	D25以下	6d以上																																																																																
		D29~D32	8d以上																																																																																
コンクリートの設計基準強度	定着長さ (L)			重ね継手長さ (L)																																																																															
	一般	下層筋	スラブ																																																																																
21~30	35d (フックなし) 25d (フックつき)	25d (フックなし) 15d (フックつき)	10d かつ 150以上	40d (フックなし) 30d (フックつき)																																																																															
21未満	40d (フックなし) 30d (フックつき)	30d (フックなし) 20d (フックつき)	10d かつ 150以上	45d (フックなし) 35d (フックつき)																																																																															
<p><b>2-5. 6. 共通事項 (継手一般、鉄筋のあき)</b></p> <p>2-5. 継手一般          1) 圧接位置            間隔: <math>a \geq 400</math>          芯ずれ: <math>e \leq 0.2d</math> <math>d' \geq 1.4d</math></p> <p>2) 重ね継手 (下記のいずれかとする)            1.5L以上          約0.5L</p> <p>3) D19以上は、圧接継手とする。          4) 鉄筋径の差が7mmをこえる場合は、圧接としてはならない。</p> <p>2-6. 鉄筋のあき          1) 鉄筋のあきは、原則として下記による。          ・異形鉄筋 1.7d以上          ・粗骨材の最大寸法の1.25倍以上          ・かつ25mm以上    <math>d</math>: 公称直径</p> <p>2) 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。</p>	<p><b>2-7. 共通事項 (かぶり厚さ)</b></p> <p>2-7. かぶり厚さ          鉄筋に対するコンクリートの「標準かぶり厚さ」と「最小かぶり厚さ」(mm)          (水セメント比 65パーセント以下の場合)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">構造部分の種類</th> <th colspan="2">コンクリートの種類</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>普通コンクリート</th> <th>高強度コンクリート</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">土に接しない部分</td> <td>床・屋根スラブ</td> <td>仕上あり 仕上なし</td> <td>30 (20) 40 (30)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">柱、梁、耐力壁</td> <td>層内</td> <td>仕上あり 仕上なし</td> <td>40 (30) 40 (30)</td> </tr> <tr> <td>層外</td> <td>仕上あり 仕上なし</td> <td>40 (30) 50 (40)</td> </tr> <tr> <td>隔壁、耐圧スラブ</td> <td></td> <td>50 (40)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土に接する部分</td> <td>柱、梁、スラブ</td> <td></td> <td>50 (40)</td> </tr> <tr> <td>基礎、擁壁、耐圧スラブ</td> <td></td> <td>70 (60)</td> </tr> <tr> <td>煙突など、高熱を受ける部分</td> <td></td> <td></td> <td>70 (60)</td> </tr> </table> <p>注1. ()内の数値は、「最小かぶり厚さ」を示す。          注2. 仕上げ(モルタル、打放し等)の無い場合、上部数値に10mm以上を加える事</p>	構造部分の種類	コンクリートの種類		備考	普通コンクリート	高強度コンクリート	土に接しない部分	床・屋根スラブ	仕上あり 仕上なし	30 (20) 40 (30)	柱、梁、耐力壁	層内	仕上あり 仕上なし	40 (30) 40 (30)	層外	仕上あり 仕上なし	40 (30) 50 (40)	隔壁、耐圧スラブ		50 (40)	土に接する部分	柱、梁、スラブ		50 (40)	基礎、擁壁、耐圧スラブ		70 (60)	煙突など、高熱を受ける部分			70 (60)	<p><b>3-1. 2. 3. 柱 (主筋の継手、定着、しぼり)</b></p> <p>3-1. 主筋の継手          ・継手は、原則として下図斜線範囲に設ける。  </p> <p>3-2. 主筋の定着          ・柱頭は、原則として4隅の主筋にフックをつける。  </p> <p>3-3. 主筋の絞り (柱径が異なる場合)  <math>e/D &lt; 1/6</math> の場合 <math>e/D &gt; 1/6</math> の場合  </p>	<p><b>3-4. 柱 (帯筋の形状)</b></p> <p>3-4. 帯筋の形状          a. 主帯筋の形状          ① 135度フックの場合            ② 溶接の場合          ・溶接は原則として工場溶接とする            ③ スパイラル筋の場合            ④ FBリング等認定品の場合            ・メーカーの「施工標準図」に従って施工する事。          ・現場溶接等使用出来ない場合は、現場溶接の帯筋とする。</p> <p>b. 副帯筋 (中子筋) の形状          シングル            ダブル            補助筋: □型 (D10加工又は既成品) D10加工又は既成品          約1.5d          約1.5d</p> <p>c. 二成配筋の場合  </p>																																																	
構造部分の種類	コンクリートの種類		備考																																																																																
	普通コンクリート	高強度コンクリート																																																																																	
土に接しない部分	床・屋根スラブ	仕上あり 仕上なし	30 (20) 40 (30)																																																																																
	柱、梁、耐力壁	層内	仕上あり 仕上なし	40 (30) 40 (30)																																																																															
		層外	仕上あり 仕上なし	40 (30) 50 (40)																																																																															
	隔壁、耐圧スラブ		50 (40)																																																																																
土に接する部分	柱、梁、スラブ		50 (40)																																																																																
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		70 (60)																																																																																
煙突など、高熱を受ける部分			70 (60)																																																																																
<p><b>3-5. 柱 (帯筋の配置)</b></p> <p>3-5. 帯筋の配置          a. 帯筋の配置は下図による。          ・第一帯筋は、最小せいの梁上下端レベルに入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。            b. 主筋を絞る場合          ・上下の柱断面が異なる場合。          主・副帯筋を2段階重ねる  </p>	<p><b>4-1. 2. 梁 (主筋の継手、定着)</b></p> <p>4-1. 主筋の継手          a. 一般の梁の場合 (地中梁を含む)          ・継手は、原則として下図斜線範囲に設ける。            b. 地中梁で、地反力を受ける場合          ・べた基礎、布基礎            c. 壁式梁 (下層壁厚と同幅の梁) の場合は、          ・継手は、原則として壁断面に設ける。            壁部 開口部          500程度以上</p> <p>4-2. 主筋の定着          a. 一般層の梁    <math>0.8D</math>以上  <math>0.8D</math>以上          b. 最上層の梁    <math>1.0D</math>以上  <math>1.0D</math>以上          c. 小梁の場合    <math>1.0D</math>以上</p>	<p><b>4-3. 梁 (あばら筋の形状)</b></p> <p>4-3. あばら筋の形状          a. 主あばら筋の形状          135度フック 180度フック            キップタイ付きの場合          梁せいが大きい場合          b. 副あばら筋 (中子筋)          135度フック 180度フック            c. 壁式構造の梁          ・あばら筋の形状は、原則として下図による。          ・<math>B &lt; 200</math> の場合のあばら筋は、原則としてD10とする。  <math>B = 150</math> の場合 <math>B = 180</math> の場合 <math>B &gt; 200</math> の場合  </p>	<p><b>4-4. 5. 梁 (あばら筋の配置、補助筋)</b></p> <p>4-4. あばら筋の配置          a. 一般の梁          ・第一あばら筋を柱面に入れ、内面を設計ピッチ以下に割り付ける。            b. 梁先端部及び壁式構造の梁先端部          ・大梁、又は主梁のあばら筋を先端まで配置する。            c. 壁部と開口部の区分は下図による。            壁部 開口部          壁部ピッチ 開口部ピッチ</p> <p>4-5. 補助筋            中子筋          約1.5d          止め筋          あばら筋に終末          中子筋</p>																																																																																

鉄骨一般事項

- 1) 鋼材 : 鋼材種類 : 使用位置
- SHC490B (熱間成形角形鋼管)
  - SHC400B ( )
  - BCP325 (冷間プレス成形角形鋼管)
  - BCP235 ( )
  - BCR295 (冷間ロール成形角形鋼管)
  - STKR400 (冷間成形角形鋼管)
  - SN490C : 通しダイヤフラム
  - SN490B
  - SN400C
  - SN400B : 大梁端部
  - SN400A
  - STKN400W, B
  - SS400 : DW柱、小梁及びプレート等
  - STK490
  - STK400
  - SSC400
- 2) 溶接 : ①適用する溶接工法は、「アーク手溶接」「ガスシールドアーク半自動溶接」及び「サブマージアーク自動溶接」とする。  
②突合せ溶接継目は、母材強度と同等とする。  
③上記条件を満足するよう、大臣認定を受けた工場で行うこととし、必要な書類の提出等を行う事。
- 3) 高力ボルト : ①セットの種類 : F10T, S10T (JIS規格品)  
②「~~ハイパススプレッドプレックススラブ施工要領書~~」  
③摩擦面は、摩擦係数 $\mu=0.45$  (F8T:0.40) が充分得られる状態とする。  
④ボルト穴は、すべてドリル明けとする。  
⑤主要な箇所の締め付けは、二度締めとする。  
(高力ボルト締め付け要領による。)  
⑥ボルトに熱影響のある場所での溶接・ガス切断等は行わない。  
⑦標準ピッチ等 : ・ピッチ : 継手標準図による  
・はし明け、へり明け :
- 4) アンカーボルト : ・材質 : SS400 (JIS規格)  
・特記以外のアンカーボルトは、すべてフック付きとする。  
・~~ハイパススプレッドプレックススラブのアンカーボルト等は各施工標準図による。~~  
・~~樹脂アンカーは、ケミカルアンカー専用タイプ (Rタイプ) または同等以上とする。~~  
・その他、「ベース・アンカーボルト標準図」による。
- 5) 中ボルト : ①材質 : SS400 (JIS規格)  
・標準ピッチ等 : ・ピッチ : 50 mm  
・はし明け、へり明け : 25 mm
- 6) 丸鋼プレート : ・材質 : SN400, SNR400 (JIS規格)  
・ねじ加工は、転造ネジとする。  
・ターンバックル付きとする。
- 7) デッキプレート : ・使用デッキプレート : QL-99-50, QL-99-75 JFE建材 (株)  
・E250, E275 日建建業 (株)  
・または同等以上  
・合成スラブの場合  
1. 施工にあたっては、「標準図」及び「合成スラブ施工要領」に従うこと。  
2. 施工後、所定の検査を受け、チェックリストを提出すること。
- 8) 防錆塗装 : ・下記表示位置以外  
下地処理 : ・下地処理 :  
・防錆塗装 :  
・防錆塗装 :  
・無塗装箇所  
・無塗装範囲 :  
・下地処理 :  
・塩素雰囲気内  
・使用位置 :  
・下地処理 :  
・防錆塗装 :  
・溶融亜鉛メッキ  
・使用位置 : 柱・梁他  
・下地処理を含め「施工要領書」を作成し、承認を得ること。
- 9) スタッド : ①JIS規格 頭付きスタッドボルト  
ボルト ②ピッチ等は、リスト又は詳細図による。
- 10) 溶接部の検査  
①溶接部全体について、目視による検査を行う。  
・超音波検査 : ・検査対象部位 :  $t \geq 8$  mmの突合せ溶接部  
・工場自主検査 : ・工場溶接・現場溶接対象部位の100%  
・第三者検査 : ・検査はCIW認定事業者が行う  
・工場溶接 : 対象部位の 30% (約 力所)  
・現場溶接 : 対象部位の % (約 力所)  
・あわせて外観検査を行う  
・カラーチェック : ・検査対象部位 :

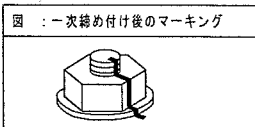
- 11) 提出書類 : 施工に先立ち、下記の書類を提出し、承認を得ること。  
1. 工作図 2. 作業要領書 3. 検査要領書 4. 建方要領書  
5. その他施工、及び建築確認検査等に必要なもの
- 12) 監督官庁提出書類 : 1. 溶接作業計画書 (工事開始前に提出)  
② ~~合成スプレッドプレックススラブ施工要領書~~  
③ ~~ハイパススプレッドプレックススラブ施工要領書~~

高力ボルト締め付け要領 (二度締め)

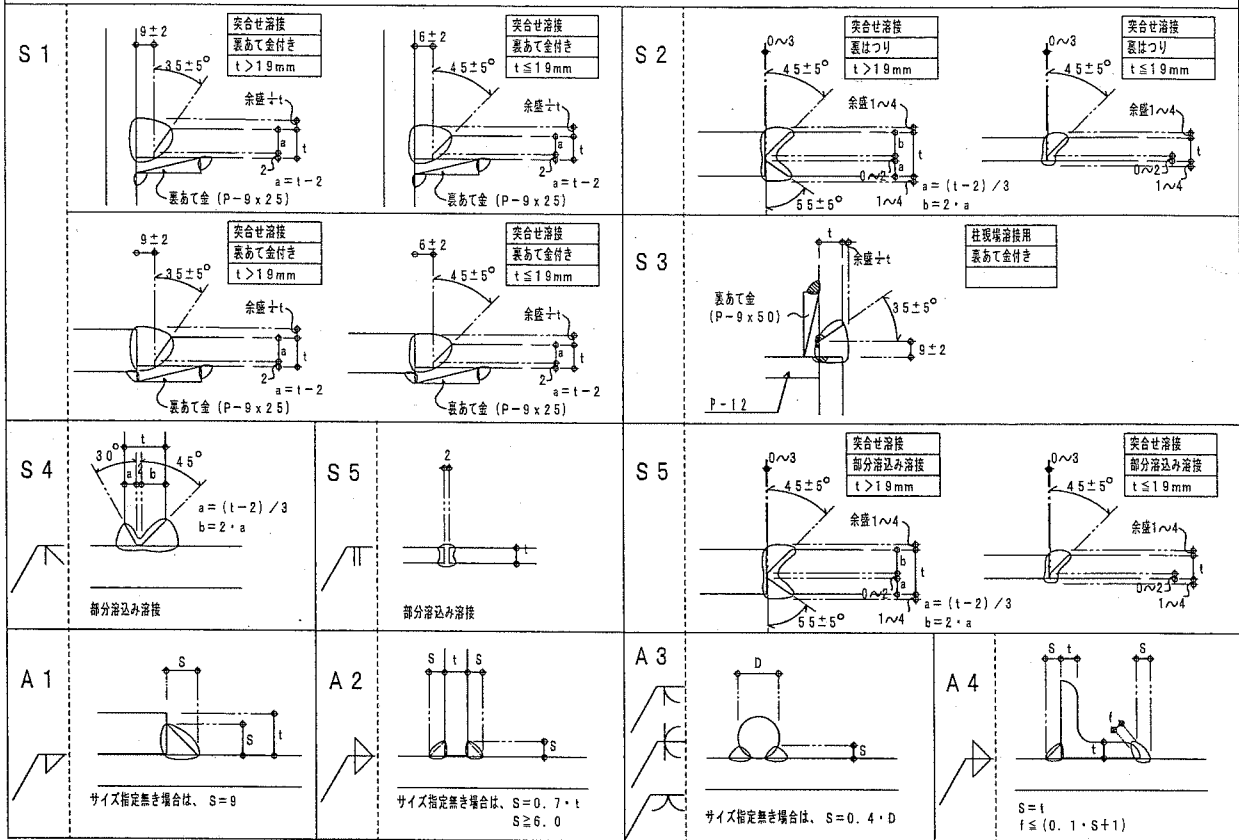
- 1) 適用部材等 : DW柱、小梁
- 2) 締め付け要領  
1. 仮締めボルト  
・建入れ直後に、相互用仮締めボルトを充分締め付け、接合材相互を密着させる。  
2. 本締め用高力ボルト、一次締め  
・締め付けには、プレセット型トルクレンチを用いる。  
・一次締めは、ボルト呼び径に応じて下表に示すトルク値で締め付ける。  
表のトルク値では、十分な密着状態にならない場合は、幾分か大きい値としてもよい。  
3. マーキング  
・マーキングは、図に示すようにボルト軸からナット・座金・母材にかけて、白いマジックインクなどで線を引き印をする。  
4. 本締め  
・専用レンジで、ピンテールが破断するまで締め付け、ナットが正しく回転したことを確認する。

表 : 一次締め付けトルク値 (kgf・cm)

ボルト呼び径	一次締め付けトルク値
M16	約 1000
M20, M22	約 1500
M24	約 2000



溶接標準図

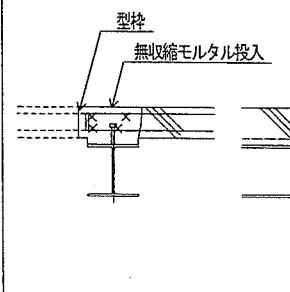


無収縮モルタル標準図

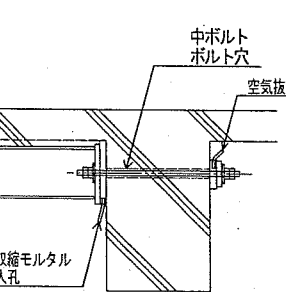
- ・グラウト材料及び施工一般事項
- (1) 材料  
圧入モルタルは早強形特殊セメント系無収縮モルタルとし、調合はプレミックスタイプを使用し、品質は下記の項目を満足するものとする。なお、監督員の承諾を得ること。
- | 項目 | コンシステンシーの範囲 (J14ロート) | 圧縮強度   | 乾燥収縮 ( $\times 10^{-1}$ ) |
|----|----------------------|--|---------------------------|
| 品質 | $8 \pm 2$ 秒          | $300 \text{ kgf/cm}^2$ 以上<br>( $30 \text{ N/mm}^2$ ) | 0                         |
- (2) 型枠  
モルタル圧入部の型枠は注入圧力に耐え得るグラウト用とし、周囲に急結性又は速乾性コーキング材を施し、モルタル漏れのないようにする。
- (3) 使用材料の保管  
使用するグラウト材は、夏期の直射日光の当たる場所や雨が当たる場所には放置せずに保管する。
- (4) 注入  
a) モルタル注入工事はメーカーの責任施工とし、事前に詳細な施工要領書を監督員に提出し承諾を得ること。  
b) モルタルの注入前に既存コンクリート表面及びコンクリート打継部の清掃及び水湿しを十分にを行う。注入に先立ち試し練りを行い、適切な練り上がり温度及び所定のコンシステンシーが得られる事を確認してから注入を開始する。  
c) 施工時に水温の管理を十分に行い、水温  $10^\circ\text{C}$  以上の水を用いてグラウト材を練り上げ、練り上がり時の温度が  $10 \sim 35^\circ\text{C}$  の範囲のもの注入する。なお、グラウト材の練混ぜ温度が規定温度以上になる場合は、氷を添加する等の措置を講じた冷水を用いる。  
d) グラウト材の攪拌には、アルミ羽の攪拌機を用いないこと。  
e) 圧入は適切な圧力で行い、打継ぎのないように行う。グラウト孔をスパン中央上部下端に、空気抜きを上部スパン両端に設け、グラウト孔にホースを接続して連続圧送を行い、グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認した段階で注入を中断し、各空気抜きパイプの封入を確認した後、再び加圧し作業を終了する。密封後の圧力は、圧力計を用い注入孔側で  $0.5 \sim 1.0 \text{ kgf/cm}^2$  程度を確認すること。

- (5) 試験確認等  
a) コンシステンシー試験 試験は日本道路公団「無収縮モルタル標準」に示されている試験方法による。試験はロート法とし、ロートはJ14ロートとする。試験は午前・午後後の打設前及び監督員が指示した時に行う。
- (6) 材料メーカー  
・太平洋マテリアル 関 プレユーロックSM  
・朝ABC商会 ノンシュリンク グラウトスタンダード  
・朝ボソリス物産 マスターフロー540 グラウト  
同等以上とする。
- (7) ボルト穴施工及びモルタル圧入要領  
a) モルタル圧入及び空気抜き穴は、ボルト及びベースプレート周りにモルタル充填が確実に出来る位置に設けること。また、モルタル充填が確認出来るようにする事。  
b) 型枠及びシールは、モルタル充填に対して、十分な強度・気密性を持つようにする事。  
c) ボルト穴径は、モルタル充填が確実に出来るものとして決定する事。

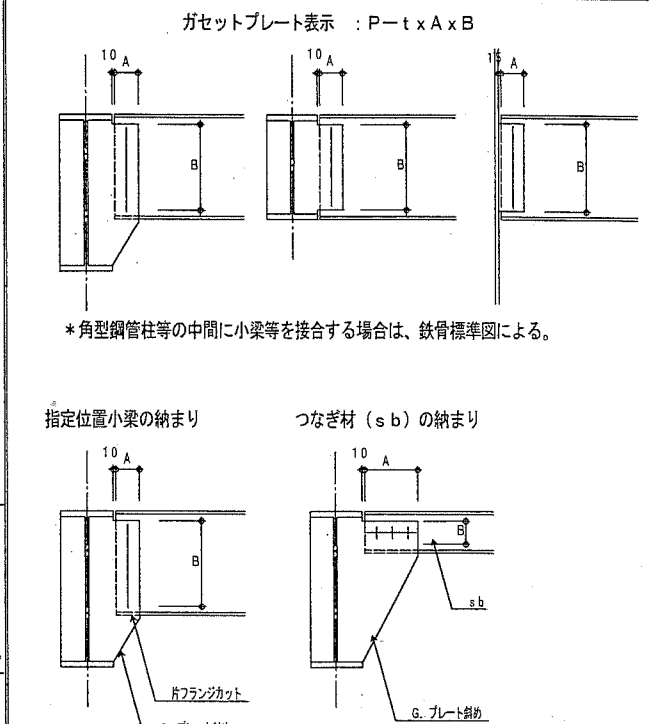
無収縮モルタル圧入詳細図 1/20 (増設鉄骨梁上部スラブ)

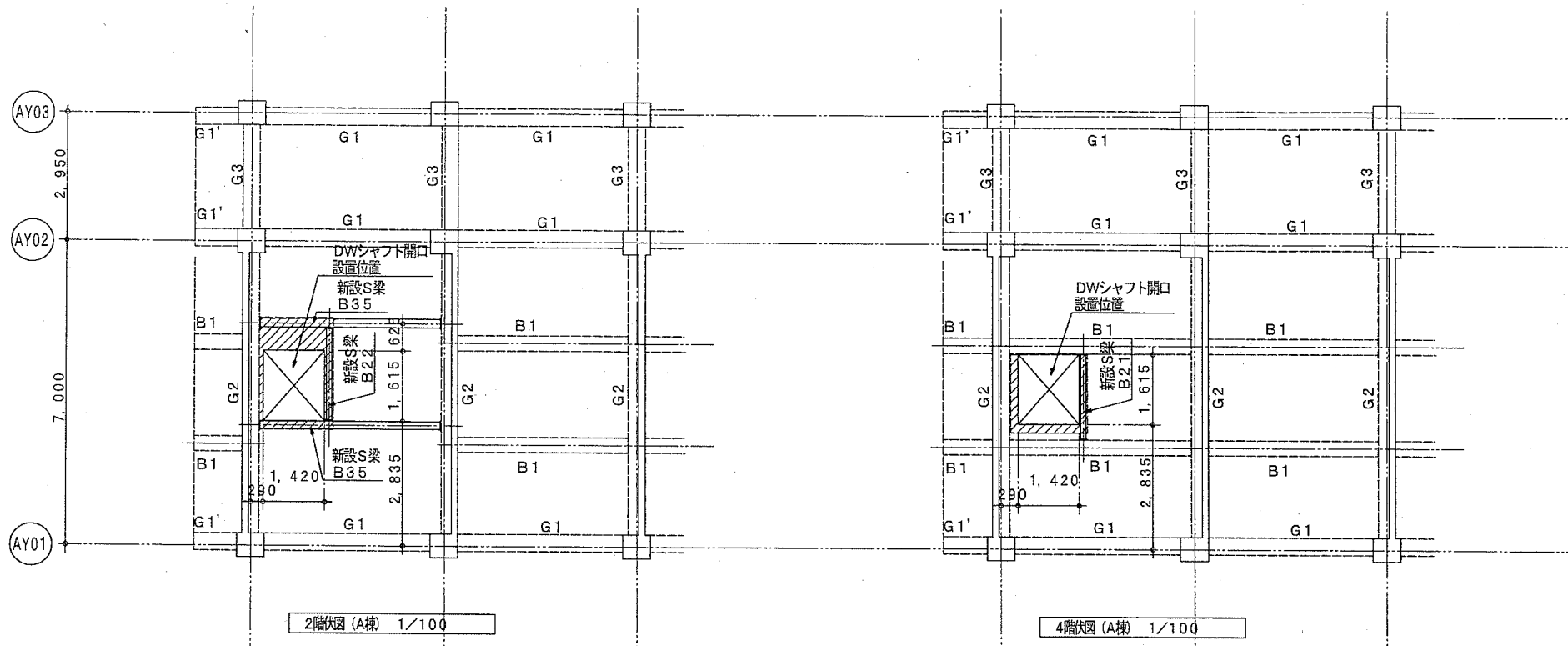


無収縮モルタル圧入詳細図 1/20 (ボルト穴充填用)



小梁継手標準図





1. 使用材料
- ・コンクリート  $F_c=24$  N/mm<sup>2</sup> (JIS規格) : DWピット増設
  - ・無収縮モルタル  $F_c=30$  N/mm<sup>2</sup> : DWシャフト増設
  - ・鉄筋 D13:SD295A (JIS規格) : DWピット・シャフト
  - ・鉄骨 SS400 (JIS規格) : 増設S梁

2. 部材サイズ一覧表 (依笠中学校 A棟)

既存RC梁	
・G1	RF 400x700 4F 400x700 3F 400x750 2F 400x700 1F 450x1,200
・G2	RF 400x800 4F 400x800 3F 400x850 2F 400x850 1F 500x1,200
・B1	350x500

増設S梁	
・B21, B22	2~4F H=200x100x5.5x8
・B35	2~4F H=350x175x7x11

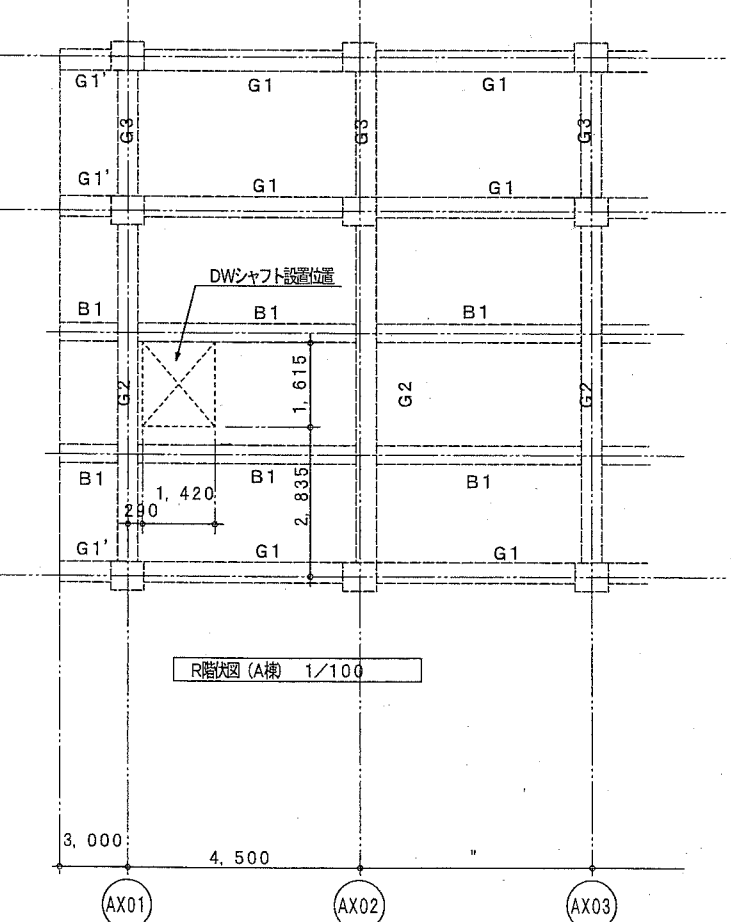
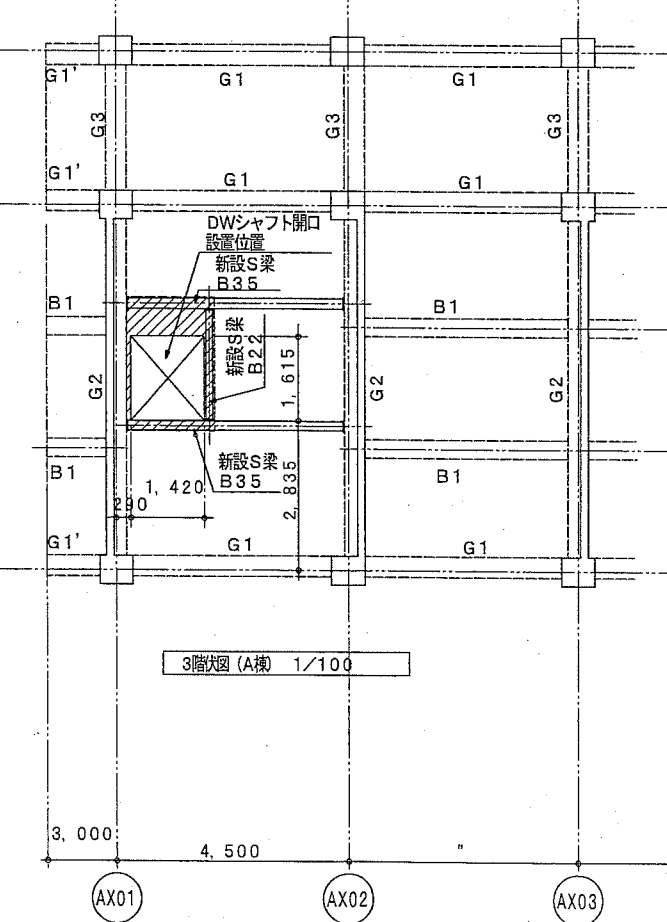
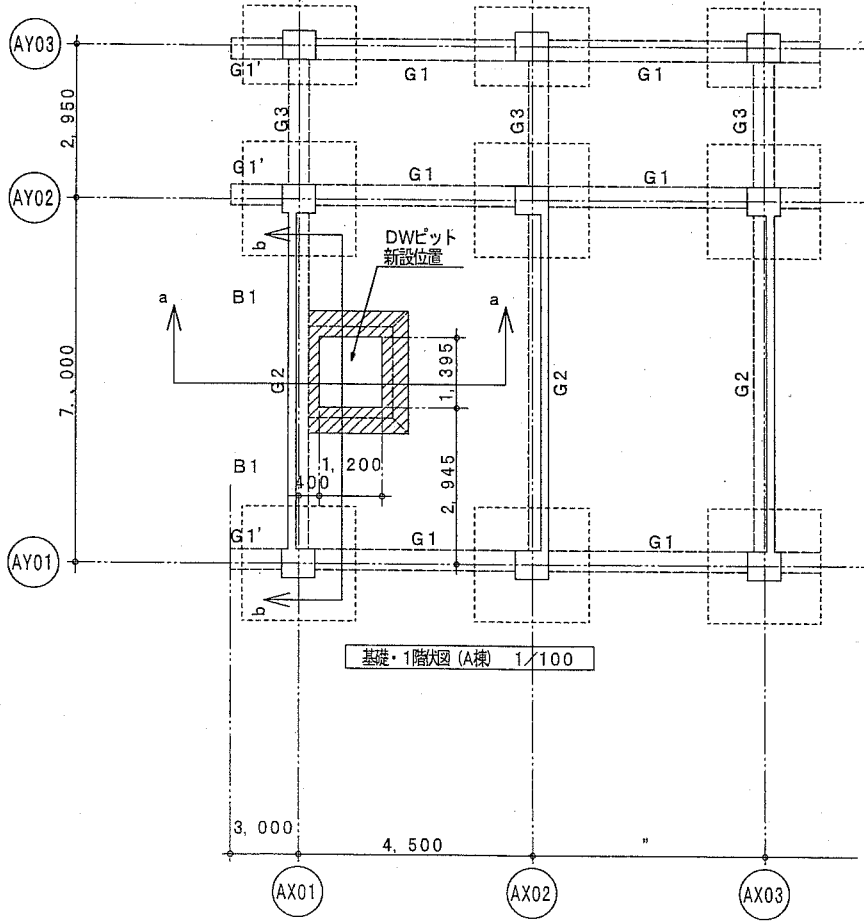
既存スラブ厚 t=120mm

・床開口施工手順

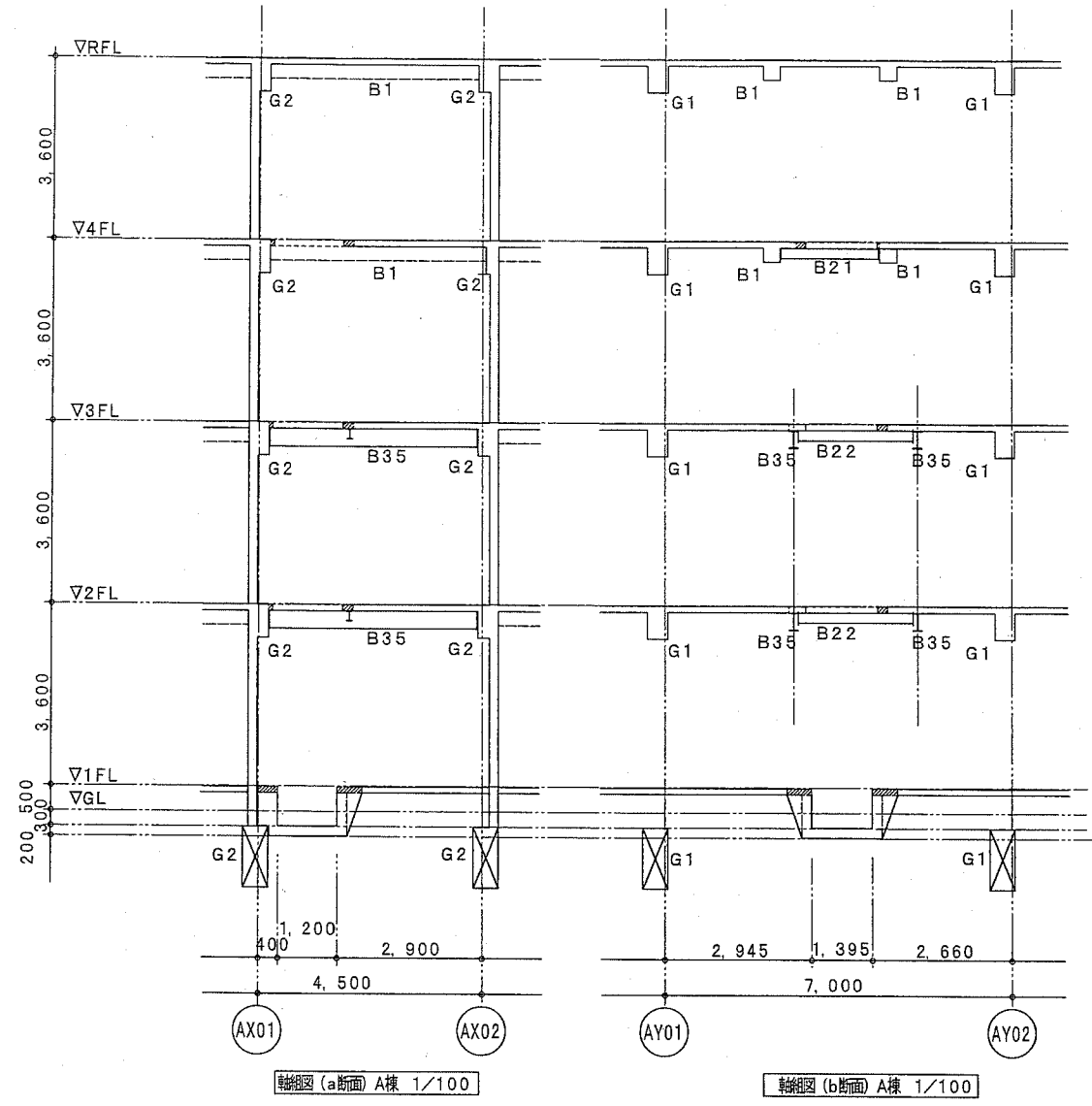
1. 床開口寸法+200mm以上(片側)でコンクリートを撤去する。コンクリートを破る前に、カッターで両面に切り込みを入れ、ひび割れが入らないよう、また、鉄筋を切断しないようにすること。
2. 鉄筋は新設コンクリート(モルタル)部への定着部分を残して切断する。
3. 増設S梁がある場合は、中ボルトを用いて設置する。
4. 既存鉄筋及び新設の鉄筋を加工配置する。
5. 清掃のち、型枠を設置する。
6. 壁型枠上端に、無収縮モルタル充填用の投入口を設ける。
7. 養生のち型枠解体。

・中ボルト施工手順

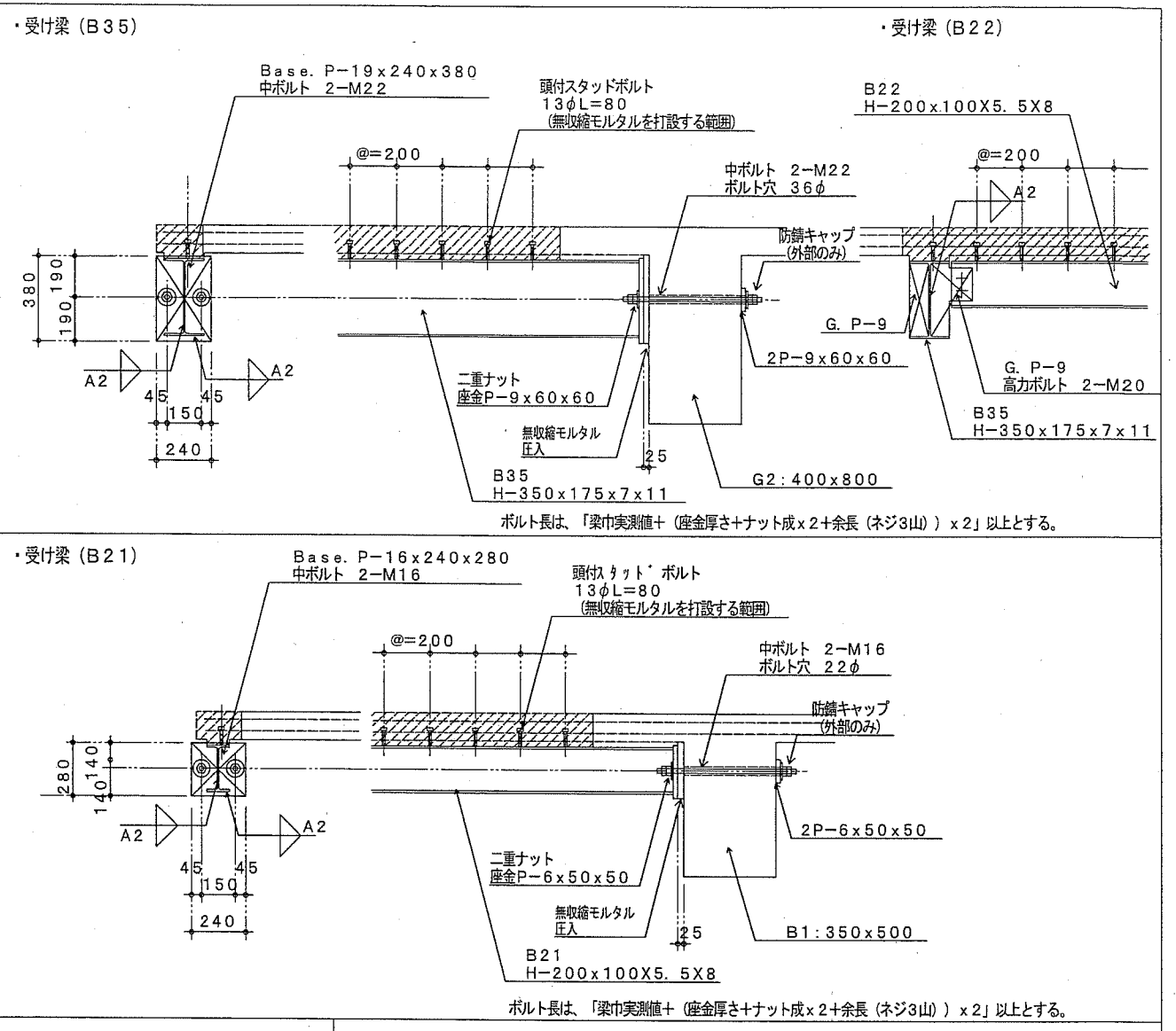
1. ボルト用穴をドリル空ける。
2. 鉄骨受け梁(ベースプレート付)を設置する。
3. ボルトを設置する。
4. 無収縮モルタル充填用の注入口を設け、周囲をシールする。
5. 無収縮モルタルを充填する。



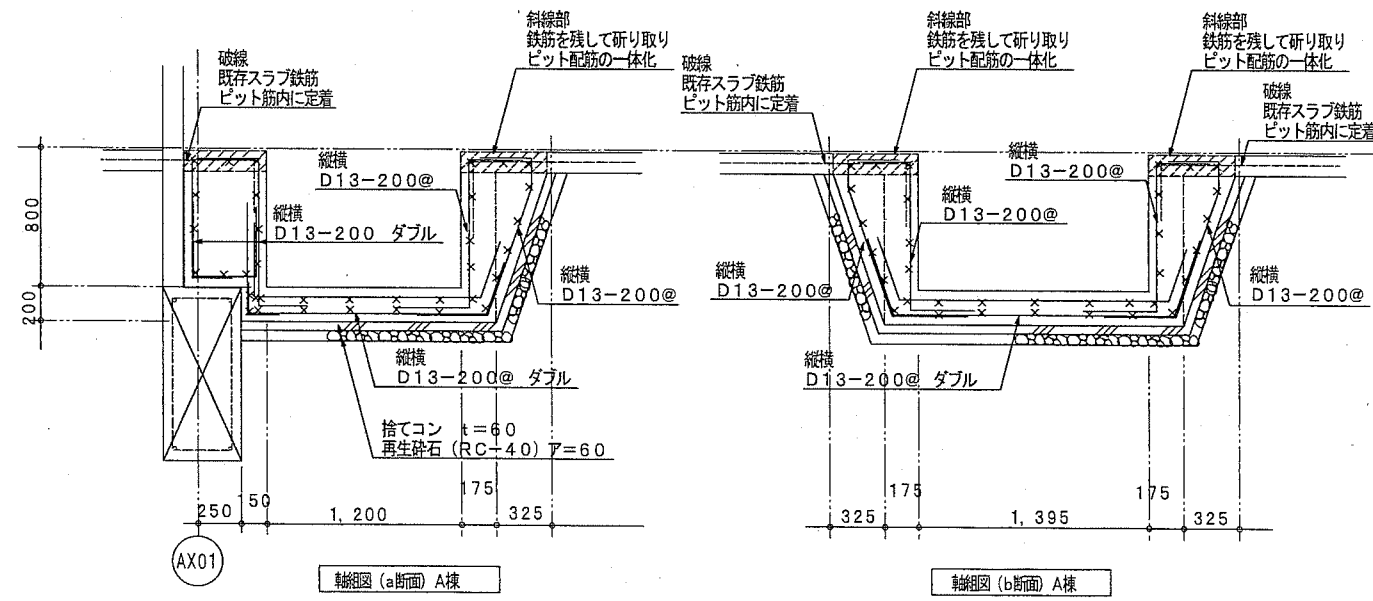




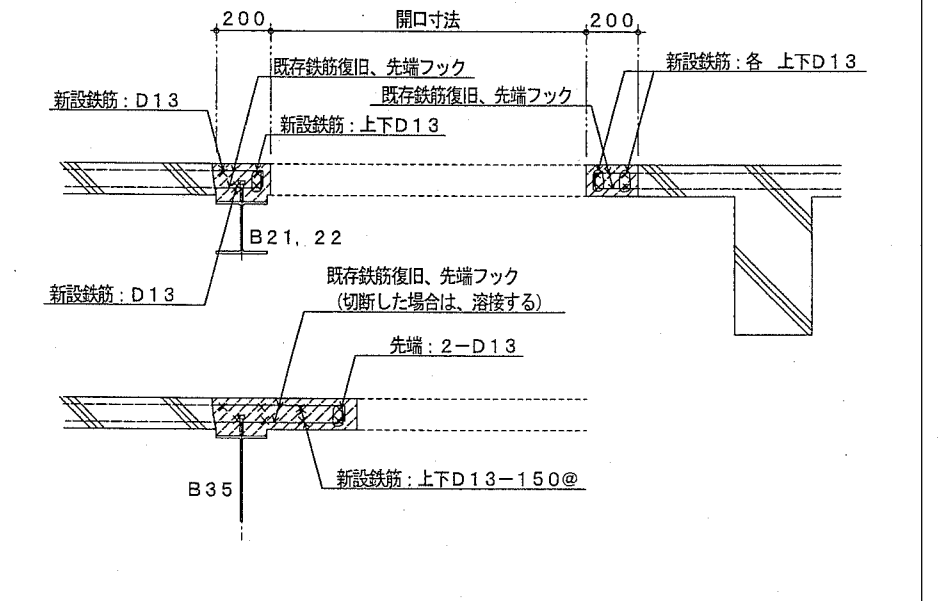
鉄骨受け梁・端部及びシャコネクター詳細図 1/20



DWピット増設詳細図 (A棟) 1/30

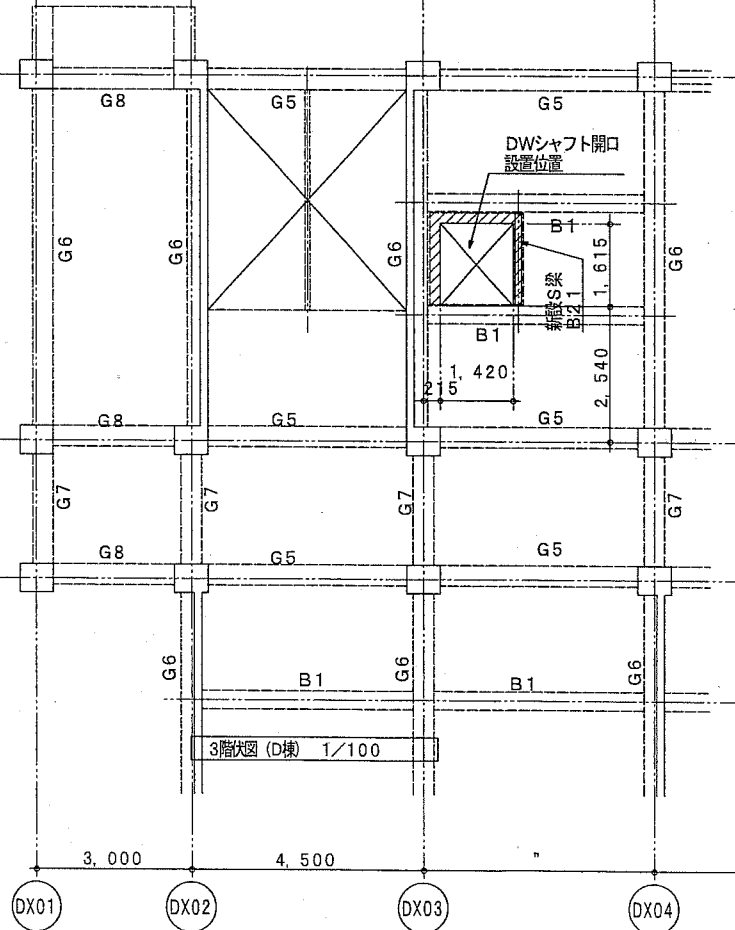
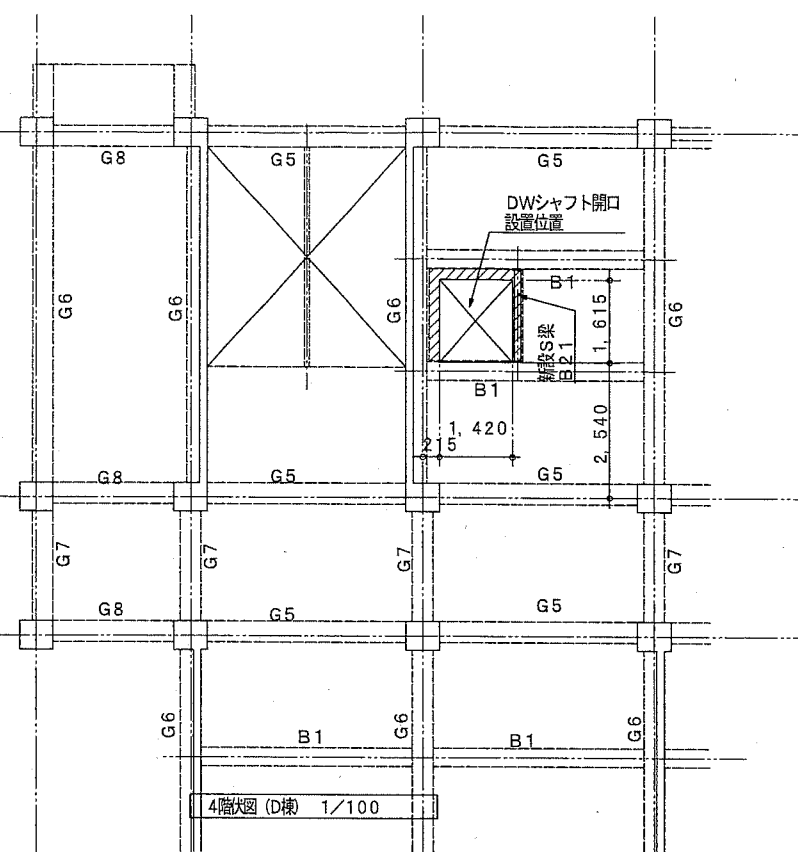
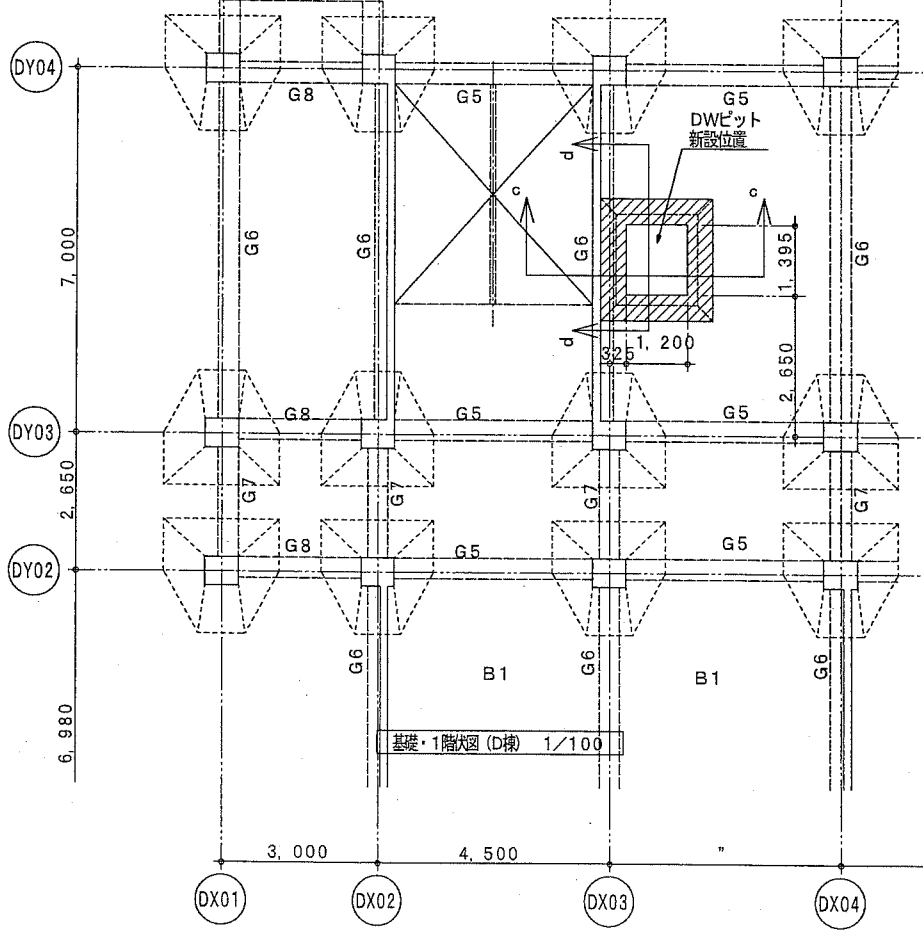
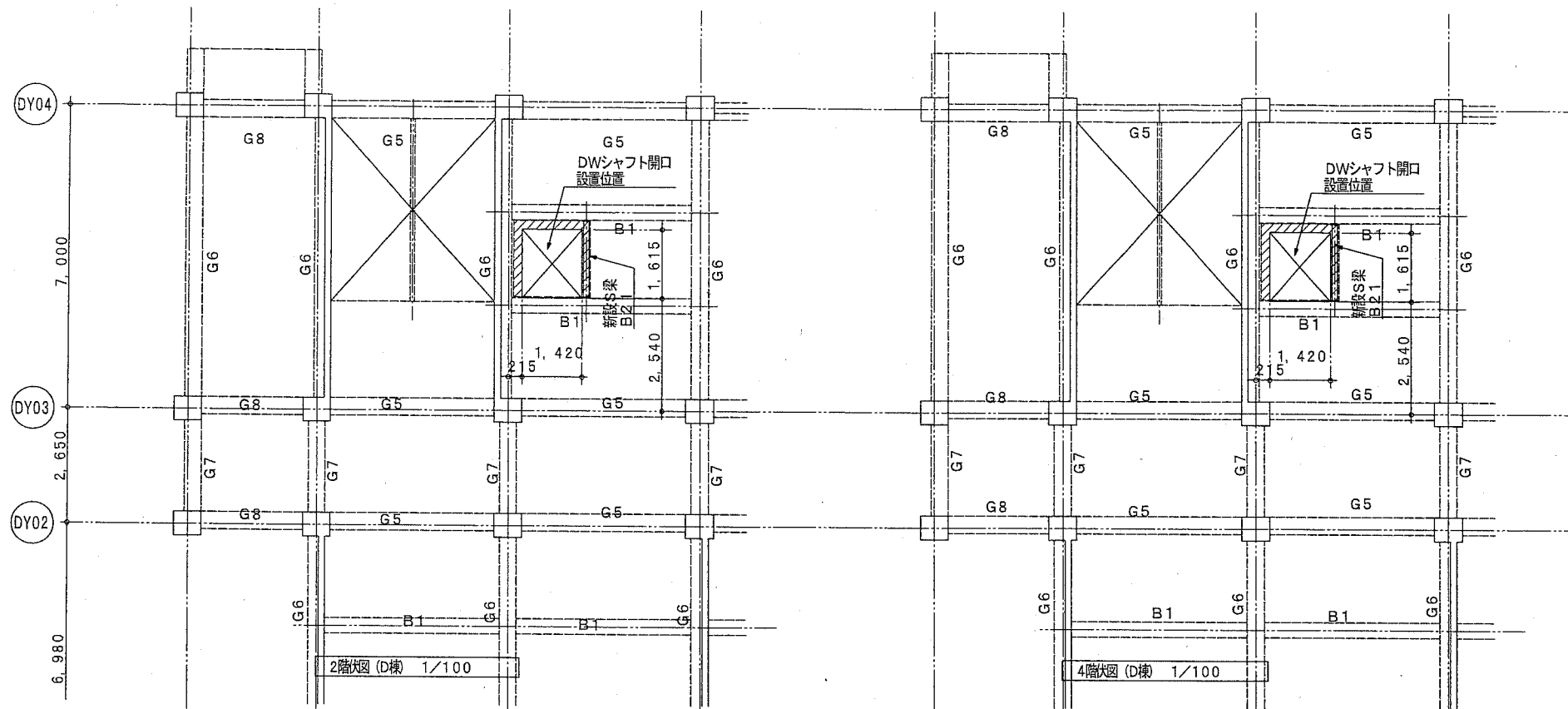


2, 3, 4階DWシャフト詳細図 1/20



公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計年月日 平成 31年 2月	設計名称 NAME OF PROJECT 市立衣笠中学校築50周年記念校舎改修工事	図面名称 ITEM OF DRAWING 軸組図・床補強詳細図・ピット配筋図 (A棟) (DW改修用)	縮尺 SCALE 縮尺 1: 100 3Q 20
--------	-----	-----	----------------	-----------------	---	---	--------------------------------





1. 使用材料
- ・コンクリート  $F_c=24$  N/mm<sup>2</sup> (JIS規格) : DWピット増設
  - ・無収縮モルタル  $F_c=30$  N/mm<sup>2</sup> : DWシャフト増設
  - ・鉄筋 D13:SD295A (JIS規格) : でピット・シャフト
  - ・鉄骨 SS400 (JIS規格) : 増設S梁

2. 部材サイズ一覧表 (衣笠中学校 D棟)

既存RC梁	
・G5	RF 400x700 4F 400x700 3F 400x750 2F 400x750 1F 450x1,200
・G6	RF 400x800 4F 400x800 3F 400x850 2F 400x850 1F 500x1,200
・B1	350x500

増設S梁	
・B21	2~4F H-200x100x5.5x8

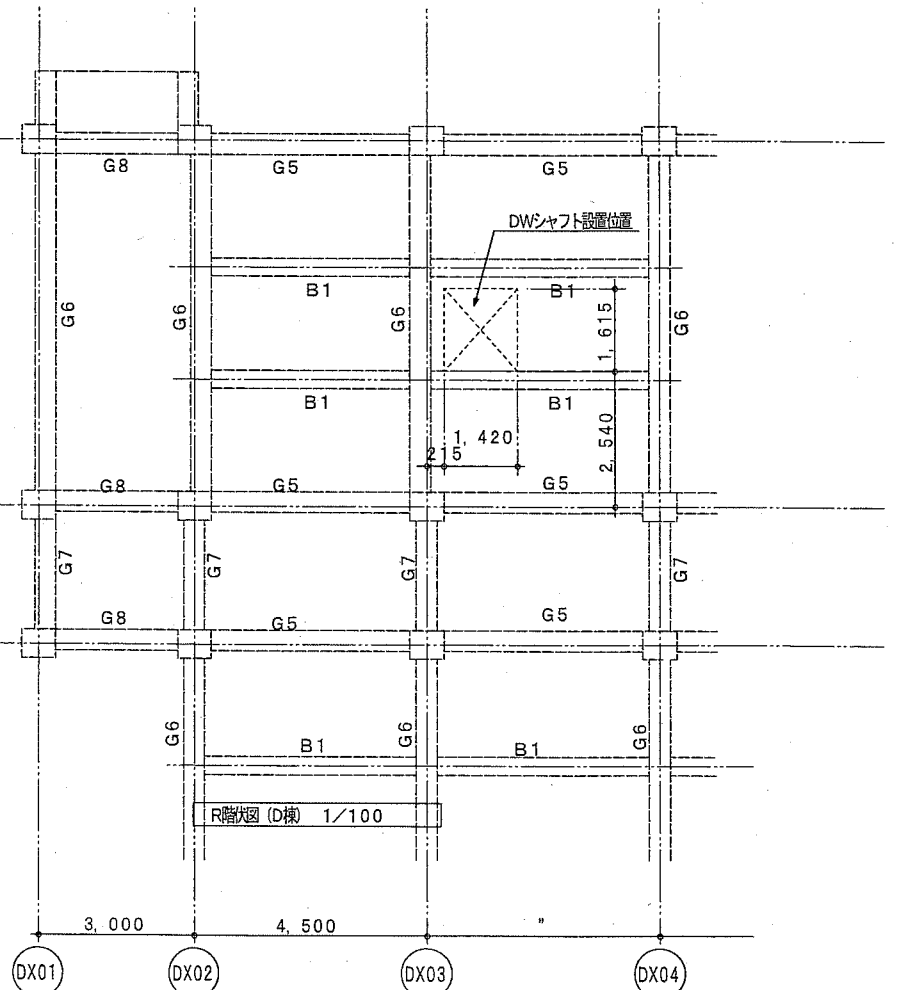
既存スラブ厚さ  $t=120$ mm

・床開口施工手順

1. 床開口寸法+200mm以上 (片側) でコンクリートを撤去する。コンクリートを新る前に、カッターで両面に切り込みを入れ、ひび割れが入らないよう、また、鉄筋を切断しないようにすること。
2. 鉄筋は新設コンクリート (モルタル) 部への定着部分を残して切断する。
3. 増設S梁がある場合は、中ボルトを用いて設置する。
4. 既存鉄筋及び新設の鉄筋を加工配置する。
5. 清掃のち、型枠を設置する。
6. 壁型枠上端に、無収縮モルタル充填用の投入口を設ける。
7. 無収縮モルタルを充填する。

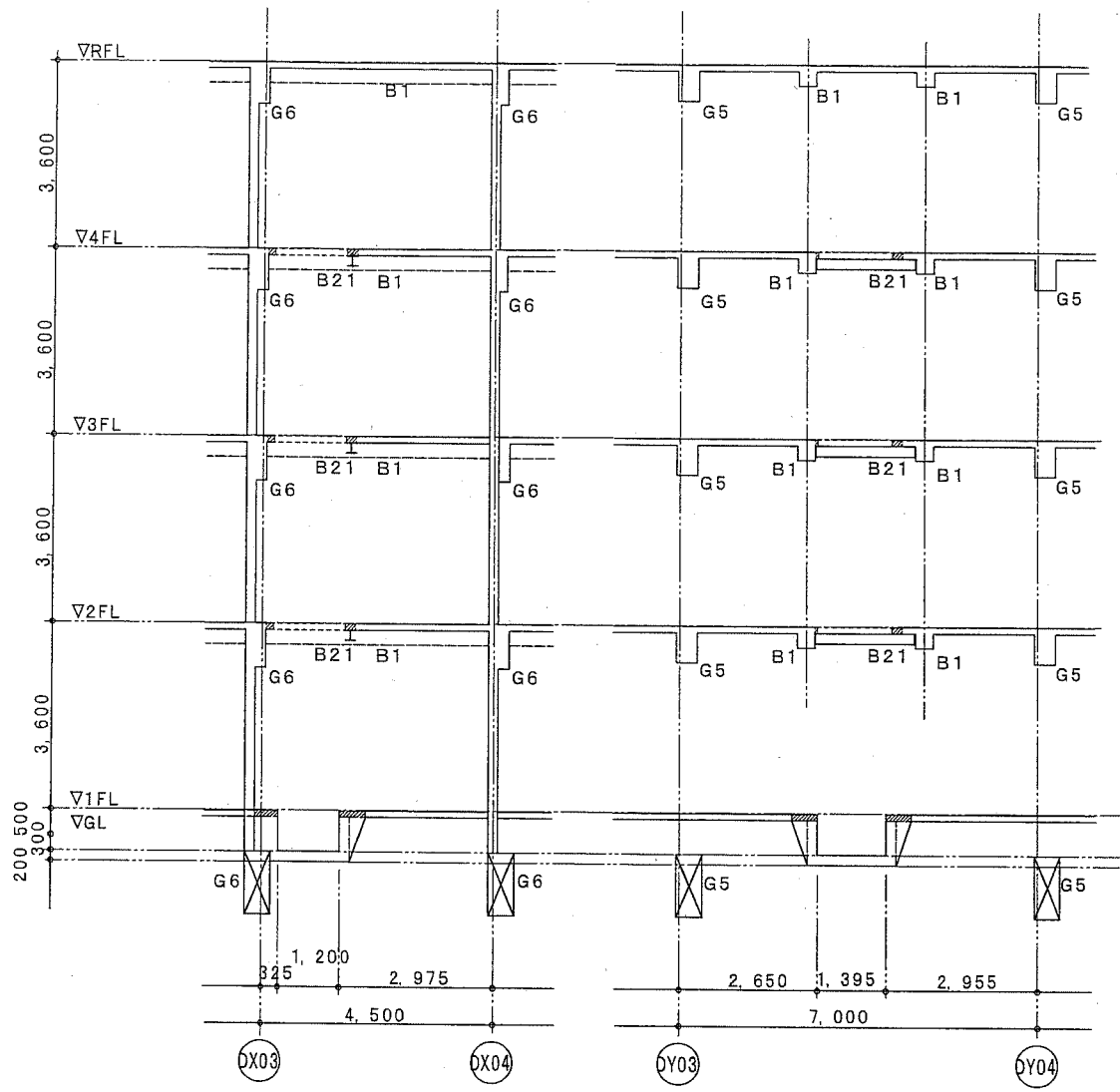
・中ボルト施工手順

1. ボルト用穴をドリル空ける。
2. 鉄骨受け梁 (ベースプレート) を設置する。
3. ボルトを設置する。
4. 無収縮モルタル充填用の注入口を設け、周囲をシーリングする。
5. 無収縮モルタルを充填する。



公共建築課長 主査等 担当者  
 横須賀市 都市部 公共建築課  
 設計年月日 平成 31年 2月

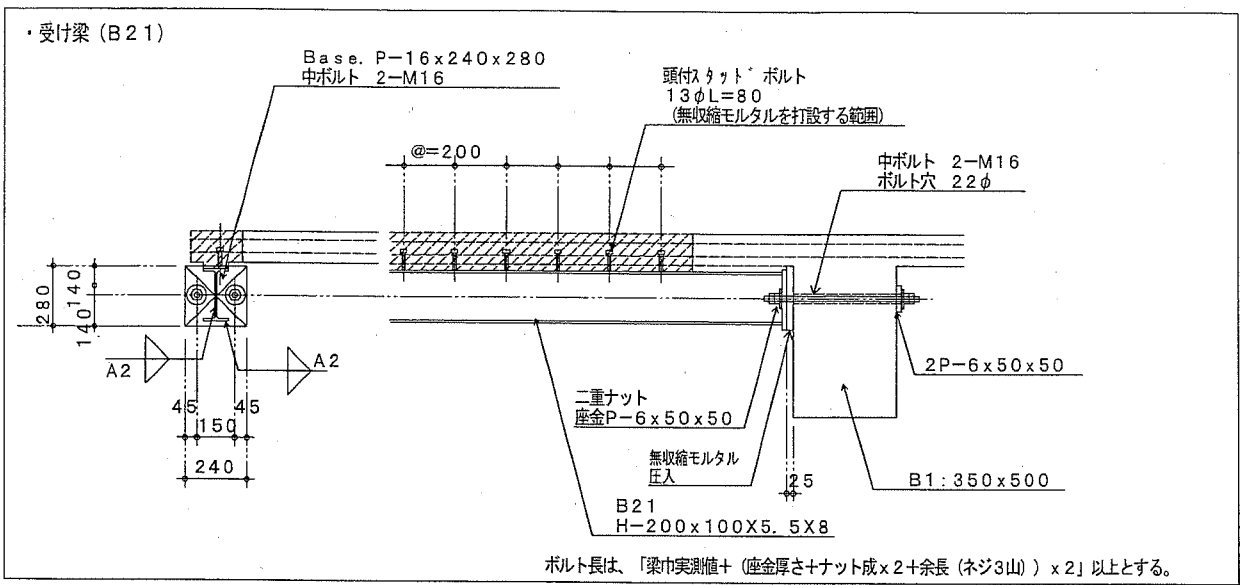
設計名称 市立衣笠中学校昇降階段設置工事  
 図面名称 基礎・2, 3, 4, R階伏図 (D棟) (DW改修用)  
 縮尺 1:100



軸組図 (c断面) D棟 1/100

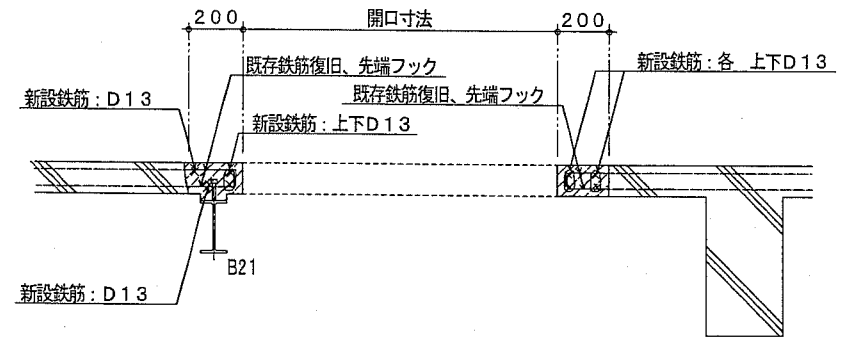
軸組図 (d断面) D棟 1/100

鉄骨受け梁・端部及びシャココネクタ詳細図 1/20

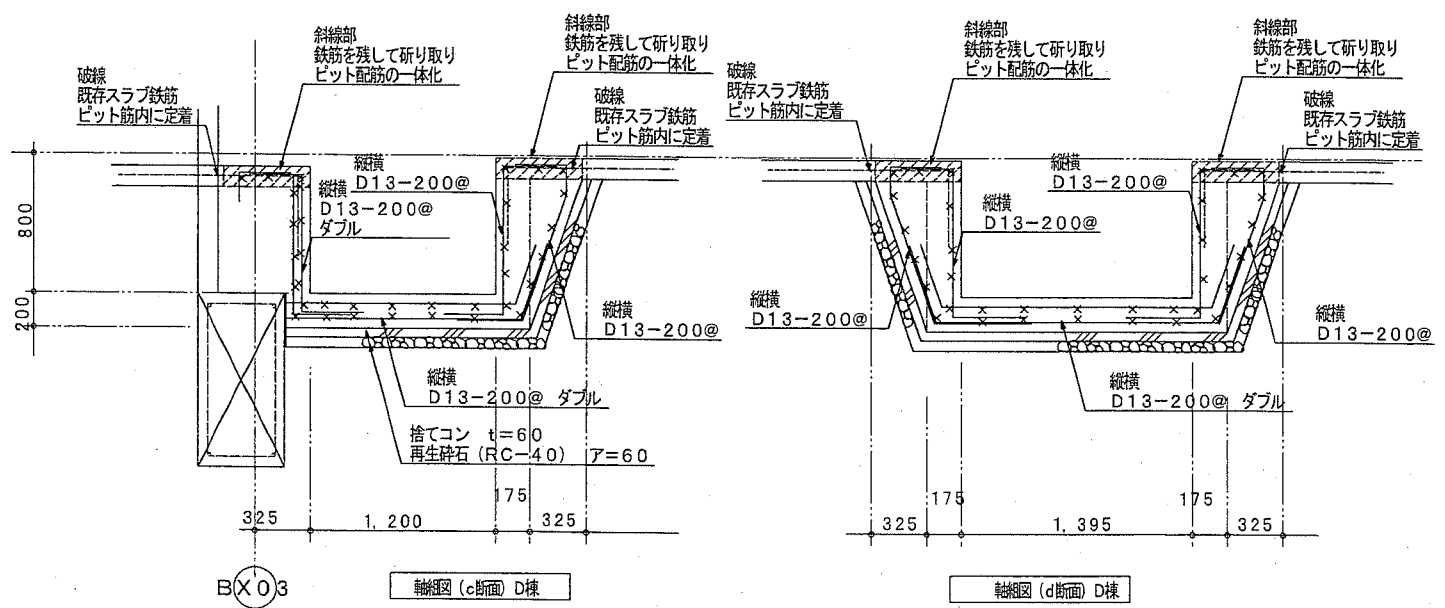


ボルト長は、「梁巾実測値+（座金厚さ+ナット成×2+余長（ネジ3山））×2」以上とする。

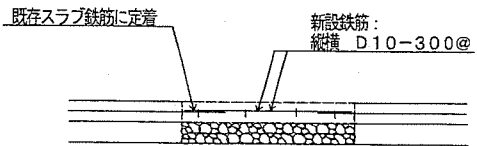
2, 3, 4階DWシャフト詳細図 1/20



DWピット増設詳細図 (D棟) 1/30

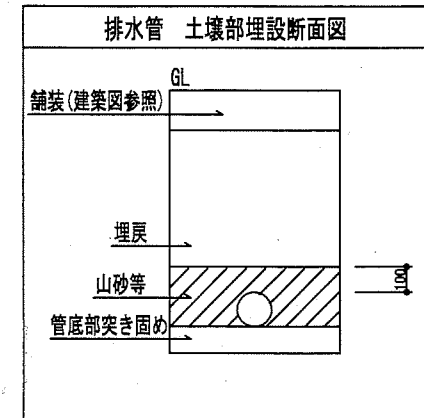


土間スラブ改修部復旧詳細図 1/30



換気機器												
機器番号	名称	機器仕様	機器能力		電源容量		ウェザーカバー	防露	NIB仕様の有無	台数	設置場所	備考
			風量 (m3/h)	静圧 (Pa)	相 (φ)	電圧 (V)						
F-1	換気扇	φ200壁取付	450	40	1-100	●	●	●	1	B棟 1階 荷受室	学校用	
F-2	換気扇	φ200壁取付	450	40	1-100	●	●	●	1	A棟 1階 配膳室1	学校用	
F-3	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	D棟 1階 配膳室2	学校用	
F-4	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	A棟 2階 配膳室1	学校用	
F-5	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	D棟 2階 配膳室2	学校用	
F-6	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	A棟 3階 配膳室1	学校用	
F-7	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	D棟 3階 配膳室2	学校用	
F-8	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	A棟 4階 配膳室1	学校用	
F-9	換気扇	φ200壁取付	400	40	1-100	●	●	●	1	D棟 4階 配膳室2	学校用	

【特記】 1.機器類の能力・容量は表示された能力以上とする。 4.スイッチは別途工事  
2.電源周波数は50Hzとする。  
3.ウェザーカバーはステンレス製とする。



器具表														
名称	(A社) 参考型番	(B社) 参考型番	付属品	B棟 1階 荷受室	A棟 1階 配膳室	A棟 2階 配膳室	A棟 3階 配膳室	A棟 4階 配膳室	D棟 1階 配膳室	D棟 2階 配膳室	D棟 3階 配膳室	D棟 4階 配膳室	計	備考
洗面器	L210C	L-176UEC	自動水栓、Pトラップ、壁給水	1									1	
自在水栓	T131SUN13C	LF-16F-13		1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	

凡例				
記号	名称	施工場所	材料	保温防食塗装
---	給水管	屋内隠蔽	SUS-C	保温防食塗装
			SGP-VB	グラスウール+ALGC(c2,(□),Ⅶ)
		屋外露出	SGP-VB	ポリスチレンフォーム+SUSラッキング(e2・(Ⅱ)・Ⅶ)
---	排水管	屋内隠蔽	SUS-C	-
		屋外露出	VP	グラスウール+ALGC(c2,(□),Ⅶ)
			カラーVP	-
		土間(第一樹まで)	VP	管底より環状部100mmまで山砂(管底は突き固め)
	埋設	VU	管底より環状部100mmまで山砂(管底は突き固め)	
---	湯水管	屋内隠蔽	SGP-VB	グラスウール+ALGC(c2,(□),Ⅶ)
		屋外露出	SGP-VB	ポリスチレンフォーム+SUSラッキング(e2・(Ⅱ)・Ⅶ)
-X-	消火管	屋内隠蔽	SGP-白	-
		屋外露出	SGP-白	ロックウール+SUSラッキング
-G-	ガス管		カラー銅管	-

記号	名称	施工場所	材料	保温防食塗装
○	井			
□	単水栓			
— —	既設配管切断・接続			

※給水管の異種管接続には電蝕防止継手を用いること。

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

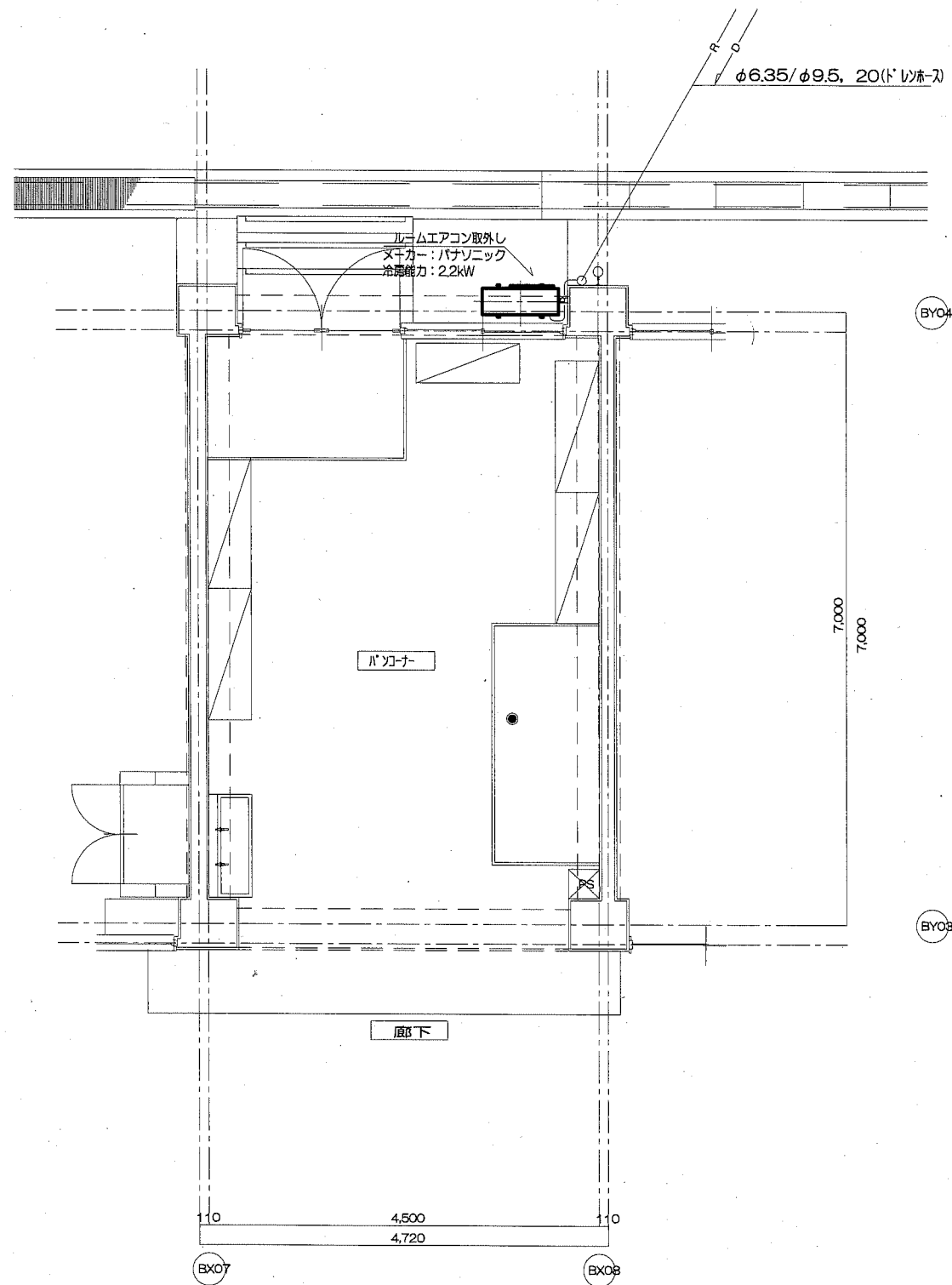
設計名称  
NAME OF PROJECT  
市立衣笠中学校昇降機設置工事その他工事

図面名称  
ITEM OF DRAWING  
機器表

縮尺  
SCALE  
N.S

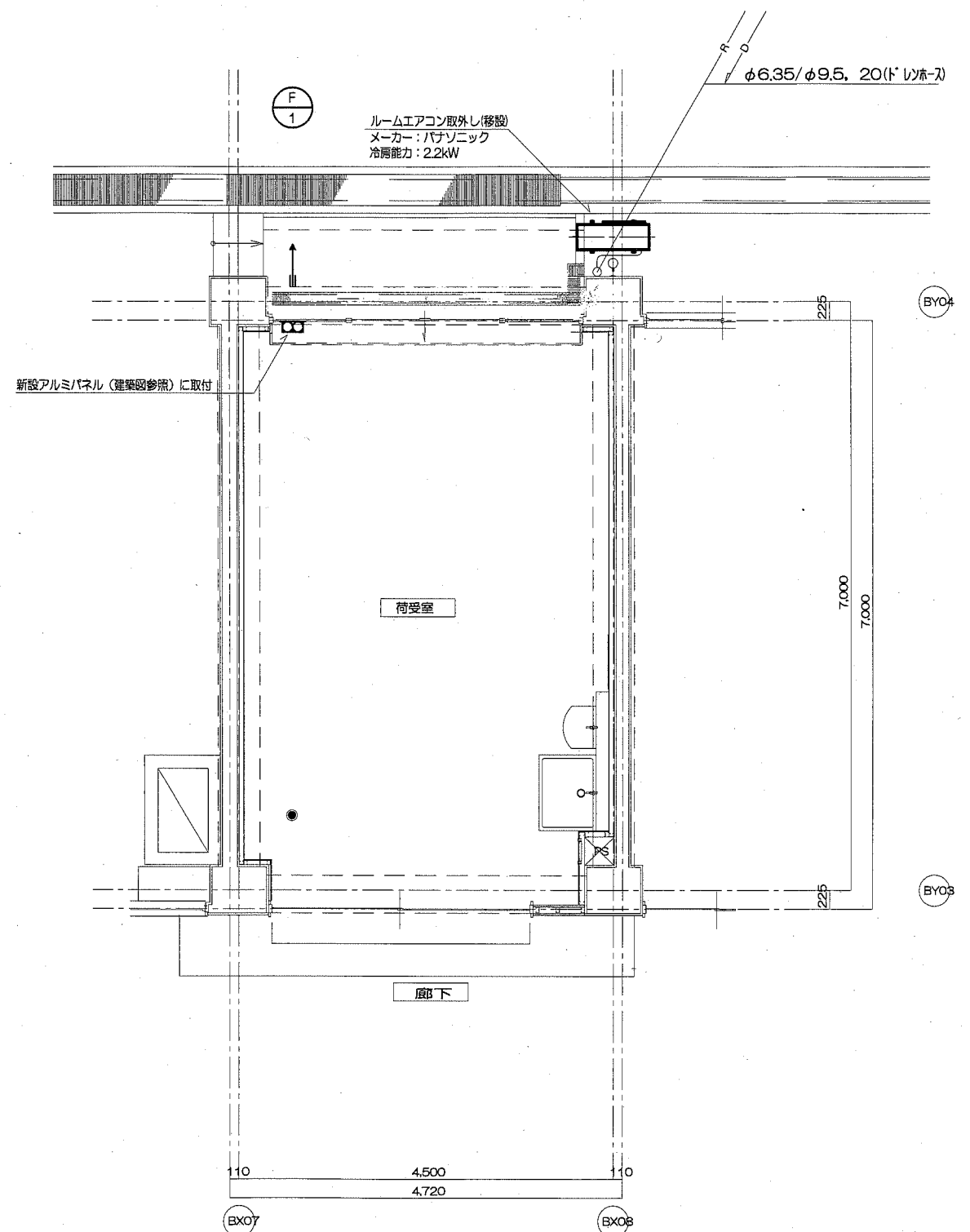
M-01

改修前



B棟1階平面図(改修前・パコナー)

改修後



B棟1階平面図(改修後・荷受室)

※移設を行う空調機は施設関係者立会いのもと  
工事着工前・復旧後に動作確認を行うこと。

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称  
市立衣笠中学校附属設置事業その他工事

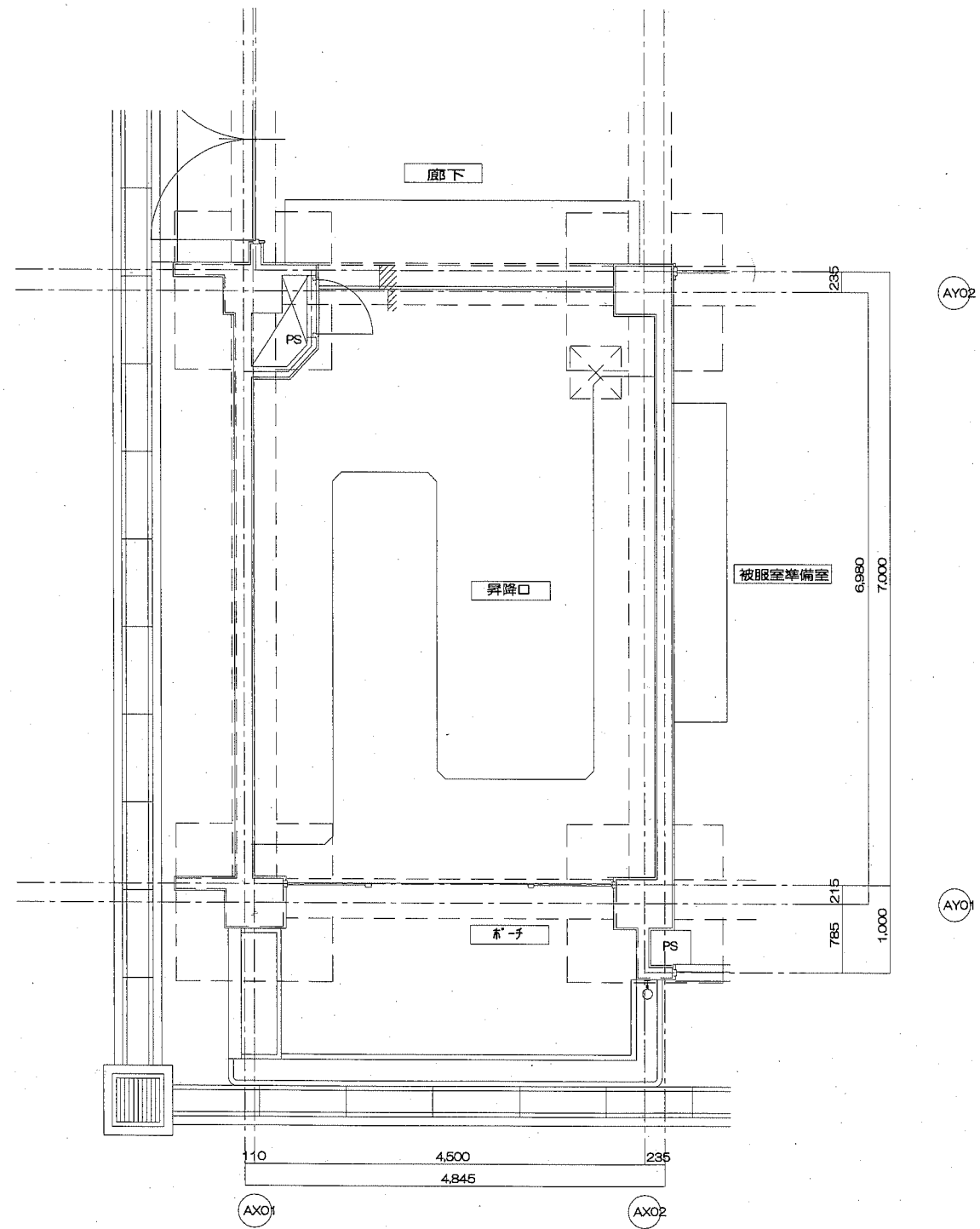
図面名称  
換気設備1階平面図【B棟】

縮尺 1:50

NO

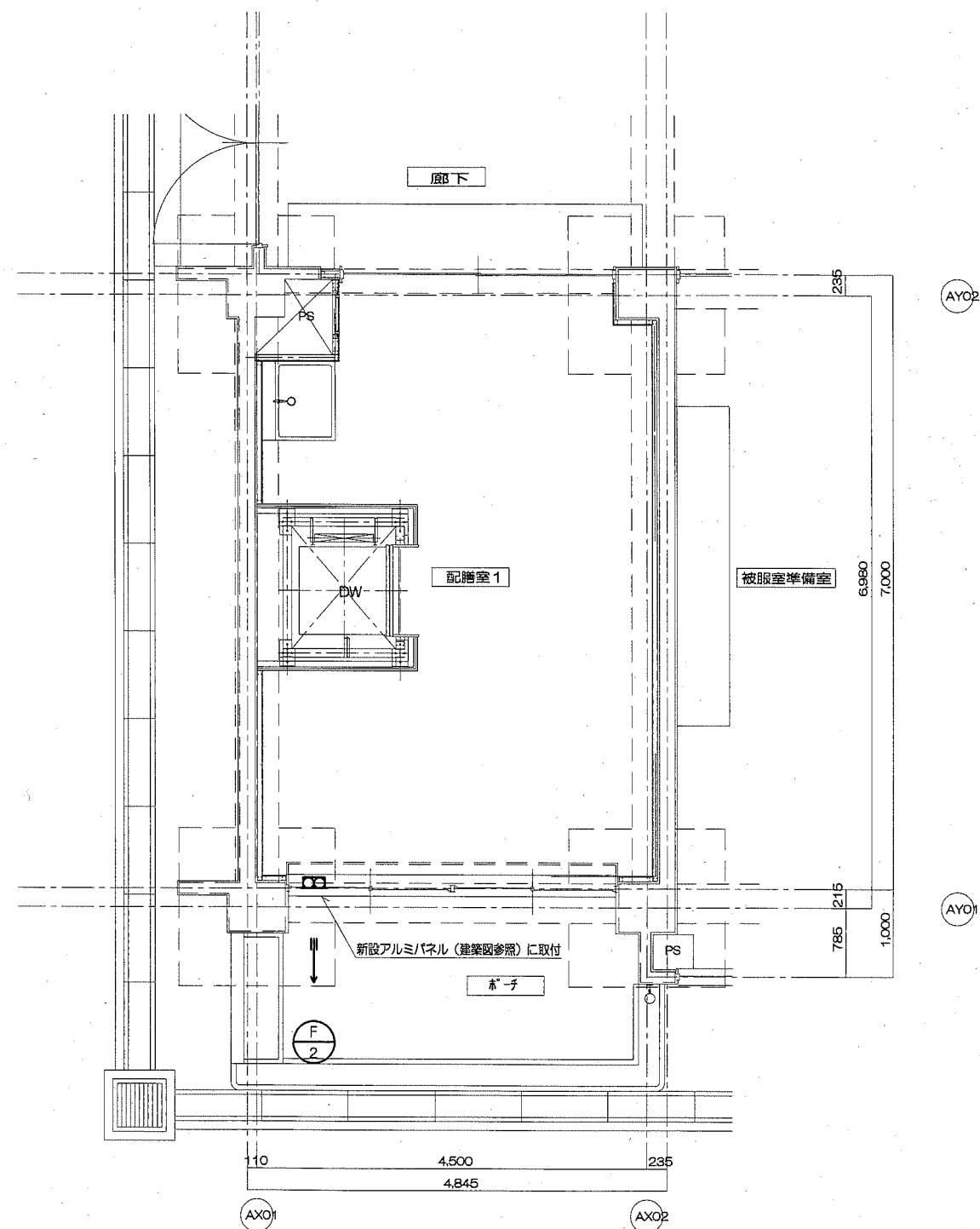
M-02

改修前



A棟1階平面図（改修前・昇降口）

改修後



A棟1階平面図（改修後・配膳室1）

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

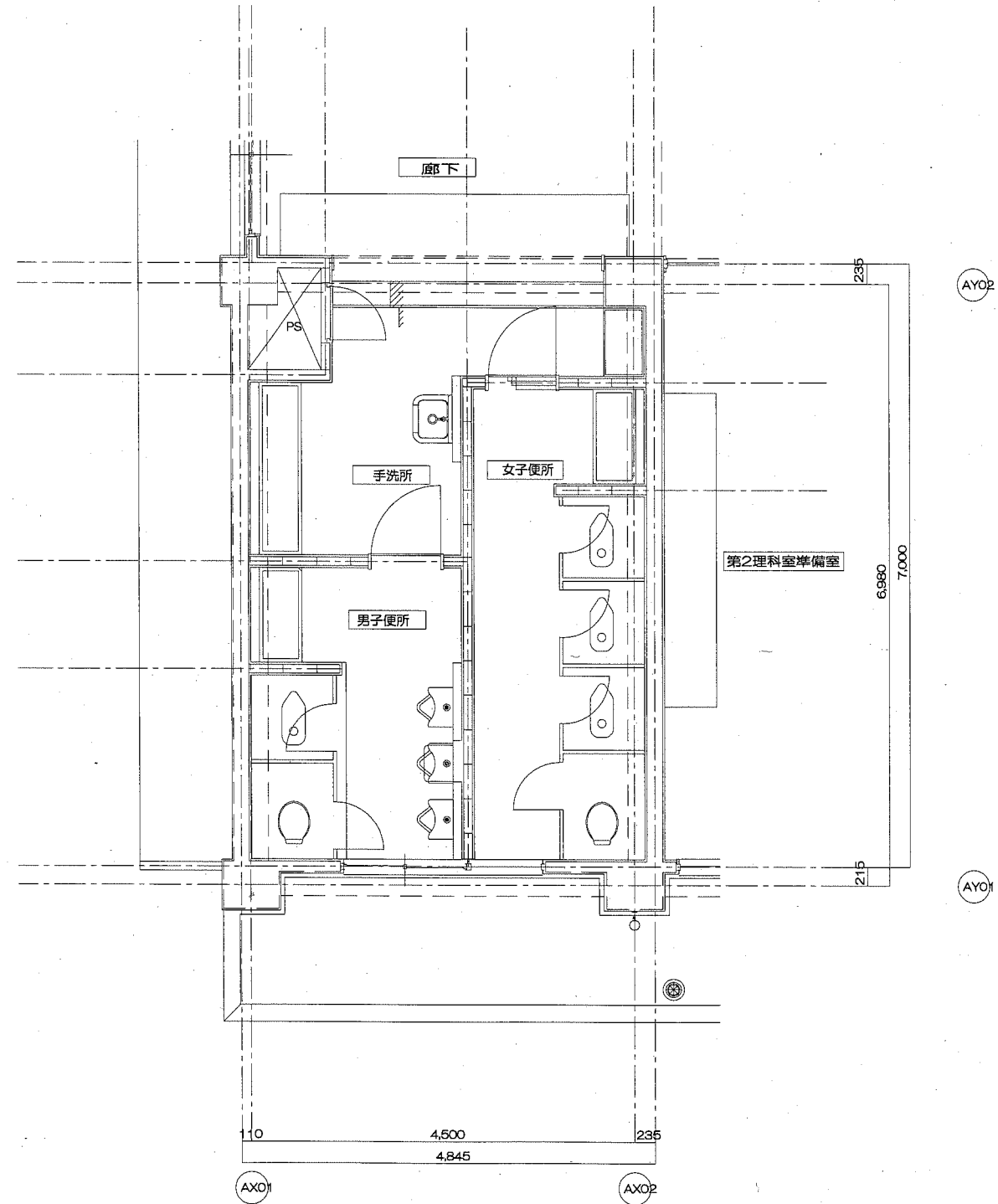
横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立衣笠中学校昇降口設置工事その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 1階平面図【A棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

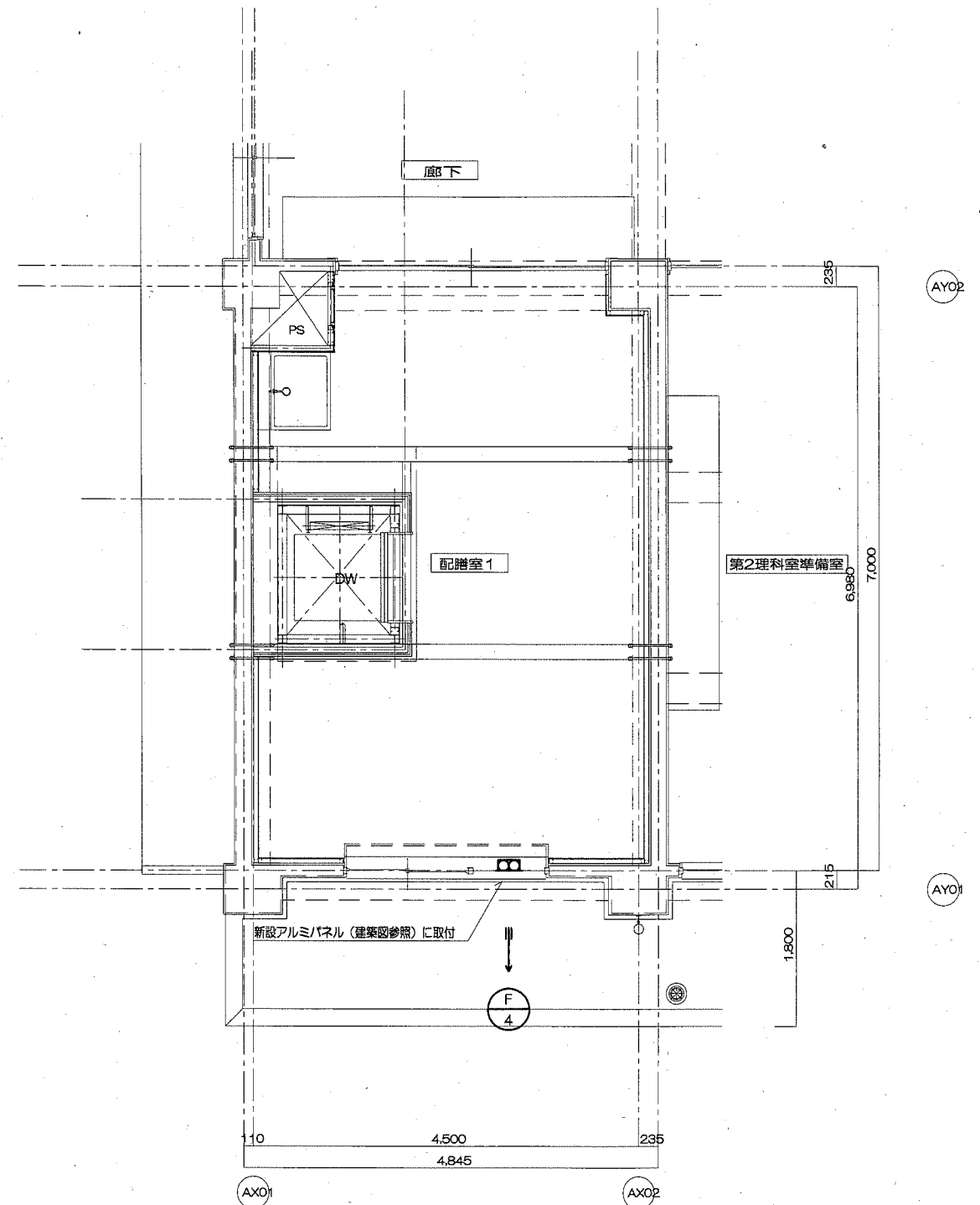
NO	M-03
----	------

改修前



A棟2階平面詳細図(改修前・便所)

改修後



A棟2階平面詳細図(改修後・配膳室1)

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

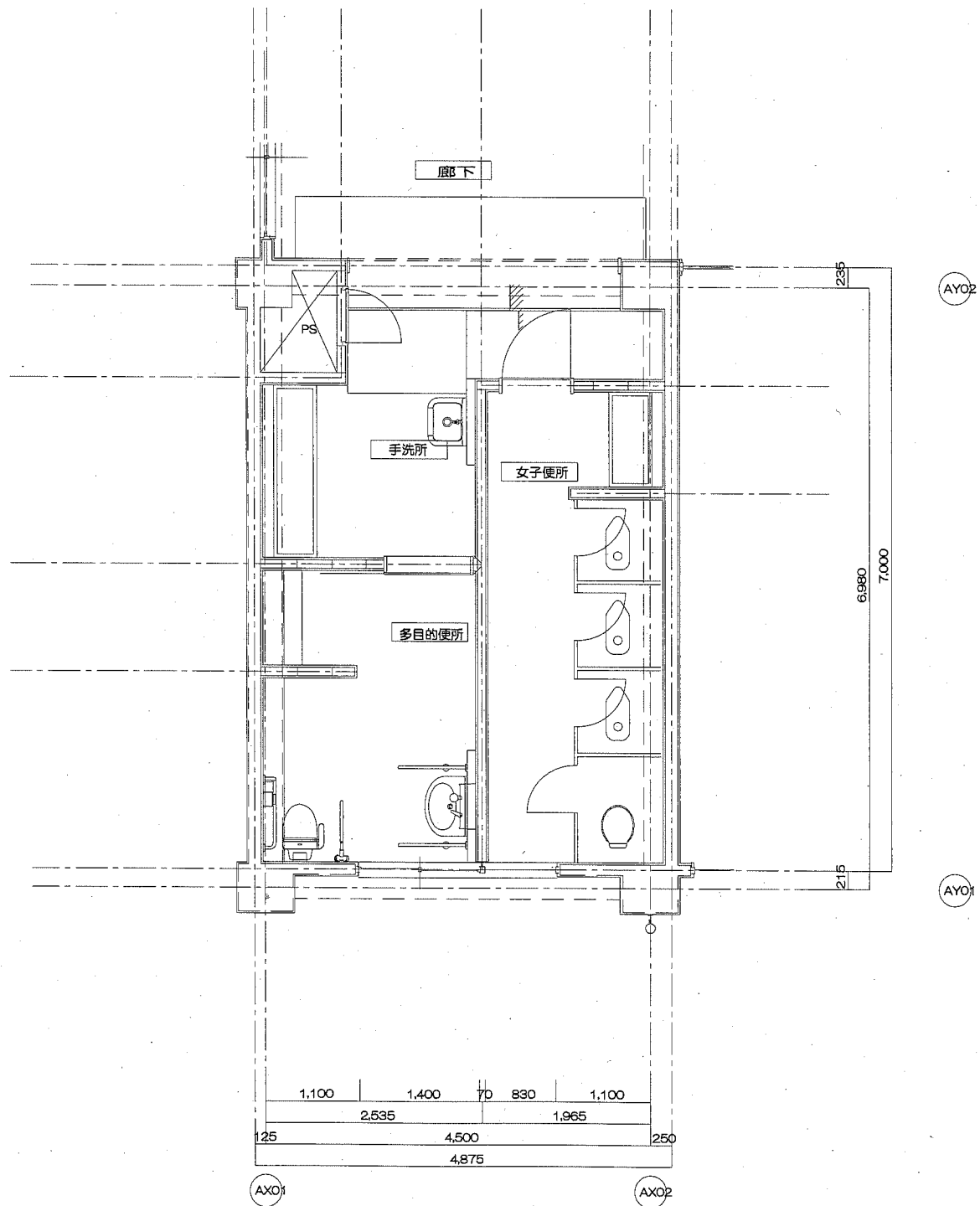
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立改修中学校附属施設整備事業その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 2階平面図【A棟】
PROJECT NUMBER	DRAWING NUMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 2階平面図【A棟】
SCALE	1 : 50

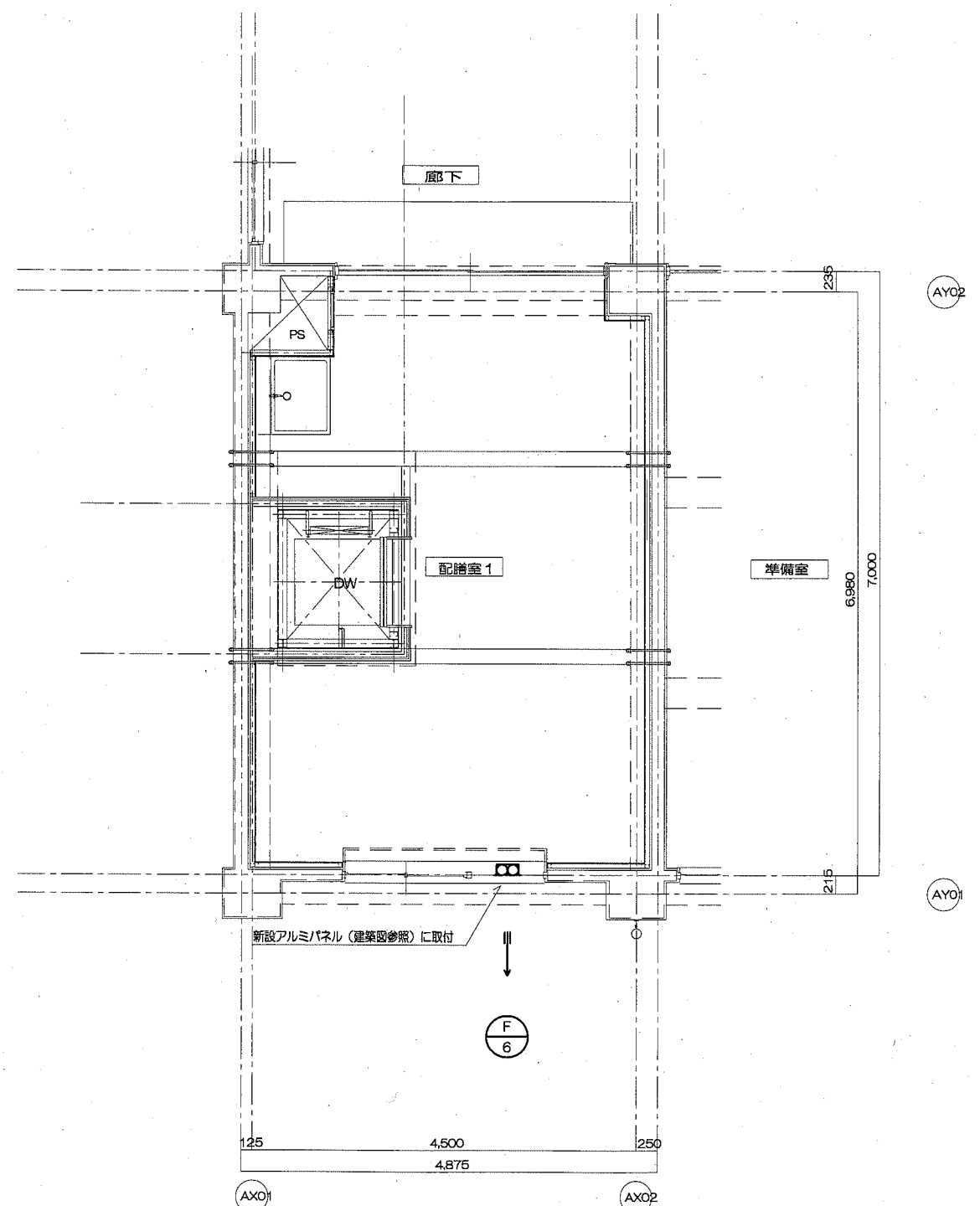
M-04

改修前



A棟3階平面図（改修前・便所）

改修後



A棟3階平面図（改修後・配膳室1）

公共建築課長	主査等	担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

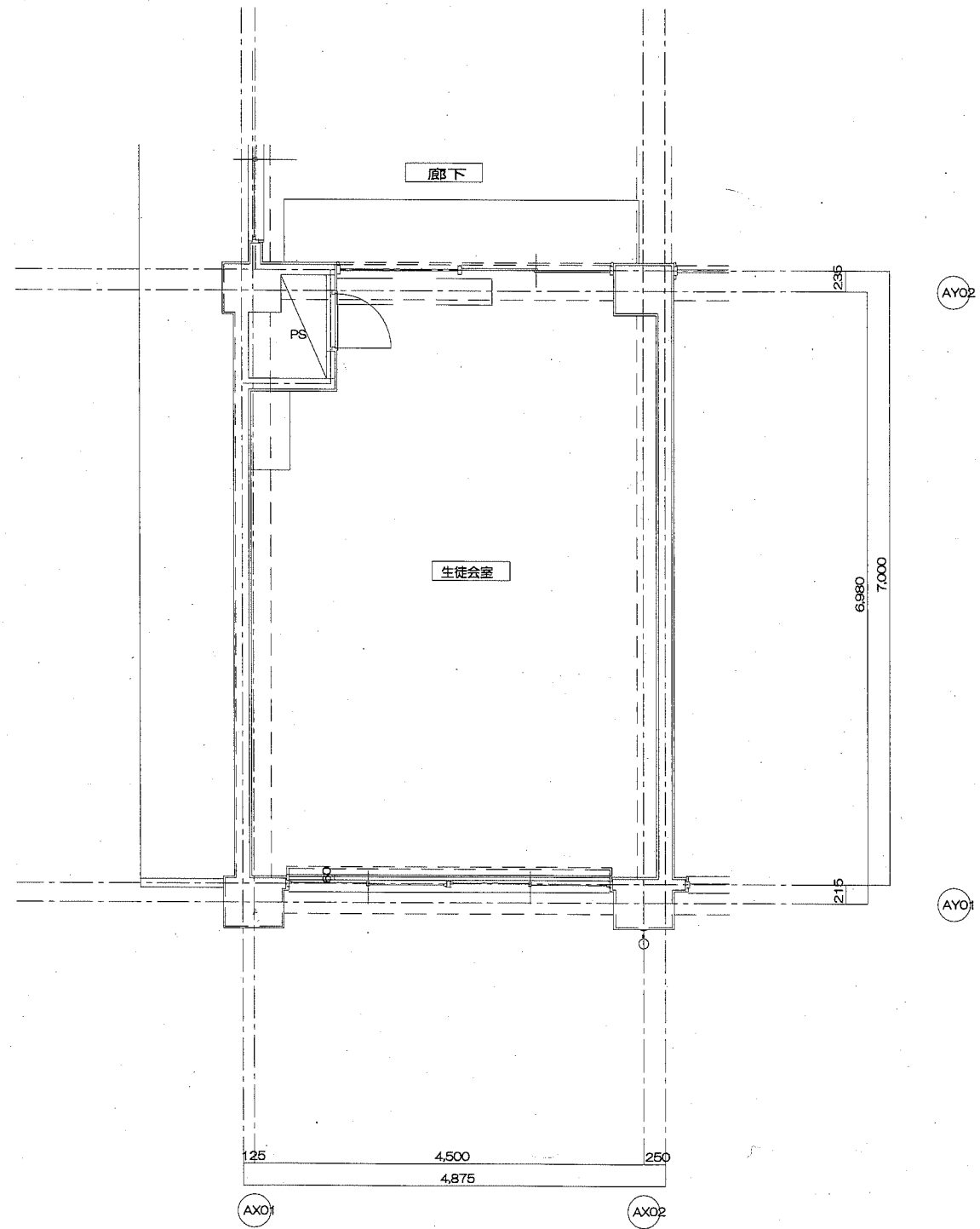
設計名称 NAME OF PROJECT	市立改訂中学校附属施設整備工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 3階平面図【A棟】
PROJECT NUMBER	
DRAWING NUMBER	

縮尺 SCALE	1 : 50
NO.	

M-05

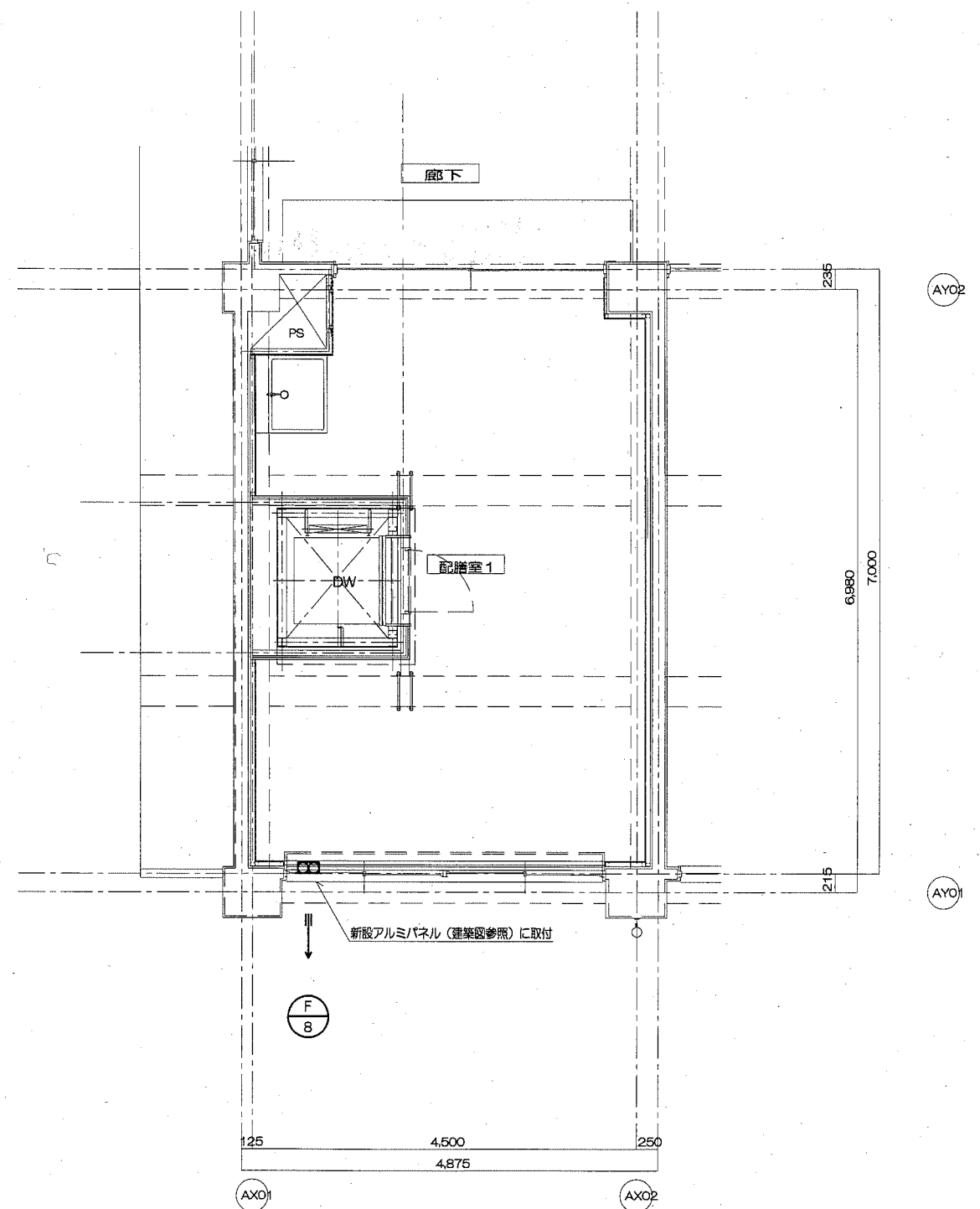


改修前



A棟4階平面図(改修前・生徒会室)

改修後



A棟4階平面図(改修後・配膳室1)

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

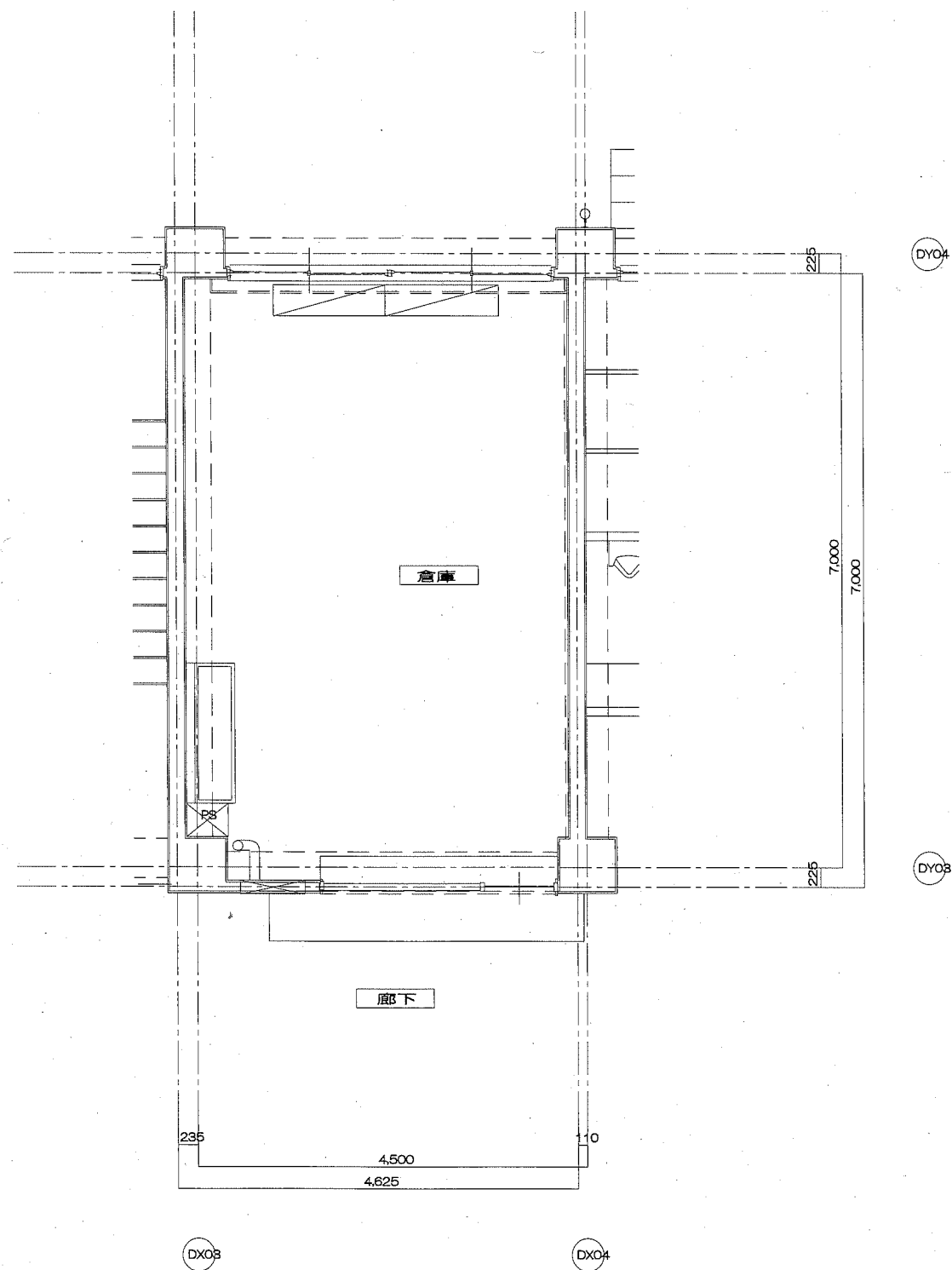
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立改定中学校界隈施設整備事業その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備4階平面図【A棟】
PROJECT NUMBER	縮尺 1:50
DRAWING NUMBER	SCALE

図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備4階平面図【A棟】
DRAWING NUMBER	縮尺 1:50
SCALE	

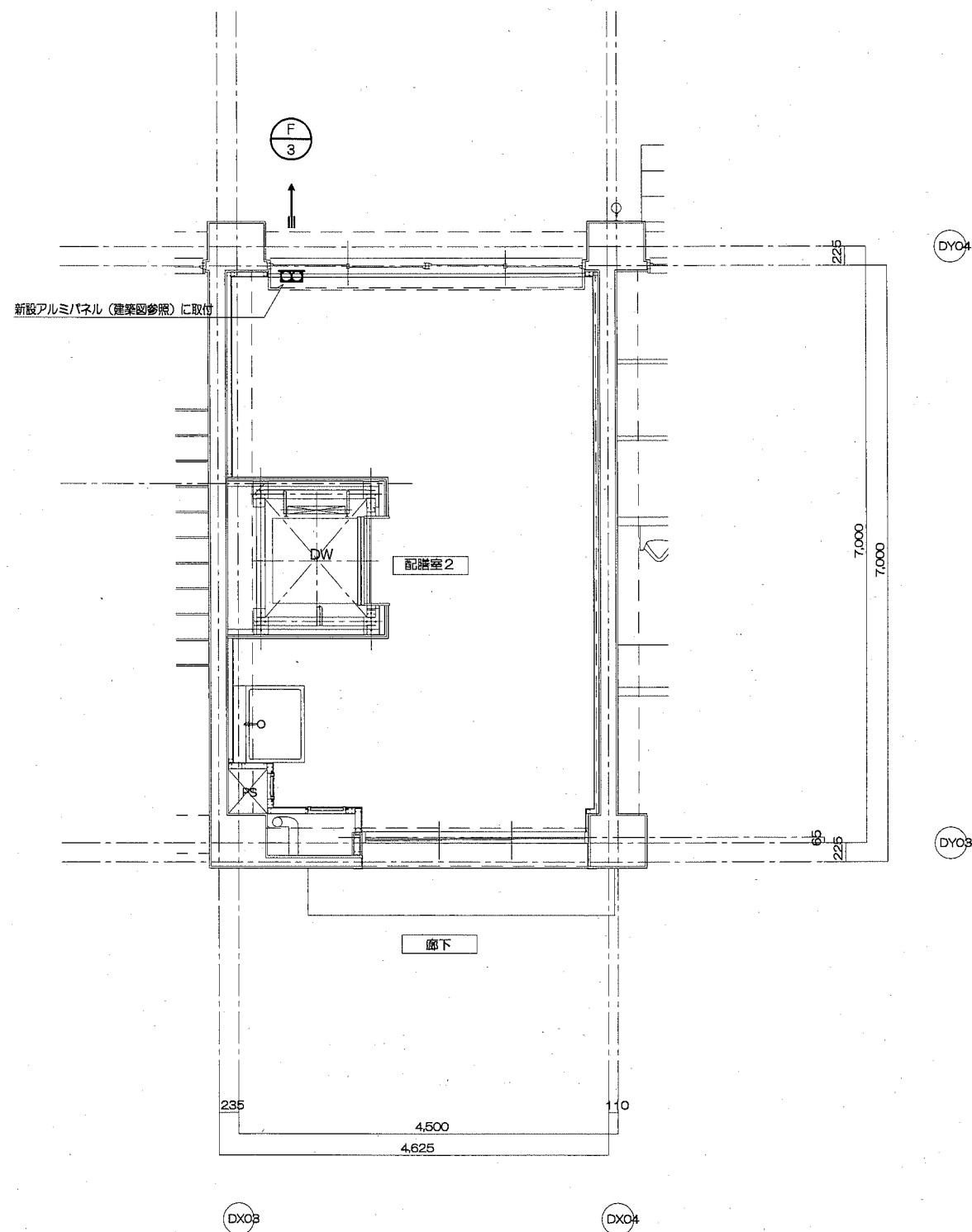
M-06

改修前



D棟1階平面図(改修前・倉庫)

改修後



D棟1階平面図(改修後・配膳室2)

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

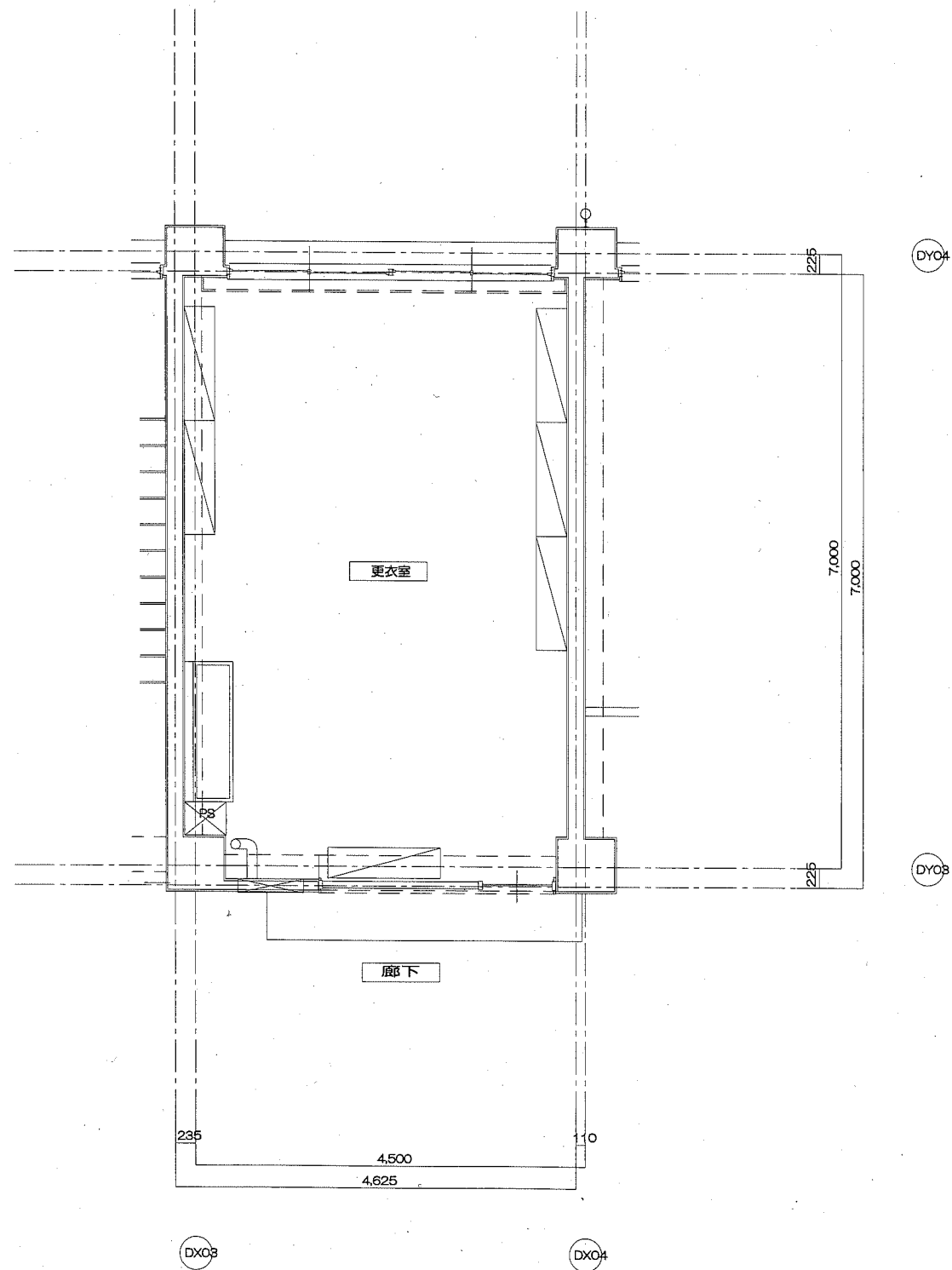
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立衣笠中学校更新整備設置業務その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備1階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備1階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

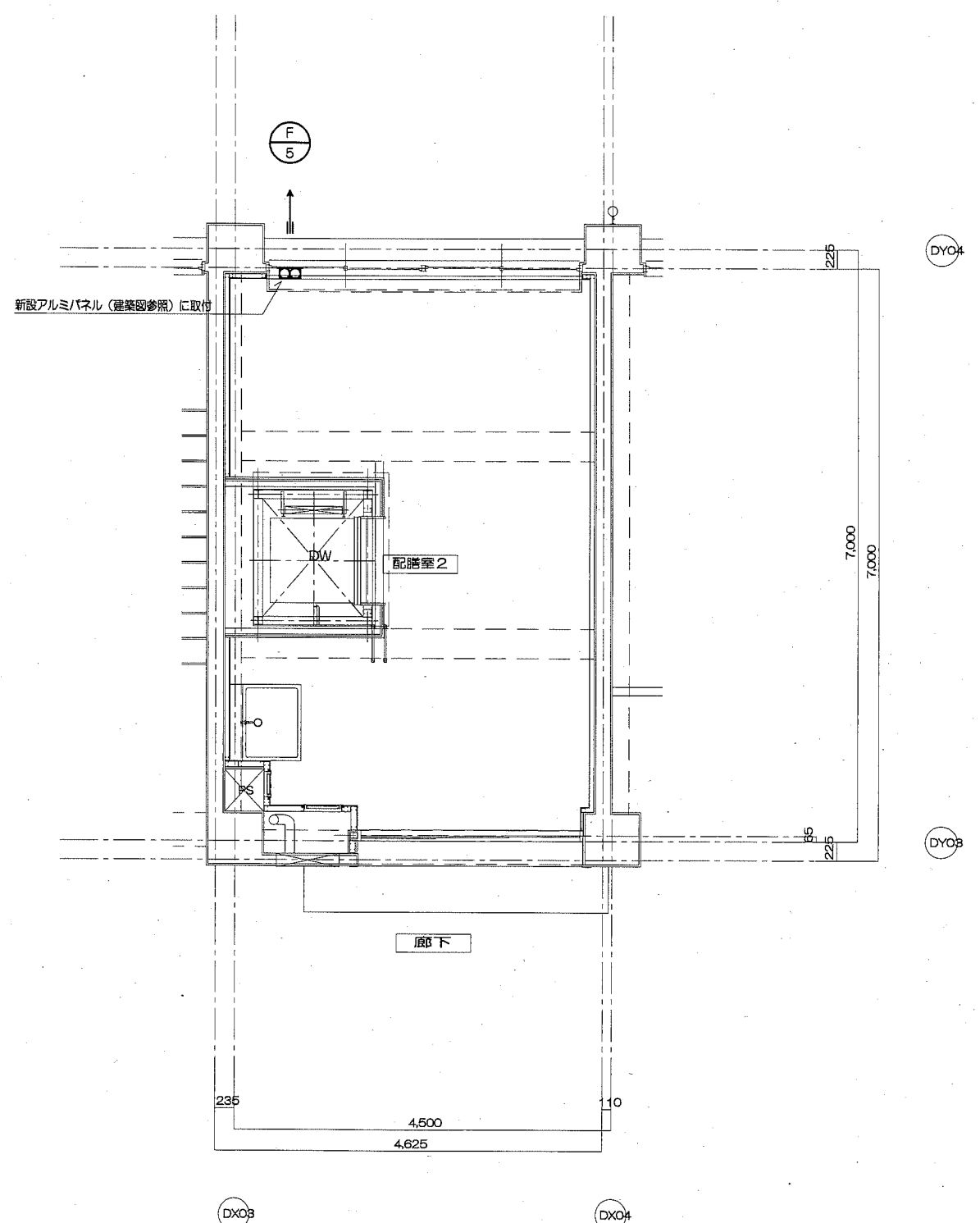
M-07

改修前



D棟2階平面図（改修前・更衣室）

改修後



D棟2階平面図（改修後・配膳室2）

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31 年 2 月

設計名称

市立次笠中学校界隈施設整備事業その他工事

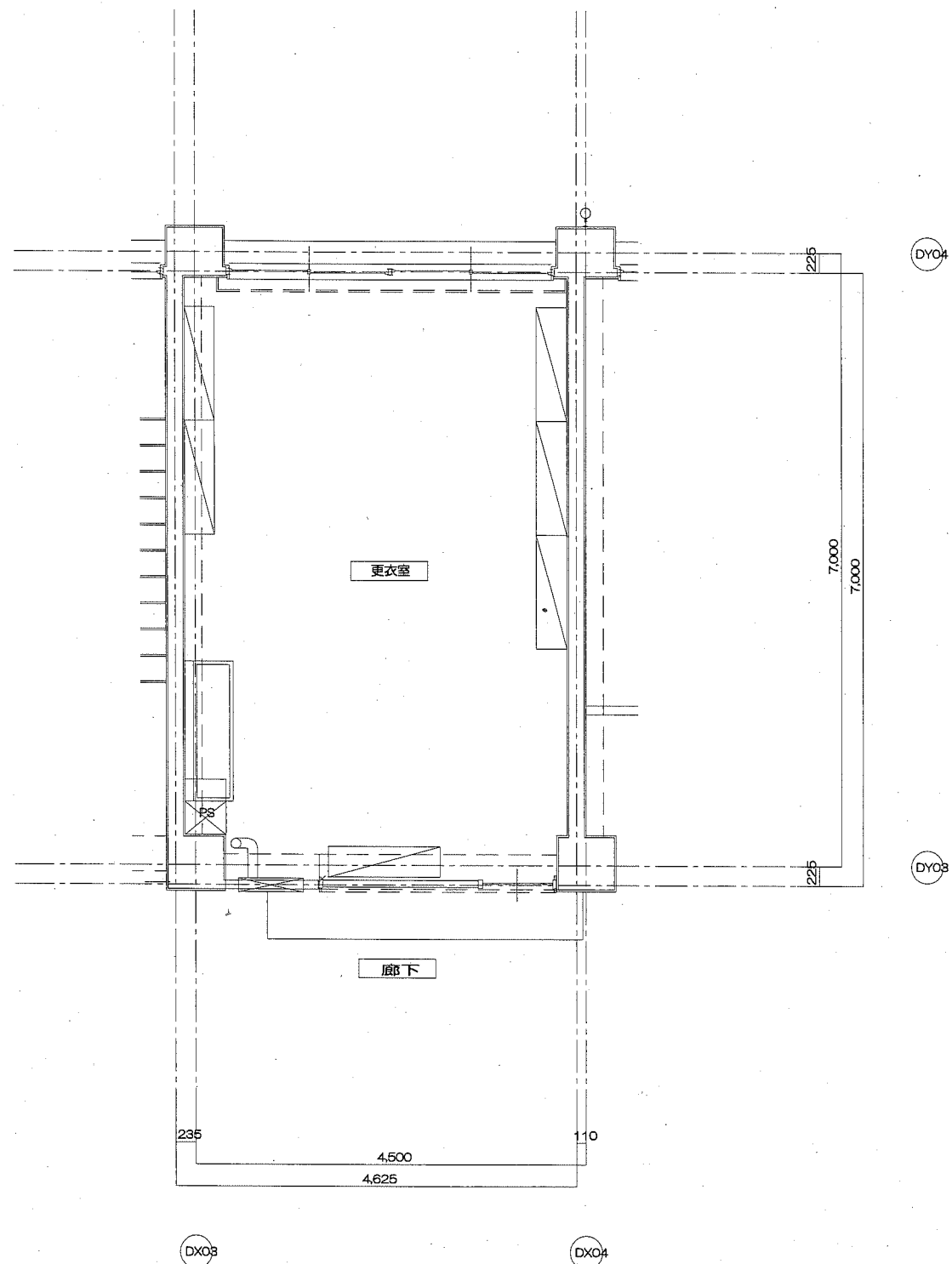
図面名称

換気設備2階平面図【D棟】

縮尺 1 : 50

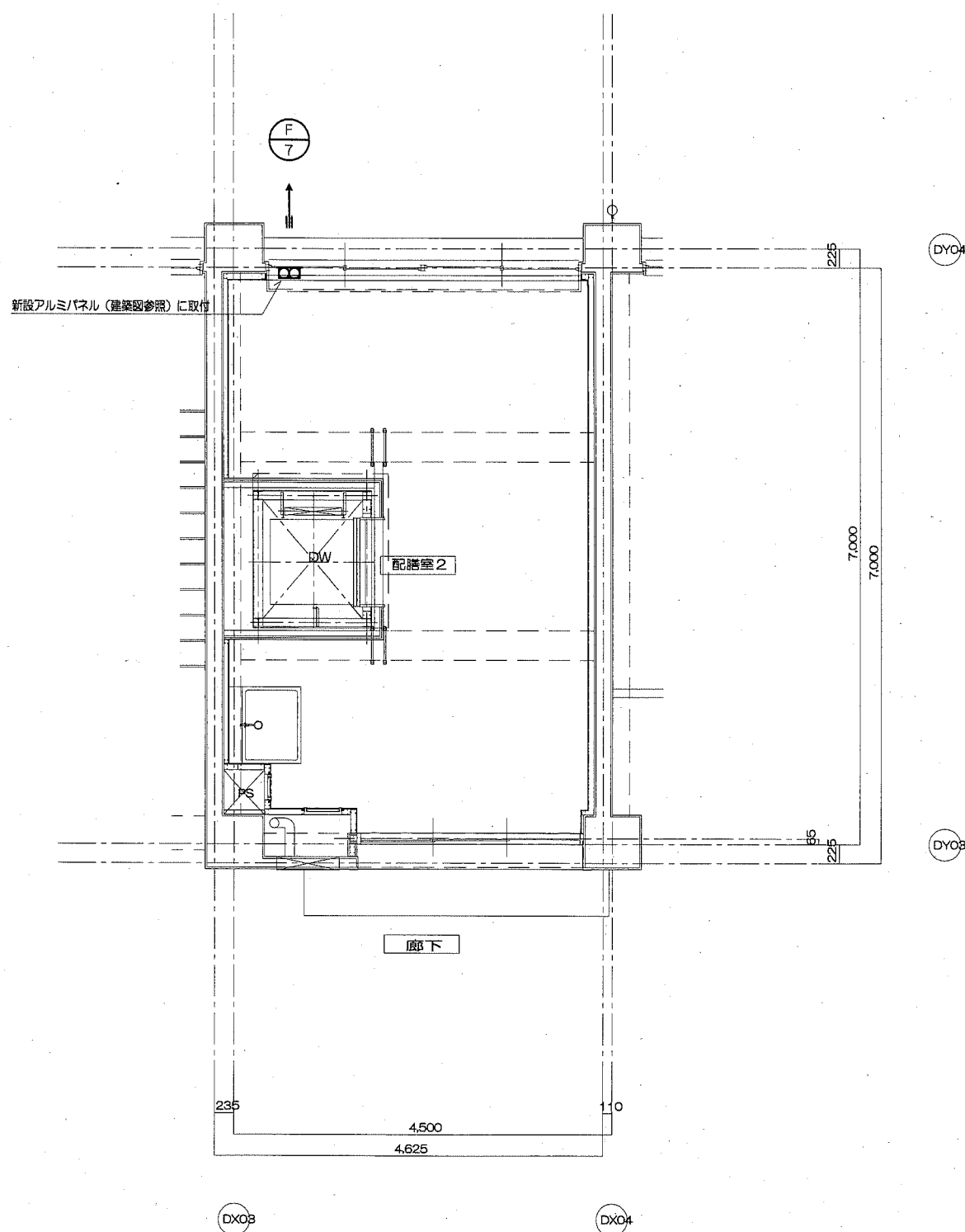
M-08

改修前



D棟3階平面図（改修前・更衣室）

改修後



D棟3階平面図（改修後・配膳室2）

公共建築課長	主査等	担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

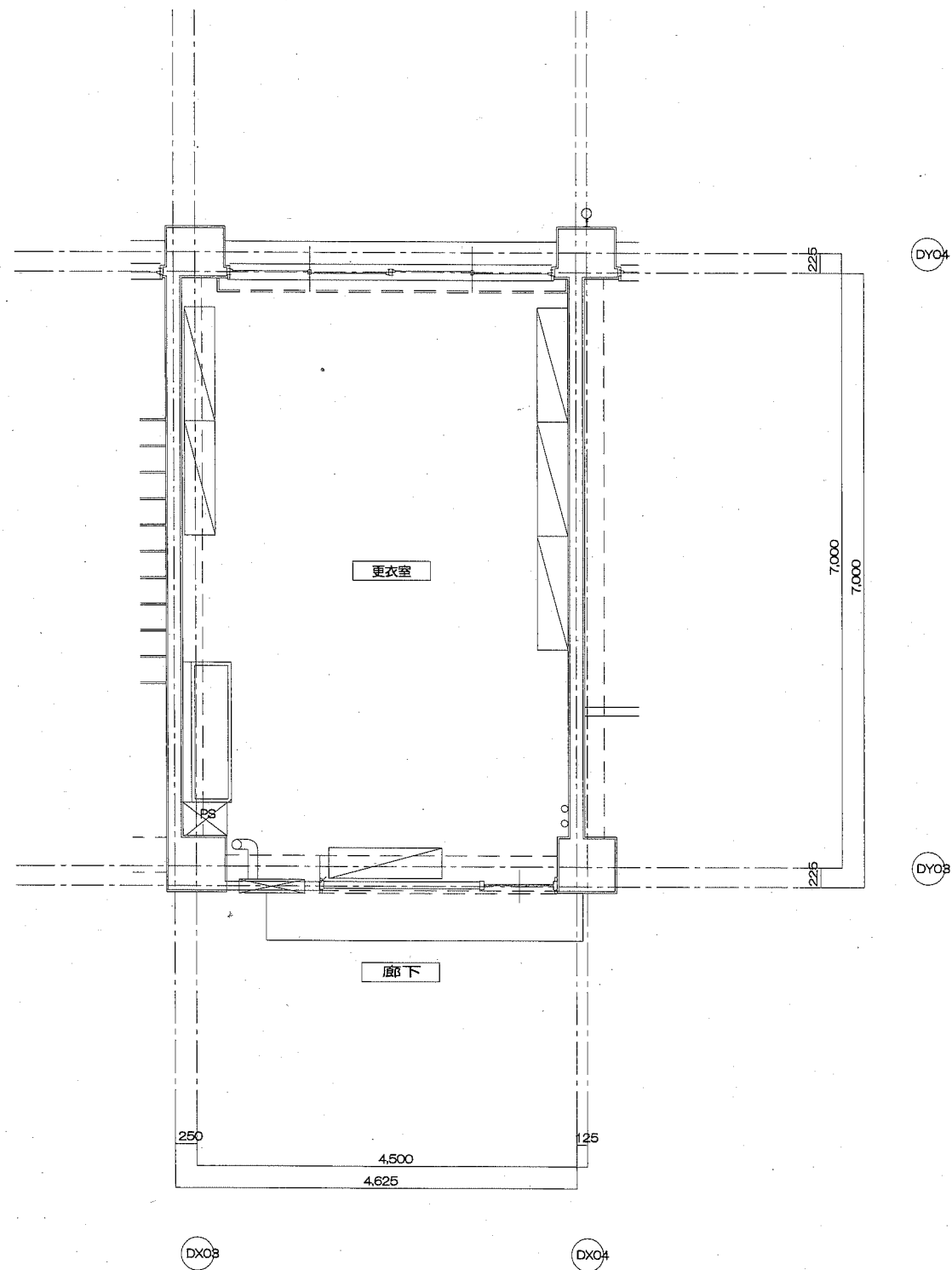
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立改修中学校野球場施設更新等その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 3階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 3階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

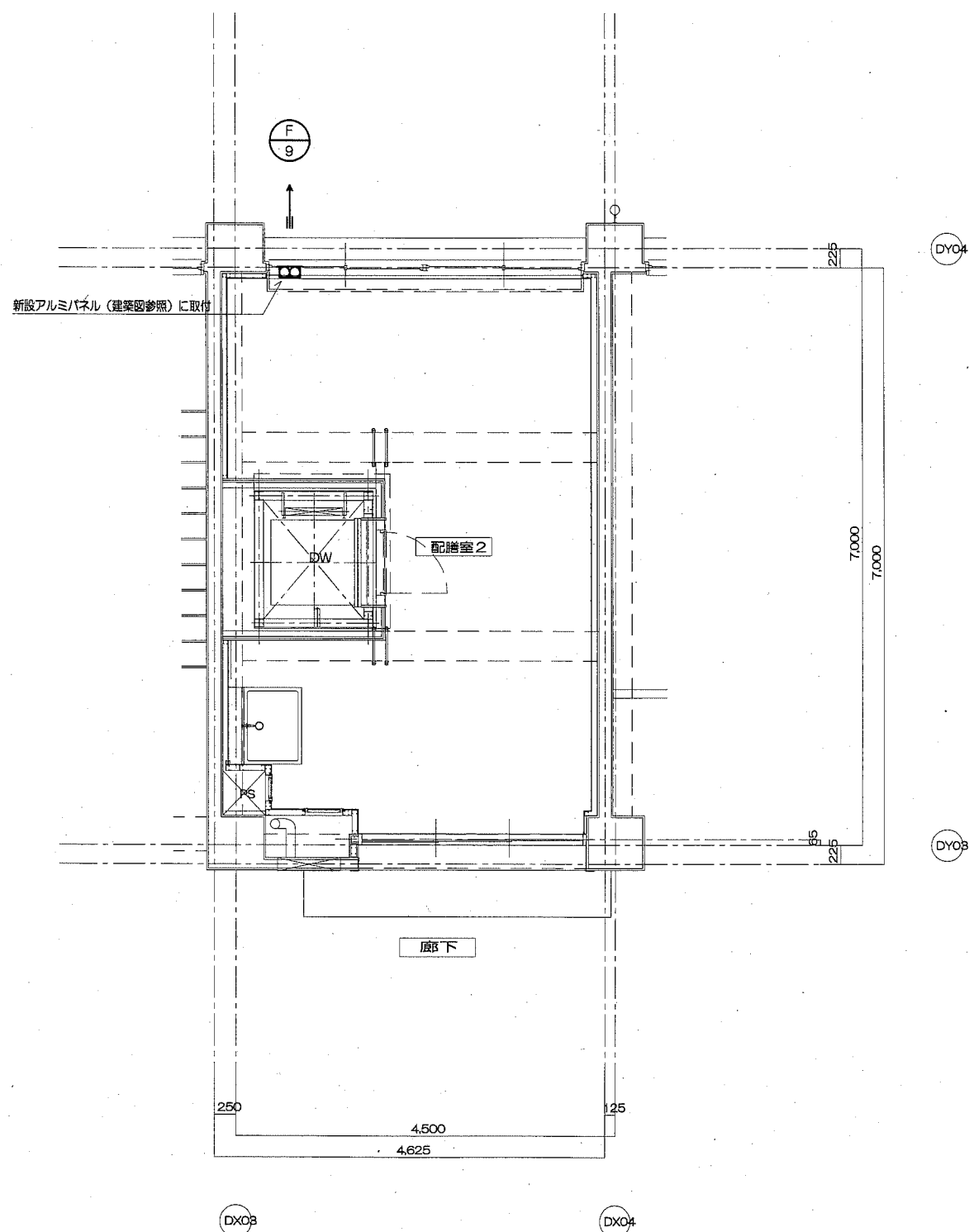
M-09

改修前



D棟4階平面図（改修前・更衣室）

改修後



D棟4階平面図（改修後・配膳室2）

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

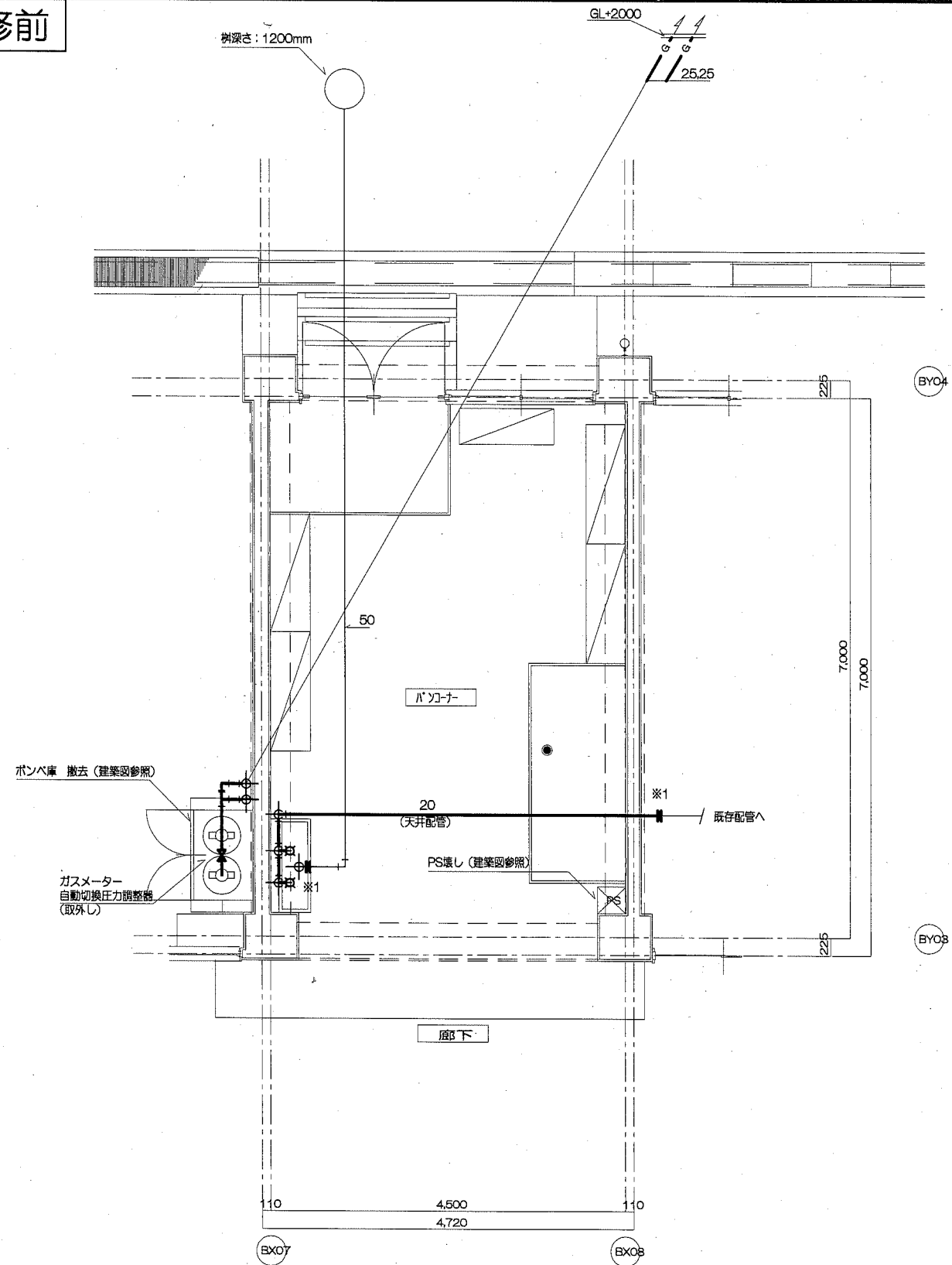
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立次宮中学校昇降機設置工事その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 4階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

図面名称 ITEM OF DRAWING	換気設備 4階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

M-10

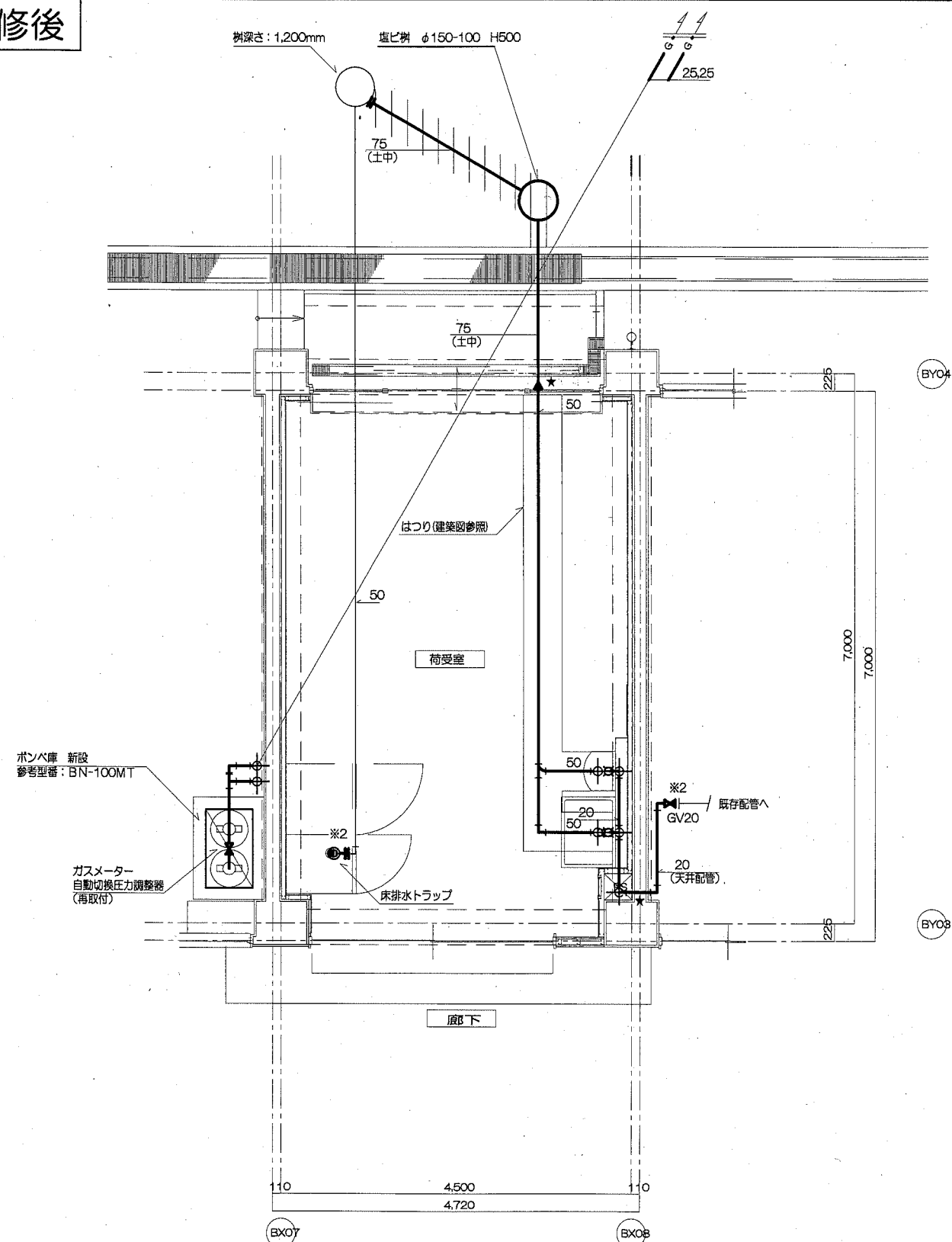
改修前



B棟1階平面図(改修前・バソナー)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



B棟1階平面図(改修後・荷受室)

- 1) 特記なきは床下配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) //部は舗装を示す。(建築図参照)
- 5) ★は配管貫通口はつり補修を示す。

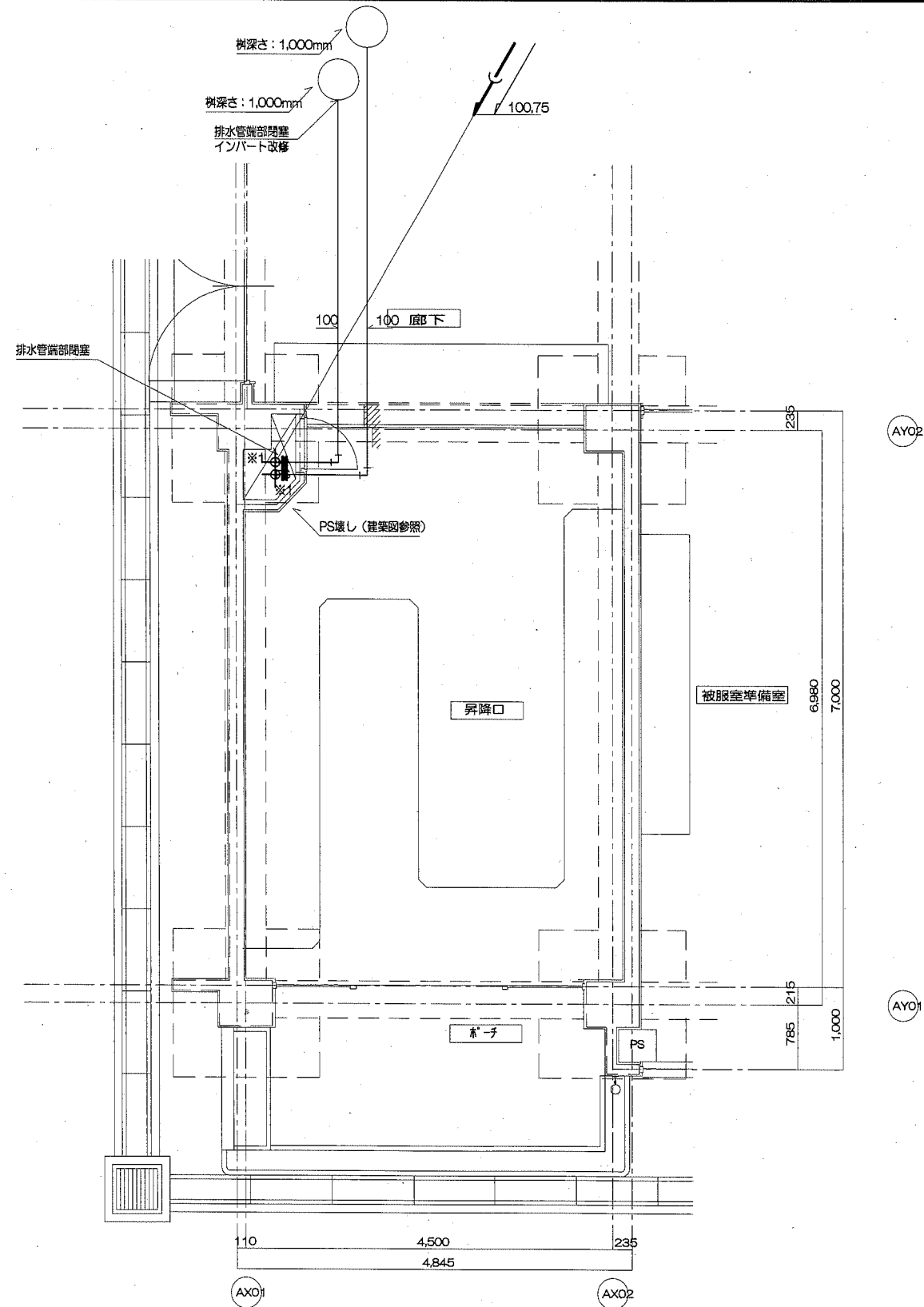
公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称  
NAME OF PROJECT  
市立衣笠中学校附属児童遊園地整備工事  
図面名称  
ITEM OF DRAWING  
衛生設備 1階平面図【B棟】  
縮尺  
SCALE  
1 : 50

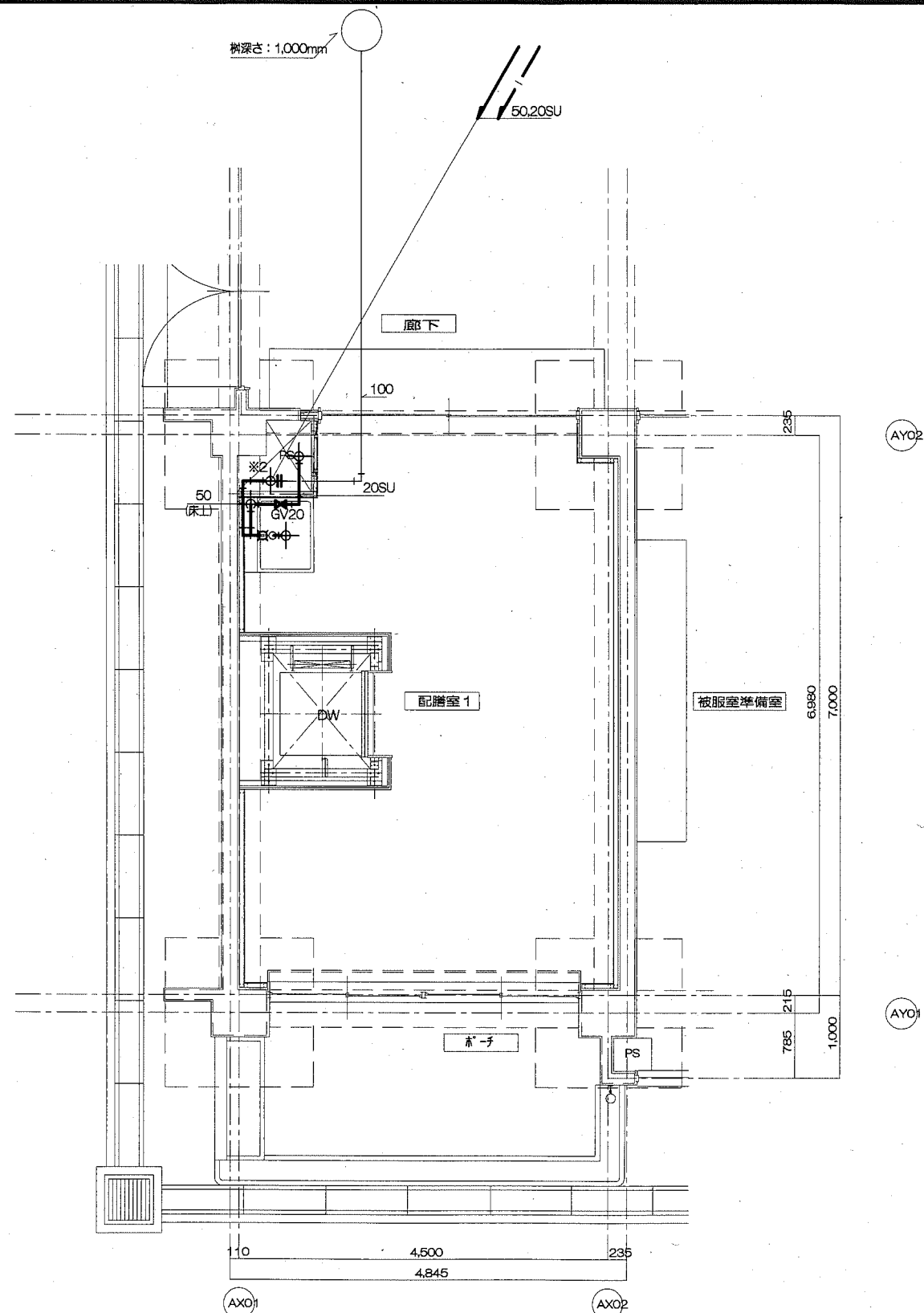
改修前



A棟1階平面図(改修前・昇降口)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



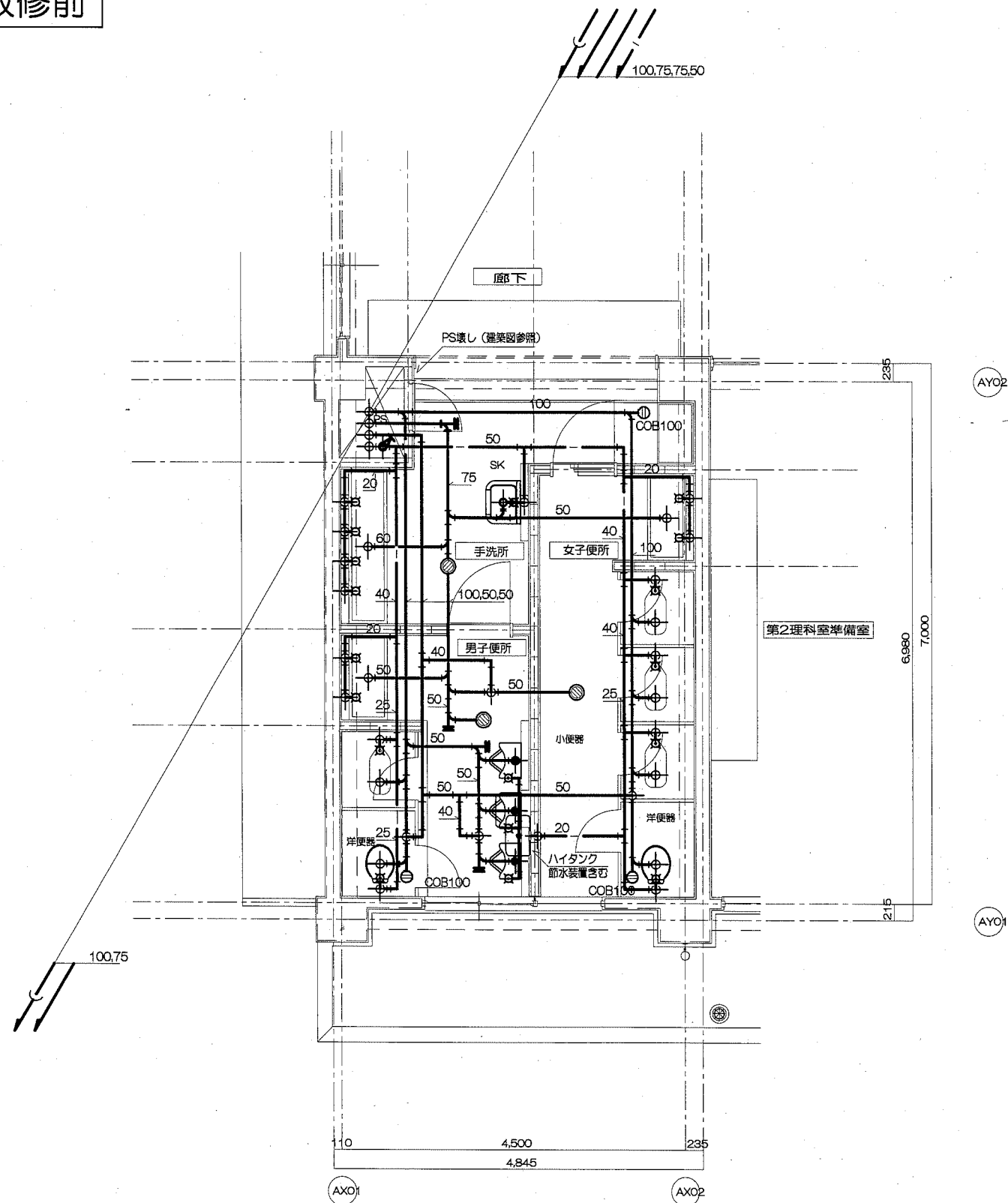
A棟1階平面図(改修後・配膳室1)

- 1) 特記なきは床下配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。



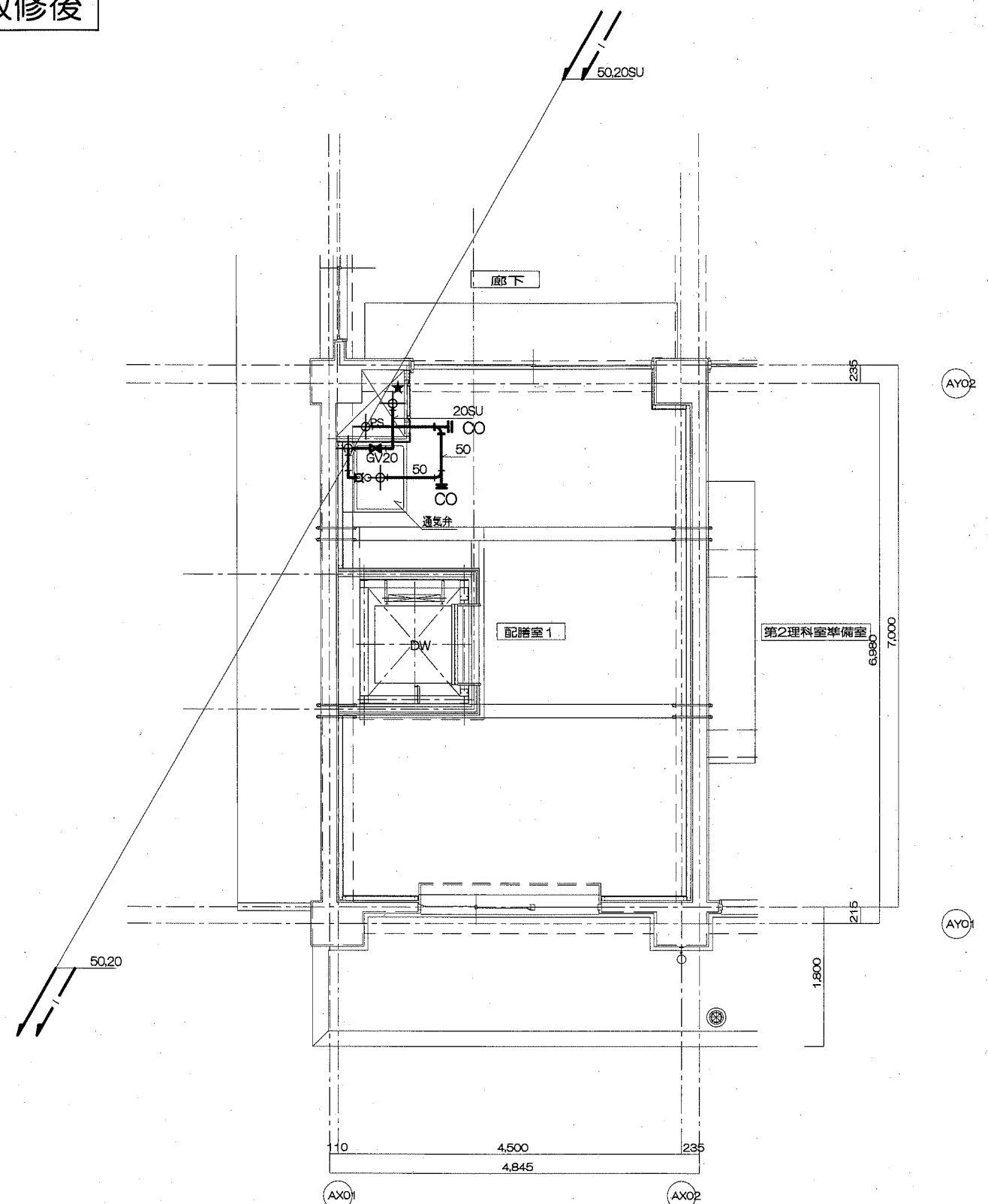
改修前

改修後



A棟2階平面図 (改修前・便所)

- 1) 細線部は既設再使用を示す。
- 2) 太線部は撤去を示す。
- 3) 便器・SK・洗面器・洗浄弁・紙巻器・連合流し台の水栓・ハイタンクは本工程
- 4) 和便器撤去は建築図による。



A棟2階平面図 (改修後・配膳室1)

- 1) 特記なきは床上配管を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) ★は配管貫通口はつり補修を示す。

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称  
ITEM OF PROJECT

市立女宿中学校昇降機設置事業その他工事

図面名称  
ITEM OF DRAWING

衛生設備 2階平面図【A棟】

DRAWING NUMBER

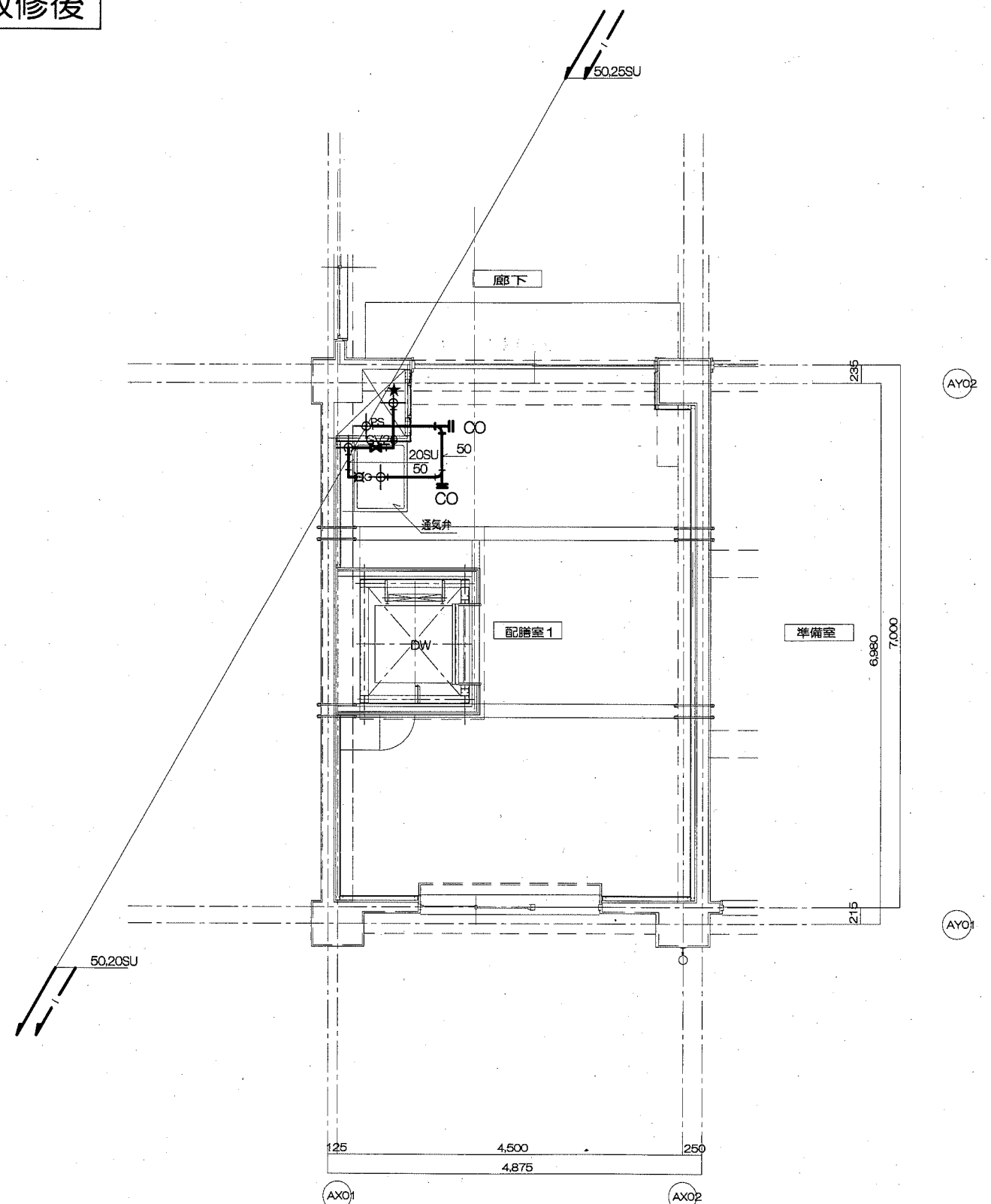
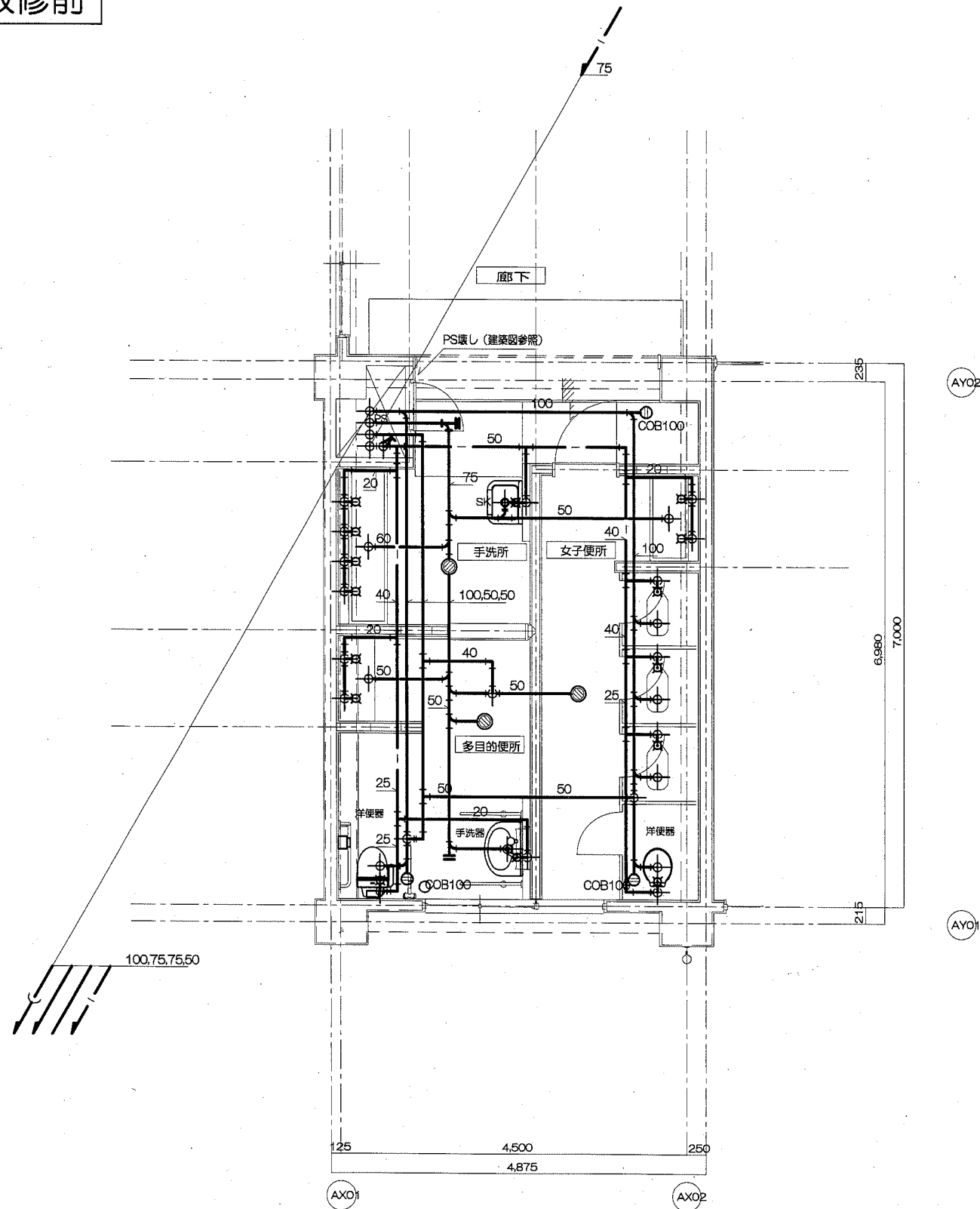
SCALE

縮尺 1 : 50

M-13

改修前

改修後



A棟3階平面図 (改修前・便所)

- 1) 細線部は既設再使用を示す。
- 2) 太線部は撤去を示す。
- 3) 便器・SK・洗面器・洗浄弁・紙巻器・連合流し台の水栓は本工事
- 4) 和便器撤去は建築図による。

A棟3階平面図 (改修後・配膳室1)

- 1) 特記なきは床上配管を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) ★は配管貫通口はつり補修を示す。

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称

市立改修中学校附属設置業務者の検工事

図面名称

衛生設備 3階平面図【A棟】

PROJECT NUMBER

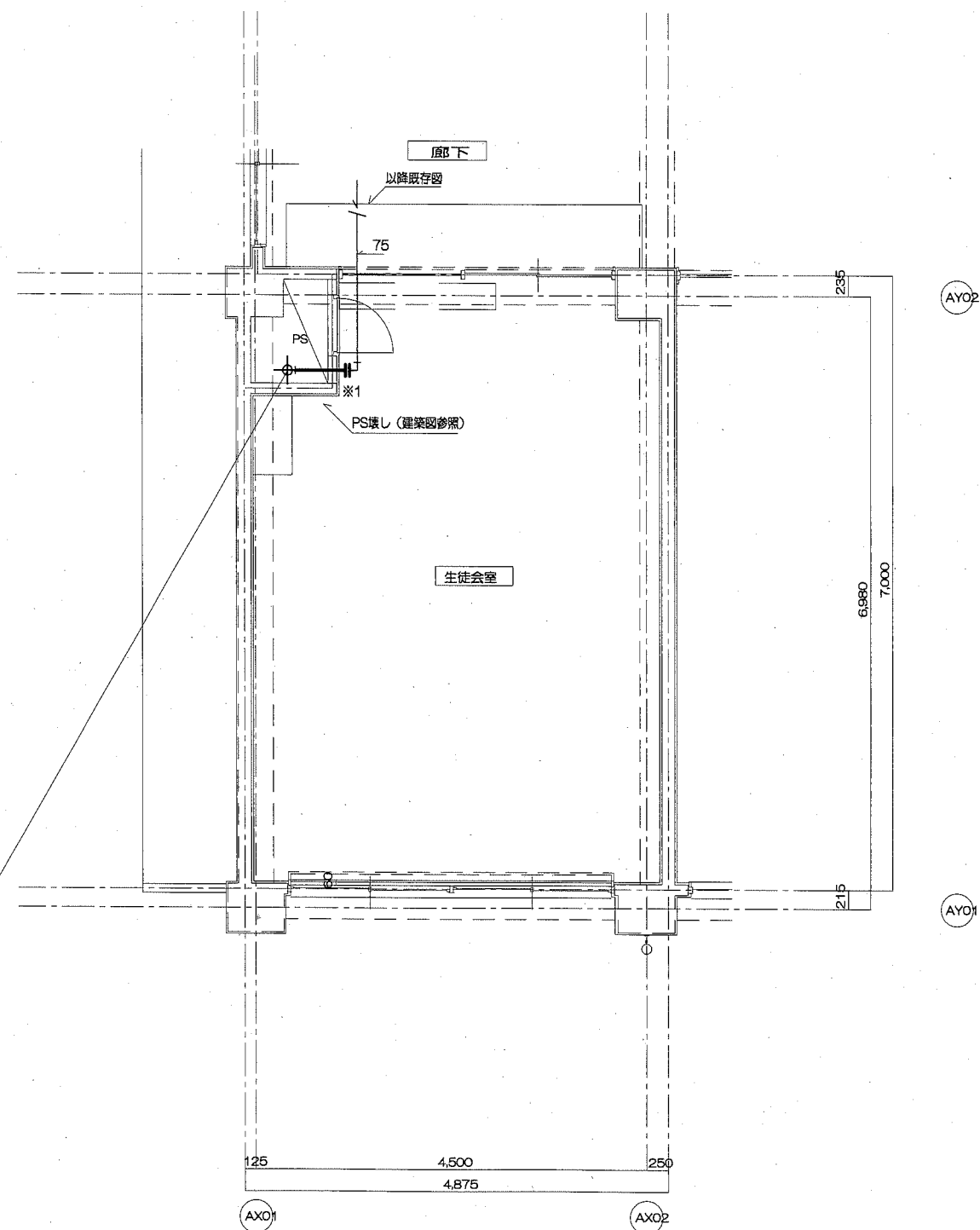
DRAWING NUMBER

縮尺 1 : 50

M-14

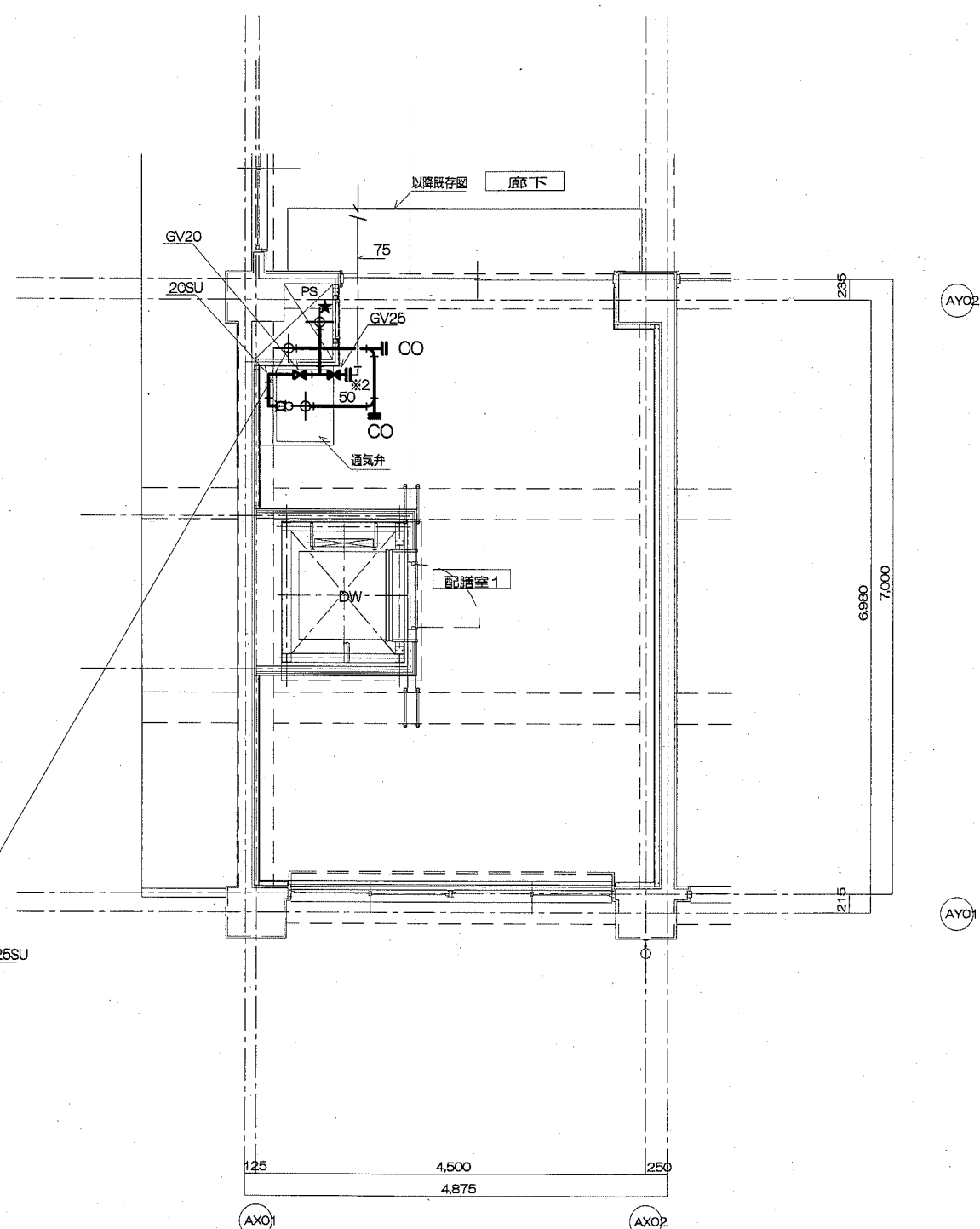
改修前

改修後



A棟4階平面図(改修前・生徒会室)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。



A棟4階平面図(改修後・配膳室1)

- 1) 特記なきは床上配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) ★は配管貫通口はつり補修を示す。

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称

市立衣笠中学校再建設備更新その他工事

図面名称

衛生設備 4階平面図【A棟】

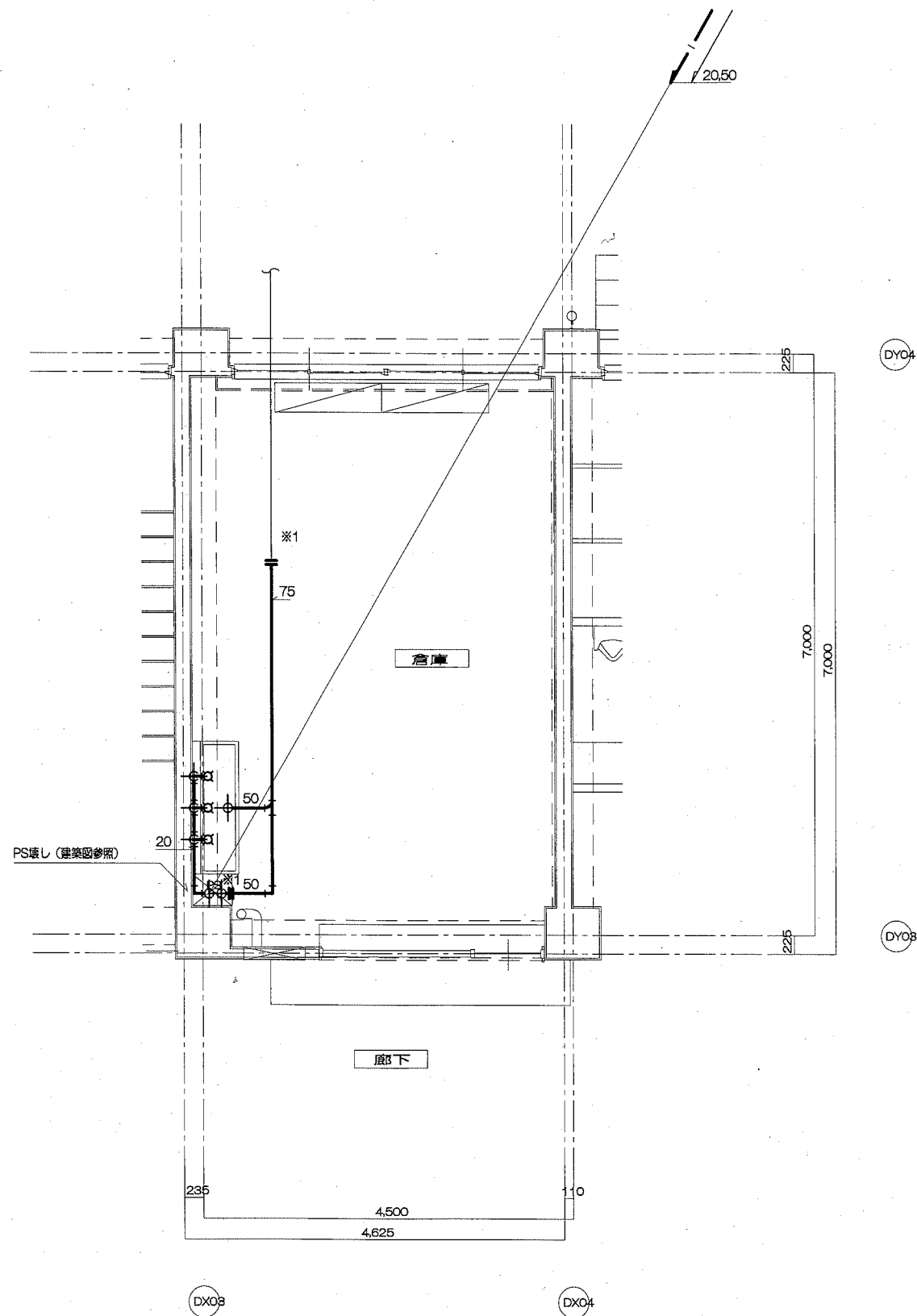
FIGURE NUMBER

DRAWING NUMBER

縮尺 1 : 50

M-15

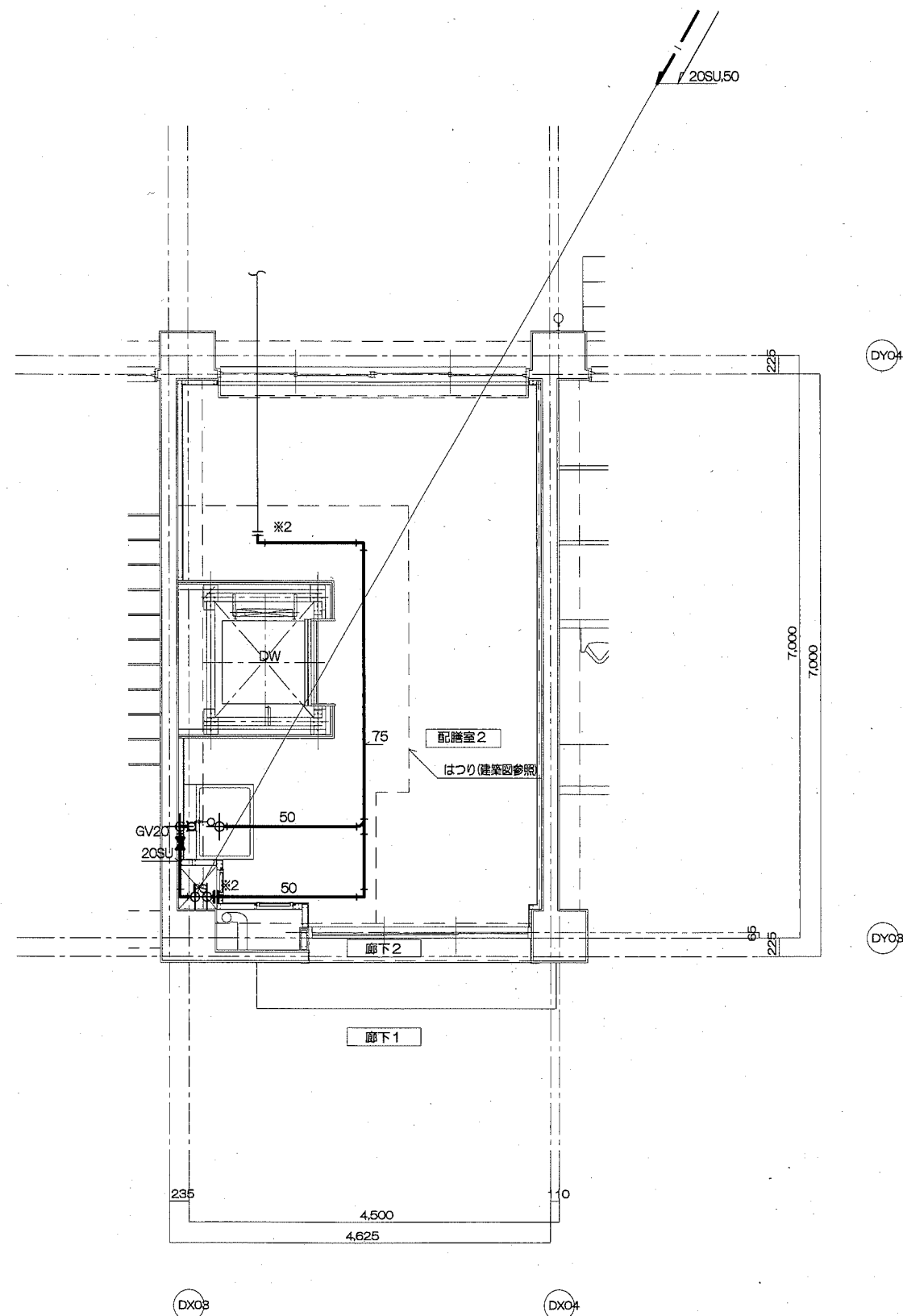
改修前



D棟1階平面図 (改修前・倉庫)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



D棟1階平面図 (改修後・配膳室2)

- 1) 特記なきは床下配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

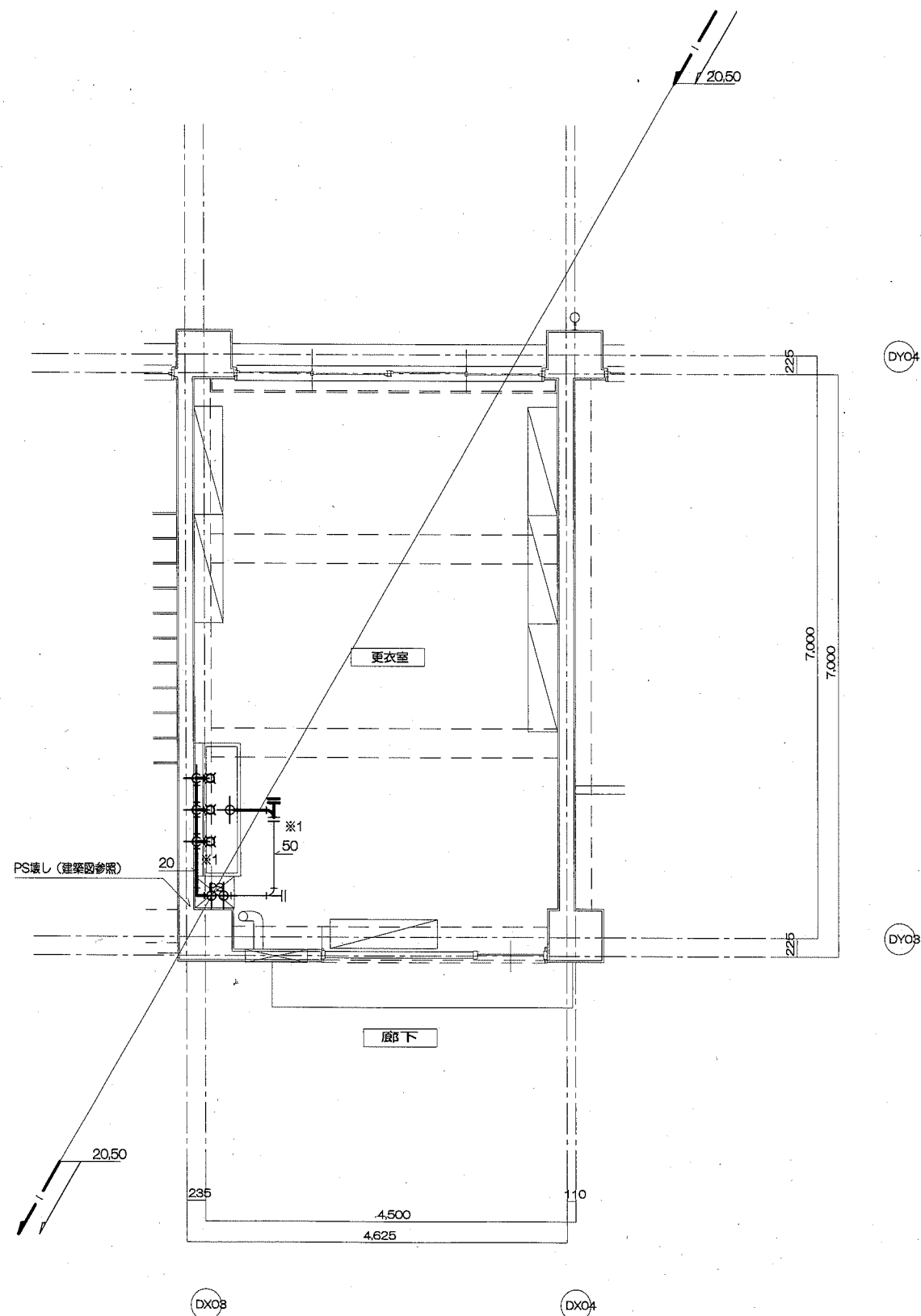
横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 ITEM OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING
市立衣笠中学校昇降機設備更新その他工事	衛生設備1階平面図【D棟】
PROJECT NUMBER	DRAWING NUMBER
	縮尺 1 : 50 SCALE

M-16

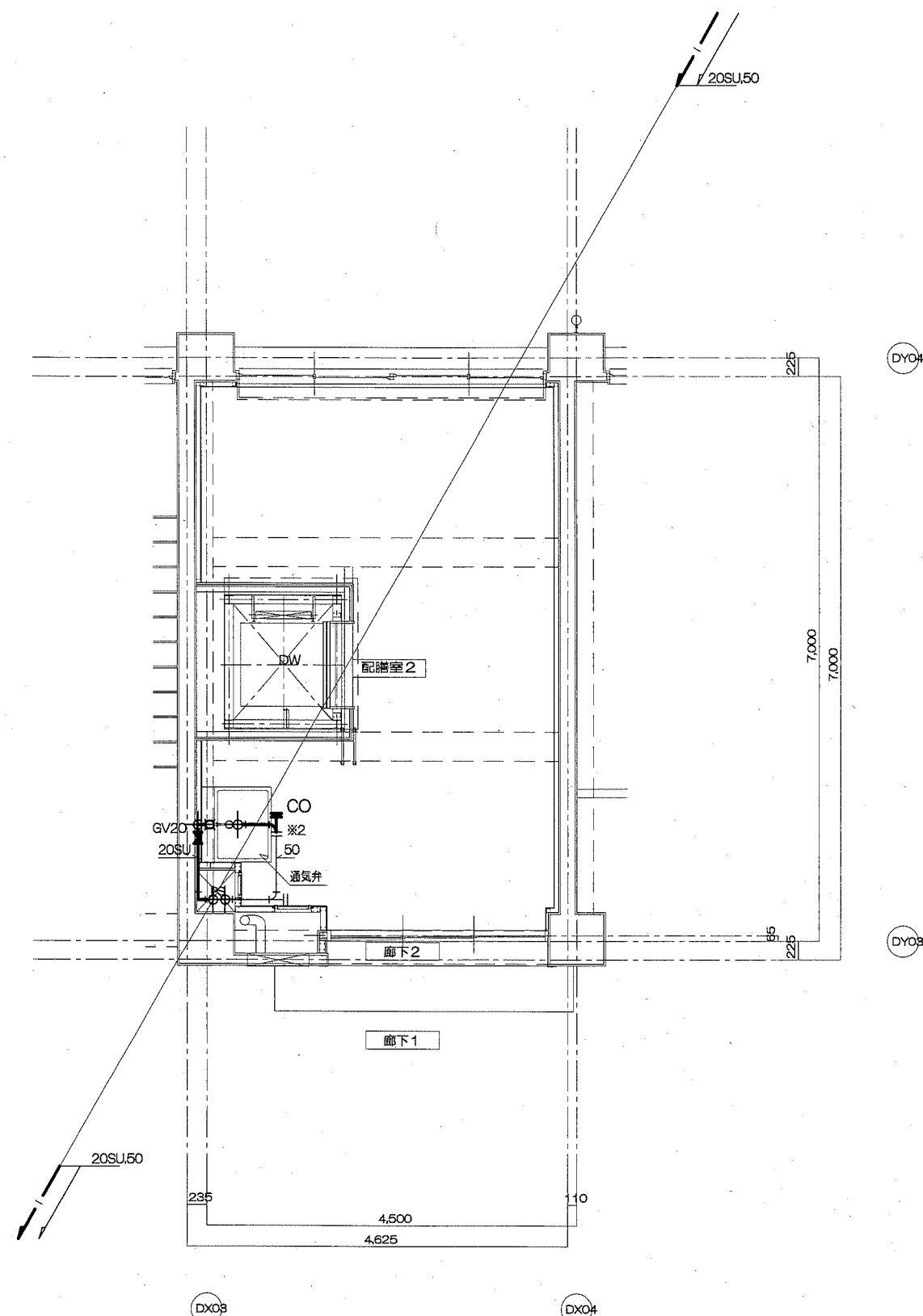
改修前



D棟2階平面図(改修前・更衣室)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



D棟2階平面図(改修後・配膳室2)

- 1) 特記なきは床上配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。

公共建築課長	主査	担当者
--------	----	-----

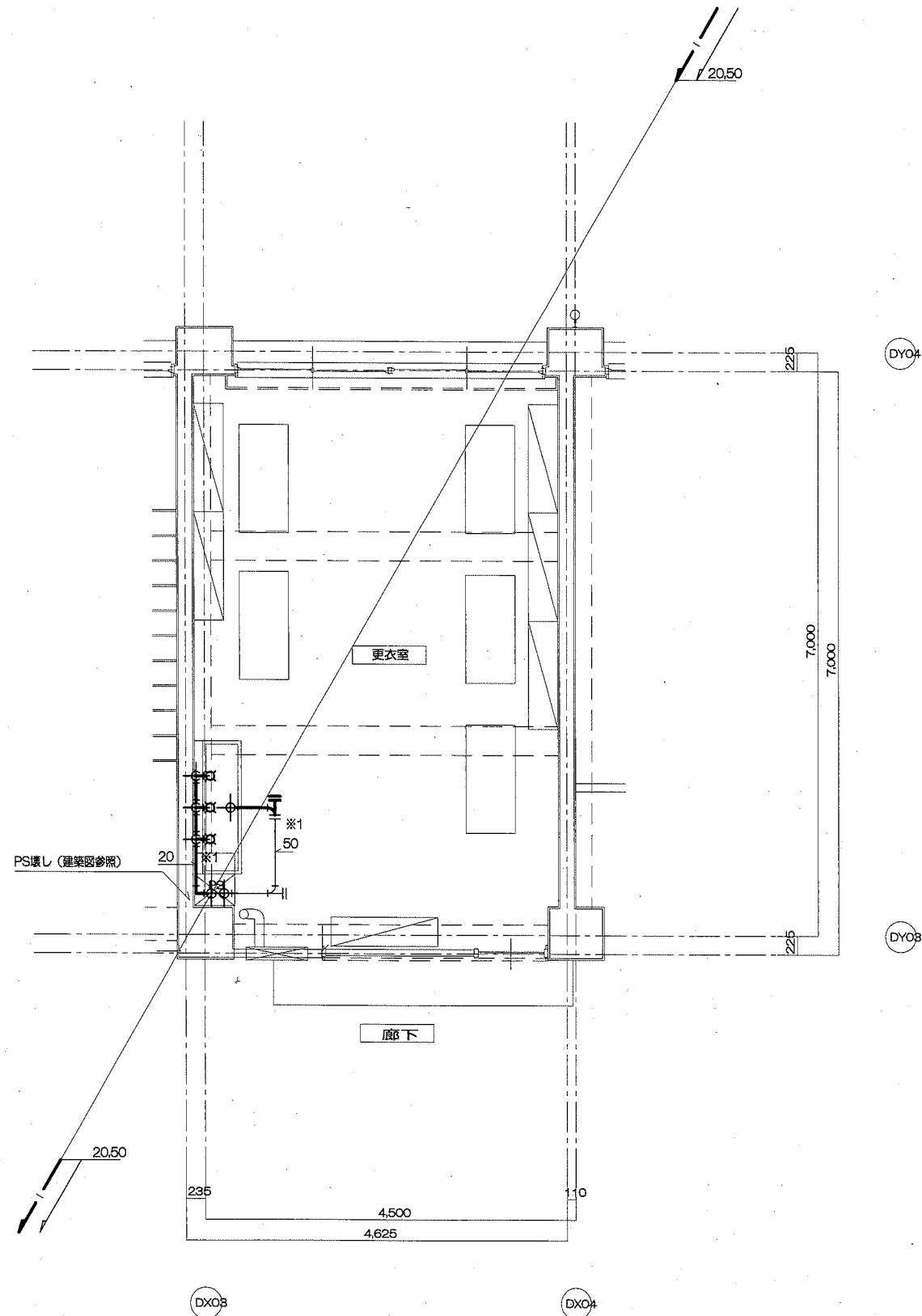
横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31 年 2 月

設計名称 TITLE OF PROJECT	市立衣笠中学校附属施設整備工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	衛生設備 2階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

図面名称 ITEM OF DRAWING	衛生設備 2階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

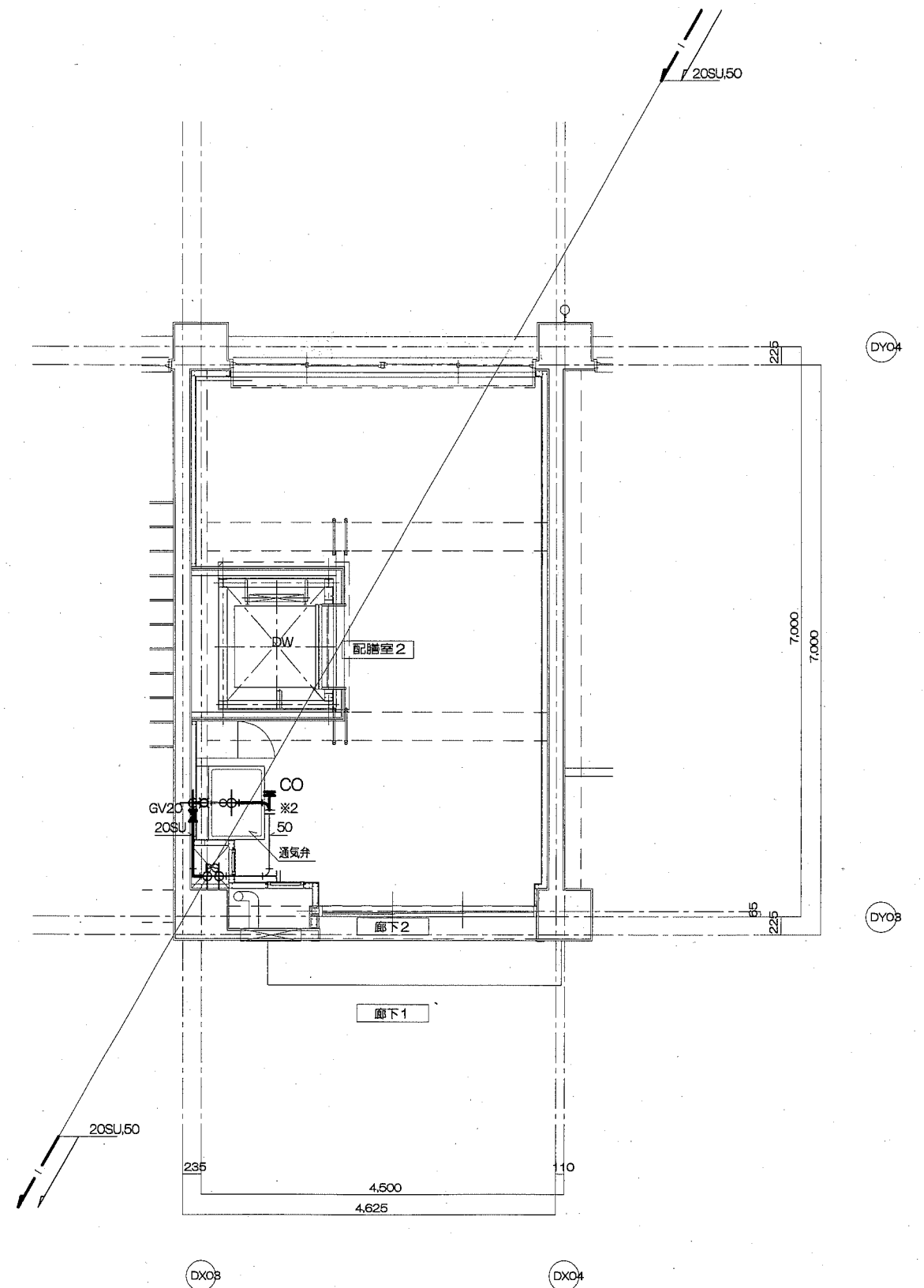
改修前



D棟3階平面図 (改修前・更衣室)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



D棟3階平面図 (改修後・配膳室2)

- 1) 特記なきは床上配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

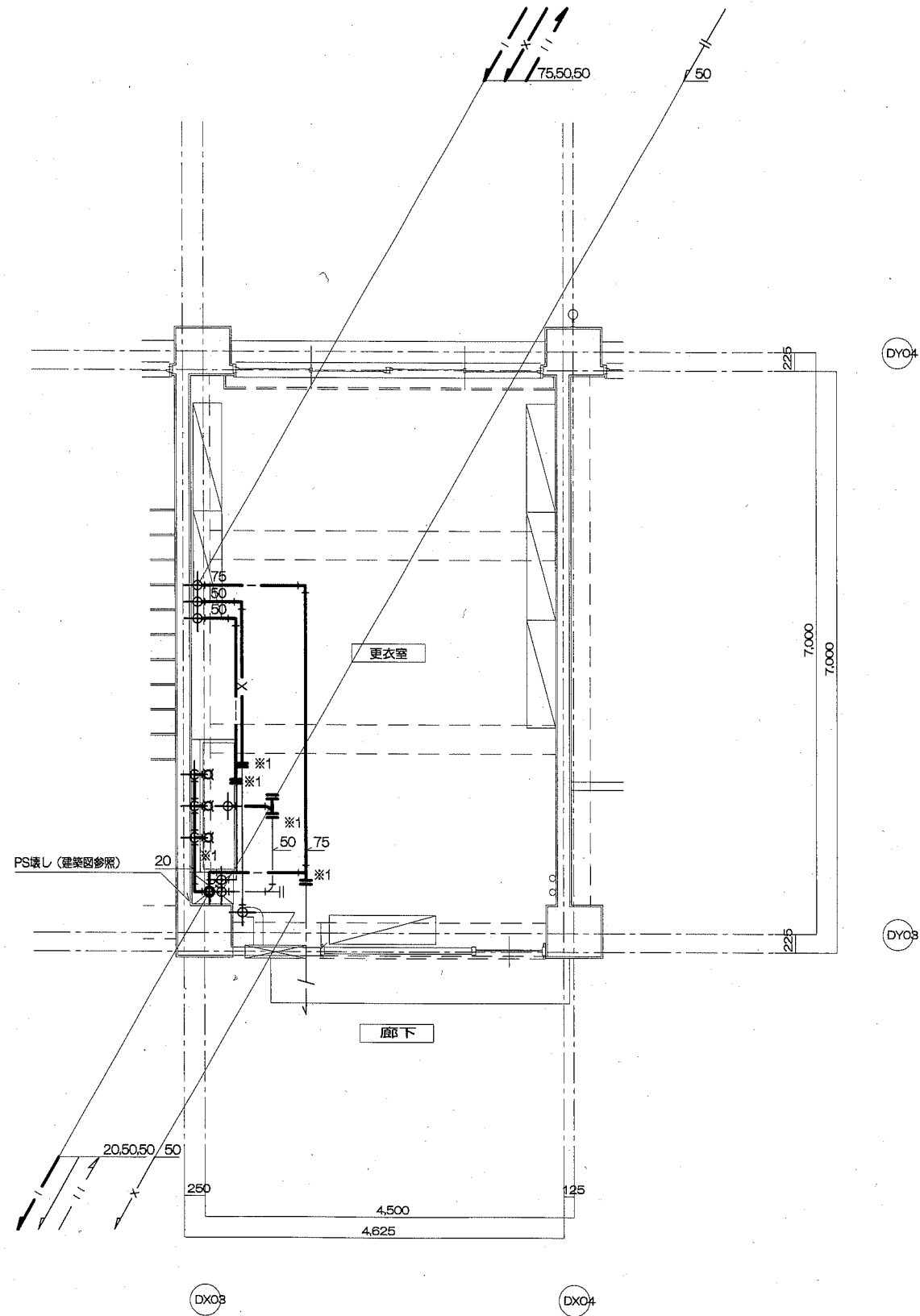
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立次郎中学校昇降機設置事業その他工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	衛生設備 3階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

図面名称 ITEM OF DRAWING	衛生設備 3階平面図【D棟】
縮尺 SCALE	1 : 50

M-18

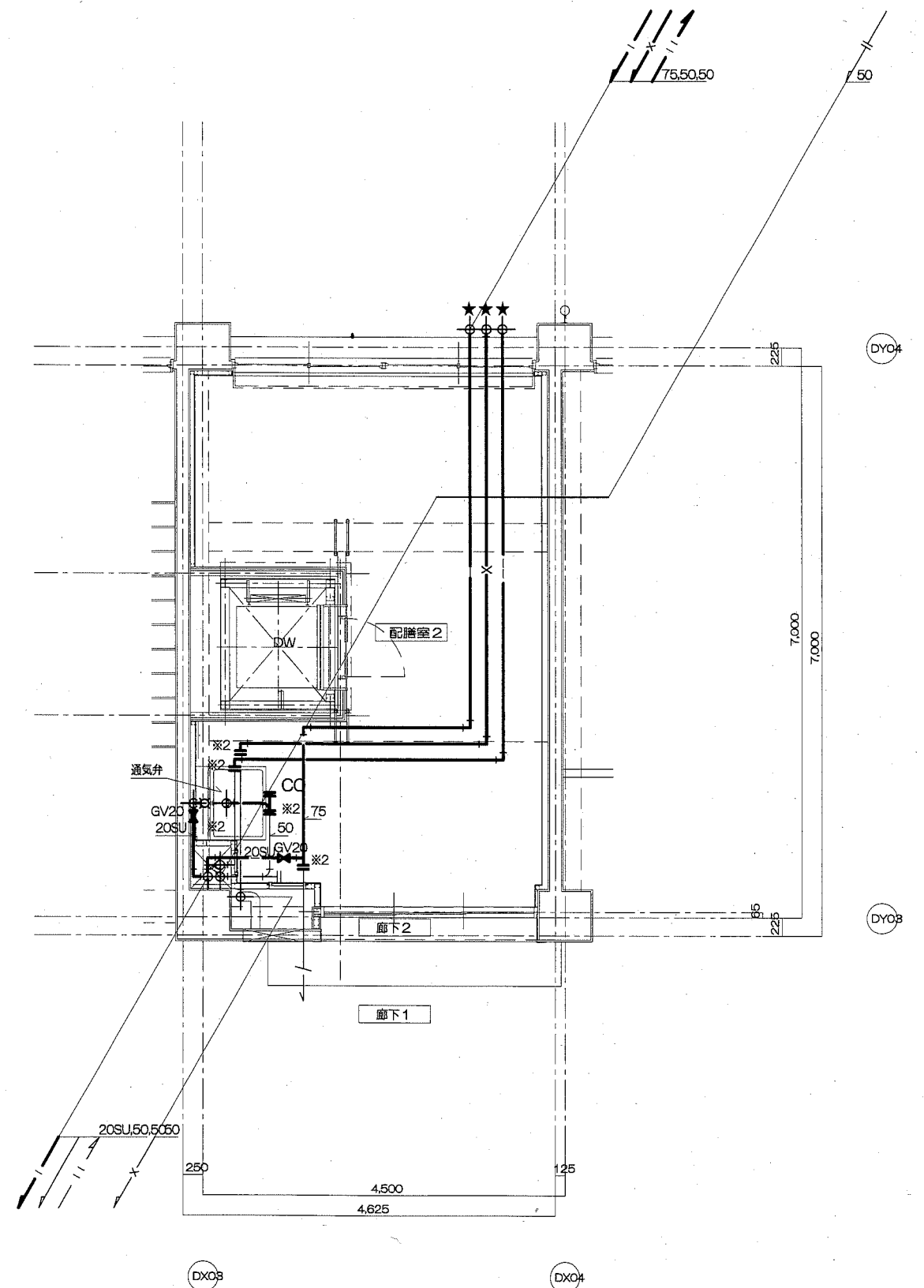
改修前



D棟4階平面図 (改修前・更衣室)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



D棟4階平面図 (改修後・配膳室2)

- 1) 特記なきは床下配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) ☆は配管貫通口はつり補修を示す。

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

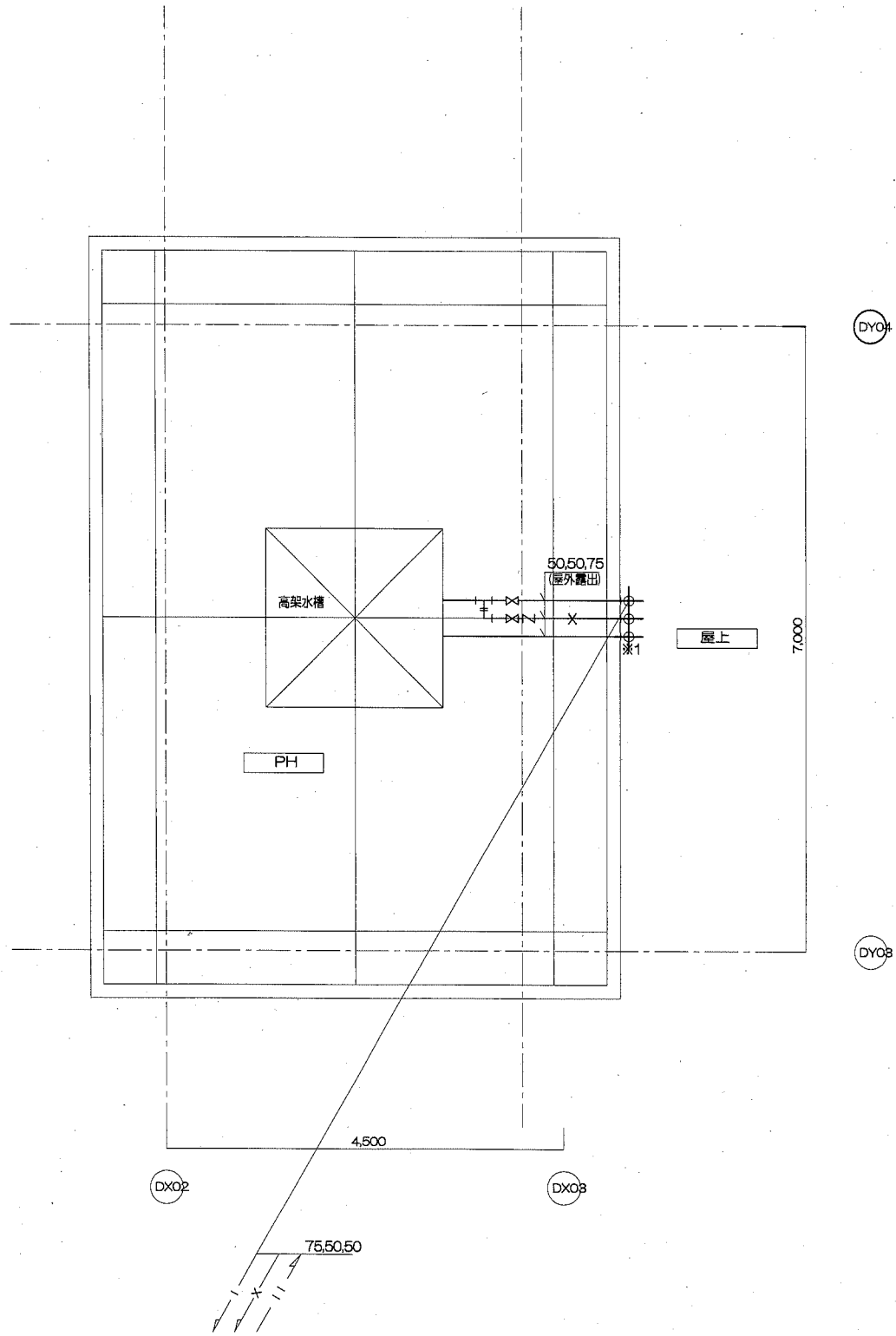
設計年月日 平成 31年 2月

設計名称  
市立衣笠中学校界隈施設整備その他工事

図面名称  
衛生設備 4階平面図【D棟】

縮尺 1 : 50

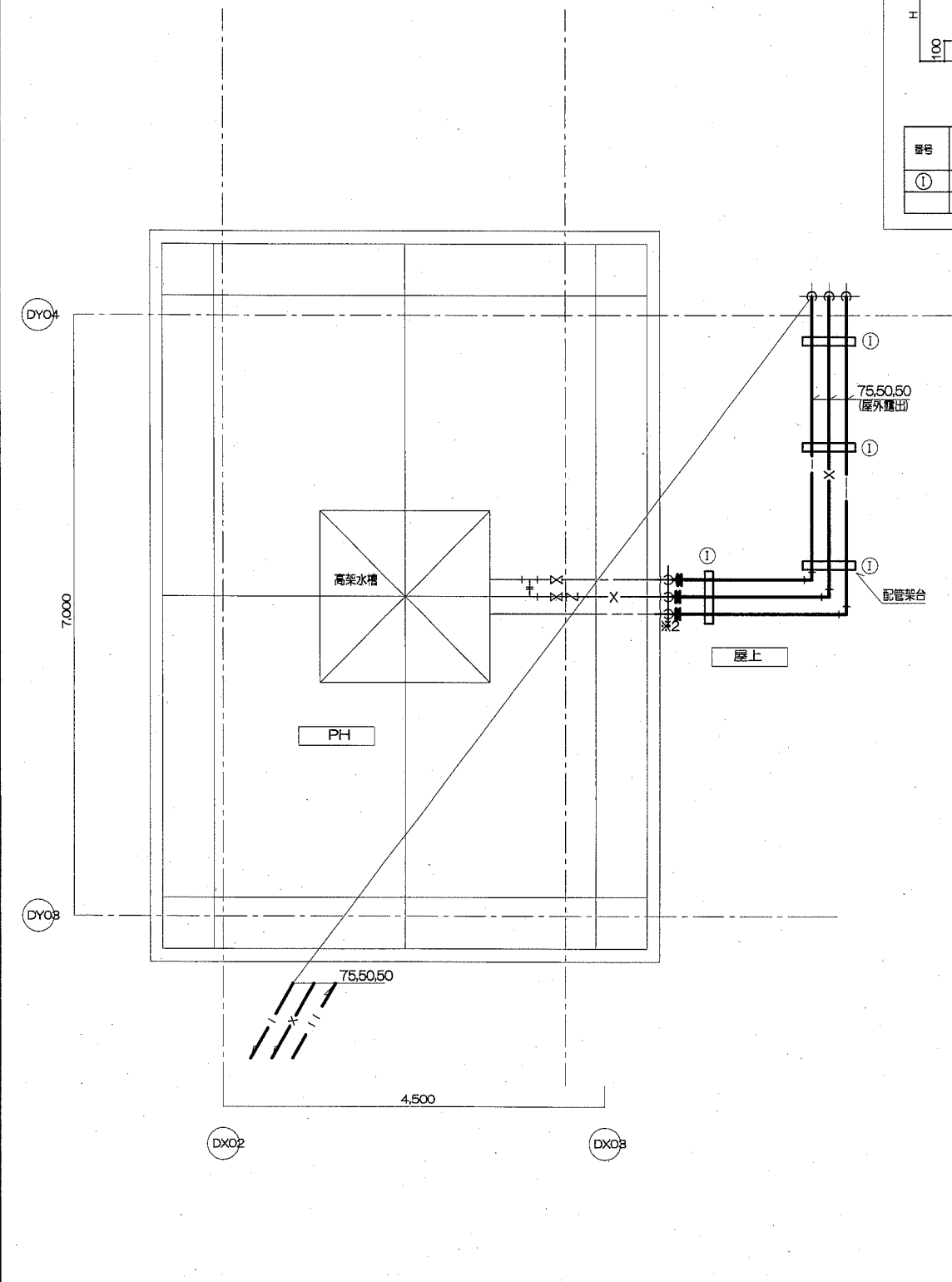
改修前



D棟屋階平面図

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。
- 3) 太線部は撤去を示す。

改修後



D棟屋階平面図

- 1) 特記なきは床下配管を示す。
- 2) ※2部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。

配管架台要領図

番号	使用鋼材	W寸法	H寸法	個数
①	L-40x40x5t	900	300	4

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 平成 31年 2月

設計名称  
市立衣笠中学校昇降機設置撤去工事

図面名称  
衛生設備 屋上平面図【D棟】

縮尺 1 : 50

M-20